

HP Configuration Management

Administrator

Windows[®]、UNIX[®]、および Macintosh オペレーティング システム用

バージョン: 5.1x

ユーザーガイド

製造パート番号: T3424-99006

ドキュメントのリリース日: 2008 年 2 月

ソフトウェアのリリース日: 2008 年 2 月



i n v e n t

ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows[®] XP は、Microsoft Corporation.の米国およびその他の国における登録商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER

Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright © 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar
Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

ドキュメントの更新

このマニュアルのタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

ソフトウェアのバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。

ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変わります。

ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版を使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細については、HP 営業担当者までお問い合わせください。

サポート

HP Software のサポート Web サイトは次のとおりです。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software のオンライン ソフトウェア サポートでは、お客様自身が問題を解決するための情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに、素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- オンラインでの機能拡張リクエストの申し込み
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と申し込み

多くのサポート エリアは、HP Passport のユーザー登録とサインインを必要とします。アクティブなサポート契約が必要なエリアもあります。サポートのアクセス レベルに関する詳細については、次の URL を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

目次

| | |
|---|----|
| 1 はじめに..... | 13 |
| はじめに..... | 13 |
| 対象とする読者..... | 13 |
| 前提条件..... | 13 |
| CM Administratorについて..... | 14 |
| 各章の概要..... | 15 |
| 関連ドキュメント..... | 15 |
| 2 パッケージングとパブリッシング..... | 17 |
| はじめに..... | 18 |
| パッケージ化とパブリッシュの比較..... | 18 |
| パッケージ化..... | 18 |
| パッケージ化の際の考慮アイテムのチェックリスト..... | 20 |
| どの製品を使用したらよいか..... | 23 |
| Windows..... | 24 |
| UNIX..... | 24 |
| Macintosh..... | 24 |
| CM Batch Publisher..... | 24 |
| CM Native Packaging..... | 25 |
| 3 CM Administrator for Windows..... | 27 |
| インストール..... | 28 |
| システム要件..... | 28 |
| プラットフォームのサポート..... | 28 |
| インストール ファイルについて..... | 28 |
| setup.exe..... | 28 |
| CM-ADMIN51.MSI..... | 29 |
| CM Administrator for Windows のインストール..... | 29 |

| | |
|---|----|
| インストール ウィザード | 30 |
| コマンドラインによるインストール | 32 |
| CM Administratorのインストールの変更 | 34 |
| インストール ウィザードを使用して インストールを変更する | 34 |
| コマンドラインを使用してインストールを変更する | 35 |
| CM Admin Agent Explorer | 37 |
| CM Admin Agent Explorerの開始 | 37 |
| CM Admin Agent ウィンドウのメニュー | 38 |
| [ファイル] メニュー | 38 |
| [編集]メニュー | 39 |
| [ビュー]メニュー | 39 |
| [ウィンドウ] メニュー | 40 |
| [ヘルプ] メニュー | 41 |
| オブジェクト表示ウィンドウ | 41 |
| [オブジェクト] メニュー | 41 |
| [変数] メニュー | 42 |
| [インスタンス] メニュー | 43 |
| [オプション] メニュー | 43 |
| CM Admin CSDB Editor から他のデータベースへのリダイレクト | 44 |
| CM Admin Packager..... | 45 |
| パッケージのプロパティの設定 | 45 |
| [Agent Management] タブ | 46 |
| [Data Options] タブ | 49 |
| [Agent Behaviors] タブ | 51 |
| インストール モニタ モード | 52 |
| 推奨事項 | 53 |
| インストール モニタ モードでパッケージを作成する | 54 |
| CM Admin Publisher..... | 69 |
| 概要 | 69 |
| バッチ モード | 69 |
| 標準的なパブリッシュのステップ | 69 |
| コンポーネントの選択モードでのパブリッシュ | 70 |
| Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする | 80 |
| MSP ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードする | 81 |
| [詳細] パブリッシュ モード | 82 |
| 基本パブリッシュ モード | 88 |
| コマンドラインによるパブリッシュ | 89 |
| コマンドラインでパブリッシュするファイルを定義する | 92 |

| | |
|---|-----|
| 複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード)..... | 93 |
| 複数の設定ファイルを使用する | 94 |
| 変換 (.mst) ファイルを格納する | 96 |
| シンボリック置換を使用して 設定ファイルの値をカスタマイズする..... | 96 |
| 組み込み MSI プロパティおよび CM Extensions for Windows Installer のユーザー定義の プロパティ | 98 |
| ハードウェア構成要素のパブリッシュ..... | 98 |
| CM Admin Screen Painter | 99 |
| [File] メニュー | 99 |
| [Edit] メニュー..... | 100 |
| [Font] メニュー | 100 |
| コントロール..... | 101 |
| コントロール ツールボックス | 101 |
| [Properties] ボックス..... | 102 |
| [Controls] メニュー | 103 |
| [Alignment] メニュー..... | 111 |
| [System] メニュー | 113 |
| [Help] メニュー | 114 |
| CM Admin CSDB Editor | 115 |
| はじめに | 115 |
| [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウ..... | 116 |
| [オプション] ダイアログ ボックスを使用して設定を行う..... | 120 |
| CSDB Editor の操作 | 128 |
| CM-CSDB 内での継承 | 131 |
| ドメイン、クラス、インスタンスを管理する | 132 |
| ドメインを操作する | 132 |
| クラスを操作する..... | 133 |
| インスタンスを操作する | 146 |
| パスワード認証..... | 153 |
| EDMSIGN と EDMSIGNR..... | 153 |
| パスワード認証が有効になっていない場合 | 154 |
| パスワード認証が有効になっている場合 | 156 |
| パスワード認証の有効化 | 159 |
| パスワードの変更 | 161 |
| アクセス規則と管理者..... | 161 |
| 新規アプリケーション ウィザードでサービスを作成する | 162 |
| 新規アプリケーション ウィザードで MSI の基本的な動作を定義する..... | 167 |
| バージョン グループ エディタ..... | 169 |

| | |
|--------------------------------------|-----|
| サービスの最適化 | 169 |
| [サービスの最適化] オプションを使用する | 170 |
| サービス グループ | 180 |
| コンポーネントの機能拡張 | 181 |
| 前提条件 | 181 |
| サービス グループ用のマスター サービスの作成 | 182 |
| CM Notify | 186 |
| フィルタで CM-CSDB の表示内容を指定する | 187 |
| パーマネント フィルタ | 188 |
| テンポラリ フィルタ | 190 |
| ベース インスタンスまたは null インスタンスを表示する | 191 |
| フィルタ結果を追加する | 191 |
| コンポーネント クラスのインスタンスをフィルタする | 192 |
| 高速フィルタ | 194 |
| CM-CSDB で接続規則を維持する | 197 |
| 接続規則の概要 | 197 |
| 新しいクラスで接続を有効にする | 201 |
| WI が有効なアプリケーションの管理 | 206 |
| 機能セット エディタの概要 | 206 |
| 機能セット エディタにアクセスする | 206 |
| CM MSI 機能セット エディタについて | 207 |
| Windows の [プログラムの追加と削除] 設定 | 214 |
| Windows インストーラ対応パッケージのコピー | 216 |
| 機能セットをネイティブ モードで管理する | 217 |
| レジストリ ファイル エディタ | 218 |
| レジストリ ファイル エディタにアクセスする | 218 |
| プロパティ設定ショートカット メニュー | 220 |
| レジストリ キーを編集する | 222 |
| CM AMP Editor | 225 |
| まとめ | 226 |

4 UNIX および Macintosh 用の CM Administrator 227

| | |
|---------------------|-----|
| はじめに | 228 |
| インストール | 228 |
| システム要件 | 228 |
| プラットフォームのサポート | 228 |
| 前提条件 | 228 |

| | |
|---|-----|
| トラブルシューティング..... | 229 |
| 推奨事項 | 229 |
| インストール メソッド | 229 |
| UNIX および Macintosh 用の CM Administrator のインストール..... | 230 |
| グラフィカル インストール | 230 |
| コマンドラインによるインストール | 232 |
| CM Admin Agent Explorer | 233 |
| CM Admin Agent Explorer を開く..... | 233 |
| [オブジェクトリスト] ウィンドウのメニュー | 234 |
| オブジェクト メニュー | 234 |
| 編集メニュー..... | 236 |
| 表示メニュー..... | 236 |
| テーブル ウィンドウ メニュー..... | 236 |
| オブジェクト ビュー ウィンドウのメニュー | 236 |
| オブジェクト メニュー | 236 |
| 変数メニュー..... | 237 |
| ヒープ メニュー..... | 239 |
| CM Admin Packager..... | 240 |
| CM Admin Publisher..... | 240 |
| 前提条件 | 241 |
| パブリッシュ..... | 241 |
| UNIX File Resources (UNIXFILE)..... | 243 |
| パブリッシュされた所有者、グループ、およびパーミッションの考慮事項 | 244 |

A コンポーネント インスタンスを修正する (非プロダクション環境限定) 247

| | |
|-----------------------------------|-----|
| コマンドの使用例 | 248 |
| コンポーネントの追加、編集、置換コマンドにアクセスする..... | 249 |
| コンポーネントを編集する..... | 250 |
| [エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスを使用する | 252 |
| コンポーネント データを置換する | 254 |
| コンポーネントを追加する..... | 256 |
| まとめ | 259 |

| | | |
|---|--------------------------|-----|
| B | 命名規則 | 261 |
| | 情報を分類する | 261 |
| | POLICY ドメインの命名規則 | 262 |
| | SOFTWARE ドメインの命名規則 | 262 |
| C | 製品名の変更 | 265 |
| | 索引 | 267 |

1 はじめに

はじめに

HP Configuration Management Administrator ユーザーガイド(CM Administrator ガイド)では、Windows、UNIX、および Macintosh を含むプラットフォームで利用できる、HP Configuration Management Administrator (CM Administrator)の、以下の 6 つの機能について説明しています。

CM Admin Agent Explorer (Windows、UNIX)

CM Admin Packager (Windows)

CM Admin Publisher (Windows、UNIX、および Macintosh)

CM Admin Screen Painter (Windows)

CM Admin CSDB Editor (Windows)

CM AMP Editor (Windows)

CM AMP Editor の詳細については、本書では説明していません。この情報については、『HP Configuration Management Solutions for Servers Application Management User Guide』(CM AMP ガイド)を参照してください。

対象とする読者

CM 製品の管理者は、本書から、CM Administrator のインストール方法と、その 6 つの機能のうちの 5 つの使用方法について学ぶことができます。

前提条件

CM Administrator を使用するに先立ち、HP Configuration Management Configuration Server (CM Configuration Server)および HP Configuration Management Configuration Server Database (CM-CSDB)について知っておく必要

があります。『HP Configuration Management Configuration Server User Guide (CM Configuration Server Guide)』および『HP Configuration Management Configuration Server Database Reference Guide (CM CSDB Reference Guide)』を参照してください。

CM Administrator について

CM Administrator には、CM-CSDB の内容を操作するために使用するツール群が搭載されています。

CM Admin Agent Explorer
CM オブジェクトの作成と編集が行えます。

CM Admin Packager
パッケージに含めるべきコンポーネントがよくわからない場合に、インストール モニタ モードと呼ばれるパッケージング方式を使用することができます。この方式では、ソフトウェアのインストールの前後にスキャンを実行します。2 つのスキャン結果の相違点が、パッケージの内容になります。

CM Admin Publisher
コンポーネントの選択モードを使用してパッケージを作成し、それから CM-CSDB にそのパッケージを追加できます。この方式を使用する場合には、パッケージに追加する各コンポーネントを選択します。

CM Admin Screen Painter
ダイアログ ボックスを設計し、作成できます。

CM Admin CSDB Editor
CM-CSDB の内容を検査し、操作することができます。

CM AMP Editor
Microsoft Office 2007、Symantec Antivirus、Microsoft SQL Server、Oracle、Apache、Internet Information Server など、データセンター環境のクライアントまたはサーバーで必要とされる複雑なソフトウェア製品の配布と管理を可能にします。『CM AMP Guide』を参照してください。

各章の概要

2 章、パッケージングとパブリッシング

パッケージ化とパブリッシュのプロセスがどのようなものか、また環境・要件に合わせてどの製品を使用することができるかについて説明します。

3 章、CM Administrator for Windows

Windows 用の Admin for Windowsのインストール方法、およびその機能を使用する方法について説明します。

4 章、UNIX および Macintosh 用の CM Administrator

NIX および Macintosh 用の CM Admin のインストール方法、およびその機能を使用する方法について説明します。

付録 A、コンポーネント インスタンスを修正する

ファイルの配布済みコンテンツを、CM Admin CSDB Editor 内からダイナミックに編集する方法について説明します。

付録 B、命名規則

CM-CSDBに格納されたデータを整理する点で、命名規則がどのように役立つかについて説明します。

付録 C、製品名の変更

以前に Radia を使用していて、まだ新しくブランド変更した HP の用語や製品名に慣れていない場合は、この付録で Radia ブランドからの名前の変更を確認してください。

関連ドキュメント

HP Configuration Management Application Manager and Application Self-service Manager Installation and Configuration Guide (CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide)

HP Configuration Management Batch Publisher Installation and Configuration Guide (CM Batch Publisher Guide)

HP Configuration Management Configuration Server Database Reference Guide (CM CSDB Reference Guide).

HP Configuration Management Configuration Server User Guide (CM Configuration Server Guide)

HP Configuration Management Essentials Guide (CM Essentials Guide)

HP Configuration Management Extensions for Windows Installer Getting Started Guide (CM Extensions for WI Getting Started Guide)

HP Configuration Management Extension for Windows Installer User Guide (CM Extensions for WI Guide)

HP Configuration Management Knowledge Base Server Installation and Configuration Guide (CM KB Server Guide)

HP Configuration Management OS Manager Hardware Configuration User Guide (CM Hardware Configuration Guide)

HP Configuration Management OS Manager System Administrator Guide (CM OS Manager Guide)

HP Configuration Management Solutions for Servers Application Management Profiles User Guide (CM AMP Guide)

2 パッケージングとパブリッシング

この章は以下を目的としています。

データのパッケージングとパブリッシングの違いを理解する。

データのパッケージ化のためにどの Configuration Management (CM) 製品を使用するかを理解する。

データのパブリッシュのためにどの CM 製品を使用するかを理解する。

はじめに

CM では、データを環境に配布する前に、2 つの方法で処理する必要があります。まずそれらをパッケージ化し、それから CM Configuration Server Database (CM-CSDB) にパブリッシュします。これらの処理は、いくつかの CM 製品で行えます。どれを使用したらよいかは、配布するデータのタイプと、CM Administrator (CM Admin) を実行しているオペレーティングシステムによって決まります。

本章では、パッケージングとパブリッシングのプロセスがどのようなものか、そして自分の特定の必要に合わせてどの製品を使用できるかについて説明します。

パッケージ化とパブリッシュの比較

CM では、データのパッケージ化とパブリッシュは 2 つの異なるプロセスです。配布するデータには、会社の電話帳のような単一のデータ ファイルから、Microsoft Office のようなアプリケーションスイート全体まで、様々な種類があります。

パッケージ化

パッケージ化は、管理するソフトウェアのコンポーネントを特定し、それらのコンポーネントを **パッケージ** にまとめるプロセスです。パッケージには、ソフトウェアを構成するファイル、ショートカット、リンク、レジストリ エントリが含まれます。

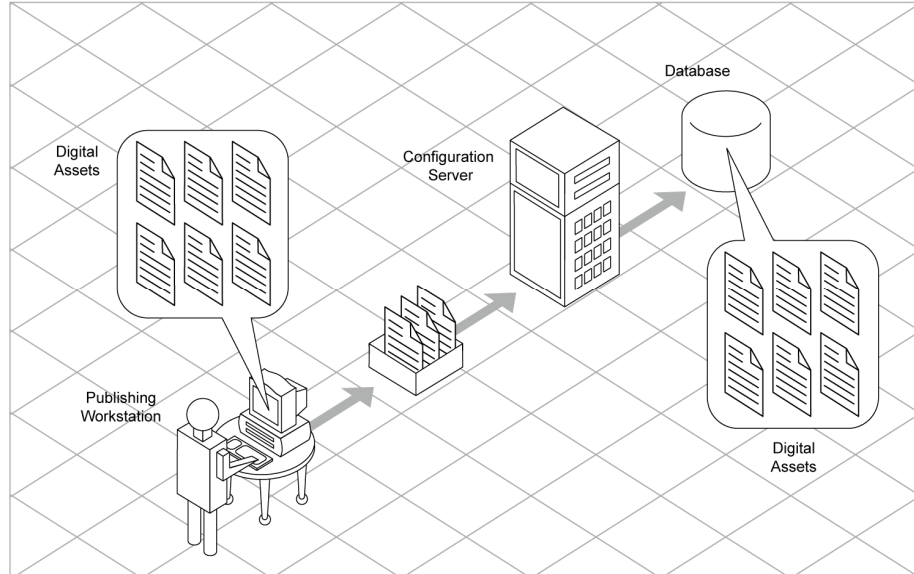
パブリッシュ

とは、パッケージとそれに組み込まれた情報を CM-CSDB にインポートするプロセスです。パッケージのパブリッシュは、その内容をお使いの環境に分散して配布する前に行う必要があります。

パッケージ化

パッケージを作成する主な 2 つの方法は、インストール モニタ モードとコンポーネントの選択モードです。使用するモードを決める際には、アプリケーションがどの程度複雑か、アプリケーションの構造についてユーザーがどの程度知識を持っているか、アプリケーションのネイティブ インストール機能を使用するかどうかなどが考慮の対象になります。

図 1 データのパッケージ化



インストール モニタ モードは、CM Admin Packager の機能です。

インストール モニタ モードでは、CM Admin Packager がソフトウェアのインストールの前後にコンピュータをスキャンして、パッケージするものを決定します。インストール前後のスキャンの差分により、コンピュータに対する変更が判別されます。これらの差分が、CM-CSDB に転送されるパッケージになります。アプリケーションを構成するコンポーネントの一部が不明な場合は、インストール モニタ モードでパッケージ化することをお勧めします。このプロセスの詳細については、45 ページの「[CM Admin Packager](#)」を参照してください。

コンポーネントの選択モードは、CM Admin Publisher の機能です。

コンポーネントの選択モードでは、ファイル、ディレクトリ、レジストリ エントリ、リンクなど、アプリケーションの個別のコンポーネントを選択します。パッケージのすべてのコンポーネントを問題なく識別できる、単純なデータやアプリケーションをパッケージ化する場合には、このモードを使用することをお勧めします。このプロセスの詳細については、69 ページの「[CM Admin Publisher](#)」を参照してください。

パッケージを作成したら、それを CM-CSDB に**パブリッシュ**します。パッケージは CM-CSDB にコピーされ、以下で説明するように、いくつかのインスタンスが作成されます。

Application Packages (PACKAGE) インスタンス。転送されたパッケージを表します。

パッケージ内の各ファイルに対し 1 つのファイル リソース(FILE) インスタンス

Desktop (DESKTOP) インスタンス。パッケージ内のプログラム グループ、リンク、およびショートカットごとに 1 つずつ作成されます。

Path (PATH) インスタンス。ソフトウェアがインストールされる 一意のパスごとに 1 つずつ作成されます。

パッケージ内の各ハイブに対し 1 つのレジストリリソース(REGISTRY)インスタンス



上記の各インスタンスは、PACKAGE または FILE Class のように、SOFTWARE Domain 中のデフォルトのクラスのいずれかに格納されません。また、DLL クラスのような独自のクラスを CM-CSDB に追加することもできます。クラスの追加方法の詳細については、133 ページの「[クラスを追加する](#)」を参照してください。

パッケージの転送後に、CM Admin CSDB Editor を使用して、サービスを作成し、ポリシーを割り当てます。『HP Configuration Management Application Manager and Application Self-service Manager Installation and Configuration Guide』(CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide) の「Entitlement」の章を参照してください。

パッケージ化の際の考慮アイテムのチェックリスト

データをパッケージ化する前には、多くの点を考慮する必要があります。

[全般]

パッケージ化されるデータの内容をどの程度把握していますか。

- 単純なパッケージで、そのコンポーネントを問題なくすべて把握できる場合には、CM Admin Publisher のコンポーネントの選択モードを使用します。
- 複雑なパッケージで、含めるべきファイルが把握できていない場合は、インストール モニタ モードを使用します。

パッケージ名の命名については、現在の組織の命名規則に従ってください。付録 Bの「[命名規則](#)」を参照してください。

一意のセッション ID を付けるかどうかについては、現在の組織の命名規則に従ってください。

システム設定

56 ページの「[必須のシステム設定を設定する](#)」を参照してください。

ターゲット コンピュータ (ワークステーションまたはサーバー) のオペレーティング システムは何ですか。

データの処理に必要な RAM は何 MB ですか。

データの処理に最低限必要なプロセッサ速度は何 MHz ですか。

64 ビット アプリケーション

64 ビット コンピュータで 64 ビット アプリケーションをパッケージ化する場合、ならびに 32 ビット コンピュータで 32 ビット アプリケーションをパッケージ化する場合には、ターゲット コンピュータの ビット アーキテクチャにはかかわりなく、CM Admin Packager を使用します。これにより、1 つのパッケージ化セッションで、32 ビットおよび 64 ビットのレジストリおよびファイル システムの両方にアクセスすることを避けられます。

Program Files ディレクトリに配布される 32 ビット アプリケーションは、64 ビット マシン上の CM Application Manager directory で Program Files (x86) ディレクトリにリダイレクトされることはありません。これは、環境変数によって実装されている規則で、ハード的な要求ではありません。32 ビット アプリケーションを Program Files ディレクトリにインストールしたとしても、同じデバイス上で、同じ Program Files ディレクトリにアプリケーションの 64 ビットバージョンを配布することがない限り、悪影響はありません。もしもこのような状況が生じた場合には、解決する方法は 2 通りあります。

CM Admin CSDB Editor を使用して 32 ビットのパッケージをコピーし、Program Files PATH インスタンスを Program Files (x86) を参照するように変更する。

アプリケーションを MSI インストールに変換し、MSI に正しい Program Files の場所を決定する。

64 ビット オペレーティング システム上のパッケージ化およびパブリッシュ ルールは自動的に ZSTOP 式を生成します。2 つの例を示します。

```
WORDPOS(EDMGETV(ZMASTER,ZOSTYPE),'WINX64_NT')=0
```

```
WORDPOS(EDMGETV(ZMASTER,ZOSTYPE),'WINIA64_NT')=0
```

アクティブ化オプション

アプリケーションを配布後すぐにアクティブ化しますか、後でアクティブ化しますか。57 ページの「日付と時刻の制約を設定する」を参照してください。

配布するアプリケーションのバージョンは何ですか。また、それをいつアクティブ化しますか。詳細については、『CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide』の「Preparing Services」の章を参照してください。

データ オプション

49 ページの「[Data Options] タブ」を参照してください。

使用する圧縮のタイプは何ですか。

データの保存先は CM-CSDB ですか、プロキシ サーバーですか。

NTFS ボリュームに配布中のファイルとフォルダに対して、セキュリティ設定を保持しますか。

CM Application Self-service Manager エージェントにメンテナンスを配布しますか。

リソースはどのように転送しますか。[ロック メソッドを強制する] を使用しますか。50 ページの「[Force lock method]」を参照してください。

更新を送信し、変更部分のみを配布しますか。

検証オプション

46 ページの「[Agent Management] タブ」を参照してください。

標準のデフォルト検証オプションを使用しますか。

インストールは今回が初めてですか。検証しなければならないものがありますか。

ファイルの配布時に、日、時刻、サイズのどの統計情報をチェックしますか。

すべてのファイルを更新しますか、新しいファイルのみを更新しますか。

ファイルが既に存在する場合、新しいファイルを再配布することで、既存のファイルの変更内容が上書きされても良いですか。

ファイルを配布するかどうかを判別する基準として内部バージョンを使用しますか。

[配信オプション]

46 ページの「[Agent Management] タブ」を参照してください。

ファイルまたはメソッドを配布する順番は決まっていますか。

データは必須ですか、オプションですか。CM Application Manager がインストールされている場合、配信できるのは必須ファイルのみです。

必要なのは、ユーザー コンテキストで配布されたファイルですか、マシン コンテキストで配布されたファイルですか。

エージェントの動作

51 ページの「[Agent Behaviors] タブ」を参照してください。

ファイルの配布後に実行するメソッドがありますか。ある場合は、どのメソッドを実行しますか。

配布されたファイルを有効にしなければならない事態が発生しますか。そのような事態が発生する場合は、配布されたファイルを有効にするために、どのメソッドを実行しますか。

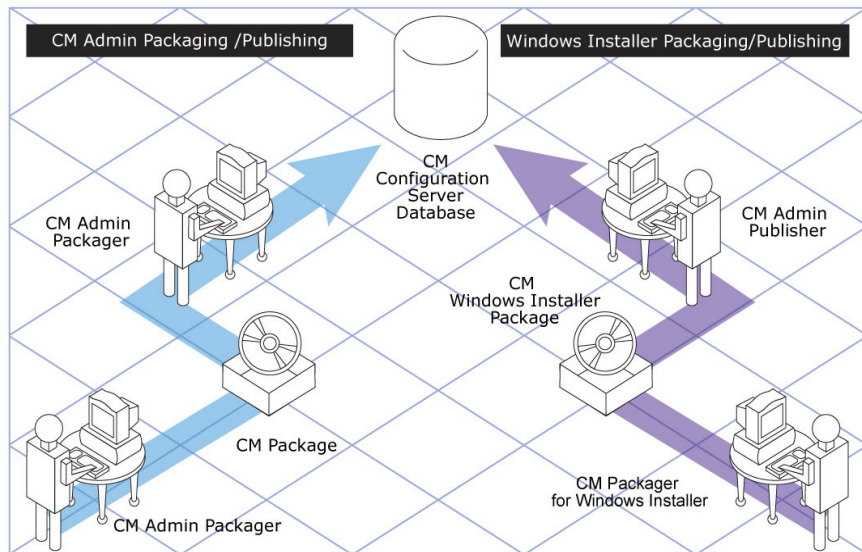
サブスクライバがソフトウェアにこれ以上サブスクライブされない場合は、ファイルを削除しますか。

配布しているファイルの新旧バージョンを比較しますか。比較する場合は、どのメソッドを使用しますか。

どの製品を使用したらよいか

CM には、データのパッケージ化とパブリッシュで使用できる、いくつかのツールが用意されています。作成およびパブリッシュするリソース パッケージのタイプを確認してから、必要な CM パッケージ化用製品および CM パブリッシュ用製品を選択してください。

図 2 パッケージ /パブリッシュ オプション



Windows インストーラ ファイルをパッケージ化する場合は、CM Packager for Windows Installer を使用します (『HP Configuration Management Extensions for Windows Installer User Guide』を参照してください)。

Windows インストーラ ファイル、OS イメージ、またはハードウェア構成をパブリッシュする場合は、CM Admin Publisher を使用します (69 ページの「[CM Admin Publisher](#)」を参照してください)。

Windows 用のその他のすべてのタイプのファイルやアプリケーションをパッケージ化およびパブリッシュする場合は、CM Admin Packager を使用します。

Windows

CM Admin Packager

インストール モニタ モードを使用して Windows アプリケーションをパッケージ化およびパブリッシュする場合に使用します。

CM Admin Publisher

OS イメージ、ハードウェア構成、および MSI ファイルをパッケージ化およびパブリッシュする場合、そしてコンポーネントの選択モードを使用する場合に使用します。

CM Batch Publisher

パブリッシュを自動化する場合に使用します。24 ページの「[CM Batch Publisher](#)」を参照してください。

CM Packager for Windows Installer

これは CM Extensions for Windows Install のコンポーネントで、MSI パッケージを作成する場合に使用します。

UNIX

UNIX では 2 つのパッケージ化/パブリッシュ ツールを使用できます。

CM Admin Packager

データをパッケージ化およびパブリッシュする場合に使用します。このツールには、パブリッシュ用のコンポーネントの選択モードだけが含まれています。

CM Batch Publisher

パブリッシュを自動化する場合、そしてネイティブな UNIX ソフトウェアパッケージをパブリッシュする場合に使用します。

Macintosh

Macintosh では、CM Administrator ツールのうち、CM Admin Publisher だけが使用できます。アプリケーションをコンポーネントの選択モードでパッケージ化し、CM-CSDB にパブリッシュするために使用します。

CM Batch Publisher

CM Batch Publisher は、コンポーネントの選択モードを使用する、コマンドラインの代替プログラムです。パッケージを作成し、それらを CM-CSDB に格納するための、自動化された、コマンドラインのプロセスを提供します。『HP Configuration Management Batch

『Publisher Installation and Configuration Guide』(CM Batch Publisher Guide)を参照してください。

CM Batch Publisher は、以下のことが行えます。

複数のドライブやファイル システム上でファイルを検索できます。

任意のマッピングされたドライブやファイル システムからファイルを検索し、パブリッシュできます。

検索対象のサブディレクトリを制限するように設定できます。

ファイル レベルでファイルを含めたり除外したりできます。

ファイルをタイプ別に選択できます。

CM Batch Publisher は、内部的なアプリケーションに頻繁にパッチを適用するように適応させることもできます。コンテンツを修正する機能には信頼性があり、指定された時刻やあらかじめ設定された間隔で継続的に実行するように設定できます。CM Batch Publisher は、コマンド プロンプトを呼び出せる任意のスクリプトやコード内から簡単に実行できます。

CM Native Packaging

CM Native Packaging は、特に UNIX 環境用にデザインされた、CM Batch Publisher の機能です。CM Native Packaging は、コマンドライン駆動型のコンテンツ パブリッシュ ツールで、ネイティブな HP-UX および Solaris ソフトウェアをサポートします。CM Native Packaging は、CM Batch Publisher を UNIX システムに通常の方法でインストールすると、インストールされます。

CM Native Packaging は、UNIX ネイティブなソフトウェアの保管場所を調査して利用可能なネイティブ パッケージを検索し、ネイティブなソフトウェアをラップ化して CM Configuration Server にパブリッシュします。CM Native Packaging は、ネイティブなソフトウェアをエンド エージェントに直接インストールするために必要な、すべての情報をパブリッシュします。CM Application Manager エージェントをインストールすると、CM Native Packaging を使用してパブリッシュされるパッケージを配布するときに必要な Tcl スクリプトが `IDMSYS` ディレクトリに含まれます。詳細については、『CM Batch Publisher Guide』を参照してください。



CM Batch Publisher は、HP が提供するオプション機能です。詳細については、営業担当者にお問い合わせください。

3 CM Administrator for Windows

この章は以下を目的としています。

HP Configuration Management Administrator (CM Administrator) とその機能コンポーネントのインストール方法を理解する。

CM Admin Agent Explorer を使用してオブジェクトを作成し、編集する方法を理解する。

CM Admin Packager を使用してデータを CM-CSDB にパッケージ化し、パブリッシュする方法を理解する。

CM Admin Publisher を使用してデータを CM-CSDB にパッケージ化し、パブリッシュする方法を理解する。

CM Admin Screen Painter を使用してダイアログボックスを設計し、作成する方法を理解する。

CM Admin CSDB Editor を使用して、希望する状態を作成し、維持する方法を学ぶ。

インストール

CM Administrator インストール プログラムでは、Microsoft Windows インストーラを使用します。プログラムは、6 つの機能セット、つまり CM Admin Agent Explorer、CM Admin Packager、CM Admin Publisher、CM Admin Screen Painter、CM Admin CSDB Editor、および CM AMP Editor を含む、1 つの MSI パッケージから構成されています。

システム要件

クリーンなコンピュータ(クリーンなコンピュータとは、ターゲット サブスクライバのオペレーティング システムのみがインストールされているコンピュータのことです)。

Windows 2000、Server 2003、XP、または Vista (x86 または適用可能な場合には x64)。

CM Configuration Server への TCP/IP 接続。

800 x 600 の最低解像度。

Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP、または Windows Vista の場合、Administrator をインストールするには、コンピュータの管理者権限が必要です。

プラットフォームのサポート

サポートされているプラットフォームの詳細については、本リリースに付属の CM 5.11 リリース ノートを参照してください。

インストール ファイルについて

このセクションでは、インストールで使用するファイルについて説明します。

setup.exe

setup.exe は、CM infrastructure メディアの Configuration Server\management infrastructure\administrator_workstation \win32\ フォルダにあります。これは、すべてのコマンドライン パラメータを受け付け、Windows インストーラに渡します。

ネットワーク インストール用に Windows インストーラの管理インストール ポイント (AIP: Administrative Installation Point) を作成することもできます。



Windows インストーラの管理インストール ポイント(AIP)は、管理制御ポイント (ACP: Administrative Control Point)とも呼ばれます。

AIP は、Windows インストーラを起動し、指定したパラメータをインストーラに渡します。指定のターゲット ディレクトリに Windows インストーラの管理インストール ポイント(AIP) を作成するには、次のように入力します。

```
SETUP.EXE /a TARGETDIR=drive:\targetdirectory /qb
```

ターゲット ディレクトリには、CM-ADMIN51.MSI、インストール フォルダ、および `setup.exe` が格納されます。

CM-ADMIN51.MSI

CM-ADMIN51.MSI は、インストールのデフォルト設定情報が格納されている MSI データベース ファイルです。このファイルは、CM infrastructure メディアの Configuration Server\management_infrastructure\administrator_workstation\win32 フォルダにあります。

CM Administrator for Windows のインストール

この節では、CM Administrator for Windows をインストールする方法について説明します。



CM 4.2i 以上の Administrator は、CM 4.0 以下のエージェントと互換できません。エージェント オブジェクトは破損したようです。4.2i または 5.0 Administrator を 4.0.x エージェント マシンにインストールすると、CENCODE 変数を LICENSE.EDM オブジェクトに追加します。これは、4.0 エージェントに破損したようなバージョン 4.0 オブジェクトを作成するよう NVDKIT に指示します。4.2i 以上の Administrator と 4.0 以下のエージェントは、同じマシンで共存できません。エージェントと Administrator は、同じレベルである必要があります。4.0 エージェントをもう一度動作させるには、LICENSE.EDM オブジェクトから CENCODE 変数を削除し、マシンから ADMIN を削除してください。

- ▶ Administrator またはエージェントのインストールが、AIX で中国語ディレクトリにインストールした際の起動に失敗します。エージェントまたは Administrator のインストールは、ネイティブ中国語ディレクトリにインストールできません。エージェントおよび Administrator のインストールは、`/opt/HP` のような ASCII ディレクトリでのみ実行される必要があります。

インストール ウィザード

CM Administrator for Windows をインストールするには、インストール ウィザードを使用できます。

インストール ウィザードを使用して CM Administrator をインストールするには

- 1 インストールメディアの CM Administrator インストール ファイルが格納されているフォルダで、`setup.exe` を実行します。CM Administrator インストール ウィザードが開きます。
- 2 **[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読み、ライセンス契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。

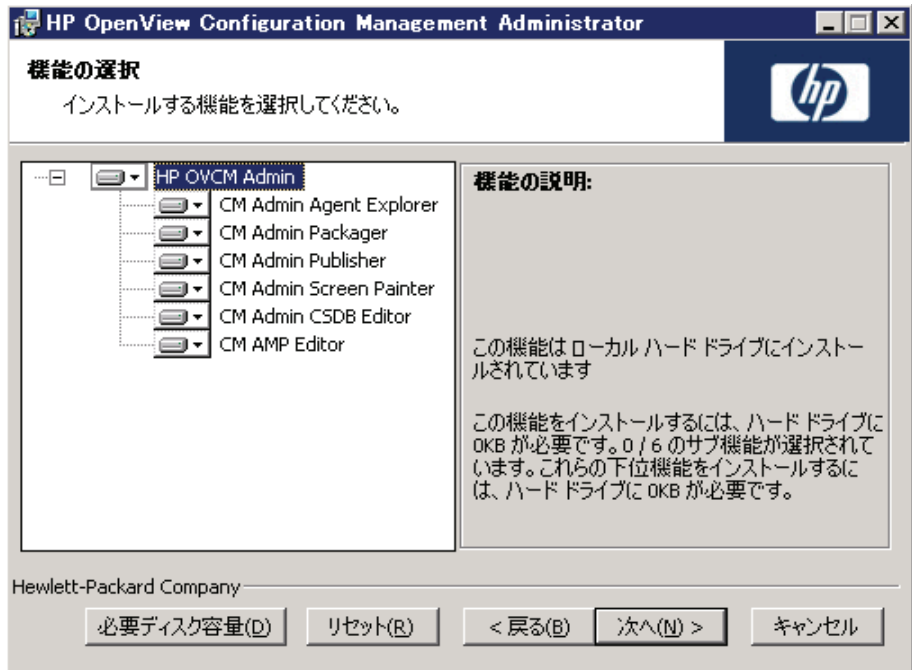
CM Agent がコンピュータにインストールされていない場合は、[保存先フォルダ] ウィンドウが表示されます。

- ▶ CM Agent がコンピュータにインストールされている場合、[保存先フォルダ] ウィンドウは表示されません。その場合、CM Administrator は、CM Agent と同じロケーションにインストールされます。

CM Administrator の別の保存先を選択する場合は、**[ブラウズ]** をクリックして適切な保存先フォルダを指定し、**[OK]** をクリックして続けます。


- 4 **[次へ]** をクリックします。[CM Configuration Server] ウィンドウが表示されます。
- 5 [IP アドレス] テキスト ボックスに CM Configuration Server の IP アドレスを入力します。
- 6 [ポート] ボックスにポート番号を入力します (デフォルトは 3464 です)。
- 7 **[次へ]** をクリックします。

[機能の選択] ウィンドウが表示されます。



- 8  をクリックして、インストールする機能を選択します。



すべての機能に同じオプションを設定するには、[HP OVCM Admin] の隣の  をクリックして適切なオプションを選択し、すべての機能に設定を適用します。



をクリックするたびに、その機能のショートカットメニューが表示されます。

- 9 ショートカットメニューから、インストール オプションを選択します。これらのオプションの説明は、31 ページの表 1 を参照してください。

表 1 CM Administrator の機能の設定

| オプション | 説明 |
|--------------------------------|--|
| [ローカル ハード ドライブにインストールします] | 最上位に表示される機能をローカル ハード ドライブにインストールします。ただし、下位機能はインストールしません。 |
| [機能全体をローカル ハード ドライブにインストールします] | 下位機能も含め、機能全体をインストールします。 注意: このインストール プログラムでは、このオプションまたは [ローカル ハード ドライブにインストールします] オプションをどの機能に対して選択しても、これらの機能には下位機能がないため、インストール結果は同じになります。 |

| オプション | 説明 |
|-------------------|--------------------------------------|
| [機能全体が使用できなくなります] | 機能はインストールされません。以前にインストールした機能は削除されます。 |

- 10 インストールに必要なディスク容量を確認するには、**[必要ディスク容量]** をクリックします。
- 11 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示されます。
- 12 **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。インストールが完了すると、[CM Administrator は正常にインストールされました] ウィンドウが表示されます。
- 13 **[完了]** をクリックしてインストールを終了します。

コマンドラインによるインストール

コマンドラインを使用して CM Administrator をインストールすることもできます。CM Administrator のインストール ファイルが格納されているディレクトリから、次の構文でコマンドラインを入力します。

SETUP.EXE FeatureStateArgument=Feature1,Feature2

ここで、*FeatureStateArgument* は、32 ページの表 2 に示す引数で、*Feature1* と *Feature2* は、33 ページの表 3 に示す引数です。

表 2 CM Administrator の機能状態引数

| 指定可能な引数 | 機能の状態の設定 |
|-----------|--|
| ADDLOCAL | [ローカル ハード ドライブにインストールします] に設定する機能のカンマ区切りリストを入力します。 |
| ADDSOURCE | [ネットワークから実行する形式でインストールします] に設定する機能のカンマ区切りのリストを入力します。 |
| ADVERTISE | [機能は必要になったときにインストールできます] に設定する機能のカンマ区切りのリストを入力します。 |

| 指定可能な引数 | 機能の状態の設定 |
|---------|--|
| REMOVE | <p>[機能全体が使用できなくなります] に設定する機能のカンマ区切りリストを入力します。</p> <p>この場合、削除されるのは機能のみであり、製品全体ではありません。したがって、REMOVE プロパティを使用して各機能名を入力しても、コアの製品はコンピュータにインストールされたままとなります。</p> <p>製品全体を削除するには、「REMOVE=ALL」と入力します。</p> |

表 3 CM Admin の機能引数

| CM Admin の機能 | 機能引数 |
|-------------------------|--------------------------|
| CM Admin Agent Explorer | NVDINSTALLCLIENTEXPLORER |
| CM Admin Packager | NVDINSTALLPACKAGER |
| CM Admin Publisher | NVDINSTALLPUBLISHER |
| CM Admin Screen Painter | NVDINSTALLSCREENPAINTER |
| CM Admin CSDB Editor | NVDINSTALLSYSTEMEXPLORER |
| CM AMP Editor | NVDINSTALLAMPEDITOR |

例

コンピュータに CM Admin Packager だけをインストールする場合には、以下のコマンドラインを入力します。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLPACKAGER
```

コンピュータに CM Admin CSDB Editor と CM Admin Agent Explorer をインストールする場合には、以下のコマンドラインを入力します。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLSYSTEMEXPLORER,NVDINSTALLCLIENTEXPLORER
```



コマンドラインからインストールを実行する場合は、必ず CM Configuration Server の IP アドレスをインストール プログラムに渡してください。たとえば、次のとおりです。

```
SETUP.EXE NVDOBJZMASTER_ZIPADDR=10.10.10.1
```

追加のコマンドライン引数

34 ページの表 4 では、コマンドラインでインストール プログラムに渡すことができる追加の引数について説明します。

表 4 コマンドライン引数

| 引数 | 説明 |
|---|---|
| /qn | サイレント インストールを実行します。 |
| /qb | インストール時に進行状況バーのみを表示します。 |
| /l*v drive:\install.log | Windows インストーラの詳細なログを作成します。 注意:このオプションを使用すると、インストールのパフォーマンスに影響が生じる可能性があります。 |
| /a TARGETDIR= drive: \targetdirectory | 指定のターゲット ディレクトリに Windows インストーラの AIP を作成します。 ターゲット ディレクトリには、CM-ADMIN51.MSI、インストール フォルダ、および setup.exe が格納されます。 AIP の作成後は、setup.exe を実行して、適切なコマンドライン パラメータを渡すことができます。これにより、Windows インストーラが起動し、指定したパラメータがインストーラに渡されます。 |
| INSTALLDIR= | 使用するインストール ディレクトリを指定します。パスにスペースが含まれる場合は、二重引用符で囲みます。 |

CM Administrator のインストールの変更

Windows インストーラのインストール プログラムは、CM Administrator の変更、修復、および削除を行う機能を備えています。

インストール ウィザードを使用して インストールを変更する

この節では、インストール ウィザードを使用して CM Administrator の変更、修復、および削除 (アンインストール) を行う方法について説明します。

- ▶ CM Administrator の特定の機能を削除するには、[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウの [変更] オプションを使用します。

インストール ウィザードを使用して CM Administrator インストールを変更するには

- 1 インストールメディアの CM Administrator インストール ファイルが格納されているフォルダで、**setup.exe** を実行します。[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウが表示されます。
- 2 **変更、修復**、または **削除** オプションを選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。
 - **[変更]** を選択すると、[機能の選択] ウィンドウが表示されます。変更する機能を選択して、**[インストール]** をクリックします。機能の設定についての詳細については、30 ページの「インストール ウィザード」を参照してください。
 - **[修復]** を選択すると、[アプリケーションを修復する準備ができました] ウィンドウが表示されます。**[インストール]** をクリックします。
 - **[削除]** を選択する場合には、**[削除]** をクリックします。
- 4 **[完了]** をクリックします。

コマンド ラインを使用してインストールを変更する

この節では、コマンド ラインを使用して CM Administrator の変更、修復、および削除 (アンインストール) を行う方法について説明します。

コマンド ラインを使用して CM Administrator をインストールするには

インストールメディアの CM Administrator インストール ファイルが格納されているフォルダで、以下のコマンドラインを入力します。

```
SETUP.EXE FeatureStateArgument=Feature1,Feature2
```

ここで、*FeatureStateArgument* は、32 ページの表 2 に示す引数で、*Feature1* と *Feature2* は、33 ページの表 3 に示す引数です。

例

CM Admin CSDB Editor および CM Admin Agent Explorer をサイレントに削除する場合は、次のように入力します。

```
SETUP.EXE REMOVE=NVDINSTALLSYSTEMEXPLORER,  
NVDINSTALLCLIENTEXPLORER /qn
```

CM Admin Packager をローカル ハード ドライブにインストールし、CM Admin CSDB Editor および CM Admin Agent Explorer を使用できないようにする場合は、次のコマンド ラインを使用します。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLPACKAGER  
REMOVE=NVDINSTALLSYSTEMEXPLORER,NVDINSTALLCLIENTEXPLORER
```


CM Admin Agent Explorer

この節では、CM Admin Agent Explorer を使用して CM オブジェクトを作成し、編集する方法について説明します。

CM Admin Agent Explorer は CM Administrator とともに自動的にインストールされます。CM Administrator をインストールしたら、CM Agent Explorer を診断ユーティリティとして使用して、デスクトップ上のローカル オブジェクトを表示できますし、必要であれば、既存のオブジェクトを編集したり、新しいオブジェクトを作成したりすることができます。

CM 環境で、単一のファイル サーバーに依存している複数の CM Agents がある場合には、CM Admin Agent Explorer を使用して、ファイル サーバー上に格納されたオブジェクトを編集することができます。

CM Admin Agent Explorer はまた、CM Agent デスクトップ上のオブジェクトを編集するために使用することもできます。診断目的では、ローカル エリア ネットワーク (LAN) に接続された他の CM Agent 用に設定されたオブジェクトを表示し、編集することができます。

 CM 画面オブジェクトを CM Admin Agent Explorer で表示することはできませんが、実際の画面は表示されません。CM 画面は、CM Admin Screen Painter を使用して作成し、編集する必要があります。CM Admin Agent Explorer で表示しているときに、画面オブジェクトの変数を破壊しないように注意してください。

CM Admin Agent Explorer の開始


次の手順は、CM Admin Agent Explorer を開く、および閉じる方法を説明しています。

CM Admin Agent Explorer を開くには、

HP OVCM Administrator フォルダの **CM Admin Agent Explorer** をクリックします。

または

コマンドラインで `NVDOBJED.EXE` と入力します。

CM Admin Agent Explorer が開き、右側にオブジェクト リストが表示されます。38 ページの  **3** を参照してください。オブジェクト リストには、表示および編集可能な CM オブジェクトの名前が含まれます。


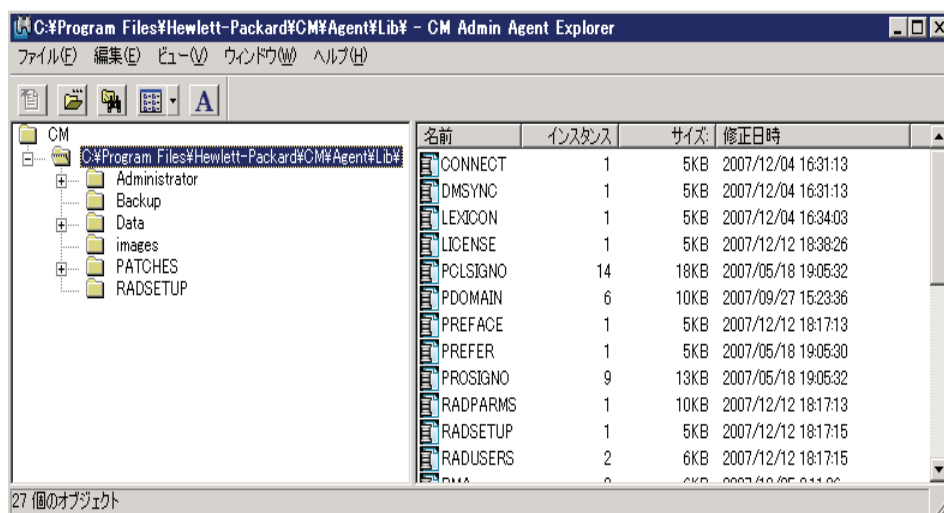
 「Z」で始まるオブジェクトは、CM で使用されます。作成する新規オブジェクトに名前を付けるときには、「Z」から始まる名前をクリックしないよう推奨します。

図 3 CM Admin Agent Explorer ウィンドウ



CM Admin Agent ウィンドウのメニュー

オブジェクトを管理したり、CM Admin Agent Explorer ウィンドウの外見を管理したりするには、CM Admin Agent Explorer ウィンドウのメニューを使用します。

[ファイル] メニュー

オブジェクトを開く、およびオブジェクトのコピー、削除、名前変更、新規作成を行うには、CM Admin Agent Explorer の [ファイル] メニューを使用します。

表 5 CM Admin Agent Explorer の [ファイル] メニュー

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [新規作成] | [新規作成] をクリックし、新しいオブジェクトの名前を入力して、 [OK] をクリックします。 |
| [開く] | オブジェクト リストからオブジェクトを選択して、 [開く] をクリックします。オブジェクトの表示ウィンドウが表示されます。 |

| メニュー オプション | 機能 |
|---------------|---|
| [コピー] | オブジェクト リストからオブジェクトを選択して、 [コピー] をクリックし、オブジェクトの特性のコピー先となる新規オブジェクトの名前を入力して、 [OK] をクリックします。 |
| [名前の変更] | オブジェクト リストからオブジェクトを選択し、 [名前の変更] をクリックして、リストの古い名前の部分に新しい名前を入力します。 |
| [ディレクトリを変更] | [ディレクトリを変更] をクリックし、希望するディレクトリを表示して、 Enter を押します。 |
| [指定されたディレクトリ] | [指定されたディレクトリ] をクリックします。ショートカット メニューから [Admin] 、 [Lib] 、または [System] を選択します。 |
| [終了] | [終了] をクリックして CM Admin Agent Explorer を終了します。 |

[編集]メニュー

オブジェクトを操作するには、[編集] メニューを使用します。

表 6 CM Admin Agent Explorer の [編集] メニュー

| メニュー オプション | 機能 |
|---------------|---|
| [すべて選択] | カーソルを右ペインにおいて、 [すべて選択] をクリックします。 |
| [バイト変換] | オブジェクト リストからオブジェクトを選択します。リトル エンディアンとビッグ エンディアンの間で変換するには、 [バイト変換] をクリックします。 |
| [オブジェクトの中で検索] | [オブジェクトの中で検索] をクリックし、検索基準を入力して、 [検索] をクリックします。返されたオブジェクトのリストから、表示するオブジェクトをクリックすると、オブジェクト表示ウィンドウが開きます。 |

[ビュー]メニュー

CM Admin Agent Explorer ウィンドウの表示方法をカスタマイズするには、[ビュー] メニューを使用します。

表 7 CM Admin Agent Explorer の [ビュー] メニュー

| メニュー オプション | 機能 |
|-----------------|--|
| [ツール バー] | ウィンドウの上部にツール バーを表示するには、[ツール バー] をクリックします。 |
| [ステータス バー] | ウィンドウの下部にステータス バーを表示するには、[ステータス] をクリックします。 |
| [行全体を選択] | 選択したときに、オブジェクト リストの中のオブジェクト情報の行全体 (インスタンス数、サイズ、最終更新日を含む) を強調表示するには、[行全体を選択] をクリックします。 |
| [グリッド線を表示] | オブジェクト リストにグリッド線を表示するには、[グリッド線を表示] をクリックします。 |
| [リフレッシュ] | ウィンドウを更新するには、[リフレッシュ] をクリックします。 |
| [オブジェクト オプション] | <p>[オブジェクト オプション] をクリックして、以下のいずれか 1 つ、または複数を選択します。</p> <p>[ライブ エディタ] - メモリの代わりにディスクの内容を編集します。</p> <p>[ごみ箱を使用] - 削除したオブジェクトをごみ箱に送ります。</p> <p>[Esc でオブジェクトを閉じる] - Esc を押すと、オブジェクトを閉じます。</p> |
| [ビュー スタイル] | [ビュー スタイル] をクリックしてから、オブジェクトをアイコンまたはリストのどちらで表示するかを選択します。 |
| [ユーザー定義のディレクトリ] | [ユーザー定義のディレクトリ] をクリックし、ロードするパスの名前を入力します。 |
| [フォント] | [フォント] をクリックして、すべてのウィンドウの表示で使用するフォントを選択します。 |

[ウィンドウ] メニュー

すべてのオブジェクトを閉じるには、[ウィンドウ] メニューを使用します。

表 8 CM Admin Agent Explorer の [ウィンドウ] メニュー

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [すべて閉じる] | 開いているすべてのオブジェクトを閉じるには、[すべて閉じる] をクリックします。 |

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューでは、CM Admin Agent Explorer について情報を表示し、これを .edm ファイルのデフォルトのエディタとして登録することができます。

表 9 CM Admin Agent Explorer の [ヘルプ] メニュー

| メニュー オプション | 機能 |
|--------------------------------|---|
| [デフォルトビューアーとして登録] | CM Agent Explorer を .edm ファイルのデフォルトのエディタとして設定します。 |
| [CM Admin Agent Explorer について] | バージョンおよび著作権情報を表示します。 |

オブジェクト表示ウィンドウ

オブジェクト表示ウィンドウには、表示または編集できる CM オブジェクトの内容が表示され、次の 4 つのドロップダウン メニューがあります。[オブジェクト]、[変数]、[インスタンス]、および[オプション]。

[オブジェクト] メニュー

オブジェクトの管理、表示、および印刷を行うには、[オブジェクト] メニューを使用します。

表 10 [オブジェクト] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|-------------------------------------|
| [情報] | [オブジェクトの情報] 画面を表示します。 |
| [ソート] | マルチヒーブ オブジェクトのヒーブを、変数の値に基づいてソートします。 |
| [ソート順] | ソート順として昇順または降順を選択します。 |
| [印刷] | オブジェクト表示ウィンドウの内容を印刷します。 |

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|---|
| [エクスポート] | オブジェクトを .csv ファイルにエクスポートし、オブジェクトファイルと同じ場所に置きます。 |
| [保存] | 行った変更を保存します。 |
| [閉じる] | オブジェクト表示ウィンドウを閉じます。 |

[変数] メニュー

[変数] メニューでは、変数の追加、削除、名前変更、およびオブジェクトをその変数の値に基づいてヒープ内で管理し、表示するために使用します。

表 11 [変数] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [追加] | ユーザー指定名を持つ変数をオブジェクトに追加します。 |
| [削除] | オブジェクトから変数を削除します。 |
| [編集] | 変数の値を変更します。 |
| [すべてを修正] | オブジェクト内のすべてのヒープのこの変数の値を変更します。 |
| [フィルタ] | ユーザー指定文字列を含むすべての変数を表示します。 |
| [名前の変更] | オブジェクト内の変数の名前を変更します。 |
| [行の値を計算] | 選択した変数に対して、オブジェクト内のすべてのヒープに対するすべての十進数エントリのみを合計します。 |
| [検索] | ユーザー選択変数に対して、値にユーザー指定文字列を含むヒープを検索します。マルチヒープ オブジェクトでのみ利用可能です。 |
| [次へ検索] | 検索する文字列を入力するために [検索] コマンドを使用した後に、このコマンドはその文字列の次のオカレンスを検索します。 |
| [前へ検索] | 検索する文字列を入力するために [検索] コマンドを使用した後に、このコマンドはその文字列の前のオカレンスを検索します。 |
| [置換] | 変数の値の中の、ユーザーが指定した文字列を検索して、置換します。 |

[インスタンス] メニュー

オブジェクト内のインスタンスの追加、削除、コピーを行い、オブジェクト内のインスタンスを表示するには、[インスタンス] メニューを使用します。

インスタンスはヒープとも呼ばれます。オブジェクト内の各インスタンスを表示するには、[オブジェクトの表示] ウィンドウの一番下にある [>>] または [<<] をクリックします。

表 12 [インスタンス] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [追加] | 空白の値を持つインスタンスを追加します。[変数] -> [編集] と選択して値を入力します。 |
| [削除] | 選択したインスタンスを削除します。[>>] または [<<] をクリックして、削除するインスタンスに移動します。 |
| [ヒープを複製] | 選択したインスタンスのコピーを、値を含めて作成します。[>>] または [<<] をクリックして、複製するインスタンスに移動します。 |
| [ヒープのコピー先] | 選択したインスタンスを [インスタンスのコピー先] ダイアログ ボックスに入力したオブジェクトにコピーします。 |
| [移動先] | [新しいインスタンス #] ダイアログ ボックスに入力した番号のインスタンスに移動します。 |
| [先頭] | オブジェクトの最初のインスタンスに移動します。 |
| [末尾] | オブジェクトの最後のインスタンスに移動します。 |

[オプション] メニュー

オブジェクト表示ウィンドウを管理するには、[オプション] メニューを使用します。

表 13 [オプション] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|---------------|---|
| [解決値] | <p>名前の付いたオブジェクトと属性を、アンパサンド規則 &(変数) によって、変数で置き換えた結果を表示します。</p> <p>&(DATE) は、オブジェクトのヒープ内の DATE 変数の内容を表示します。</p> <p>&(ZERROR.ZERRDATA) は、現在のディレクトリ内の ZERROR オブジェクトから、ZERRDATA 変数の内容を表示します。</p> |
| [長さを表示] | インスタンスの値で許されている文字数を表示します。 |
| [ビューを分割] | 2 つの連続するインスタンスの変数の値を同時に表示します。 |
| [ウィンドウの位置を保存] | [オプション] メニューで行った、ウィンドウの形式の変更を保存します。 |
| [オブジェクトの形式] | PC 用にはリトル エンディアン、UNIX および Mac 用にはビッグ エンディアンを選択します。 |

CM Admin CSDB Editor から他のデータベースへのリダイレクト

CM Admin Agent Explorer を使用すれば、CM-CSDB Editor を他のデータベースにリダイレクトすることができます。

CM Admin CSDB Editor を他のデータベースにリダイレクトするには

- 1 CM Admin Agent Explorer を開きます。
- 2 ZMASTER オブジェクトを選択し、右クリックして、オブジェクト表示ウィンドウを開きます。
- 3 ZIPADDR の値を、CM Configuration Server が動作しているコンピュータの名前または IP アドレスに変更します。

CM Admin CSDB Editor は、そのコンピュータに置かれているデータベースにダイレクトされます。

CM Admin Packager

インストール モニタ モードでパッケージを作成するには、CM Admin Packager for Windows を使用します。

インストール モニタ モードでは、CM Admin Packager がソフトウェアのインストールの前後にコンピュータをスキャンして、パッケージするものを決定します。インストール前後のスキャンの差分により、インストール後のコンピュータに対する変更が判別されます。これらの差分が、CM-CSDB にパブリッシュされるパッケージになります。アプリケーションを構成するコンポーネントの一部が不明な場合は、インストール モニタ モードでパッケージ化することをお勧めします。

パッケージのプロパティの設定

データのパッケージ化を行う前に、[Global Default Properties] ダイアログ ボックスで、パッケージに含めるファイルのデフォルトのプロパティを設定することができます。デフォルトのプロパティに加えた変更は、新規の CM Admin Packager セッションに適用されます。

必要であれば、後ほど、インストール モニタ モードの [Instance Properties] ダイアログ ボックスで、任意のファイルまたはフォルダのプロパティを変更することができます。

CM Admin CSDB Editor を使用して、ベース インスタンスのデフォルトのプロパティを変更することもできます。または、パッケージを CM-CSDB に転送した後で、FILE、REGISTRY、または DESKTOP クラスの個々のインスタンスのプロパティを変更することができます。

[Global Default Properties] および **[Instance Properties]** には、[エージェント管理]、[データ オプション]、および [エージェントの動作] という 3 つのタブがあります。

[グローバル デフォルト プロパティ] ダイアログ ボックスにアクセスするには

- 1 [スタート] [プログラム] [HP OVCM Administrator] [CM Admin Packager] の順にクリックします。
- 2 [CM Admin Packager Security Information] ダイアログ ボックスの [User ID] にユーザー ID、[Password] にパスワードを入力します。



出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。この設定は、**[Change Password]** チェック ボックスをオンにして、[New Password] と [Verify New Password] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 3 **[OK]** をクリックします。

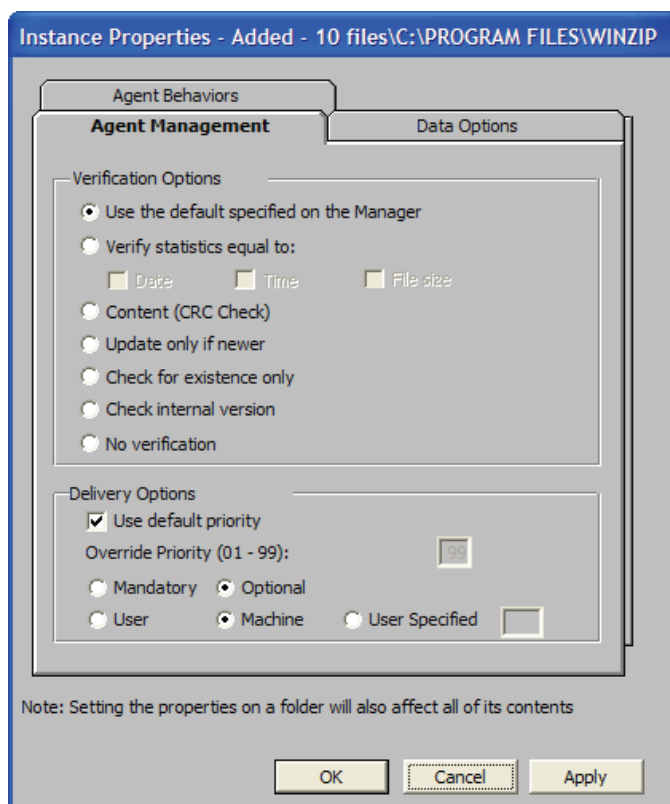
- [Edit] メニューで、[Change Global Defaults] を選択します。[CM Admin Packager – Global Default Properties] ダイアログ ボックスには、[Agent Management]、[Data Options]、および [Agent behaviors] という 3 つのタブがあります。

[Agent Management] タブ

[Agent Management] タブを使用すると、パッケージ内の選択したファイルまたはフォルダの検証オプションおよび配信オプションが設定できます。このパッケージを CM-CSDB にパブリッシュした後も、CM Admin CSDB Editor を使用すればこれらの設定を変更することができます。

[Verification Options] では、選択したファイルまたはフォルダに対して CM Agent が実行する検証アクションを指定します。

[Delivery Options] では、ファイルが配布される順序など、配信に関するオプションを指定します。



[Verification Options]

[Use the default specified on the Manager] (デフォルト)このオプションを選択すると、そのファイルまたはフォルダの検証オプションが、CM-CSDB データベースの FILE クラスのベース インスタンスから継承されます。

CM Admin CSDB Editor で、FILE クラスのベース インスタンスの ZRSCVRFY 属性を参照すると、デフォルトの検証オプションが確認できます。

[Verify statistics equal to]

このオプションを選択すると、エージェントは、自分のコンピュータにあるファイルの統計情報 (日付、時刻、ファイル サイズ) をチェックします。ファイルの統計値がエージェント コンピュータのファイルと異なる場合、CM-CSDB データベース(または CM Proxy Server) からファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=D, ZRSCVRFY=S, ZRSCVRFY=T, または ZRSCVRFY=Y と設定します。

コンテンツ (CRC チェック):

このオプションを選択すると、CM Agent は、エージェント コンピュータにあるファイルの統計値をチェックします。検証する際、ファイルは[最初に]日付、時刻、およびファイル サイズを基にチェックされます。検証の時間を節約するために、日付、時刻、およびファイル サイズの検証に合格した場合にのみ、CRC がチェックされます。その統計値がエージェント コンピュータの統計値と異なる場合に、CM Configuration Server (または CM Proxy Server) はファイルを配布します。このオプションを選択すると、CM Admin Packager は、CRC を計算し、ZRSCCRC 属性に値を設定します。

[Update only if newer]

このオプションを選択すると、そのファイルの日付および時刻のタイムスタンプがエージェント コンピュータのものよりも新しい場合に、CM-CSDB (または CM Proxy Server) からファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=U と設定します。

[Check for existence only]

このオプションを選択すると、そのファイルは、エージェント コンピュータに存在しない場合にのみ配布されます。エージェント コンピュータにファイルが既に存在する場合は、統計値が CM-CSDB のものと異なっていても何も実行されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=E と設定します。

[Check internal version]

このオプションを選択すると、エージェント コンピュータにファイルが存在する場合はそのファイルのバージョンと配布されるファイルのバージョンが比較されます。これにより、複数のバージョンが存在する場合でも、適切なファイルが更新されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、この機能で比較されるファイル タイプは、.DLL, .EXE, .OCX, .SYS, .VBX です。

[No verification]

このオプションを選択すると、アプリケーションが初めて配布されるときにファイルが配布されます。それ以降は何も実行されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=N と設定します。

[Delivery Options]

[Use default priority]

このチェック ボックスをオンにすると、配信の優先度がデフォルトの 50 になります。この優先度の高さによって、配布の順序が決まります。CM Admin CSDB Editor でこのオプションを設定する場合は、ZRSCPRI=50 と設定します。

[Override Priority (01-99)]

1 ~ 99 の値を入力すると、デフォルトの優先度 50 が上書きされます。最も高い優先度は 1、最も低い優先度は 99 です。CM Admin CSDB Editor でこのオプションを設定する場合は、ZRSCPRI=1 と設定します。

以下のオプションは、アプリケーション全体をインストールするのに十分な容量がエージェント コンピュータにない場合にのみ適用されます。

[Mandatory]

このオプションを選択すると、そのファイルはアプリケーションの必須ファイルになります。

- アプリケーション全体を格納するのに十分な容量がエージェント コンピュータにない場合は、必須ファイルのみが配布されます。
- 必須ファイルを格納するのに十分な容量がない場合、アプリケーションは配布されません。

CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCMO=M と設定します。

[Optional] (デフォルト)

このオプションを選択すると、ファイルはアプリケーションの必須ファイルではなくなります。

- アプリケーション全体を格納するのに十分な容量がクライアント コンピュータにない場合は、オプション ファイルは配布されません。

CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCMO=O と設定します。

以下のオプションは、Windows NT 4.0、2000、Windows Server 2003 など、複数のユーザーのサインオンをサポートしているオペレーティング システムに対してのみ適用されます。

[User]

[User]を選択すると、アプリケーションが最初に配布される際にログオンしているサブスクライバにだけファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZCONTEXT=U と設定します。

[Machine]

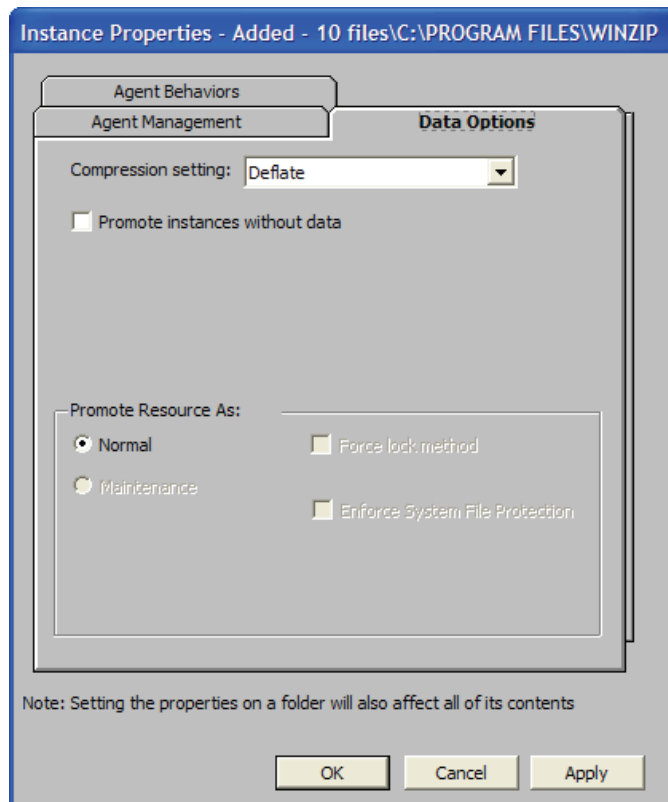
[Machine] を選択すると、コンピュータのすべてのユーザーにファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZCONTEXT=M と設定します。

[User Specified]

このオプションは、現時点では利用できません。

[Data Options] タブ

[Data Options] タブを使用すると、データ圧縮方法など、配布予定のファイルまたはフォルダに関する詳細が指定できます。



[Compression setting]

必要に応じて、選択したファイルを CM-CSDB データベースに格納する際の圧縮設定を選択します。ファイルを圧縮すると、データの転送時間が短縮され、格納に必要なディスク容量が軽減されます。

- **[Deflate]** を選択すると、最も効率的にファイルが圧縮できます。[Deflate] は、データを圧縮してファイル サイズを小さくします。
- ファイルが既に圧縮されている場合は、**[None]** を選択します。パッケージ化するアプリケーションに圧縮ファイルが含まれている場合は、CM Admin Packager でファイルをさらに圧縮しないでください。圧縮すると、ファイルのサイズが大きくなる可能性があります。

[Promote instances without data]

このチェック ボックスをオンにすると、ファイルがパッケージの一部として CM-CSDB データベースに送信されなくなります。ファイルを表すインスタンスのみがパッケージに含まれます。データは、圧縮された状態で、コンピュータの `IDMDATA` 内に保存されたままとなります。`IDMDATA` のデフォルト ロケーションは、`SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\Agent\Lib\Data\` です。



NT オペレーティング システムのセキュリティについて詳しい知識を持っていない場合は、このプロパティを使用しないことをお勧めします。

[Promote Resource As]

[Normal]

このオプションを選択すると、そのファイルはアプリケーションの一部として配布されます。

[Maintenance]

これは旧バージョンの機能で、バージョン 4.0 では使用されていません。

[Force lock method]

このチェック ボックスをオンにすると、選択したファイルの配布に対して**ロック ファイル メソッド**が強制的に使用されます。CM がファイルの新しいコピーを配布する際に、エージェント コンピュータでそのファイルが使用中の場合は、通常、ロック ファイル メソッドでファイルが配布されます。必要に応じて、ファイルは解凍され、ローカルのフォルダに格納されます。エージェント接続プロセスが終了すると強制的に再起動され、起動時に適切な場所にファイルが配布されます。

[Enforce System File Protection] (Windows 2000 および Windows Server 2003 のみ)

このチェック ボックスをオンにすると、Windows のシステム ファイル保護 (SFP) が強制されます。最初に、現在の検証オプション (FILE クラスにある `ZRSCVRFY` 属性で指定されているオプション) に従ってリソースが検証されます。

- 検証に成功した場合、リソースはあるべき姿にあり、これ以上の検証は不要になります。
- 検証に失敗した場合、システム ファイル保護によってファイルが保護されているかどうかをチェックされます。保護されている場合、ファイルは配布されません。

最後にこの属性がチェックされ、SFP を強制する設定になっているかどうかを確認されま
す。

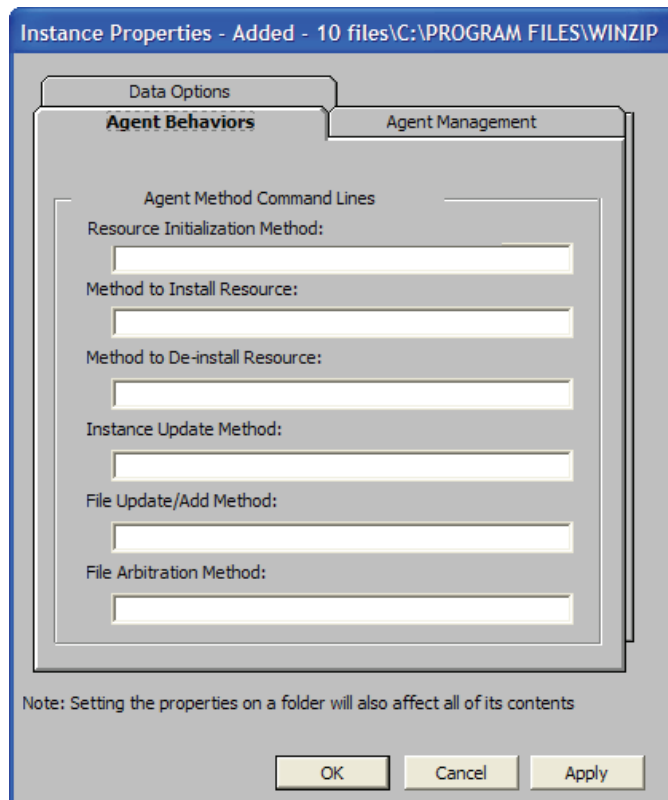
- このチェック ボックスをオンにしている場合、ZRSCVRFY 属性は P に設定されてお
り、このリソースとサービスの配布は SFP 処理が原因で失敗したものと記録され
ます。
- SFP を強制するように設定していない場合、ファイルは検証に成功したものと記
録されます。

SFP ファイルに対して行われたアクションを説明するために、ZERROR インスタンス
が作成されます。

この WinZip の例では、デフォルトのデータ オプションを使用しています。

[Agent Behaviors] タブ

[Agent Behaviors] タブを使用すると、エージェント コンピュータに対して CM が実行するメ
ソッド (プログラム) が指定できます。



このダイアログ ボックスに入力したコマンド ラインは、SOFTWARE ドメインの FILE クラス インスタンスの属性に格納されます。

[Agent Method Command Lines]

[Resource Initialization Method] (データベース内の属性:ZINIT)
クライアント コンピュータにファイルが格納されたときに実行するメソッドを入力します。

[Method to Install Resource] (データベース内の属性:ZCREATE)
エージェント コンピュータにファイルが格納された後に実行するメソッドを入力します。このメソッドは、エージェント コンピュータでファイルを使用可能にする処理が要求された場合に使用します。

[Method to De-install Resource] (データベース内の属性:ZDELETE)
通常、ソフトウェアへのサブスクリプションがキャンセルされると、ファイルは削除されます。共有 DLL ファイルなど、ソフトウェアのサブスクリプションをキャンセルしたときでもエージェント コンピュータから削除すべきでないファイルの場合は、**[Method to De-install Resource]** に `_NONE_` (アンダースコア付き) と入力する必要があります。

[Instance Update Method] (データベース内の属性:ZUPDATE)
ファイルを配布した後に、エージェント コンピュータでインスタンスが変更されたときに実行するメソッドを入力します。

[File Update/Add Method] (データベース内の属性:ZFILEUPD)
新しいファイルが追加されたとき、またはファイルが更新されたときに実行するメソッドを入力します。このメソッドは、エージェント コンピュータにファイルが配布される直前に実行されます。

[File Arbitration Method] (データベース内の属性:ARBITRAT)
ファイルを置き換えようとする場合に実行するメソッドを入力します。このメソッドは、現在クライアント コンピュータに存在するファイルまたはフォルダのバージョン情報と、置き換えるファイルまたはフォルダのバージョン情報を比較し、どちらを保持するかを判別します。



このフィールドを使用するには、CM-CSDB データベースに ARBITRAT メソッドを追加する必要があります。詳細については、HP ソフトウェア Web サイトにある技術文書『About the File Arbitration Method』を参照してください。

インストール モニタ モード

インストール モニタ モードでパッケージを作成するには、5 つのフェーズがあります。

- 1 アプリケーションのハードウェア、ソフトウェア、およびオペレーティング システムの要件を定義します。

- 2 コンピュータ上のハードウェアおよびソフトウェアを**解析** (スキャン) します。
- 3 パッケージ化するアプリケーションを**インストール**します。
- 4 コンピュータ上のハードウェアおよびソフトウェアを**解析** (スキャン) します。インストール前とインストール後のスキャンの差分が、インストールしたソフトウェアを表します。
- 5 パッケージを CM-CSDB に**パブリッシュ**します。

推奨事項

インストール モニタ モードでは、精度の高いスキャンが実行されます。ここでは、考慮しておく役に立つ細かい点をいくつか挙げておきます。システム管理ソフトウェアに理解しているユーザーであれば、既に認識済みの情報もあるかもしれません。

インストール モニタ モードでアプリケーションをパッケージ化する場合は、以下の点に留意してください。

クリーンなコンピュータを用意します。

クリーンなコンピュータには、ターゲット オーディエンスと同じオペレーティング システムおよび CM Administrator をインストールします。コンピュータの設定を変更しないでください。

パッケージ化のどの段階でも、ターゲット コンピュータと同じオペレーティング システムと言語バージョンを使用します。



オペレーティング システムの各言語バージョンには、明らかな違いがあります。レジストリ キー名およびディレクトリ ロケーションが違っている場合は、パッケージ担当者が想定している動作と実際の動作の間に大きな差異が生じる可能性があります。

たとえば、フランス語版の Windows 2000 または Windows Server 2003 にフランス語版 Office 2000 for Windows をインストールする場合は、配布対象と同じフランス語版オペレーティング システムを実行しているコンピュータでアプリケーションをパッケージ化してください。

スタティック IP アドレスを持つコンピュータでパッケージ化します。

パッケージ化を実行するコンピュータがダイナミック ホスト設定プロトコル (DHCP) を使用してダイナミック IP アドレスを取得している場合は、コンピュータを再起動するたびに、異なる IP アドレスが適用されます。インストール モニタ モードを使用しているときに、パッケージ化対象のソフトウェアによってコンピュータが再起動されると、レジストリ内の IP アドレスが変更されます。そのため、スタティック IP アドレスを持つコンピュータでパッケージ化することをお勧めします。

Visual Basic アプリケーションをパッケージ化する場合は、Visual Basic 6 のサポート ファイルを含む CM パッケージを作成してください。

CM Administrator をインストールすると、CM Admin CSDB Editor は Visual Basic 6 アプリケーションなので、以下の Visual Basic 6 サポート ファイルがインストールされます。

| | |
|--------------|--------------|
| ASYCFILT.DLL | COMCAT.DLL |
| COMCTL32.OCX | COMDLG32.OCX |
| MSVBVM60.DLL | OLEAUT32.DLL |
| OLEPRO32.DLL | STDOLE2.TLB |

インストール モニタ モードを使用し、CM Admin CSDB Editor がインストールされているコンピュータで Visual Basic 5 アプリケーションをパッケージ化する場合、上記のサポート ファイルはパッケージには含まれません。これらのファイルは、インストール前のスキャンを実行する前からコンピュータに存在し、インストール後のスキャンでも、ソフトウェアのインストールでファイルが追加されたと認識されないためです。

必要なサポート ファイルを Visual Basic アプリケーションと共に配布する場合は、コンポーネントの選択モードで、Visual Basic 6 サポート ファイルのみを含むパッケージを作成し、Visual Basic 6 用にこのパッケージをアプリケーション パッケージにまとめます。

もう 1 つの方法は、CM Admin CSDB Editor がインストールされていないコンピュータで Visual Basic 6 アプリケーションをパッケージ化することです。CM Administrator をインストールする際に CM Admin CSDB Editor をスキップするには、ドライブに CD-ROM を挿入し、コマンドラインで次のように入力します。

```
CDDrive:\Cm-Admin51.Msi -ne
```

インストール モニタ モードでパッケージを作成する

ここでは、インストール モニタ モードによるパッケージ化の手順を示し、各画面の詳細を説明します。

タスク 1 CM Admin Packager にログオンする

- 1 [スタート] [プログラム] [HP OVCM Administrator] [CM Admin Packager]の順にクリックします。
- 2 [CM Admin Packager Security Information] ダイアログ ボックスの [User ID] にユーザー ID、[Password] にパスワードを入力します。



出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。この設定は、[Change Password] チェック ボックスをオンにして、[New Password] と [Verify New Password] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 3 **[OK]** をクリックします。

タスク 2 [Open Packaging Session] ウィンドウで必要な情報を指定する

[Open Packaging Session] ウィンドウ を使用すると、パッケージ化のモードを選択し、パッケージ化セッションを識別するための情報が入力できます。

パッケージ化セッションを完了すると、ソフトウェアまたはデータを配布可能な形式にまとめたパッケージが作成されます。このパッケージを後でサービスに接続することになります。ターゲット サブスクリバにソフトウェアまたはデータを配布するためのポリシーを設定します。



パッケージ化セッションを開始する前にグローバル デフォルトを確認してください。45 ページの始めの「[パッケージのプロパティの設定](#)」を参照してください。



旧バージョンの CM Admin Packager では、Windows インストーラでインストールまたは管理されるアプリケーションに対してインポート モードが使用できました。これらのアプリケーションのパッケージ化については、『[HP Configuration Management Extensions for Windows Installer User Guide](#)』(CM Extensions for WI Guide)を参照してください。これは、個別のライセンスが必要な製品です。

- 1 [Session Type] 領域では **[Installation Monitor Mode]** だけが選択可能なオプションです。コンポーネントの選択モードは、CM Admin Publisher でのみ使用できます。69 ページの「[CM Admin Publisher](#)」を参照してください。
- 2 [What to Open] 領域で、**[New Session]** を選択して、新しいパッケージ化セッションを開始します。[Session ID] および [Description] フィールドに入力する必要があります。
または
[Existing Session] を選択して、前回のセッションを再開します。
- 3 [Session ID] フィールドに、このセッションの名前として、1～6 文字の一意の名前を入力します。パッケージ化セッションを完了しなかった場合に、後でこのセッションに戻るには、この ID を覚えておく必要があります。
- 4 [Description] フィールドに、セッションの説明を入力します。
- 5 **[Next]** をクリックします。[Package Properties] ウィンドウが表示されます。

タスク 3 パッケージのプロパティの入力

[Package Properties] ウィンドウを使用すると、パッケージ名を指定し、パッケージの補足説明となる情報が入力できます。

- 1 [Package Name] フィールドにパッケージ名を入力します。これは、CM-CSDB データベースで PACKAGE クラス インスタンス名となるものです。現在の組織の命名規則に従って命名してください。名前にスペースを入れることはできません。
 - ▶ 識別子が一意になるように命名規則を策定できます。CM Admin Packager は、この識別子を基にデータ オブジェクトとファイル名を生成します。
 - ▶ 既存のパッケージの名前を入力すると、エラー メッセージが出ます。戻って新しいパッケージに別の名前を入力するか、戻って既存のパッケージを開いてください。
- 2 [Domain] フィールドで、インスタンスを格納するドメインを選択します。CM-CSDB データベースを固有のドメインでカスタマイズした場合を除いて、通常は SOFTWARE ドメインを選択します。
- 3 [Description] フィールドに、パッケージの説明を入力します。
- 4 [Release] フィールドに、ソフトウェアのリリース番号を入力します。
 - ▶ 現在のセッション情報は、お使いのコンピュータの *SystemDrive*:
\`Program Files\Hewlett-Packard\CM\Agent\LIB`
\`ZPAKSESS.EDM` に保存されています。このオブジェクトを表示するには、CM Admin Agent Explorer を使用します。
現在のパッケージ化セッションを終了し、再開しない場合は、このオブジェクトを削除できます。CM Admin CSDB Editor を使用して、ベース インスタンスのデフォルトのプロパティを変更することもできます。SOFTWARE ドメイン、PACKAGE クラス内でオブジェクトを指定してください。
- 5 **[Next]** をクリックして [System Configuration] ウィンドウに進みます。

タスク 4 必須のシステム設定を設定する

[System Configuration] ウィンドウを使用すると、特定の条件を満たしたコンピュータにのみパッケージを配布できます。配布条件は、コンピュータのオペレーティング システム、RAM、およびプロセッサ速度を基に指定します。

- 1 [Target Operating System] チェック ボックスをオンにすると、[Operating System] ボックス。このパッケージに必要な 1 つまたは複数のオペレーティング システムを選択してください。
 - 選択するオペレーティング システムが一覧内で連続している場合は、キーボードの **Shift** キーを押しながらクリックします。

- 選択するオペレーティング システムが一覧内で連続していない場合は、キーボードの **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

オプションを選択しなかった場合、パッケージはすべてのプラットフォームで利用可能です。

- 2 [Minimum Megabytes of Memory Required] チェック ボックスをオンにすると、[Megabytes] ボックスが使用可能になります。このパッケージで最低限必要な RAM サイズを選択してください。

オプションを選択しなかった場合、パッケージは任意のメモリ量のサブスクリバが利用可能です。

- 3 [Minimum Processor Required] チェック ボックスをオンにすると、[Processor] ボックスが使用可能になります。このパッケージで最低限必要なプロセッサ速度を選択してください。

オプションを選択しなかった場合、パッケージは任意のプロセッサのサブスクリバが利用可能です。

上記の 3 つのオプションのいずれも選択しなかった場合、パッケージは資格のあるすべてのサブスクリバが利用できます。

- 4 **[Next]** をクリックして [Availability] ウィンドウに進みます。

タスク 5 日付と時刻の制約を設定する

[Availability] ウィンドウでは、パッケージを配布できる日付または時刻（あるいはその両方）を指定します。日付と時刻は、CM Configuration Server が動作しているコンピュータのシステム クロックに基づきます。

日付と時刻の制約を指定しなかった場合パッケージは CM-CSDB に転送され、配布の設定が行われると、すぐに利用できます。

- 1 [Before] チェック ボックスをオンにすると、指定した日付と時刻より前には配布できなくなります。[月]、[日]、[年]、[時]、および [分] の各テキスト ボックスで日付と時刻を指定します。
- 2 [After] チェック ボックスをオンにすると、指定した日付と時刻より後には配布できなくなります。[月]、[日]、[年]、[時]、および [分] の各テキスト ボックスで日付と時刻を指定します。
- 3 **[Next]** をクリックして [Set Packaging Options] ウィンドウの [What to Scan] に進みます。

タスク 6 スキャン対象を特定する

[Set Packaging Options] ウィンドウの [What to Scan] を使用すると、ソフトウェアによってターゲット コンピュータのどこが変更されたかが特定できます。指定できるオプションは、デスクトップ、レジストリ、またはファイル システムのスキャン、ファイルのコンテンツの比較です。

CM Admin Packager は、アプリケーションをインストールする前に、選択した領域をスキャンし、各領域の現在の状態を記録するスナップショットを作成します。CM Admin Packager は、アプリケーションをインストールした後で、もう一度スナップショットを作成します。この 2 つのスナップショットが比較され、その結果の差分によってパッケージが構成されます。

アプリケーションのインストールによってターゲット コンピュータがどのように変更されるかを把握していない場合は、全領域をスキャンし、アプリケーションによる変更がすべて記録されるようにします。

パッケージ化するソフトウェアに関して認識する情報が増えるほど、パッケージ化および配布は簡単になります。アプリケーションについて認識することで、スキャン時間が節約できるというメリットが生まれます。次に、その例をいくつか示します。

アプリケーションがレジストリを変更しないことが明らかな場合は、[Registry] チェック ボックス をオフにすると、CM Admin Packager はレジストリをスキャンしません。

Internet Explorer に対してお気に入りの一部をパッケージ化する際、お気に入りの個別の .URL ファイルで Internet Explorer に格納されていることが明らかな場合は、ファイル システムのみをスキャンすれば、変更内容が取得できます。

Netscape Navigator に対して複数のブックマークをパッケージ化する際、ブックマークが単一の .HTM ファイルで Netscape Navigator に格納されていることが明らかな場合は、そのファイルを [File Contents to be Scanned] ボックスの一覧に追加し、[File Content Comparison] チェック ボックスをオンにすると、ブックマーク ファイルに対する変更が取得できます。



CM では、IDMSYS、IDMLIB、または IDMLOG ディレクトリにあるファイルのパッケージ化はサポートされていません。

- 1 コンピュータのどの領域をスキャンするかを指定するには、以下のチェックボックスの 1 つまたは複数を選択します。
 - ファイル システム
 - デスクトップ (アイコン、ショートカット、グループ)
 - レジストリ
 - ファイルのコンテンツを比較する
- 2 [File Content Comparison] を選択した場合には、[File Contents to be Scanned] ボックスにファイル名を指定する必要があります。そうするには、[File Name]

ボックスにファイル名をフルパスで入力するか、**[Browse]** をクリックして目的のファイルを指定します。**[Add]** をクリックします。

- 3 **[Next]** をクリックします。ステップ 1 でファイル システムのスキャンを選択していた場合には、**[Set Drives to Scan]** ウィンドウが表示されます。そうでなかった場合には、**[Pre-Installation]** ウィンドウが表示されます (タスク 8 に移動してください)。

タスク 7 ファイル システム内のスキャン対象を特定する

[What to Scan] ウィンドウの **[Directories]** を使用すると、スキャンするファイル システムの領域が選択できます。コンピュータに接続されているすべての (ローカルおよびネットワーク) ドライブが**ファイル システム**と見なされます。コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアなど、さまざまな要素がシステムのスキャン時間に影響します。



このウィンドウは、**[Set Packaging Options]** ウィンドウの **[What to Scan]** の **[File System]** チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。**[What to Scan]** ウィンドウ

- 1 インストールによって変更されるすべてのフォルダまたはドライブを選択します。



ネットワーク ドライブはスキャンしないことをお勧めします。ネットワークの通信オーバーヘッドが原因で、スキャンに時間がかかる場合があります。また、ネットワーク ドライブのマッピングがユーザーごとに異なる可能性もあります。

- 2 **[Add]** をクリックして、選択したフォルダまたはドライブを **[Directories to be Scanned]** リストに移動します。
- 3 **[Next]** をクリックして **[Pre-Installation]** ウィンドウに進みます。

タスク 8 インストール前のスキャンを開始する

[Pre-Installation] ウィンドウでスキャンを開始します。

- 1 **[Begin Scan]** をクリックします。スキャン済みの領域の横には、チェック マークが表示されます。
- 2 スキャンが完了すると、メッセージ ボックスが表示されます。
- 3 **[OK]** をクリックします。

タスク 9 ソフトウェアをインストールする

インストール前のスキャンが完了したら、ソフトウェアをインストールする必要があります。

- 1 **[Pre-Installation]** ウィンドウの **[Next]** をクリックします。メッセージが表示されます。

2 **[OK]** をクリックします。CM Admin Packager が最小化され、システム トレイに CM Admin Packager のアイコンが表示されます。

3 ネイティブ インストールでアプリケーションをインストールします。



アプリケーションのインストール以外の操作を行わないでください。アプリケーションのインストール以外の操作を行った場合は、ファイル システム、レジストリ、デスクトップなどが変更される可能性があります。インストール後のスキャン時に、これらの（無関係な）変更が検出され、パッケージに含まれてしまいます。



アプリケーションのインストールでコンピュータの再起動が要求された場合、システム トレイ内の CM Admin Packager アイコンは、再びログオンしたときに有効になります。

4 アプリケーションがインストールされたら、システム トレイ内の CM Admin Packager アイコンをダブルクリックします。インストールに成功したかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 **[Yes]** をクリックします。CM Admin Packager のログオン ウィンドウが表示されます。

6 ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Post Installation] ウィンドウが表示されます。

タスク 10 インストール後のスキャンを開始する

[Post Installation] ウィンドウで最終的なスキャンを開始します。



レジストリ スキャンの比較には、時間がかかる場合があります。また、ディスク アクティビティが大幅に制限される可能性もあります。この手順では、進捗状況にまったく変化がないように見える場合もありますが、しばらく待っていると、レジストリ スキャンの比較は正常に完了します。処理時間をできる限り短縮するために、クリーンなコンピュータを使用してください。

インストール後のスキャンを開始するには

1 **[Begin Scan]** をクリックします。スキャンが完了すると、メッセージ ボックスが表示されず。

2 **[OK]** をクリックします。インストール前のスキャンと比較して、異なるアイテムがどのくらい見つかったかを示すリストが表示されます。



インストール前とインストール後のスキャンで差異を検出した後で、CM Admin Packager は、REGISTRY クラスに 3 つのレジストリ (.EDR) ファイルを作成します。各ファイルは、CM Configuration Server に転送されます。

- 3 **[Next]** をクリックして [Summary] ウィンドウに進みます。

タスク 11 ファイル システムの変更内容を確認する

[Summary] ウィンドウで、コンピュータにソフトウェアをインストールしたときに加えられた変更点を確認します。

- 1 **[Files]** タブをクリックすると、追加、削除、または更新されたファイルが確認できます。
- 2 **[Desktop]** タブをクリックすると、追加、削除、または更新されたプログラム グループ、リンク、またはショートカットが確認できます。
- 3 **[Registry]** タブをクリックすると、レジストリで検出された変更内容が確認できます。

[Files]、[Desktop]、および [Registry] タブの詳細については、61 ページの「[ファイルのプロパティとロケーションを表示する](#)」で説明します。

タスク 12 ファイルのプロパティとロケーションを表示する


[Summary] ウィンドウの [Files] タブを使用すると、パッケージに含まれるファイルとフォルダが参照できます。

選択したアイテムを表示するには


- 1 ツリーの最上部の **[Selected]** ブランチを右クリックし、**[Expand All]** をクリックします。チェック マークは、ファイルのプロパティが指定済みで、CM Admin Packager が転送の準備を完了していることを示します。
- 2 ツリー ビューのアイテムをクリックし、リスト ビューにプロパティを表示します。[Verify]、[Priority]、[Mandatory/Optional] など、プロパティの一部は、[CM Admin Packager – Global Default Properties] ダイアログ ボックス (45 ページの説明を参照) で選択した内容に従ってあらかじめ設定されています。

表示されたファイルとフォルダに対してフィルタを実行するには

パッケージに含まれるアイテム数が多い場合、フィルタを使用すると、ウィンドウに表示するアイテムのタイプが制限できます。

- 1 フィルタ ボタン  をクリックし、ツリー ビュー内のアイテムに対してフィルタを実行します。
- 2 [Set Filter] ダイアログ ボックスで、アイテムのタイプを「.DLL」などの文字列で入力します。フィルタ条件の文字列を含むアイテムがあると、一致したと見なされます。
- 3 **[OK]** をクリックします。フィルタの条件を満たしたアイテムだけが表示されます。

フィルタを削除するには

- 1 フィルタ ボタン  をクリックし、[Set Filter] ダイアログ ボックスを表示します。
- 2 **[Clear]** をクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックします。すべてのファイルが表示されます。
- 4 **[Next]** をクリックして続行します。

タスク 13 ファイルのプロパティとロケーションを設定する

[Files] タブに表示されているファイルとフォルダのプロパティは変更できます。ファイルまたはフォルダをパッケージから除外することもできます。

ファイルのプロパティを編集するには

- 1 ファイルを右クリックします。以下の 3 つのオプションがあるショートカット メニューが表示されます。
 - [Set properties]
 - [Active]
 - [Inactive]
- 2 このファイルをパッケージから除外するには、**[Inactive]** をクリックします。
- 3 このファイルをパッケージに含めるには、**[Active]** をクリックします。これはデフォルトの設定です。
- 4 ファイルのプロパティを変更するには、**[Set Properties]** をクリックします。[Instance Properties] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [Instance Properties] ダイアログ ボックスは、45 ページの「**パッケージのプロパティの設定**」で説明されている方法で使用します。

フォルダのプロパティを編集するには

- 1 フォルダを右クリックします。以下の 3 つのオプションがあるショートカット メニューが表示されます。
 - [Set properties]
 - [Active]
 - [Inactive]
- 2 このフォルダをパッケージから除外するには、**[Inactive]** をクリックします。このフォルダ内のすべてのファイルが非アクティブになります。

- 3 このファイルをパッケージに含めるには、**[Active]** をクリックします。これはデフォルトの設定です。このフォルダ内のすべてのファイルがアクティブになります。
- 4 フォルダのプロパティを変更するには、**[Set Properties]** をクリックします。また、**[Directory Only]** または **[Directory and Files]** のいずれかをクリックして、ディレクトリのみを変更するか、ディレクトリとファイルの両方を変更するかを指定する必要があります。
- 5 **[Directory and Files]** を選択します。**[Instance Properties]** ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスで、パッケージ内のファイルの属性を変更します。ファイルのプロパティは、CM-CSDB データベースの各インスタンスに格納されます。これらのプロパティのデフォルト値は、**[Global Default Properties]** ダイアログ ボックスで設定します。詳細については、45 ページの「[パッケージのプロパティの設定](#)」を参照してください。

タスク 14 ファイルを更新する

追加されたファイルに加えて、更新されたファイルが存在する場合があります。

更新されたファイルは、設定ファイルなど、その ASCII テキストが変更されたものです。標準 ASCII テキスト ファイルのプロパティを設定する方法については、62 ページの「[ファイルのプロパティとロケーションを設定する](#)」で説明します。

WIN.INI などの制御ファイルが更新された場合、変更された .INI ファイルで、デスクトップオブジェクトのファイル名がセクションの名前の前に表示されます。セクション名の下に、各行の変更内容が表示されます。各行は個別に表示されているので、必要に応じて編集できます。

制御ファイル内の行を編集するには

ツリー ビューで、変更する行を右クリックします。

テキスト ファイルの変更内容をパッケージに含める場合は、**[Active]** をクリックします。

または

テキスト ファイルの変更内容をパッケージに含めない場合は、**[Inactive]** をクリックします。

または

テキスト ファイルの変更内容を編集する場合は、**[Override Value]** をクリックします。**[Override Text File Data]** ダイアログ ボックスが表示されます。

値を上書き機能を使用するには

- 1 **[Override Value]** をクリックします。
- 2 **[New Value]** ボックスに、行の新しい値を入力します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

テキスト行を復元するには

- 1 ツリー ビューで、変更する行を右クリックします。
- 2 **[Override Value]** をクリックします。
- 3 **[Reset]** をクリックします。
- 4 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

タスク 15 デスクトップのプロパティとロケーションを設定する

[Set Properties and Locations] ウィンドウの [Desktop] タブを使用すると、パッケージ内の選択したプログラム グループ、リンク、およびショートカットを表示し、それぞれのプロパティが変更できます。

選択したプログラム グループ、リンク、およびショートカットを表示するには

[Selected Links] を右クリックし、**[Expand All]** をクリックします。

プログラム グループ、リンク、およびショートカットのプロパティを設定するには

ツリー ビューで、リンクを右クリックします。下に示すオプションのあるショートカット メニューが表示されます。



フォルダまたはリンクを選択すると、ツリー ビューのフォルダ内またはリンク内のすべてのリンクに変更が適用されます。

— **[Just In Time (App Mgr Only)]**

CM Application Manager (App Mgr) を使用すると、アプリケーションが**セルフメンテナンス**を実行するように指定できます。セルフメンテナンスとは、アプリケーションを起動するたびに、CM Configuration Server に自動接続してアプリケーションを検証し、必要に応じて更新または修復することです。

マシン/ユーザー アプリケーションでの [Just In Time] を使用した場合、サービスのマシンまたはユーザーの部分のいずれか一方だけを検証または修復することに注意してください。[Just In Time] アイコンを context=M で使用する場合、startdir は SYSTEM に設定します。サービスのユーザーの部分は検証/修復されません。[Just In Time] アイコンを context=U で使用する場合、startdir は \$USER に設定します。サービスのユーザーの部分だけが検証/修復されます。

— **[Active]**

[Active] を選択すると、このリンクまたはフォルダはパッケージに含まれます。

— **[Inactive]**

[Inactive] を選択すると、このリンクまたはフォルダはパッケージから除外されます。

— [Properties]

[Properties] をクリックすると、[Verify/Type] サブメニューが表示されます。

[Verify] メニュー コマンド

[Full Verify]

このコマンドを選択すると、リンクは、エージェント コンピュータに既に存在する場合でも、サブスクリバが CM Configuration Server に接続するたびに配布されます。これにより、破損したリンクまたは変更されたリンクが修復されます。

[No Verify]

最初の配布以降、リンクを検証しない場合は、このコマンドを選択します。リンクを変更または削除した場合でも、リンクは修復されません。

[Exists]

このコマンドを選択すると、リンクは最初の配布時に配布されます。それ以降は、接続したときにクライアント コンピュータにリンクが存在しない場合にのみ配布されます。リンクが再配布されるのは、削除された場合のみです。このことから、ユーザーはリンクを変更することができます。

[Type] メニュー コマンド

以下のオプションは、Windows 2000、XP、または Windows Server 2003 など、複数のユーザーをサポートしているオペレーティング システムに対してのみ適用されます。

[User]

このコマンドを選択すると、アプリケーションが最初に配布される際にログオンしているサブスクリバにだけリンクが配布されます。

[Machine]

このコマンドを選択すると、コンピュータのすべてのユーザーにファイルが配布されます。

タスク 16 レジストリのプロパティと値を設定する

[Set Properties and Locations] ウィンドウの [Registry] タブを使用すると、アプリケーションが配布される際に変更されたレジストリの内容が確認できます。また、レジストリ キーの値を変更し、さまざまな配布オプションが設定できます。

選択したレジストリを表示するには

[Selected Registry Keys] を右クリックし、[Expand All] をクリックします。

レジストリ キーの値を編集するには

- 1 ツリー ビューでレジストリ キーをクリックします。

- 2 リスト ビューでレジストリ キーをダブルクリックします。
- 3 [New Value] ボックスでデータを編集します。
- 4 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

レジストリ キーを元の値に戻すには

- 1 リスト ビューでレジストリ キーをダブルクリックします。
- 2 **[Reset]** をクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

レジストリ キーのプロパティを設定するには

ツリー ビューで、リンクを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。



レジストリ キーを右クリックすると、ツリー ビューのレジストリ キーのすべてのキーに変更が適用されます。

— **[Active]**

このコマンドを選択すると、レジストリの変更がパッケージに含まれます。

— **[Inactive]**

このコマンドを選択すると、レジストリの変更はパッケージに含まれません。

— **[Properties]-[Deploy / Verify]**

— **[Unconditional/Enforced] オプション**

このコマンドを選択すると、レジストリ キーは、エージェント コンピュータに既に存在している場合でも配布されます。このレジストリ キーは、エージェント コンピュータで変更されていても、サブスクリバが CM Configuration Server に接続するたびにパッケージ化された値にリセットされます。この設定は、アプリケーションの動作を保証するために変更してはならないレジストリ キーに使用します。

— **[Unconditional/Exist] (デフォルト)**

このコマンドを選択すると、レジストリ キーは、最初の配布の時点か、削除されたときに配布されます。ただし、レジストリ キーの値はリセットされません。

— **[Exist/Exist]**

このコマンドを選択すると、レジストリ キーは、エージェント コンピュータに存在しない場合にのみ配布されます。この機能では、レジストリ キーを変更してもかまいません。レジストリ キーは削除された場合にのみ再配布されるので、変更内容は上書きされません。

タスク 17 パッケージをパブリッシュする

ここで、CM-CSDB のパッケージのためのインスタンスを作成する必要があります。

すべてのファイルのプロパティとロケーションを設定したら、**[Next]** をクリックします。CM Admin Packager は、パブリッシュされるオブジェクトを作成します。これは、CM-CSDB にパブリッシュされるパッケージです。



パッケージをパブリッシュさせると、セッションのオブジェクトは削除されるので、セッションを再開することはできません。後で再びセッションを開く場合に備えて、セッションを保存した方がよいケースもあります。たとえば、パッケージの配布をテストしているときに問題が見つかり、パッケージを修正しなければならない場合、次の方法でセッションを保存します。

LIB ディレクトリ (およびそのサブディレクトリ) を SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\Agent\LIB からバックアップ先にコピーします。LIB ディレクトリには、パッケージ化セッション中に CM Admin Packager によって構築されたオブジェクトが含まれています。

LIB ディレクトリを保存すると、パッケージを転送させた後でも、LIB ディレクトリが復元できます。CM Admin Packager ウィンドウで設定を変更すれば、パッケージを再びパブリッシュさせることができます。ツールバー ボタンをクリックすると、CM Admin Packager の各ウィンドウに直接ジャンプできます。

以上の方法を用いれば、転送後のパッケージの配布をテストしているときに問題が見つかっても修復することができます。



選択内容を変更する場合は、目的の設定ウィンドウが表示されるまで **[Prev]** をクリックします。パッケージの設定を変更したら、**[Next]** をクリックしてこのウィンドウに戻ります。

ツールバーのボタンをクリックして、前の画面に戻ることもできます。

転送させるファイルを表示するには

[Files to be Promoted] を右クリックし、**[Expand All]** をクリックします。

パッケージをパブリッシュするには

- 1 **[Files to be Promoted]** を右クリックし、**[Expand All]** をクリックして、転送させるファイルを表示します。
- 2 **[Promote]** をクリックします。
- 3 パッケージが正常に転送されたことを示すメッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。
- 4 **[Finish]** をクリックして CM Admin Packager を終了します。

- 5 CM Admin Packager の終了を確認するメッセージが表示されたら **[Yes]** をクリックします。

次に、CM Admin CSDB Editor を使用して、サービスを作成します。詳細については、162 ページの「[新規アプリケーション ウィザードでサービスを作成する](#)」を参照してください。

CM Admin Publisher

CM Administrator Publisher (CM Admin Publisher) は、CM が管理しやすい形式でデータをパッケージ化し、CM-CSDB にパブリッシュするツールです。

▶ Vista への配布を目的とするアプリケーションをパブリッシュするとき、システム アカウントでインストールを選択した場合には、ターゲットの Vista マシン上でユーザーの操作を必要とせずに配布できるようになっていることを確認してください。

概要

CM Admin Publisher は、4 種類のパブリッシュ方法をサポートしています。69 ページの表 14 は、パブリッシュのタイプと、タイプごとの参照箇所を示しています。本書では、コンポーネントの選択と Windows インストーラ ファイルの 2 種類についてのみ、説明します。

表 14 CM Admin Publisher でパブリッシュできるファイルのタイプ

| パブリッシュのタイプ | 参照先 |
|---------------------|---|
| コンポーネントの選択 | コンポーネントの選択モードでのパブリッシュ (70 ページ) |
| ハードウェア構成 | 『HP Configuration Management OS Manager Hardware Configuration Guide』 |
| OS イメージ | 『HP Configuration Management OS Manager System Administrator Guide』 |
| Windows インストーラ ファイル | Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする (80 ページ) |

バッチ モード

CM Admin Publisher では、ファイルのパブリッシュをバッチ モードで行うこともできます。これにより、1 つの設定ファイルを使用して、1 回のパブリッシュ セッション中に、複数の .msi ファイルを CM-CSDB にパブリッシュすることができます。詳細については、93 ページの「複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード)」を参照してください。

標準的なパブリッシュのステップ

まず、CM Admin Publisher を開始してログオンする必要があります。

CM Admin Publisher を開始するには

- 1 CM Admin Publisher をインストールしたデバイスで、[スタート] メニューから次のように選択します。

[スタート] [すべてのプログラム] [HP OVCM Administrator] [CM Admin Publisher]

- 2 CM Admin Publisher にログオンするには、CM Administrator のパスワードを使用します。デフォルトでは、ユーザー名は **rad_mast** で、パスワードは **secret** です。

本書で扱うパブリッシュモード、つまりコンポーネントの選択と Windows インストーラは、どちらも以下の 4 つの基本的なタスクから構成されます。

タスク 1 - [選択] ウィンドウ – パッケージ化するファイルを選択します。

タスク 2 - [編集] ウィンドウ – ファイルのプロパティを編集します。

タスク 3 - [コンフィギュレーション] ウィンドウ – パッケージおよびサービス 情報を入力します。

タスク 4 - パブリッシュ – パッケージを CM-CSDB にパブリッシュします。

コンポーネントの選択モードでのパブリッシュ

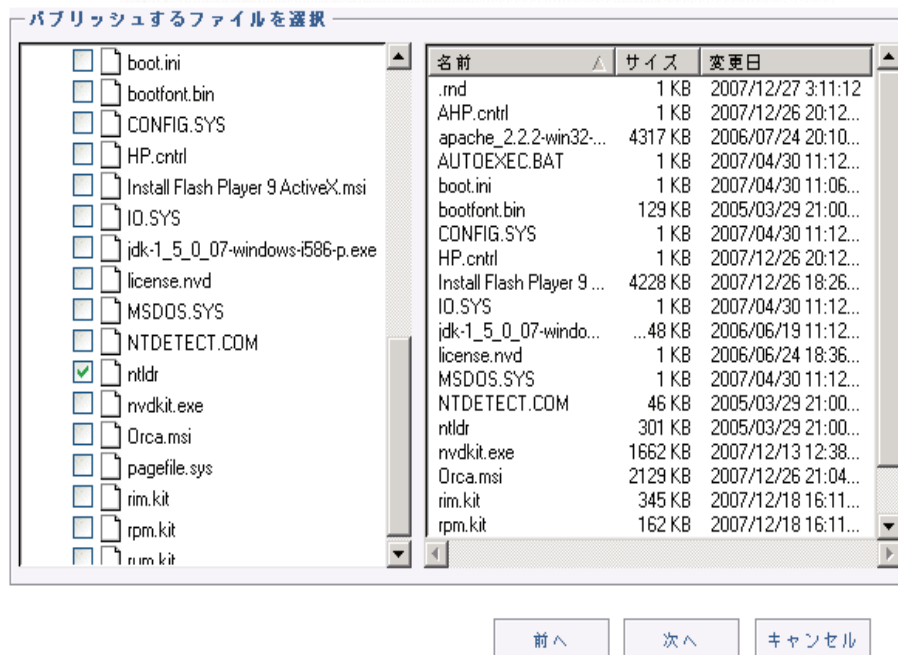
CM Admin Publisher の 5.11 リリースには、新しい機能が含まれています。コンポーネント選択モードパブリッシュのこのモードは、このリリースの前には CM Admin Packager で利用できたものです。今回、CM Admin Packager では利用できなくなり、CM Admin Publisher でのみ利用できるようになりました。

コンポーネントの選択モードでパブリッシュするには

- 1 CM Admin Publisher を開始します。
- 2 パブリッシュするデータのタイプ ボックスは、デフォルトの **[コンポーネントの選択]** のままにします。
- 3 **[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが表示されます。

タスク 1 パブリッシュするファイルを選択する

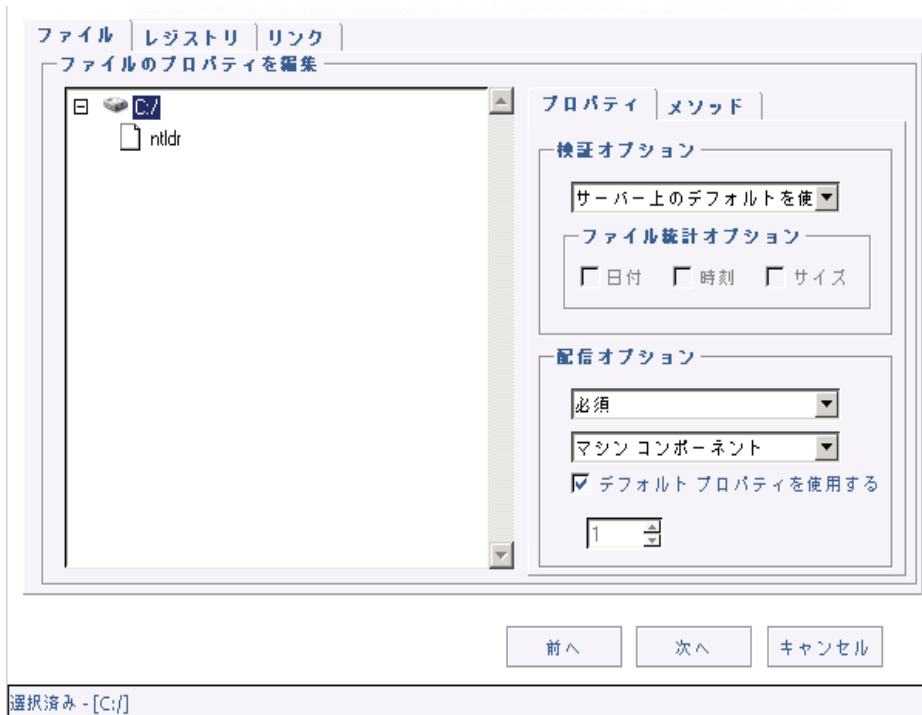
[選択] ウィンドウでパッケージに含めるファイルを選択します。



- 1 ファイル システム (左パネル) を移動して、パッケージに含めるファイルとフォルダを選択します。
- 2 **【次へ】** をクリックして [編集] ウィンドウを表示し、ファイルのプロパティとメソッドを編集します (71 ページのタスク 2)。
- 3 レジストリまたはリンク ファイルを選択した場合は、[コンテンツ管理の確認] ダイアログ ボックスが表示されます。コンテンツを個別に管理するファイルを選択し、**【OK】** をクリックします。これにより、これらのファイルのコンテンツを [編集] ウィンドウで編集できます。

タスク 2 ファイルのプロパティおよびメソッドを編集する

[編集] ウィンドウでファイルやフォルダのプロパティとメソッドを編集します。



- 1 パッケージに含まれるすべてのファイルとフォルダは、左パネルに一覧表示される。
- 2 ファイルやフォルダのプロパティを編集するには、それを選択します。
- 3 **[プロパティ]** タブをクリックして、ファイルやフォルダの検証および配信オプションを編集します。

検証オプション

— [サーバー上のデフォルトを使用] (デフォルト)

このオプションを選択すると、CM-CSDB データベースにある FILE、REGISTRY、DESKTOP クラスのベース インスタンスから検証オプションを継承します。

— [ファイルの統計値]

このオプションを選択すると、CM エージェントは、自分のコンピュータにあるファイルの統計情報 (日付、時刻、ファイル サイズ) をチェックします。[検証オプション] ドロップリストの下のチェックボックスで、[日付]、[時刻]、[サイズ] を選択してください。コンピュータ上のファイルやフォルダの統計値がデータベースのファイルやフォルダの統計値と異なる場合、CM-CSDB データベースからファイルやディレクトリが配布されます。CM Admin CSDB Editor で、ZRSCVRFY=D (日付)、ZRSCVRFY=S (ファイル サイズ)、ZRSCVRFY=T (時刻)、または ZRSCVRFY=Y (日付、時刻、およびファイル サイズ) などのように設定することもできます。

— **【CRC を使用したコンテンツのチェック】**

このオプションを選択すると、CM Application Manager は、エージェントコンピュータにあるファイルの統計値をチェックします。検証する際、ファイルは *最初* に日付、時刻、およびファイル サイズを基にチェックされます。検証の時間を節約するために、日付、時刻、およびファイル サイズの検証に合格した場合にのみ、CRC がチェックされます。その統計値がエージェント コンピュータの統計値と異なる場合に、CM Configuration Server (または CM Proxy Server) はファイルを配布します。このオプションを選択すると、CM Admin Publisher は、CRC を計算し、ZRSCCRC 属性に値を設定します。ZRSCVRFY は Y に設定されます。



コンテンツの CRC チェックは時間のかかるプロセスなので、控えめに使用してください。

— **【最新でない場合に更新する】**

このオプションを選択すると、そのファイルの日付および時刻のタイムスタンプがエージェント コンピュータのものよりも新しい場合に、CM-CSDB (または CM Proxy Server) からファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=U と設定します。

— **【存在のみ】**

このオプションを選択すると、そのファイルは、エージェント コンピュータに存在しない場合にのみ配布されます。エージェント コンピュータにファイルが既に存在する場合は、統計値が CM-CSDB のものと異なっても何も実行されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=E と設定します。

— **【なし】**

このオプションを選択すると、アプリケーションが初めて配布されるときにファイルが配布されます。それ以降は何も実行されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCVRFY=N と設定します。

【配信オプション】

以下のオプションは、アプリケーション全体をインストールするのに十分な容量がサブスクライバのコンピュータにない場合にのみ適用されます。アプリケーションに対し、**【必須】** または **【オプション】** を選択してください。

— **【必須】**

このオプションを選択すると、これらのファイルやフォルダはアプリケーションの必須ファイルになります。アプリケーション全体を格納するのに十分な容量がエージェント コンピュータにない場合は、必須ファイルのみが配布されます。必須ファイルを格納するのに十分な容量がない場合、アプリケーションは配布されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCMO=M と設定します。

— **【オプション】 (デフォルト)**

このオプションを選択すると、ファイルまたはディレクトリはアプリケーションに必須ではな

くなります。アプリケーション全体を格納するのに十分な容量がクライアント コンピュータにない場合は、オプション ファイルは配布されません。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCMO=O と設定します。

以下のオプションは、複数のユーザーのサインオンをサポートしているオペレーティング システムに対してのみ適用されます。

— [ユーザー コンポーネント]

このオプションを選択すると、アプリケーションが最初に配布される際にログオンしているエージェントにだけファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZCONTEXT=U と設定します。

— [マシン コンポーネント]

[マシン コンポーネント]を選択すると、コンピュータのすべてのユーザーにファイルが配布されます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZCONTEXT=M と設定します。

— [デフォルト プロパティを使用する]

このチェック ボックスをオンにすると、配信の優先度がデフォルトの 50 になります。配布は、優先度が高いものから低いものという順でおこなわれます。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCPRI=50 と設定します。

このチェック ボックスをオフにした場合、1 ~ 99 の値を入力でき、デフォルトの優先度 50 が上書きされます。最も高い優先度は 1、最も低い優先度は 99 です。CM Admin CSDB でこのオプションを設定する場合は、ZRSCPRI=1 と設定します。

- 4 ファイルのプロパティの編集を終えたら、[メソッド] タブをクリックしてメソッドを編集します。**[メソッド]** タブのダイアログ ボックスに入力したコマンドラインは、SOFTWARE ドメインの FILE クラス インスタンスの属性に格納されます。

— [リソース初期化メソッド] (データベース内の属性:ZINIT)

エージェント コンピュータにファイルまたはフォルダが格納されたときに実行するメソッドを入力します。

— [リソース インストール メソッド](データベース内の変数:ZCREATE)

エージェント コンピュータにファイルが格納された後に実行するメソッドを入力します。このメソッドは、エージェント コンピュータでファイルを使用可能にする処理が要求された場合に使用します。

— [リソース アンインストール メソッド](データベース内の変数:ZDELETE)

通常、ソフトウェアへのサブスクリプションがキャンセルされると、ファイルは削除されます。共有 DLL ファイルなど、ソフトウェアのサブスクリプションをキャンセルしたときでもエージェント コンピュータから削除すべきでないファイルの場合は、[リソース アンインストール メソッド] に「**NONE_**」(アンダースコア付き)と入力する必要があります。

- **[インスタンス更新メソッド]**(データベース内の変数:ZUPDATE)
ファイルを配布した後に、エージェント コンピュータでインスタンスが変更されたときに実行するメソッドを入力します。
- **[ファイル更新/追加メソッド]** (データベース内の変数:ZFILEUPD)
新しいファイルが追加されたとき、またはファイルが更新されたときに実行するメソッドを入力します。このメソッドは、エージェント コンピュータにファイルが配布される直前に実行されます。
- **[ファイル アービトレーション メソッド]**(データベース内の変数:ARBITRAT)
ファイルを置き換えようとする場合に実行するメソッドを入力します。このメソッドは、現在クライアント コンピュータに存在するファイルまたはフォルダのバージョン情報と、置き換えるファイルまたはフォルダのバージョン情報を比較し、どちらを保持するかを判別します。



このフィールドを使用するには、CM-CSDB データベースに ARBITRAT メソッドを追加する必要があります。詳細については、HP ソフトウェア Web サイトにある技術文書『About the File Arbitration Method』を参照してください。

- 5 ファイルとメソッドのプロパティの編集を終えたら、**[次へ]** クリックして、[コンフィギュレーション] ウィンドウに移動します。

タスク 3 パッケージおよびサービス情報を入力する

パッケージとサービスについての情報は、[コンフィギュレーション] ウィンドウで入力します。特に、パッケージに名前を付けて、説明となる付加的な情報を含め、そしてハードウェアおよびオペレーティング システムの設定に基づくパッケージ配布の制限を設定してください。また、サービスについての説明となる情報、および配布後にどのように管理するかについての情報も入力します。

パッケージ情報

| | | |
|---------------------------------|----------------------|----------------------|
| 名前 | 表示名 | ドメイン |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> | SOFTWARE |
| 説明 | リリース | クラス |
| Orca - an MSI\MSM table editor. | <input type="text"/> | <input type="text"/> |

パッケージを適用する対象システム

OS

ハードウェア

- Novell
- AIX (IBM AIX Unix)
- LINUX
- Solaris (Sun Solaris Unix)
- HPUX (HP/UX Unix)
- MAC OS X
- Win2000 (Windows 2000)
- WinXP (Windows XP)
- WinVista (Windows Vista)
- Win2K3 (Windows Server 2003)

前へ 次へ キャンセル

使用可

1 [パッケージ情報] 領域で、以下の情報を入力します。

- a [名前] フィールドにパッケージ名を入力します。これは、CM-CSDB データベースで PACKAGE クラス インスタンス名となるものです。現在の組織の命名規則に従って命名してください。名前にスペースを入れることはできません。



識別子が一意になるように命名規則を策定できます。CM Admin Publisher は、この識別子を基にデータ オブジェクトとファイル名を生成します。詳細については、付録 Bの「命名規則」を参照してください。

- b [表示名] フィールドに、パッケージの表示名を入力します。これは、CM Admin CSDB Editor で使用するもので、わかりやすい名前にします。
- c [ドメイン] ドロップダウン リスト、インスタンスを格納するドメインを選択します。CM-CSDB データベースを固有のドメインでカスタマイズした場合を除いて、通常は SOFTWARE ドメインを選択します。出荷時のデフォルトのドメインは、ADMIN、AUDIT、CLIENT、PATCH、POLICY、PRDMAINT、SOFTWARE、および SYSTEM です。
- d [説明] フィールドに、パッケージの説明を入力します。
- e [リリース] フィールドに、ソフトウェアのリリース番号を入力します。
- f [クラス] ドロップダウン リストで、インスタンスを格納するクラスを選択します。

- 2 [パッケージを適用する対象システム] 領域で、以下の情報を入力します。どのオプションも選択しなかった場合、パッケージは資格のあるすべてのサブスクリイバが利用できます。
 - a OS
このパッケージを適用するオペレーティング システムを選択します。
 - b ハードウェア
最小 RAM およびプロセッサ速度に基づいて配布を制限するには、適切な設定オプションの隣にあるチェック ボックスをオンにし、テキスト ボックスに必要な最小値を入力します。
- 3 [次へ] をクリックして [サービス情報] ウィンドウに進みます。

サービス情報

新規作成
 既存のサービスを使用
 サービスなし

| | |
|---|--|
| 名前 | 表示名 |
| <input type="text"/> | <input type="text" value="Orca"/> |
| ベンダー | Web URL |
| <input type="text" value="Microsoft Corporation"/> | <input type="text" value="http://www.microsoft.com/management"/> |
| 説明 | 作成者 |
| <input type="text" value="Orca - an MSI\MISM table editor."/> | <input type="text" value="Microsoft Corporation"/> |

割り当てのタイプ

必須
 オプション


イベントについてのレポート

ベース インスタンスを使用する

| | | |
|--------|--|--|
| インストール | <input checked="" type="checkbox"/> 成功 | <input checked="" type="checkbox"/> 失敗 |
| 削除 | <input checked="" type="checkbox"/> 成功 | <input checked="" type="checkbox"/> 失敗 |
| 更新 | <input checked="" type="checkbox"/> 成功 | <input checked="" type="checkbox"/> 失敗 |
| 検証 | <input type="checkbox"/> 成功 | <input checked="" type="checkbox"/> 失敗 |
| 修復 | <input type="checkbox"/> 成功 | <input checked="" type="checkbox"/> 失敗 |

使用可

- 4 新しいサービスを作成する ([新規作成])、既存のサービスを使用する ([既存のサービスを使用])、現時点ではサービスを作成しない ([サービスなし])、のいずれかを選択します。
 - ▶ 1 つのパッケージの作成のみ行う場合は、[サービスなし] をクリックします。サービスが 1 つあり、複数のパッケージを作成して後から CM Admin CSDB Editor を使ってそのサービスにそれらのパッケージを接続する場合などに便利です。
- 5 [名前]、[表示名]、[ベンダー]、[Web URL]、[説明]、および [作成者] を入力します。

 既存のサービスを使用する場合には、サービス名を正しく入力したことを確認してください。

6 [割り当てのタイプ] セクションで、サービスが **[必須]** か、或いは **[オプション]** かを選択します。デフォルトは **[必須]** です。これはサービスをすべての有効なサブスクリバに配布します。オプション サービスは CM Application Self-service Manager を使用している場合のみ指定可能です。

7 [管理のタイプ] セクションで、配布後のアプリケーションの管理方法を指定します。

管理のタイプと割り当てのタイプは、ZSVCMO サービスの属性値に対応しています。各タイプの選択内容に応じて、このフィールドには 2 つの値が格納できます。下の表に、設定可能な属性値を示します。

表 15 ZSVCMO 変数

| 割り当てのタイプ | 管理のタイプ | ZSVCMO 値 | 説明 |
|----------|--------|----------|--|
| [必須] | [自動] | M | サービスはすべてのサブスクリバに配布され、CM によって管理されます。 |
| [必須] | [手動] | MO | サービスはすべてのサブスクリバに配布されます。CM は配布後のサービスを管理しません。 |
| [オプション] | [自動] | OM | サービスは設定されたサブスクリバのみに配布されます。サービスは CM によって管理されます。 |
| [オプション] | [手動] | O | サービスは設定されたサブスクリバのみに配布されます。CM は配布後のサービスを管理しません。 |

8 [イベントについてのレポート] セクションで、記録を残すイベントの横にある各チェック ボックスをオンにします。ベース インスタンスで利用可能なデフォルトのアプリケーション レポート イベントを使用する場合には、**[ベース インスタンスを使用する]** を選択します。

9 **[次へ]** をクリックして、**[パブリッシュ]** ウィンドウを開きます。

タスク 4 パッケージをパブリッシュする

[パブリッシュ] ウィンドウでは、パッケージおよびサービス情報を表示して、それをパブリッシュします。



選択内容を変更する場合は、目的の設定ウィンドウが表示されるまで **[前へ]** をクリックします。パッケージの設定を変更したら、**[次へ]** をクリックしてこのウィンドウに戻ります。

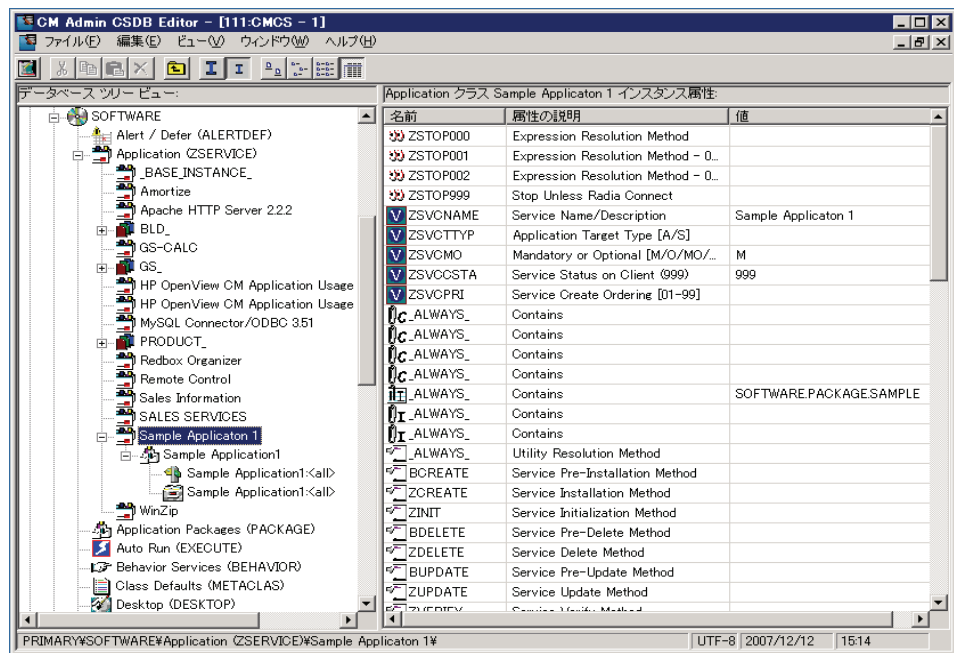
ツールバーのボタンをクリックして、前の画面に戻ることができます。

パッケージをパブリッシュするには

- 1 **[パブリッシュ]** をクリックします。パッケージはデータベースにパブリッシュされます。
- 2 ウィンドウの下部のステータス バーに「プロセスは正常に完了しました」というメッセージが表示されたら、**[完了]** をクリックします。
- 3 確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックして、終了します。

CM Admin CSDB Editor で、パブリッシュされたサービスを確認できます。

図 4 サンプル アプリケーション



Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする

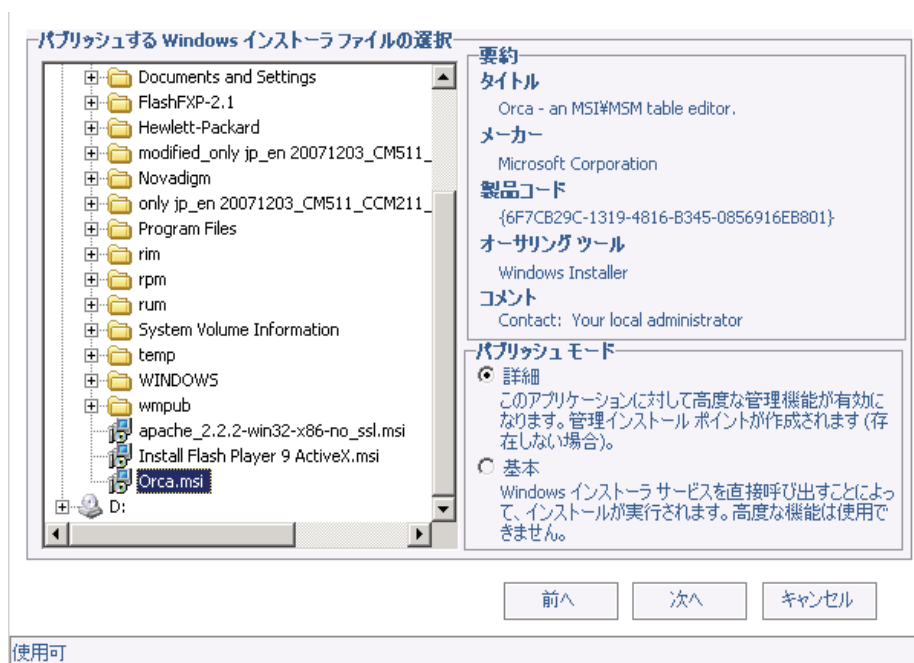
Windows インストーラは、MSI ファイルを使用してオペレーティング システムにソフトウェア パッケージを配布します。CM Admin Publisher では、この MSI ファイルを使ってパッケージおよびサービスを作成し、CM-CSDB にパブリッシュします。CM-CSDB データベースに格納されたソフトウェア パッケージは、いつでもネットワーク環境に配布できる状態となります。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

- 1 CM Admin Publisher を開始します。
- 2 パブリッシュするデータのタイプ ドロップダウンリストから **[Windows インストーラ]** をクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックします。[選択] ウィンドウが表示されます。

タスク 1 パブリッシュするファイルを選択する

[選択] ウィンドウでパッケージに含めるすべてのファイルを選択します。



- 1 左パネルで、パブリッシュする Windows インストーラ ファイルを選択します。右パネルには、選択した .msi ファイルで使用可能な情報が表示されます。
- 2 [パブリッシュ モード] セクションで、**[基本]** または **[詳細]** のいずれかをクリックします。

3 [次へ] をクリックして [編集] ウィンドウに進みます。

タスク 2 ファイルのプロパティおよびメソッドを編集する

このタスクは、以下のうちのどれを選択するかによって異なります。

タスク 1、ステップ 1 で Microsoft パッチ ファイル (.msp) を選択した場合には、81 ページの「MSP ファイルを使用して」に進みます。

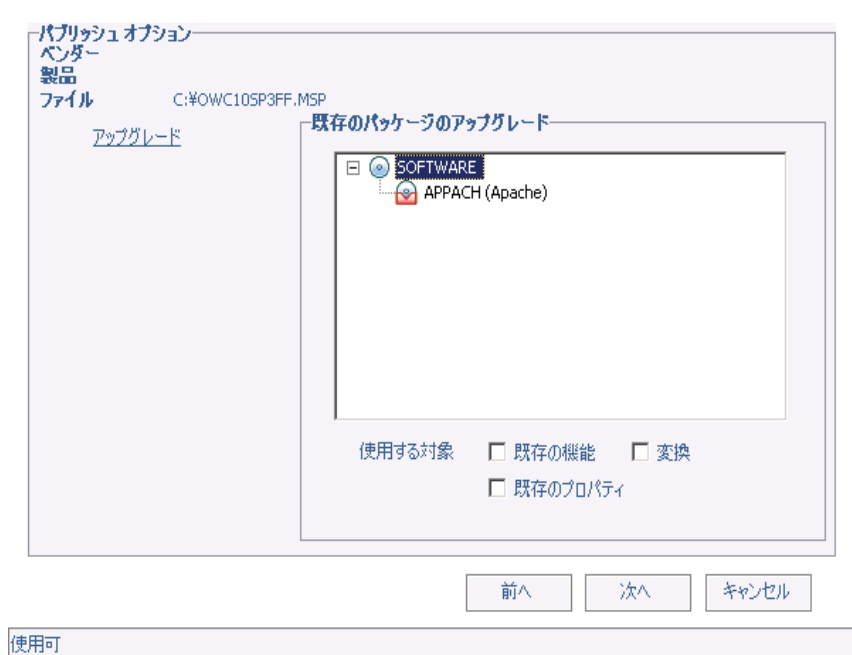
タスク 1、ステップ 2 で [詳細] パブリッシュ モードを選択した場合には、82 ページの「[詳細] パブリッシュ モード」に進みます。

タスク 1、ステップ 2 で [基本] パブリッシュ モードを選択した場合には、88 ページの「基本パブリッシュ モード」に進みます。

MSP ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードする

Microsoft パッチ ファイル (.msp) をパブリッシュするように選択した場合、[編集] ウィンドウには [アップグレード] というオプションだけが表示されます。[既存のパッケージのアップグレード] ウィンドウには、選択したファイルでアップグレードできる、CM-CSDB 内の利用可能なすべてのパッケージが表示されます。

- 1 [既存のパッケージのアップグレード] ウィンドウで、アップグレードする、対応するパッケージを選択します。



- 2 既存のパッケージの機能、プロパティまたは変換を使用するには、ウィンドウの下部にある [使用する対象] セクションの対応するチェック ボックスをオンにします。

別の Windows インストーラ ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードすることもできます。このタイプのファイル (.msi) をパブリッシュする場合には、[詳細] パブリッシュモードに [アップグレード] オプションが表示されます。詳細については、82 ページの「[詳細] パブリッシュモード」を参照してください。



CM Admin Publisher は、アップグレード用の新しいパッケージを作成します。作成した新しいアップグレード パッケージを CM-CSDB にパブリッシュしたら、CM Admin CSDB Editor を使用して、そのパッケージを既存のパッケージに接続します。

[詳細] パブリッシュ モード

[詳細] パブリッシュ モードでは、パッケージの作成で使用する多くのパブリッシュ オプションを編集することができます。

[詳細] パブリッシュ モードでパブリッシュを行うには

- 1 [管理インストール ポイント] (AIP) ウィンドウが開いていない場合には、左側の [管理インストール ポイント] オプションをクリックします。[管理インストール ポイント] (AIP) ウィンドウが表示されます。

パブリッシュ オプション

ベンダー: Microsoft Corporation
製品: Orca - an MSI/MSM table editor.
ファイル: C:\%ORCA.MSI

管理インストールポイント

インストールシミュレータ

機能

プロパティ

変換

マシン/ユーザー

アップグレード

追加のファイル

動作

管理インストールポイント (AIP)

- AIP を使用してパブリッシュ
AIP のローケーション: ブラウズ
- ユーザー インターフェイスを実行
 - 完全 基本
- パブリッシュ完了時に AIP を削除
- AIP パッケージをサービスに接続
- MSI リダイレクタ用にローカルの AIP サポートを使用
 - 長いファイル名を使用

AIP 作成用のオプションの引数



Windows インストーラ AIP の作成

以前は、CM の Windows インストーラのパブリッシュ プロセスでは、パブリッシュ プロセスの外部で AIP を手動で作成する必要がありました。CM Admin Publisher 4.0 から、これは必要なくなりました。今は、変更を加えていないオリジナルの状態の .msi ファイルを用意すれば、CM Admin Publisher は自動的に、短いファイル名の形式で AIP を作成します。

2 このウィンドウで、以下の項目を選択して、AIP を作成します。

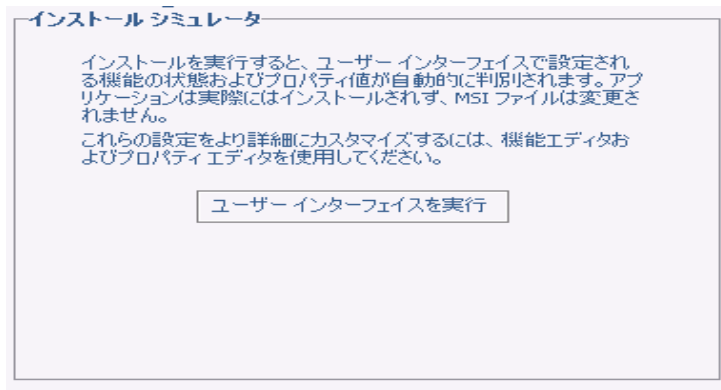
表 16 AIP を作成する

| | |
|---------------------------------|---|
| [AIP を使用してパブリッシュ] | AIP を使用してパブリッシュを行う場合には、このチェック ボックスをオンにします。 |
| [AIP のロケーション] | 入力するか、 [ブラウズ] をクリックして、AIP の場所を指定します。 |
| [ユーザー インターフェイスを実行] | パッケージのインストール後に、詳細なユーザー インターフェイスと基本のユーザー インターフェイスのどちらを実行するかを選択します。 |
| [パブリッシュ完了時に AIP を削除] | パッケージが CM-CSDB にパブリッシュされた後で AIP を削除する場合には、オンにします。 |
| [AIP パッケージをサービスに接続] | AIP パッケージを関連するサービスに接続する場合には、オンにします。 |
| [MSI リダイレクタ用にローカルの AIP サポートを使用] | インストール時に、CM の詳細なデータ管理およびキャッシングをサポートする一時的なローカル AIP を作成する場合には、オンにします。この機能は、本来 HTTP ベースの MSI インストールをサポートしていないインストールの場合に使用してください。オンにして、長いファイル名を使用する場合には、[Use long filenames] チェックボックスをオンにします。 |
| [AIP 作成用のオプションの引数] | AIP 作成時に含める付加的な引数があれば、入力します。 |

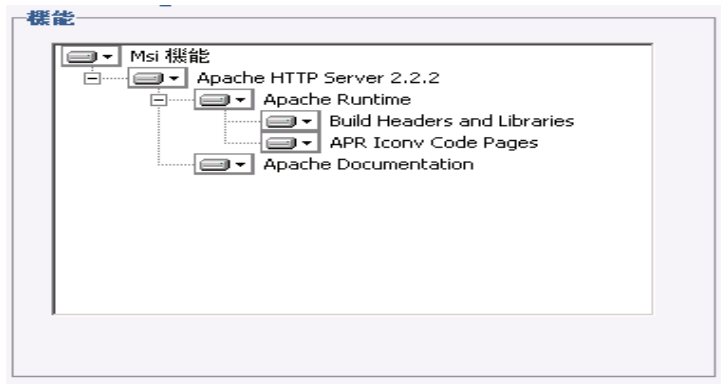


AIP パッケージをサービスに接続するには、**[AIP パッケージをサービスに接続]** チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、AIP パッケージがサービスに接続され、その ZSTOP000 は 1 に設定されます。この結果、AIP パッケージはデスクトップに配布されませんが、CM Proxy Server の稼動中、サービスへの接続が保証されます。

- まず [インストール シミュレータ] を、それから [ユーザーインターフェイスを実行] をクリックします。これによりインストールがシミュレートされますが、ソフトウェアは実際にはインストールされません。



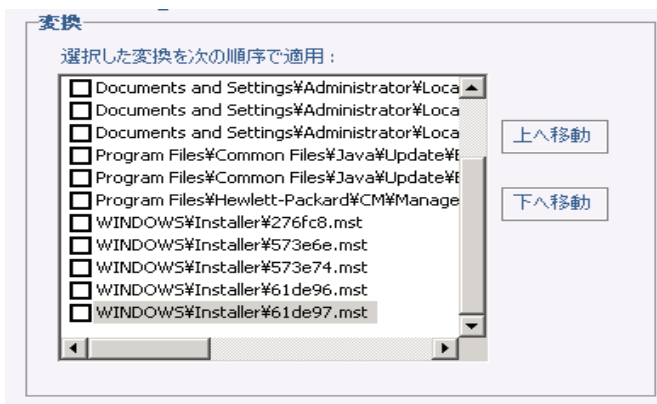
- [機能] をクリックします。[機能] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、利用可能な MSI 機能を設定します。



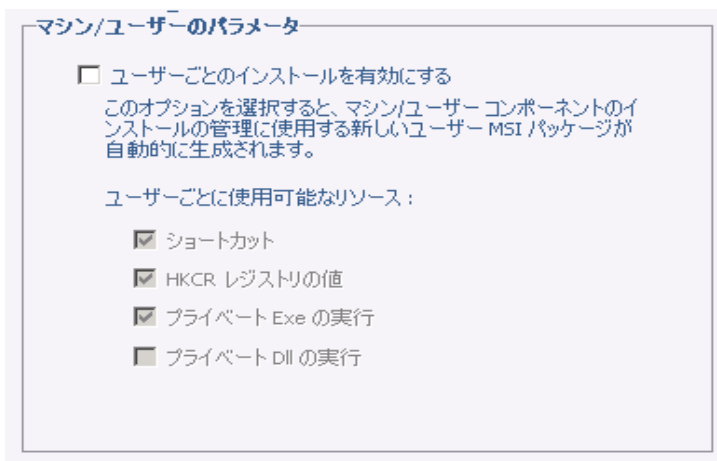
- それぞれの機能を右クリックし、非表示にするか、または無効にするかを選択します。
- [プロパティ] をクリックします。



- 7 [プロパティ] ウィンドウで、msi ファイルのプロパティを確認し、変更します。一部の Windows インストーラファイルは、正しく配布するために追加のコマンドラインパラメータを必要とします。たとえば、アプリケーションはインストール中にシリアル番号を渡すカスタム プロパティを必要とすることがあります。付加的なパラメータを含めるには、[プロパティ] ウィンドウを使用します。
 - 新しいプロパティを追加するには、[追加] をクリックします。
 - 既存のプロパティを削除するには、[削除] をクリックします。
 - プロパティの [名前] や [値] を変更するには、変更するアイテムをクリックして、新しい値を入力します。
- 8 [変換] をクリックします。このウィンドウでは、Windows インストーラファイルに関連付けられた変換ファイルの適用を再設定します。



- 9 [マシン/ユーザー] をクリックします。このウィンドウでは、CM マシン/ユーザーのパラメータを定義します。



- [ユーザーごとのインストールを有効にする] – マシン/ユーザー コンポーネントのインストールを管理するために使用する、新しいユーザー MSI パッケージを自動的に生成する場合には、このチェック ボックスをオンにします。
- [ユーザーごとの使用可能なリソース] – ユーザー単位でどのリソースを利用可能にするかを選択します。

- 10 [アップグレード] をクリックします。このウィンドウには、現在の Windows インストーラ パッチ (.MSP) を使用してアップグレード可能な、CM-CSDB 内にある既存の MSI パッケージを表示します。適切なチェック ボックスをクリックして、使用する既存の機能プロパティまたは変換を選択します。



- 11 [追加のファイル] をクリックします。AIP の一部として含める追加のファイルがあれば、選択します。



- 12 **[動作]** をクリックします。このウィンドウには、ローカル MSI ファイルキャッシュの使用、ローカルな修復の有効化、インターネット キャッシュの保存、MSI 機能の制御、およびサルベージ ステータスの決定のためのオプションが含まれています。

動作

MSI ファイル用にローカル キャッシュを使用

キャッシュのロケーション ディスクに占める割合

ローカルでの修復を使用

インターネット キャッシュを保存

復旧

管理対象アプリケーション

非管理対象アプリケーション

ユーザーが MSI 機能を管理

- **[MSI ファイル用にローカル キャッシュを使用]** – キャッシュの場所をサイズを決める場合には、オンにします。キャッシュの場所を [キャッシュのロケーション] テキスト ボックスに入力し、[ディスクに占める割合] テキスト ボックスに使用するディスク スペースの割合の上限値を入力します。

[MSI ファイル用にローカル キャッシュを使用] をオンにすると、アプリケーションのインストール中、指定した場所にキャッシュ ディレクトリが作成されます。ターゲット マシンでのディスク使用状況がキャッシュの割合の限界を超えると、キャッシュ機能は自動的にオフになります。

- **[ローカルでの修復を使用]** – ローカルな修復を有効にする場合は、オンにします。このオプションをオンにすると、ローカルのエージェント コンピュータに MSI キャッシュが保持されるので、データが失われた、または必要になった場合、CM-CSDB に要求する代わりに、修復をローカルに行うことが可能になります。
- **[インターネット キャッシュを使用]** – HTTP インストールの後にインターネット キャッシュを消去しないようにする場合には、オンにします。
- **[復旧]** – ターゲット コンピュータの既存のファイルを利用することを可能にします。パッケージをインストールするときに、パッケージの一部が見つかった場合には、重複するデータを CM-CSDB に要求する代わりに、既存のファイルを使用します。CM が管理する、および管理しないアプリケーションで [復旧] を有効にするオプションがあります。適切なチェック ボックス ([管理対象アプリケーション]、[非管理対象アプリケーション]) をオンにして、どのタイプのアプリケーションでこの機能を有効にするかを選択してください。両方のタイプのアプリケーションを選択することができます。

- **[ユーザーが MSI 機能を管理]** - インストール中にどの MSI 機能をインストールするかをエンド ユーザーが制御できるようにする場合に、オンにします。このオプションをオンにすると、アプリケーションのインストール時に機能エディタが表示されます。

13 **[次へ]** をクリックして **[コンフィギュレーション]** ウィンドウに進みます。

基本パブリッシュ モード

基本パブリッシュモードには 4 つのオプションがあります。これらは **[パブリッシュ オプション]** ウィンドウで利用できます。

[基本] パブリッシュ モードでパブリッシュを行うには

- 1 **[選択]** ウィンドウでパブリッシュ モードを選択したら、**[次へ]** をクリックします。**[編集]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウには 4 つのオプションがあります。:任意のリンクをクリックして、基本パブリッシュ モードのオプションを設定します。



— **[管理オプション]**

適用する管理オプションを選択します。選択した管理オプションに従って、配布後のアプリケーションの実行方法が定義されます。

- **[setup を使用]**
- **[msiexec を使用]**
- **[コマンドライン]**

— **[変換]**

Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルの適用を再設定します。

- **[追加のファイル]**
利用可能な追加ファイルを適用します。
 - **[アップグレード]**
現在の Windows インストーラ パッケージを使用してアップグレード可能な、CM-
CSDB 内にある既存の MSI パッケージを表示します。適切なチェック ボックスをクリ
ックして、使用する既存の機能プロパティまたは変換を選択します。
- 2 パブリッシュ オプションの編集を終えたら、**[次へ]** クリックして、[コンフィギュレーション] ウィ
ンドウに移動します。

タスク 3 パッケージおよびサービス情報を入力する

パッケージとサービスについての情報は、[コンフィギュレーション] ウィンドウで入力します。これら
のウィンドウの詳細については、75 ページの「**パッケージおよびサービス情報を入力す
る**」を参照してください。

- 1 [パッケージ情報] セクションで、パッケージ情報を入力します。
- 2 [パッケージを適用する対象システム] セクションを使用して、パッケージを特定のオペレーテ
ィング システムまたはハードウェアに限定します。リンクをクリックすると、設定可能なオプショ
ンが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[サービス情報] ウィンドウが表示されます。
- 4 このウィンドウでサービス情報を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックして [パブリッシュ] ウィンドウに進みます。

タスク 4 パッケージをパブリッシュする

- 1 [要約] セクションで、以前の手順で設定したパッケージおよびサービスの情報を確認しま
す。確認したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 2 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして CM Admin Publisher を終
了します。オペレーティング システムのパッケージまたはサービスを表示するには、CM
Admin CSDB Editor を使用します。

これで、サービスを配布する準備が整いました。

コマンド ラインによるパブリッシュ

CM Admin Publisher では、非グラフィカルなパブリッシュ モードもサポートされています。
CM Admin Publisher のユーザー インターフェイスによるパブリッシュ時に入力する値の代わ
りに、設定ファイルで事前定義した値を使用します。設定ファイルを使用すると、パッケージやサ
ービスの値を事前に定義して、テキスト ファイルに保存しておくことができます。その後、コマンド

ラインで CM Admin Publisher に `-cfg` パラメータを付け、パブリッシュ セッション中に使用する設定ファイルを指定して実行します。

`test.cfg` という設定ファイルを使用して CM Admin Publisher を実行するコマンドラインの例を次に示します。

```
hide nvdkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -cfg  
"c:\program files\test.cfg"
```



設定ファイルを指定する時は、フルパスのファイル名を使用してください。

90 ページの表 17 では、設定ファイルのパラメータについて説明します。

表 17 設定ファイルのパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|----------|--|
| package | PACKAGE クラス インスタンスの名前を定義します。 |
| pkgname | PACKAGE クラス インスタンスの簡略名 (NAME 属性) を指定します。 |
| pkgdesc | PACKAGE クラス インスタンスの説明 (DESCRIPT 属性) を指定します。 |
| service | オプションで作成される ZSERVICE クラス インスタンスの名前を定義します。 |
| svcname | ZSERVICE クラス インスタンスの簡略名 (NAME 属性) を指定します。ZSVCNAME 属性もこの値から設定されます。 |
| svcdesc | ZSERVICE クラス インスタンスの説明 (DESCRIPT 属性) を指定します。 |
| addtosvc | このセッションのサービス インスタンスを作成するかどうかを指定します。 1 = サービスを作成します 0 = 作成しません |
| path | パッケージがパブリッシュされるファイルやドメインの CM-CSDB パス (たとえば PRIMARY.SOFTWARE) を定義します。 |

| パラメータ | 説明 |
|----------------------|--|
| attr CLASS {body} | <p>パブリッシュ プロセスで追加されるインスタンスの属性値。CLASS の値として指定できるのは、PACKAGE と ZSERVICE のみです。この 2 つのクラスの値は、ユーザー インターフェイスではサポートされていなくてもコマンドラインに渡すことができます。例:</p> <pre> attr ZSERVICE { AUTHOR {John J. User} URL {http://www.nowhere.com} OWNER {Microsoft Corp} } attr PACKAGE { RELEASE {1.0} } </pre> <p>値は中かっこ ({}) で囲みます。</p> |
| msi {body} | <p>MSI ユーザー インターフェイスの設定を指定します。以下の値が設定できます。</p> <p>aiplocation 必要に応じて AIP の作成場所を指定します。</p> <p>publishmode 詳細なパブリッシュまたは基本パブリッシュを指定します。</p> <p>execui AIP 作成時の MSI のユーザー インターフェイスの実行方法を定義します。設定可能な値は Full、Basic、または None です。</p> <p>deleteaip パブリッシュ後に AIP を削除するかどうかを指定します。設定可能な値は「y」または「n」です。</p> <p>aiparguments [AIP 作成用のオプションの引数]</p> <p>enableperuser このパッケージのユーザーごとのインストールを無効にする (N) かどうかを指定します。または、S (ショートカット)、R (レジストリ)、E (プライベート exe)、D (プライベート dll) の各値を組み合わせることもできます。たとえば、「SD」を指定すると、ショートカットおよびプライベート dll のユーザーごとのインストールが有効になります。</p> <p>追加ファイル 追加ファイルを含めるかどうかを指定します。設定可能な値は「y」または「n」です。</p> <p>Connectaiptosvc</p> |

| パラメータ | 説明 |
|-------|---|
| | <p>AIP を含めるかどうかを指定します。 設定可能な値は「y」または「n」です。</p> <p>msi セクションの例を次に示します。</p> <pre>msi { aiplocation {c:\testaip} publishmode advanced execu none deleteaip n aiparguments "" enableperuser sre }</pre> <p>注意: 値では大文字と小文字が区別されます。</p> |

以下に、サンプル設定ファイルを示します。

```
pkgname      MYTESTPKG
package      CJMTEST
pkgdesc      {This is a test package}
path         PRIMARY.SOFTWARE
addtosvc     1
service      CJMTESTS
svcname      MYTESTSVC
svcdesc      {This is a test service}
attr PACKAGE {
    RELEASE 1.0
    BEHAVIOR
}
attr ZSERVICE {
    AUTHOR      me
    URL         {HTTP://WWW.NOWHERE.COM}
    OWNER       {Microsoft Corp.}
PRICE        {5}
}
msi {
    aiplocation      {g:\aip}
    publishmode      advanced
    deleteaip       n
    aiparguments     {}
    enableperuser    n
```


コマンドラインでパブリッシュするファイルを定義する

コマンドラインで設定ファイルを定義するほかに、パブリッシュするファイルを定義することもできます。パブリッシュセッションで使用するファイルを定義するには、`-file` パラメータを使用します。

```
hide nvdkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -cfg "c:\program files\test.cfg" -file "c:\program files\testfile"
```

複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード)

CM Admin Publisher では、1 回のパブリッシュ セッション中に、複数の .msi ファイルを CM-CSDB にパブリッシュすることができます。そのためには、CM Admin Publisher をコマンドラインから呼び出し、`-batchmsi` パラメータで場所を指定します。CM Admin Publisher はこの場所とすべてのサブディレクトリをスキャンして、.msi ファイル、および設定ファイルまたは変換 (.mst) ファイルを探します。

 CM Admin Publisher で複数の .msi ファイルをまとめてパブリッシュする場合、コマンドラインを使用して単独の .msi ファイルをパブリッシュする場合とは異なり、コマンドライン パラメータ `-cfg` で設定ファイルを指定することはできません。代わりに、.msi ファイルのディレクトリ内に少なくとも 1 つの設定ファイルが格納されている必要があります。

ディレクトリは一致ディレクトリが見つかるまでスキャンされます。各ディレクトリには、CM-CSDB にパブリッシュされる CM パッケージのコンポーネント (設定ファイル、利用可能な変換ファイル、1 つ以上の .msi ファイルなど) が格納されていなければなりません。一致ディレクトリの処理が終わったあと、スキャンは開始ディレクトリの下にある追加的な一致ディレクトリを引き続き探します。

指定した場所に配置されたファイルは、以下の簡単な規則に準拠する必要があります。

1 つのディレクトリに複数の .msi ファイルがある場合、エラーが記録され、パブリッシュ セッションのスキャンが続行します。

1 つのディレクトリに複数の設定ファイルがある場合、エラーが記録され、パブリッシュ セッションのスキャンが続行します。

必要であれば、検出されたすべての .msi ファイルに対して 1 つの設定ファイルを使用するようにすることができます。ルート ディレクトリの場所で見つかった設定ファイルが 1 つのみの場合は、以降に検出されるすべての .msi ファイルにその設定ファイルが適用されます。この後、96 ページの「シンボリック置換を使用して設定ファイルの値をカスタマイズする」で説明するシンボリック置換を使用して各パッケージの一意の名前を定義します。

スキャンが成功するためには、少なくとも 1 つの設定ファイルがルート ディレクトリの場所に存在するか、または見つけれられた MSI ファイルと共存する必要があります。

スキャンは MSI ファイルが見つかるまで繰り返します。その時点で、MSI ファイルが処理され、スキャンはそのディレクトリでこれ以上繰り返しをしません。スキャンは、見つけれられた MSI ファイルの親ディレクトリで継続されます。

「additionalfiles」キーワードが設定ファイルで「y」に定義された場合、MSI ファイルのレベルおよびその以下にあるすべての追加ファイルには AIP (詳細モードの場合) またはパッケージ (基本モードの場合) が含まれます。

パッチモードでは、MSI ファイルと共存する変換ファイルはすべてパッケージに含まれています。

CM Admin Publisher を実行し、スキャンする場所を指定するコマンドラインのサンプルを次に示します。

```
hide nvdtkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -batchmsi  
"c:\msifileslocation"
```

この例では、CM Admin Publisher はディレクトリ "c:\msifileslocation" とすべてのサブディレクトリをスキャンして、.msi ファイル、設定ファイルまたは変換ファイルを検出します。

パブリッシュ セッションが終了したら、log ディレクトリ内の publisher.log ファイルを参照してセッションを検証します。

複数の設定ファイルを使用する

シンボリック置換を使用して設定ファイルの値をカスタマイズするで説明するように、シンボリック置換を使用して一意のパッケージ名を割り当てる場合、パブリッシュするすべての .msi ファイルに必要な設定ファイル(96 ページ)は 1 つのみです。ただし、各 .msi に異なる設定ファイルを適用する場合は、.msi のディレクトリ内に、適用する設定ファイルを個別に配置する必要があります。

あるディレクトリ内で設定ファイルが検出されると、その後と同じディレクトリ内で検出された .msi ファイル、および各サブディレクトリ内の .msi ファイルに適用されます。この設定ファイルは、別の設定ファイルが検出されるまで使用されます。

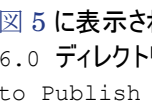
たとえば、95 ページの  に表示されている Acrobat Reader 6.msi ファイルは、\Acrobat Reader 6.0 ディレクトリ内に設定ファイルがないため、ルート ディレクトリ \Adobe MSI Apps to Publish にある設定ファイル global.cfg を使用します。

図 5 設定ファイルが格納されているルート ディレクトリ

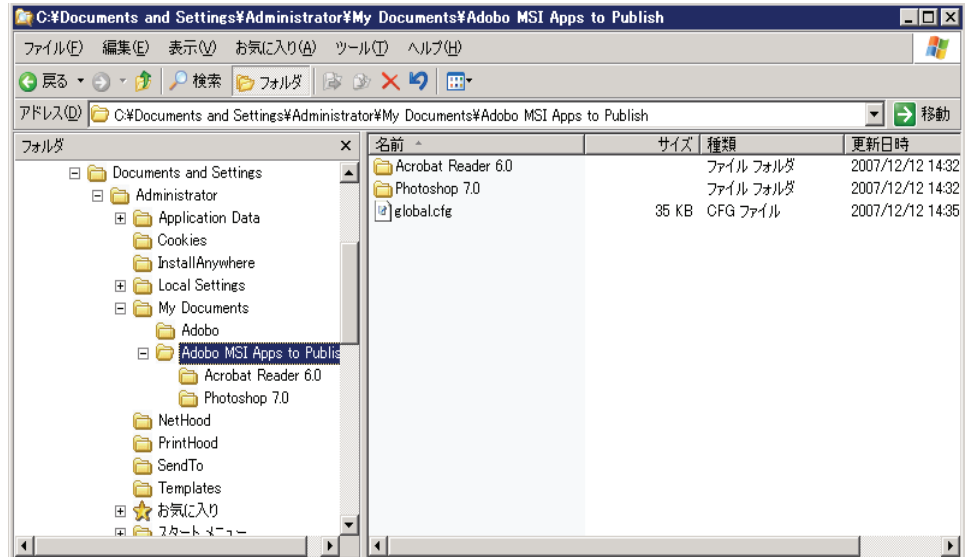
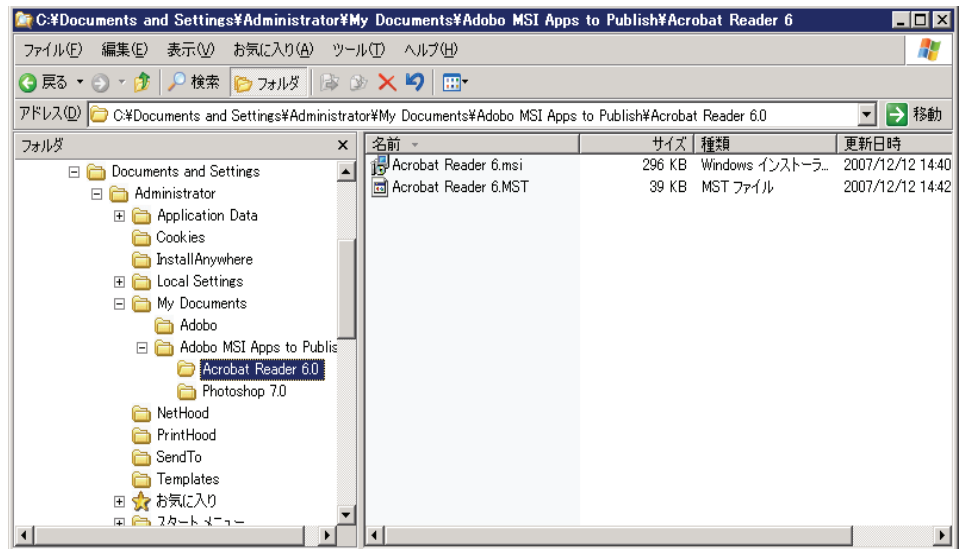


図 6 ディレクトリ構造内の設定ファイル



変換 (.mst) ファイルを格納する

.msi ファイルに複数の変換ファイルを適用するには、その .msi ファイルと同じディレクトリ内に該当する変換ファイルを格納します。変換ファイルは、ディレクトリを共有している .msi ファイルにのみ適用されます。


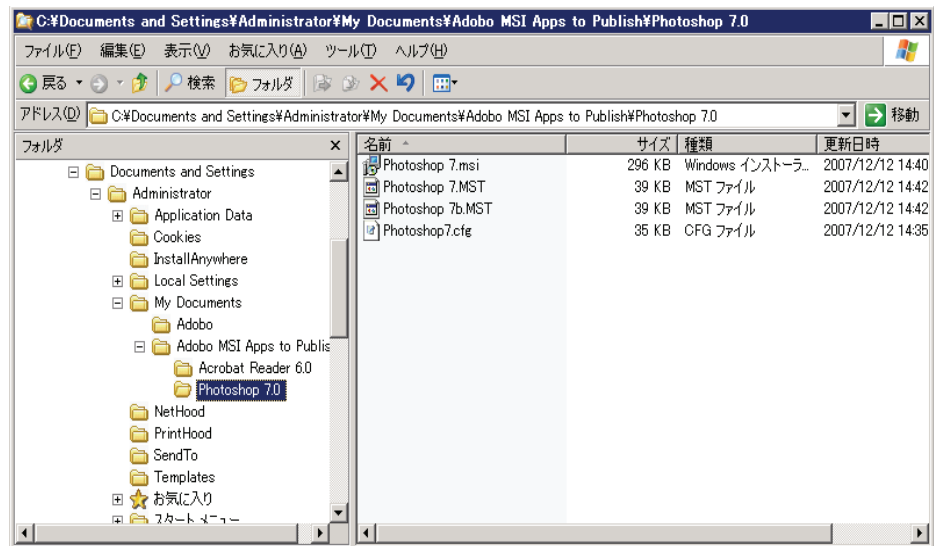
96 ページの  7 に表示されている 2 つの変換ファイルは、どちらもパブリッシュ時に Photoshop 7.msi パッケージに格納されます。

図 7 ディレクトリ構造内の変換ファイル



シンボリック置換を使用して 設定ファイルの値をカスタマイズする

類似する複数の .msi ファイルをパブリッシュするときに使用する設定ファイルを 1 つのみにする場合、シンボリック置換を使用して一意の値を割り当てることができます。たとえば、一意のパッケージ名を作成するには、設定ファイルの `pkgname` 変数に、`%MSIPROP.VARNAME%` または .msi ファイル内にある別のシンボリック変数を設定します。CM Admin Publisher は、パブリッシュを実行中の各 .msi ファイルを検索し、指定されたシンボリック値に基づいて、`pkgname` の値を .msi ファイル内の対応する値と置換します。

シンボリック置換の使用方法を示す、96 ページのサンプル設定ファイルをご覧ください。

```
# -----  
# Publisher - Sample imbedded MSI Properties Configuration File  
# -----  
#  
# Package related variables
```

```

#-----
pkgname          {"%MSIPROP.RADIA_PKG_DISPLAY_NAME%"}
package          {"%MSIPROP.RADIA_PKG_INSTANCE_NAME%"}
pkgdesc          {"%MSIPROP.RADIA_PKG_DESCRIPTION%"}
path             {"%MSIPROP.RADIA_PKG_PUBLISHPATH%"} # PRIMARY.SOFTWARE
#-----
#      Service related variables
#-----
addtosvc         {"%MSIPROP.RADIA_ADDTOSVC%"} # 0 = no, 1 = yes
service          {"%MSIPROP.RADIA_SVC_INSTANCE_NAME%"}
svcname          {"%MSIPROP.RADIA_SVC_DISPLAY_NAME%"}
svcdesc          {"%MSIPROP.RADIA_SVC_DESCRIPTION%"}

attr PACKAGE {
  RELEASE        {"%MSIPROP.RADIA_SVC_AUTHOR%"} # 1.3.5.7
}

attr ZSERVICE {
  AUTHOR         {"%MSIPROP.RADIA_SVC_AUTHOR%"}
  URL            {"%MSIPROP.RADIA_SVC_URL%"}
  OWNER          {"%MSIPROP.RADIA_SVC_OWNER%"}
  PRICE          {"%MSIPROP.RADIA_SVC_PRICE%"}
  ZSVCMO        {"%MSIPROP.RADIA_SVC_ZSVCMO%"} # (i.e., M,O,MO,OM)
  ZCREATE        {"%MSIPROP.RADIA_SVC_ZCREATE%"} # (i.e., radiamsi /I /qu)

msi {
  aiplocation    {"%MSIPROP.RADIA_AIPLOCATION%"} # c:\temp\RadiaAIP\
  publishmode    {"%MSIPROP.RADIA_PUBLISHMODE%"} # advanced, basic
  executi        {"%MSIPROP.RADIA_EXECUI"%} # full, basic, none
  deleteaip      {"%MSIPROP.RADIA_DELETEAIP"%} # yes, no
  aiparguments   {"%MSIPROP.RADIA_AIPARGS"%} #
  enableperuser  {"%MSIPROP.RADIA_ENABLEPERUSER"%} # s,r,e, and d (i.e., sre)
  additionalfiles {"%MSIPROP.RADIA_ADDITIONALFILES"%} # y, n
}

```

上の例では、作成されるパッケージおよびサービスのそれぞれの値は、関連する .msi ファイルのプロパティテーブルから生成されます。

MSI 置換値送信元には、主に次の 2 つがあります。

%MSISUMM_summary_variable_name%
MSI ファイルに関連付けられた要約情報から抽出されます。

%MSIPROP_property_name%
MSI ファイルに関連付けられたプロパティ テーブルから抽出されます。

組み込み MSI プロパティおよび CM Extensions for Windows Installer のユーザー定義のプロパティ

.msi パッケージの作成のために Extensions for Windows Installer を使用する場合には、自動的に MSI プロパティのセットと、そのデフォルト値を追加できます。そのためには、統合されたパッケージ セッションの終わりに表示される、Radia Packager for Windows Installer -> [Windows Installer Options]ダイアログボックスを使用します。[情報] タブを選択して、ユーザー定義のプロパティを定義します。これらのプロパティは、Wise、InstallShield、または他のベンダーで作成されたものなど、どのパッケージにも手動で追加できます。詳細については、『CM Extensions for WI User Guide』を参照してください。

ハードウェア構成要素のパブリッシュ

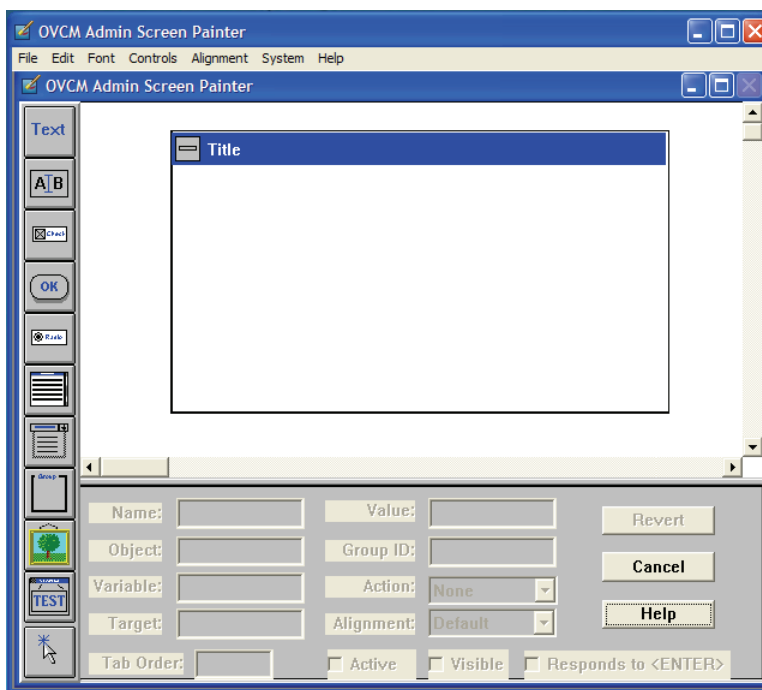
お使いの環境のデバイスに配布するハードウェア構成要素をパブリッシュするには、CM Admin Publisher を使用します。詳細については、『HP Configuration Management OS Manager Hardware Configuration Guide』(CM OS Manager Guide)を参照してください。このガイドには、ハードウェア構成要素をパブリッシュするための詳細なステップが含まれています。

CM Admin Screen Painter

ここでは、ダイアログボックスを設計し、作成するためのツールである、CM Admin Screen Painter について説明します。これにはグラフィカル ユーザー インターフェイスがあり、ドラッグアンドドロップを使用して、チェック ボックス、リスト ボックス、ボタンなど、よく使うコントロールを作成して、配置することができます。

CM Admin Screen Painter を開くには

HP OVCM Administrator フォルダで、**CM Admin Screen Painter** をクリックします。CM Admin Screen Painter のウィンドウが開きます。



[File] メニュー

100 ページの表 18 では、**[File]** ドロップダウン メニューから利用できる、基本的なナビゲーション機能について説明しています。

表 18 Screen Painter の [File] メニュー

| オプション | 機能 |
|--------------|--|
| [New] | ダイアログボックスを新規作成します。 |
| [Open] | [Select a Panel Object File for Editing] ダイアログ ボックスを開きます。リストから、編集するパネル オブジェクトを選択します。 |
| [Close] | 現在の編集セッションを閉じます。 |
| [Save] | 現在のパネル オブジェクトを同じ名前で保存します。 |
| [Save As] | 現在のパネル オブジェクトを新しい名前で保存します。 |
| Revert | 前に保存されたバージョンのパネル オブジェクトに復帰します。 |
| [Page Setup] | 現在のダイアログ ボックスの一部を選択すると、このオプションが使用可能になります。これは Windows の標準的な [Print Setup] ダイアログ ボックスです。 |
| [Print] | ダイアログ ボックスのコピーを印刷します。 注意: CM Admin Screen Painter の印刷機能は、現在のダイアログ ボックスを、1 ピクセルがプリンタの 1 ドットになるように印刷します。600 DPI の高解像度プリンタを使用する場合、プリントアウトは非常に小さくなり、読みにくくなります。この点を改善するには、[Print Setup] ダイアログ ボックスの [Properties] ボタンをクリックし、プリンタの解像度を画面解像度に近くなるように小さくしてください。これにより、プリントアウトは、画面上の表示とほぼ同じサイズになります。 |
| [Exit] | CM Admin Screen Painter を閉じます。 |

[Edit] メニュー

[Edit] メニューには、Windows の標準的な編集機能が含まれています。

[Font] メニュー

[Font] メニューでは、選択したダイアログ ボックス要素で表示されるテキストのフォントを変更できます。

コントロール


次に、ダイアログ ボックスにコントロールを追加し、設定する方法、およびダイアログ ボックスにタイトルを追加する、またはタイトルを変更する方法について、説明します。これは、コントロール ツールバーまたは [Controls] メニューから行えます。

コントロール ツールボックス

コントロール ツールボックスには、コントロールをダイアログ ボックスに追加するためのボタンがあります。下は、ボタンと、それに関連付けられているコントロールの機能についての説明です。

表 19 コントロール ツールボックス

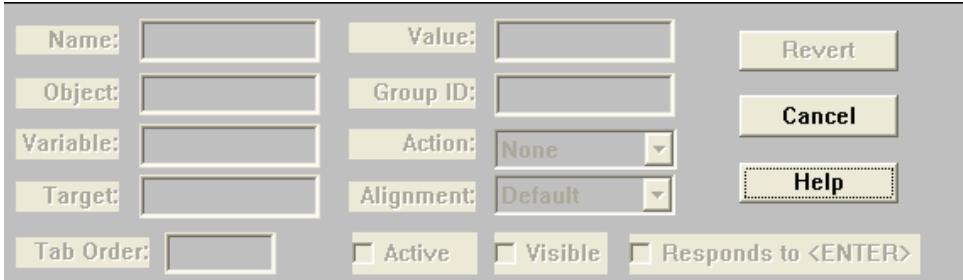
| ボタン | ボタン名 | 機能 |
|---|--------------|--|
|  | Static Text | ラベル、説明、およびオブジェクトの変数値の表示のために使用します。 |
|  | Edit | テキストの入力と、オブジェクトの変数値の表示のために使用します。 |
|  | Check Box | [Yes]/[No] または [On]/[Off] タイプのコントロール用に使用します。 |
|  | Push Button | [終了] などのアクションを実行するため、または他のダイアログ ボックスを表示するために使用します。 |
|  | Radio Button | 1 つのアイテムだけを選択できる、複数の選択オプション用に使用します。 |
|  | List Box | 1 つのアイテムだけを選択できる、選択肢のスクロール可能なリスト用に使用します。 |
|  | List Button | 1 つのアイテムだけを選択できる、選択肢のドロップダウン リスト用に使用します。 |
|  | Group Box | コントロールのグループ化および整理のために使用します。 |
|  | Image | ビットマップ イメージの表示用に使用します。 |
|  | Test | ダイアログ ボックスをリアルタイム モードで実行するために使用します。 |

| ボタン | ボタン名 | 機能 |
|---|--------|--|
|  | Select | ダイアログ ボックス、コントロール、およびプロパティの選択と変更のために使用します。 |

[Properties] ボックス

[Properties] ボックスは、画面上のオブジェクトの各要素にプロパティを割り当てるために使用します。画面上のオブジェクトの各コントロールに対し、これらのすべてのプロパティを割り当てる必要はありません。一部のコントロールでは、少数のプロパティだけがが必要です。プロパティを追加するには、CM Admin Screen Painter のウィンドウの下部にある [Properties] ボックスを使用します。

図 8Screen Painter の [Properties] ボックス



102 ページの表 20 では、これらのプロパティについて説明します。

表 20 [Properties] ボックスの要素

| プロパティ | 説明 |
|----------|--|
| Name | コントロールに表示されるラベルです。ターゲット名を示すためにも使用されます。 |
| Object | コントロールがデータを読み書きするオブジェクトです。 |
| Variable | コントロールがデータを読み書きする変数です。 |
| Target | [Action] フィールドで指定した事柄によって影響を受けるダイアログ ボックス、ファイル、またはコントロールです。 |
| Value | チェック ボックス、ラジオ ボタン、およびリスト ボックスの場合にのみ有効です。このフィールドの指定方法についての説明は、これらのセクションを参照してください。 |

| プロパティ | 説明 |
|---------------------|--|
| Group ID | 複数コントロールをまとめるための、ユーザー指定の識別子です。 |
| Action | 選択したときに、コントロールが行う事柄を指定します。 |
| Alignment | スタティック テキスト コントロールの [Static] フィールドに入力したテキストの揃え方です。プッシュ ボタン テキストのデフォルトは「center」です。 |
| Tab Order | ユーザーが Tab キーを押したときにフォーカスが移動する順序を指定します。デフォルトは、コントロールがダイアログ ボックスに追加された順序になります。 |
| [Active] | コントロールが初期状態で選択可能か、またはグレー表示かを決めます。(デフォルト:[Active]) |
| Visible | コントロールが初期状態で表示されているか、または非表示かを決めます。(デフォルト:[Visible]) |
| Responds to <Enter> | Enter キーを押すことにより、ユーザーが強調表示されたプッシュ ボタンを選択できるようにします。この機能はプッシュ ボタンでのみ動作します。設定できるのは、ダイアログ ボックスごとに 1 箇所だけです。 |
| Revert | コントロールの値を、コントロールが直前に更新されたときの値に戻します。 |
| [Cancel] | 変更を保存せずに、編集セッションを閉じます。 |
| Help | オンライン ヘルプを呼び出します (現時点では使用できません)。 |

[Controls] メニュー

ここでは、[Controls] メニューで利用可能なコントロールについて説明します。

コントロールの削除

ここでは、コントロールの削除方法について説明します。

コントロールを削除するには

- 1 つまたは複数のコントロールを選択して、**Delete** キーを押します。

スタティック テキスト

このコントロールは、他のコントロールにラベルを付けるため、またはダイアログボックスに説明や指示を追加するために使用します。

スタティック テキストを挿入するには

- 1 ツールバーのスタティック テキスト ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Static Text]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したスタティック テキスト コントロールをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。
スタティック テキスト コントロールの場合、[Name] フィールドが [Static] フィールドになります。詳細については、104 ページの [表 21](#) を参照してください。

表 21 [Static] フィールド

| フィールド | 説明 |
|----------|--|
| [Static] | このフィールドには、このダイアログ ボックスのコントロールにラベルをつけるためのスタティック テキストを入力できます。テキストがオブジェクトの変数から来る場合には、空白にしておきます。 |

[Edit]

このツールは、テキスト ボックスを追加するために使用します。テキスト ボックスは、変数データを入力し、表示することができるコントロールです。

テキスト ボックスを挿入するには

- 1 ツールバーの編集ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Edit]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したテキスト ボックスをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。
編集コントロールの場合、[Name] フィールドが [Edit] フィールドになります。詳細については、104 ページの [表 22](#) を参照してください。

表 22 [Edit] フィールド

| フィールド | 説明 |
|--------|-----------------------------|
| [Edit] | グループで参照するための、このコントロールの名前です。 |

プッシュ ボタン

プッシュ ボタンを使えば、ユーザーはアクションを開始できます。

プッシュ ボタンを挿入するには

- 1 ツールバーのプッシュ ボタン ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Push Button]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したプッシュ ボタンをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

プッシュ ボタン コントロールの場合、[Name] フィールドが[Push] フィールドになります。詳細については、105 ページの表 23 を参照してください。

表 23 [Push] フィールド

| フィールド | 説明 |
|--------|-----------------|
| [Push] | ボタンに表示されるラベルです。 |

下の表は、プッシュ ボタンに割り当てることができるアクションの説明です。

表 24 プッシュ ボタンのアクション

| アクション | 説明 |
|--------|---|
| EXIT | ダイアログ ボックスの内容を保存して閉じます。 |
| CANCEL | 変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。 |
| SHOW | [Target] フィールドで指定された名前のコントロールの、表示と非表示を切り替えます。[Target] フィールドに、ダイアログ ボックス内のコントロールのグループのグループ ID が含まれている場合、コントロールのグループの表示と非表示が切り替わります。 |
| ENABLE | [Target] フィールドで指定された名前のコントロールの、有効（入力のフォーカスになれること）と無効（入力のフォーカスになれないこと）を切り替えます。[Target] フィールドに、ダイアログ ボックス内のコントロールのグループのグループ ID が含まれている場合、コントロールのグループの有効と無効が切り替わります。 |

| アクション | 説明 |
|--------|--|
| PANEL | <p>現在のダイアログ ボックスを終了して、[Target] フィールドで指定されたダイアログ ボックスを表示します。[Target] フィールドが空白の場合、[Object] および [Variable] フィールドが、表示されるダイアログ ボックスの名前を含む変数を指定します。</p> <p>プッシュ ボタンとリスト ボックスを組み合わせると、ユーザーが、次に表示するダイアログ ボックスをリストから選択できるようになります。ユーザーがリスト ボックスからアイテムを選択し、関連するプッシュ ボタンを押すと、その選択対象が起動されます。これを行うには、プッシュ ボタンの [Target] フィールドにリスト ボックスの名前を含め、プッシュ ボタンの [Object] および [Variable] フィールドで、リスト ボックスのデータソースとなるマルチヒープ オブジェクトの何らかの変数を識別するようにする必要があります。リスト ボックスの データ ソース オブジェクトの各ヒープで、この変数には、次に表示するダイアログ ボックスに対応するパネル オブジェクトの名前を含めます。ユーザーは、ヒープから、リスト ボックスに表示されるデータと関連付けられた項目を選択します。</p> |
| LAUNCH | <p>[Target] フィールドで指定されたアプリケーションを起動します。[Target] フィールドが空白の場合、[Object] および [Variable] フィールドが、起動されるファイルのパスとファイル名を含む変数を指定します。</p> <p>プッシュ ボタンとリスト ボックスを組み合わせると、ユーザーが、起動するプログラムをリストから選択できるようになります。ユーザーがリスト ボックスからアイテムを選択し、関連するプッシュ ボタンを押すと、その選択対象が起動されます。これを行うには、プッシュ ボタンの [Target] フィールドにリスト ボックスの名前を含め、プッシュ ボタンの [Object] および [Variable] フィールドで、リスト ボックスのデータソースとなるマルチヒープ オブジェクトの何らかの変数を識別するようにする必要があります。リスト ボックスの データ ソース オブジェクトの各ヒープで、この変数には、起動するプログラムのパスとファイル名を含めます。ユーザーは、ヒープから、リスト ボックスに表示されるデータと関連付けられた項目を選択します。</p> |
| PREVHP | <p>マルチヒープ オブジェクトの前のヒープ (最初のヒープでなければ) にページを切り替え、そのオブジェクトを使用するすべてのコントロールを再読み込みします。ページ切り替えされるオブジェクトは、[Object] フィールドで指定します。[Value] フィールドで指定された変数が表示されます。</p> |

| アクション | 説明 |
|---------|---|
| NEXTHP | マルチヒープ オブジェクトの次のヒープ (最後のヒープでなければ) にページを切り替え、そのオブジェクトを使用するすべてのコントロールを再読み込みします。ページ切り替えされるオブジェクトは、[Object] フィールドで指定します。[Value] フィールドで指定された変数が表示されます。 |
| LNCHEX | 起動して終了します。LAUNCH アクションと同じ動作をして、ダイアログボックスは終了します。 |
| STDFILE | Windows の標準の [Open File] ダイアログ ボックスを表示して、ユーザーが選択したものを (フルパスの情報とともに) [Object] および [Variable] フィールドで指定された変数に入れます。 |
| STDFOLD | Windows の標準の [Select Folder] ダイアログ ボックスを表示して、ユーザーが選択したものを (フルパスの情報とともに) [Object] および [Variable] フィールドで指定された変数に入れます。 |

チェック ボックス

チェック ボックスを使えば、ユーザーは ([Yes]/[No] のような) 二者択一の選択を行えます。

チェック ボックスを挿入するには

- 1 ツールバーのチェック ボックス ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Check Box]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。コントロールは、後でサイズを変更することができます。
- 3 作成したチェック ボックスをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。
 チェック ボックス コントロールの場合、[Name] フィールドが [Check] フィールドになります。詳細については、107 ページの 表 25 を参照してください。

表 25 [Check] フィールド

| フィールド | 説明 |
|---------|---|
| [Check] | チェック ボックスのラベルで、他のコントロールからターゲットとして参照されるとき、このコントロールの名前です。 |

ラジオ ボタン

ラジオ ボタンを使えば、ユーザーはセットになっているものから 1 つのアイテムをクリックできます。ラジオボタンは個別に挿入しますが、セットにするために複数をグループ化します。

ラジオ ボタンを挿入するには

- 1 ツールバーのラジオ ボタン ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Radio Button]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したラジオ ボタンをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

プッシュ ボタン コントロールの場合、[Name] フィールドが[Push] フィールドになります。詳細については、108 ページの [表 25](#) を参照してください。



作成時には、ラジオ ボタンのサイズはデフォルトのプリセットサイズになります。入力したテキストがテキスト ボックスの限界を超えた場合には、横方向に拡張してください。グレーの領域のサイズは変わりませんが、ユーザーには適すと全体が表示されます。

表 26 [Radio] フィールド

| フィールド | 説明 |
|---------|--|
| [Radio] | ラジオ ボタンに表示されるラベルです。また、他のコントロールからターゲットとして参照されるとき、このコントロールの名前です。 |

グループ ボックス

グループ ボックスを使えば、コントロールのセットを、ダイアログ ボックスの特定の領域内でグループ化することができます。

グループ ボックスを挿入するには

- 1 ツールバーのグループ ボックス ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Group Box]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したグループ ボックスをクリックします。

- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

グループ ボックス コントロールの場合、[Name] フィールドが [Group] フィールドになります。詳細については、109 ページの [表 27](#) を参照してください。


-  まずコントロールを作成し、整列してから、その周りにグループ ボックスを配置してください。こうすれば、グループ化するコントロールの位置変更、追加、または削除を行う場合に、時間の節約になります。

表 27 [Group]フィールド

| フィールド | 説明 |
|---------|-----------------------|
| [Group] | グループ ボックスのテキスト ラベルです。 |

[List Box]

リスト ボックスは、ユーザーが 1 つのアイテムだけを選択できる、スクロール可能なボックスです。

リスト ボックスを挿入するには

- 1 ツールバーのリスト ボックス ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[List Box]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したリスト ボックスをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

リスト ボックス コントロールの場合、[Name] フィールドが [List Box] フィールドになります。詳細については、109 ページの [表 28](#) を参照してください。

表 28 [List Box]フィールド

| フィールド | 説明 |
|------------|--|
| [List Box] | ターゲットとして指定するためのコントロールの名前で、他のコントロールからターゲットとして参照されるとき、このコントロールの名前です。 |

[List Button]

リスト ボタンはドロップダウン リスト コントロールで、ユーザーは提示されている選択肢のいずれかを選択できます。

リスト ボタンを挿入するには

- 1 ツールバーのリスト ボタン ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[List Button]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。
- 3 作成したリスト ボタンをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

リスト コントロールの場合、[Name] フィールドが [List] フィールドになります。詳細については、110 ページの [表 29](#) を参照してください。


 リスト ボタンにドロップダウンの機能を持たせるには、デザイン スペースでコントロールを縦に拡張する必要があります。


表 29 [List]フィールド

| フィールド | 説明 |
|--------|--|
| [List] | ターゲットとして指定するための、このコントロールの名前です。また、他のコントロールからターゲットとして参照されるときの、このコントロールの名前です。 |

[Image]

ビットマップ イメージを挿入するには

- 1 ツールバーのビットマップ イメージ ツールを選択するか、[Controls] メニューの **[Image]** を選択します。
- 2 ダイアログボックス内で、クリックアンドドラッグにより、表示するイメージに適した四角形を描きます。必要であれば、このコントロールのサイズを変更します。

 イメージは、フレーム全体に収まるようにスケーリングされます。

- 3 作成したフレームをクリックします。
- 4 [Properties] ボックスで、アクティブなフィールドの値を指定します。

イメージコントロールの場合、[Name] フィールドが [Image] フィールドになります。詳細については、111 ページの [表 30](#) を参照してください。

表 30 [Image] フィールド

| フィールド | 説明 |
|---------|--|
| [Image] | 表示するビットマップ イメージのフルパスです。 .bmp 拡張子を含めます。 |

選択

マウスマウスカーソルは、選択 (矢印) ツールとして機能します。このモードでダイアログ ボックス内のコントロールをクリックすると、CM Admin Screen Painter は、そのコントロールをハンドルの付いた状態で強調表示します。

コントロールのサイズを変更するには

コントロールのハンドルのいずれかをクリックし、希望するサイズにドラッグします。

コントロールの位置を変更するには

アイテム (ハンドル以外の部分) をクリックして、希望する場所にドラッグします。

タイトルの設定

ダイアログボックスに名前を付ければ、ユーザーはその機能を覚えやすくなります。

ダイアログ ボックスにタイトルを付けるには

- 1 [Controls] メニューから **[Set Title]** を選択します。または、ダイアログ ボックスの青いタイトル バーをダブルクリックします。
- 2 ダイアログ ボックスのタイトルを入力して、**Enter** を押します。

[Alignment] メニュー

挿入したコントロールを配列して、読み取りやすくします。下の表は、コントロールの整列で利用できる 9 つのオプションについて説明しています。

それに続く部分では、コントロールの整列方法について説明しています。コントロールを適切に配列すれば、ユーザーがダイアログ ボックスを使用しやすくなります。これらの機能は、[Alignment] メニューからのみ使用できます。

表 31 整列の機能

| オプション | 機能 |
|-------------------------|---|
| [Align Tops] | 選択したコントロールの上端を、選択したコントロールの中で最も上にあるものに揃えます。 |
| [Align Bottoms] | 選択したコントロールの下端を、選択したコントロールの中で最も下にあるものに揃えます。 |
| [Align Lefts] | 選択したコントロールの左端を、選択したコントロールの中で最も左にあるものに揃えます。 |
| [Align Rights] | 選択したコントロールの右端を、選択したコントロールの中で最も右にあるものに揃えます。 |
| [Align Centers] | 選択したすべてのコントロールの中央を、選択したコントロールの中で最も右にあるものの右端と、最も左にあるものの左端の間を二等分する、仮想的な垂直線に合わせます。 |
| [Align Same Height] | 選択したすべてのコントロールの高さを変更して、(最初に) 選択した参照コントロールの高さに合わせます。 |
| [Align Same Width] | 選択したすべてのコントロールの幅を変更して、(最初に) 選択した参照コントロールの幅に合わせます。 |
| [Align Even Vertical] | 選択したコントロールのグループ内での間隔を調整し、隣接する 2 つのコントロールの縦方向の間隔がどれも等しくなるようにします。 |
| [Align Even Horizontal] | 選択したコントロールのグループ内での間隔を調整し、隣接する 2 つのコントロールの横方向の間隔がどれも等しくなるようにします。 |

▶ [Align Even Vertical] および [Align Even Horizontal] 機能を使用するためには、少なくとも 3 つのコントロールを選択する必要があります。

コントロールを整列するには

[Alignment] メニューの最初の 5 つのオプションを使えば、標準的な外見になるようにコントロールの位置を調整することができます。

- 1 基準となるコントロールを、希望する位置にドラッグアンドドロップします。
- 2 **Shift** キーを押しながらクリックして、基準コントロールに揃えるコントロールを、少なくとも 3 つ選択します。

- コントロールを縦方向に整列するには、[Alignment] メニューから **[Align Lefts]** または **[Align Rights]** を選択します。
- コントロールを横方向に整列するには、[Alignment] メニューから **[Align Tops]** または **[Align Bottoms]** を選択します。
- コントロールを中心線に合わせて整列するには、[Alignment] メニューから **[Align Centers]** を選択します。



コントロールの整列は、その周囲にグループ ボックスを配置する前に行ってください。ここで行った整列や位置の変更は、後ほど変更できます。

コントロールの高さと幅を調整するには

コントロールのサイズを変更して、一貫した外見を持たせることができます。

- 1 基準として使用するコントロールを選択します。(このコントロールのサイズは変化しません。他のコントロールの高さまたは幅が、この基準コントロールと同じになるように変更されます。)
- 2 サイズを変更する、残りのコントロールを選択するには、**Shift** キーを押しながらクリックします。
- 3 [Alignment] メニューから、**[Align Same Height]** または **[Align Same Width]** を選択します。

コントロールの間隔を調整するには

コントロールの間隔を変更して、一貫した外見を持たせることができます。

- 1 **Shift** キーを押しながらクリックして、少なくとも 3 つのコントロールを選択します。
- 2 [Alignment] メニューから、**[Align Even Vertical]** または **[Align Even Horizontal]** を選択します。

[System] メニュー

[System] メニューには、ダイアログ ボックスのテスト用の選択項目が含まれています。

ダイアログ ボックスの作成中には定期的に、そして完成後には特に、ダイアログ ボックスをテストして、デザインし、意図したとおりに動作することを確認するのがよいでしょう。テストを行うと、現在のダイアログ ボックスを使用して、CM Panel Manager プログラムである `edmpnlwr.exe` が実行されます。これにより、実運用時にダイアログ ボックスがどのように表示されるかを確認できます。

ダイアログ ボックスのテスト方法としては、次に説明する 2 通りがあります。

共通

REXX 処理

共通

共通メソッドを使用して画面をテストするには

- 1 コントロール ツールバーの テスト ツールを選択するか、[System] メニューの **[Test]** を選択します。
- 2 テストを終了するには、表示されているダイアログ ボックスの「close」アイコンをクリックするか、そのアクションによってダイアログ ボックスを終了させるプッシュ ボタンをクリックします。

REXX プログラミング

REXX 処理を使用して画面をテストするには

- 1 [System] メニューから **[Use REXX for Test]** をクリックします。
- 2 テストを終了するには、表示されているダイアログ ボックスの「close」アイコンをクリックするか、そのアクションによってダイアログ ボックスを終了させるプッシュ ボタンをクリックします。

[Do Not Resolve Panel]

オブジェクトを解決せずに変数名を表示するには

- 1 解決しないままにしておくコントロールの [Name] フィールドで、シンボル記法を指定します。CM は、[Properties] ボックスの [Object] および [Variable] フィールドで指定したデータは、常に解決することに注意してください。
- 2 [System] メニューから、**[Do Not Resolve Panel]** を選択します。

[Help] メニュー

現時点で動作する機能は、**[About]** だけです。これは、CM のバージョン番号を表示します。

CM Admin CSDB Editor

ここでは、CM Admin CSDB Editor を使用して CM-CSDB を管理する方法について説明します。

はじめに

ここでは、CM-CSDB Editor を使用する前に知っておき、行う必要のある事柄について説明します。

CM Admin CSDB Editor を開くには

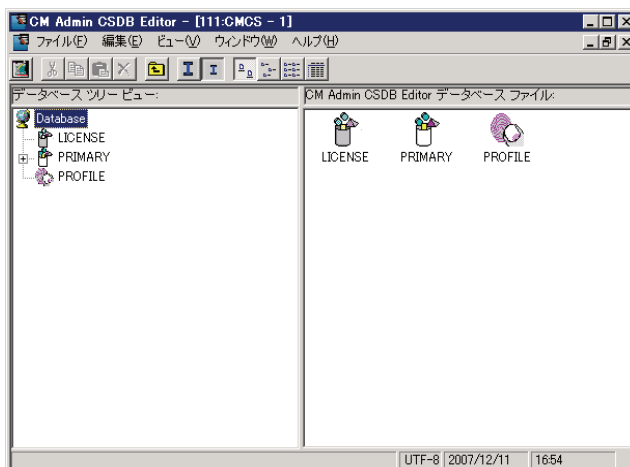
- 1 [スタート] [すべてのプログラム] [HP OVCM Administrator] [CM Admin CSDB Editor]の順にクリックします。[ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 ユーザー IDとパスワードを入力します。



出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

管理者が CSDB Editor でパスワードが必要なように設定していた場合には、割り当てられたパスワードで正常にログオンしてから、[パスワードの変更] チェック ボックスをオンにして、[新しいパスワード]と[新しいパスワードの確認]の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して、パスワードを変更することができます。

- 3 [OK] をクリックします。[CM Admin CSDB Editor] の初期ウィンドウが表示されます。



[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウ

これは、CM Admin CSDB Editor のメイン ウィンドウです。ここでは、その外見をカスタマイズする方法と、それぞれのメニューの使用方法について説明します。

[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのカスタマイズ

CM Admin CSDB Editor の外見と、ショートカット メニューのオプションによる動作は、カスタマイズすることができます。最もよく使う機能は、CM Admin CSDB Editor のツールバーから利用できます。これらの機能の詳細については、119 ページの「[CM Admin CSDB Editor のツールバー](#)」を参照してください。

[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのメニュー

ここでは、メインの [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウの各メニューについて説明します。

[ファイル] メニュー

これらのオプションは、付加的な [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウを開く、または現在のものを閉じるために使用します。同時に複数のウィンドウを開くことができます。複数のウィンドウ間で、アイテムをドラッグすることができます。

[編集] メニュー

これらのオプションは、CM-CSDB を編集するために使用します。最初の 6 つの選択項目は、アクティブなペインまたはダイアログ ボックス内の選択したアイテムに適用されます。

表 32 [編集] メニューのオプション

| オプション | 説明 |
|---------|--|
| [新規作成] | ドメイン、クラス、インスタンスなど、選択したアイテムの新しいオカレンスが作成できます。 |
| [切り取り] | 選択したテキストを削除して、Windows のクリップボードにコピーします。 |
| [コピー] | 選択したテキストを Windows のクリップボードにコピーします。 |
| [貼り付け] | Windows のクリップボードのコンテンツを、現在のカーソル位置にコピーします。 |
| [名前の変更] | 選択したアイテムの簡略名や内部名を変更します。 |
| [削除] | 選択しているアイテムを CM-CSDB から削除します。 |
| [すべて選択] | [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューのすべてのインスタンスを選択します。 |

| オプション | 説明 |
|---------|---|
| [選択を反転] | リストビューにあるすべてのインスタンスの選択ステータスを切り替えられます。選択されていたインスタンスが選択解除され、選択されていなかったインスタンスが選択されます。 |
| [検索] | 指定したテキストを含むインスタンスが、選択したクラスの [名前] カラムおよび [インスタンス名] カラムで検索できます。検索結果は、リストビューのリストの最上部にソートされて強調表示されます。 |

[ビュー] メニュー

これらのオプションは、CM Admin CSDB Editor を開きます。ツールバーおよびステータスバーの表示と非表示、アイコンのサイズと表示のコントロール、このメニュー内での表示および動作オプションの設定を行えます。

表 33 [ビュー] メニューのオプション

| オプション | 説明 |
|------------|---|
| [ツールバー] | ツールバーを表示するかどうかを切り替えます。 |
| [ステータスバー] | ステータスバーを表示するかどうかを切り替えます。 |
| [ツリー アイコン] | アイコンを大きいアイコンと小さいアイコンのいずれで表示するかを切り替えます。 |
| [リストビュー] | リストビューの表示を 4 種類の表示 ([大きいアイコン]、[小さいアイコン]、[一覧]、および [詳細]) の中から選択することができます。 |
| [アイコンの整列] | アイコンの配列を縦並びまたは横並びにして、リストビューを再表示します。 |
| [リフレッシュ] | 選択した [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウを見やすくするためにすべての要素を整列して、リストビューを再表示することがあります。 |
| オプション | CM Admin CSDB Editor の [オプション] ダイアログ ボックスを開きます。詳細については、120 ページの「[オプション] ダイアログ ボックスを使用して設定を行う」を参照してください。 |
| [フォント] | [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウでテキストの表示に使用されるフォントを変更することができるダイアログ ボックスが表示されます。 |

[ウィンドウ] メニュー

これらのオプションは、複数の [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウを開いているときに使用します。

表 34 [ウィンドウ] メニューのオプション

| オプション | 説明 |
|------------------|--|
| [重ねて表示] | CM Admin CSDB Editor インターフェイスの左上隅を起点にして、複数のウィンドウを少しずつずらしながら重ねて表示します。 |
| [上下に並べて表示] | 開いている複数のウィンドウを重ねないように縦並びに表示します。ウィンドウの幅は自動的に CM Admin CSDB Editor インターフェイスの幅になり、高さはインターフェイスの高さを等分したのになります。 |
| [左右に並べて表示] | 開いている複数のウィンドウを重ねないように横並びに表示します。ウィンドウの高さは自動的に CM Admin CSDB Editor インターフェイスの高さになり、幅はインターフェイスの幅を等分したのになります。 |
| [アイコンにする] | 複数の [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウを最小化して、インターフェイスの左下隅に表示します。 |
| [1 1:CSname - 1] | 複数のセッションを表示しているときには、管理者は、開いている複数の CM Admin CSDB Editor セッションを切り替えられます。セッションの横にあるチェックマークは、現在アクティブなウィンドウを示します。 |

[ヘルプ] メニュー

CM Admin CSDB Editor についての詳細、または HP ソフトウェアの Web サイトへのリンクを表示します。

表 35 [ヘルプ] メニューのオプション

| オプション | 説明 |
|-----------------------------|--|
| 目次 | スタイルのヘルプ インターフェイスを表示します。 |
| [Hewlett-Packard の Web サイト] | Hewlett-Packard の Web サイトにある、テクニカル サポート ページやホーム ページに接続するためのサブメニューが表示されます。これらのリンクのいずれかを選択すると、デフォルトの Web ブラウザが起動し、インターネットを通じて選択したページに接続されます。 |
| [CS Database Editor について] | 現在の CM Admin CSDB Editor に関する情報が表示されます。バージョン番号、CM Configuration Server の情報などは、ここで確認できます。[システム情報] をクリックすると、標準的な Microsoft の [システム情報] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、使用しているマシンを分析して、操作しやすい形式で結果を表示します。 |

CM Admin CSDB Editor のツールバー













CM Admin CSDB Editor のツールバーを使用すると、頻繁に使用する機能に簡単にアクセスできます。

図 9 CM Admin CSDB Editor のツールバー



119 ページの 図 36 では、これらのツールバー ボタンの機能について説明します。

図 36 CM Admin CSDB Editor のツールバー ボタン

| ボタン | 機能 |
|---|--|
|  | 新しい [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウを開きます。 |
|  | [切り取り] |
|  | 選択されたアイテムをコピーします。 |
|  | [貼り付け] |
|  | 選択されたアイテムを削除します。 |
|  | 1 つ上のデータベース レベルを表示します。 |
|  | ツリー ビューに大きなアイコンを表示します。 |
|  | ツリー ビューに小さなアイコンを表示します。CM Admin CSDB Editor のツリー ビューに一度に表示できるアイテムの数を最大限に増やせます。 |
|  | リスト ビューに大きなアイコンを表示します。 |
|  | リスト ビューに小さなアイコンを表示します。CM Admin CSDB Editor のリストビューに一度に表示できるアイテムの数を最大限に増やせます。 |
|  | 縦並びにしてリストビューを表示します。[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューに一度に表示できるアイテムの数を最大限に増やせます。 |
|  | 縦並びにしてリストビューを表示します。縦並びにし、クラス、インスタンスなどの TYPE のカラムを追加してリストビューを表示します。リストビューのアイテム数を最大限に増やすだけでなく、詳細な説明も表示します。 |

[オプション] ダイアログ ボックスを使用して設定を行う

CM Admin CSDB Editor には、[オプション] ダイアログ ボックスが用意されています。このダイアログ ボックスを使用して、CM Admin CSDB Editor の機能の一部をコントロールすることができます。

[オプション] ダイアログ ボックスを開くには、[ビュー] [オプション] の順に選択します。

[オプション] ダイアログ ボックスには、以下の 5 つのタブがあります。

- [全般]
- [インスタンス オプション]
- [詳細]
- [KB AutoImport]
- [通知]

各タブの設定オプションにアクセスするには、そのタブをクリックします。

[全般] タブ

図 10 CM Admin CSDB Editor の [オプション] の [全般] タブ

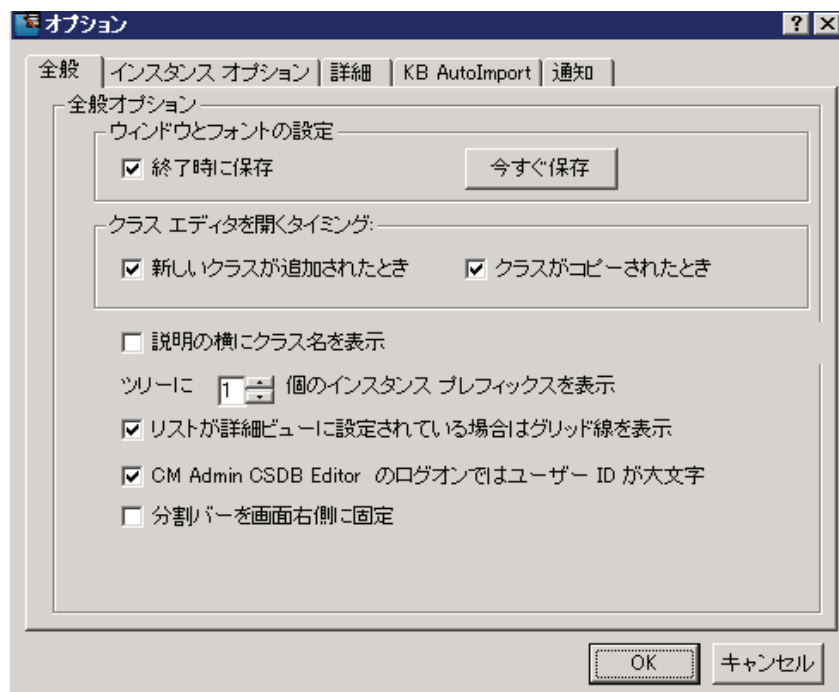


表 37 では、[全般] タブのオプションについて説明します。

表 37 [オプション] の [全般] タブの機能

| オプション | 機能と使用方法 |
|--------------------------------|---|
| [ウィンドウとフォントの設定] | <p>[終了時に保存] チェック ボックスをオンにすると、CM Admin CSDB Editor セッションの終了時に、その時点のウィンドウの設定とテキストの表示に使用されているフォントを記録することができます。</p> <p>ウィンドウの設定には、[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのツリー ビューおよびリストビューに対する表示設定 ([大きいアイコン]、[小さいアイコン]、[一覧]、または [詳細])、各ペインの相対的な幅などがあります。ウィンドウの設定は、CM-CSDB のレベルごとに別々に保存されます。</p> <p>[今すぐ保存] をクリックすると、現在使用しているウィンドウの設定とフォントを保存することができます。</p> <p>フォントは、[ビュー] メニューの [フォント] をクリックすると表示されるダイアログ ボックスからフォントを選択して変更することができます。</p> |
| [クラス エディタを開くタイミング] | <p>[新しいクラスが追加されたとき] チェック ボックスをオンにすると、クラスの追加時に [クラスを編集] ダイアログ ボックスを表示することができます。</p> <p>[クラスがコピーされたとき] チェック ボックスをオンにすると、クラスのコピー時に [クラスを編集] ダイアログ ボックスを表示することができます。</p> <p>新しくコピーされたクラスに対しても追加されたクラスに対しても編集ができるように、これらのチェック ボックスを 2 つともオンにしておくこともできます。</p> |
| [説明の横にクラス名を表示] | <p>このチェック ボックスをオンにすると、ツリー ビューおよびリストビューで、クラスの簡略名の横にその CM 内部名を表示することができます。内部名は簡略名の横にかっこ付きで表示されます。</p> <p>この機能は、通常、リストビューで [詳細] ビューを使用しない場合に便利です。リストビューの [詳細] ビューでは、常に [タイプ] カラムにクラスの内部名が表示されます。</p> |
| [ツリーに n 個のインスタンスプレフィックスを表示] | <p>このオプションは、0、1、2、または 3 に設定できます。これにより、ツリー ビューで折りたたんだり展開したりすることができる、インスタンス名のプレフィックスのレベル数を指定することができます。プレフィックスはアンダースコア文字で区切られます。128 ページの「CSDB Editor の操作」を参照してください。</p> |
| [リストが詳細ビューに設定されている場合はグリッド線を表示] | <p>このチェック ボックスをオンにすると、表示オプションが [詳細] の場合にリストビューにグリッド線を表示します。</p> |

| オプション | 機能と使用方法 |
|--|--|
| [CM Admin CSDB Editor のログオン時にユーザー ID が大文字] | このチェック ボックスをオンにすると、ユーザー ID が自動的にすべて大文字に変換されます。 |
| [分割バーを画面右側に固定] | このチェック ボックスをオンにすると、[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのサイズ変更時に右側の幅を固定することができます。 このチェック ボックスがオフになっている場合にウィンドウのサイズを変更すると、ウィンドウの左側の幅が固定され、右側の幅が変化します。 |

[インスタンス オプション] タブ

図 11 CM Admin CSDB Editor の [オプション] の [インスタンス オプション] タブ

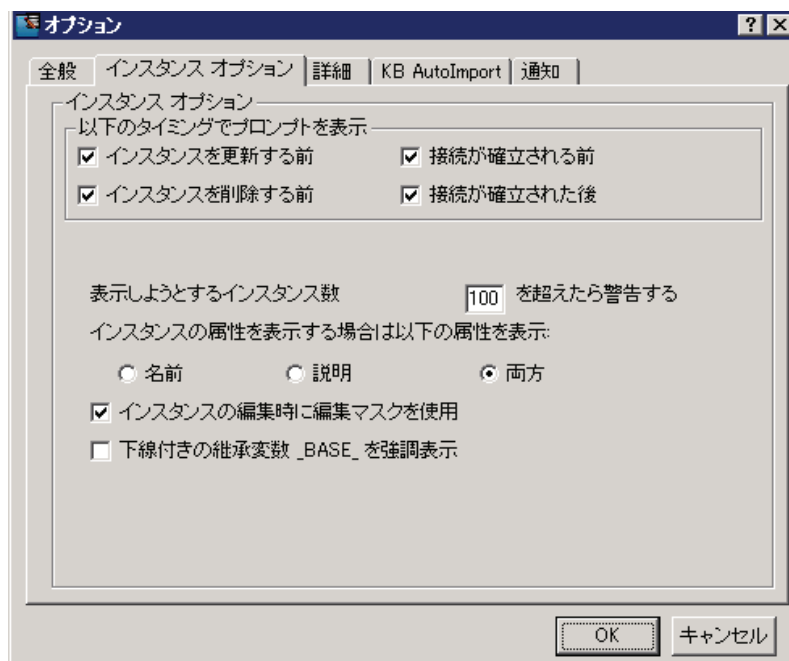


表 38 では、[インスタンス オプション] タブのオプションについて説明します。

表 38 [オプション] の [インスタンス オプション] タブの機能

| オプション | 機能と使用方法 |
|---------------------------------------|---|
| [以下のタイミングでプロンプトを表示] | <p>これら 4 つのチェック ボックスを使用して、その説明で示されているアクションを完了する前に確認のメッセージを表示するかどうかを指定できます。</p> |
| [表示しようとするインスタンス数 n を超えたら警告する] | <p>規模の大きい配布モデルでは、FILE や USER などの特定のクラスに多くのインスタンスが含まれることがあります。このオプションの設定数より多いインスタンスを含むクラスのインスタンスを表示しようすると、次のような警告が表示されます。この警告により、クラス インスタンスが表示される前にそれらをフィルタすることができます。インスタンスの表示数はパフォーマンスに関連しています。あまりに多くのインスタンスを表示しようすると、CM Admin CSDB Editor が CM-CSDB からインスタンスを取得する間待つこととなります。また、操作対象のインスタンスを見つけるのに長いリストをスクロールしなければならなくなります。</p> <p>[クラスをフィルタ] ダイアログ ボックスを表示して、適切なフィルタを入力するには、[はい] をクリックします。</p> <p>すべてのインスタンスを表示するには、[いいえ] をクリックします。</p> <p>インスタンスを表示せずに警告を閉じるには、[キャンセル] をクリックします。</p> |
| [インスタンスの属性を表示する場合は以下の属性を表示] | <p>この設定を使用して、ツリー ビューでインスタンス名をダブルクリックしてインスタンスを表示する場合にウィンドウのリスト ビューの [詳細] ビューで表示されるカラム ([名前]、[説明]、または[両方]) が指定できます。</p> |
| [インスタンスの編集時に編集マスクを使用] | <p>この設定を使用して、[クラスを編集] ダイアログ ボックスのデータ入力領域で属性のタイプを区別するかどうかを指定できます。</p> <p>このチェック ボックスをオンにすると、論理的な ([はい]/[いいえ] など) データを保持する属性の場合、データ入力領域にチェック ボックスが表示されます。複数のオプションがある属性の場合、データ入力領域にドロップダウン リストが表示されます。フラグ セットは、データ入力領域に一連のチェック ボックスとして表示されます。</p> <p>クラス定義で属性の説明の最後にある角かっこ内に属性の有効なオプションを入力することで、マスクを設定することができます。</p> <p>このチェック ボックスをオフにすると、[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスのデータ入力はすべてプレーン テキストで行うこととなります。</p> <p>この機能の詳細については、142 ページの「オプションの属性編集コントロール」を参照してください。</p> |
| [下線付きの継承変数 <code>_BASE_</code> を強調表示] | <p>この設定は、インスタンスのどの値がクラスの <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されているかを確認する場合に使用します。継承されたインスタンスは、赤色の下線付きで表示されます。</p> |



[詳細] タブ

図 12 CM Admin CSDB Editor の [オプション] の [詳細] タブ

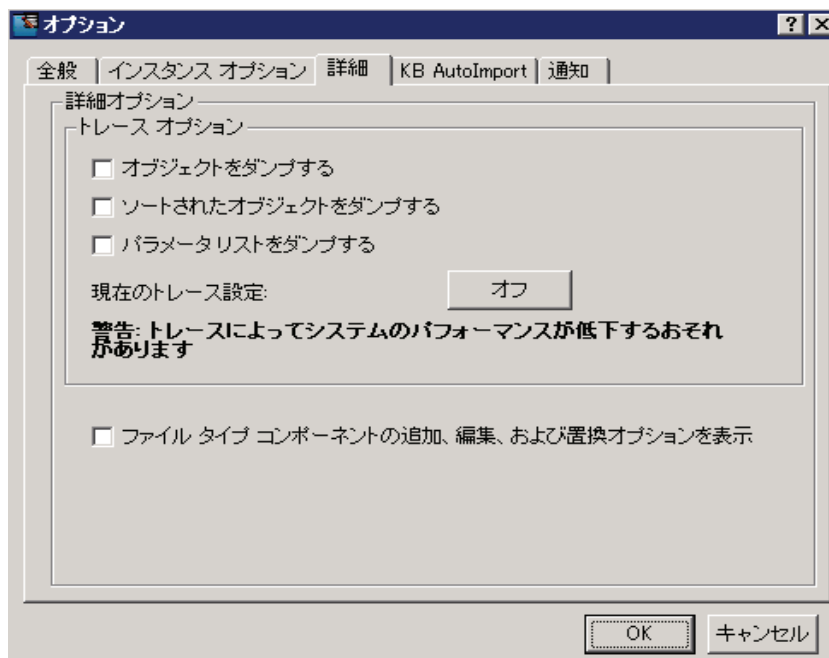



表 39 では、[詳細] タブのオプションについて説明します。

表 39 [オプション] の [詳細] タブの機能

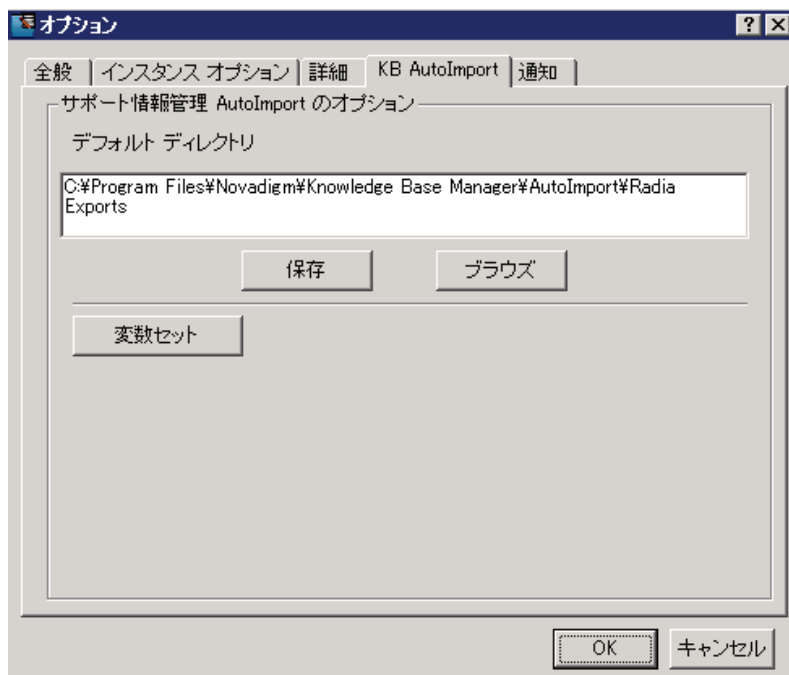
| オプション | 機能と使用方法 |
|--------------|--|
| [トレース オプション] | <p>これらの設定は、CM Admin CSDB Editor のトラブルシューティングを行う場合にのみ使用してください。</p> <p>▶ HP のテクニカル サポートからの指示がない限り、これらの設定は変更しないでください。</p> |

| オプション | 機能と使用方法 |
|--|---|
| [ファイル タイプ コンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示] | <p> これらの設定は、実運用以外の環境でのみ使用してください。 この設定を使用して、ファイルタイプ コンポーネントに対するショートカットメニューで以下のコマンドを表示するかどうかを指定します。</p> <p>[このコンポーネントを編集] [コンポーネント データを置換] [コンポーネントの追加]</p> <p>詳細については、付録 Bの「命名規則」を参照してください。</p> |

[KB AutoImport] タブ

[KB AutoImport] タブ は、HP Configuration Management Knowledge Base Server (CM KB Server) のデフォルトの自動インポート ディレクトリを定義するために使用します。詳細については、『*HP Configuration Management Knowledge Base Server Installation and Configuration Guide*』(CM KB Server Guide)を参照してください。

図 13 CM Admin CSDB Editor の [オプション] の [KB AutoImport] タブ



[KB AutoImport] オプションを指定するには

- 1 CM KB Server データベースに**状態ファイル**をインポートするために使用するデフォルトのディレクトリを指定するか、ブラウズします。デフォルトのロケーションは、CM KB Server.によってインストールされるエクスポート ディレクトリです。このディレクトリには、必要な変数セット サブディレクトリ、\VarSets が含まれます。



エクスポート ディレクトリとして使用されるディレクトリには、という名前のサブディレクトリ\VarSets が含まれている必要があります。

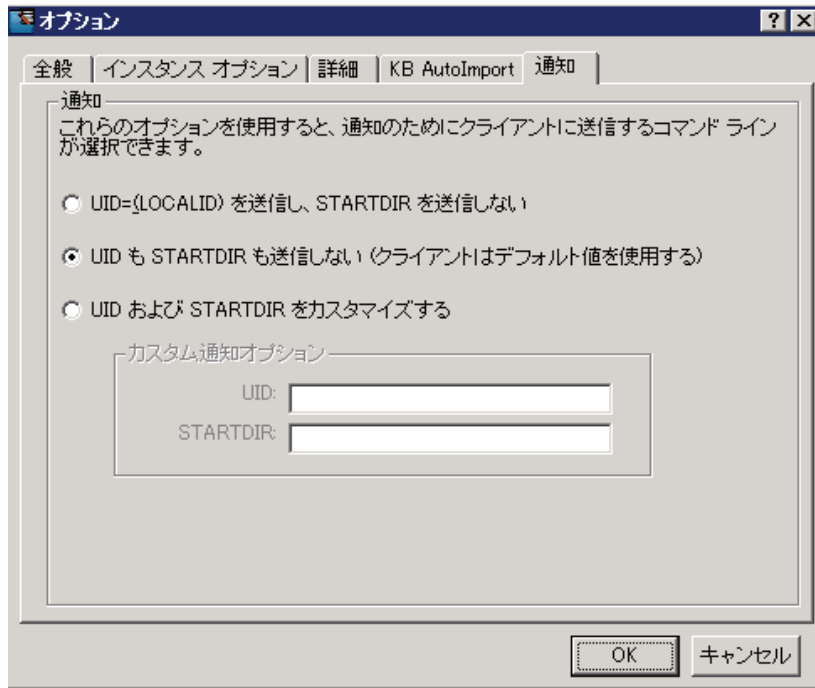
- 2 [KB AutoImport] タブの **[保存]** をクリックすると、指定したデフォルトのディレクトリが CM KB Server のデフォルトの自動インポート ディレクトリに設定されます。

[通知] タブ

[通知] タブを使用すると、通知時にクライアントに送信される、radskman.exe コマンドラインの UID 値と STARDIR 値を指定できます。UID は現在のセッションを特定するために使用され、STARDIR は IDMLIB 開始ディレクトリを指定します。たとえば、**[UID/STARDIR をカスタマイズする]** をクリックすると、現在ログオンしているユーザーの名前ではなく、マシン名でクライアントに通知するための値を入力したり、そのまま使用したりすることができます。

ここで設定した [通知] オプションは Notify Manager によって使用され、127 ページの [図 14](#) に示す [通知オプション] ダイアログ ボックスに表示されます。詳細については、186 ページの「[CM Notify](#)」を参照してください。

図 14 CM Admin CSDB Editor の [オプション] の [通知] タブ



127 ページの表 40 では、[通知] タブのオプションについて説明します。

表 40 [オプション] の [通知] タブの機能

| オプション | 機能と使用方法 |
|--|---|
| [UID=[LOCALID] を通信し、STARTDIR を通信しない] | UID=[LOCALID] を使用する通知コマンドを作成します。このコマンドは、現在ログオンしているユーザーの名前でエージェントに通知します。 マシンの名前でエージェントに通知するには、下の [UID および STARTDIR をカスタマイズする] オプションを使用します。 |
| [UID も STARDIR を通信しない(クライアントはデフォルト値を使用する)] | UID の値も STARTDIR の値も使用しない通知コマンドを作成します。エージェントは、UID および STARTDIR のデフォルト値を使用します。 デフォルト値以外の値を指定するには、下の [UID と STARTDIR をカスタマイズする] オプションを使用します。 |
| [UID および STARTDIR をカスタマイズする] | [カスタム通知オプション] のそれぞれのテキスト ボックスに入力された UID 値および STARTDIR 値を使用する通知コマンドを作成することができます。このオプションを使用すると、マシン名でエージェントに通知したり、適切な開始ディレクトリを指定したりすることができます。 |

| オプション | 機能と使用方法 |
|-------|---|
| | <p>マシン名でエージェントに通知するには、\$MACHINE のカスタム UID 値をそのまま使用します。カスタム値を使用している現在のセッションを特定するために別の UID 値を入力することもできます。</p> <p>マシン コンテキストでアプリケーションに通知したり、アプリケーションをインストールするには、SYSTEM のカスタム STARTDIR 値をそのまま使用します。別の STARTDIR 値を入力することもできます。</p> |

CSDB Editor の操作

CM-CSDB は階層構造となっており、ファイル、ドメイン、クラス、およびインスタンスで構成されています。ツリー ビューでは、階層構造の下位のレベルを順次表示することができ、特定の CM-CSDB を容易に見つけて操作することができます。

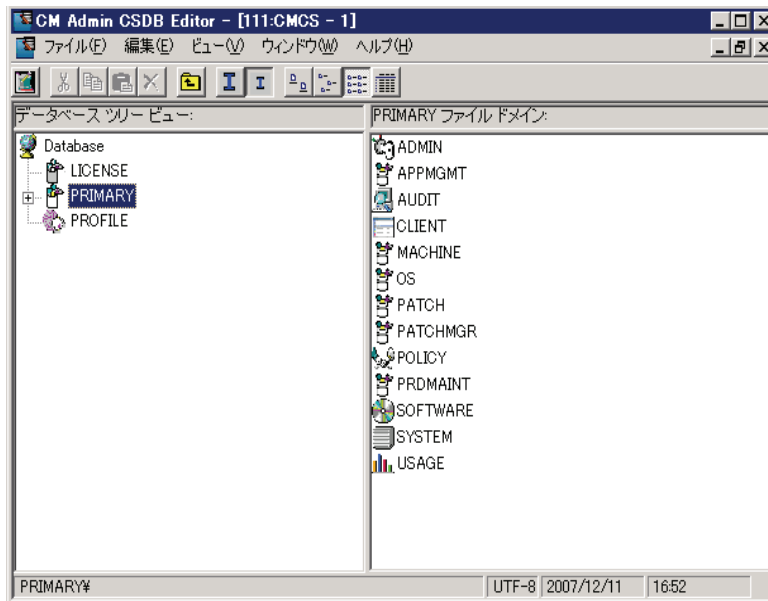
ツリー構造を表示するには

- 1 CM Admin CSDB Editor を開いて、ツリー ビューの **PRIMARY** をダブルクリックします。



PRIMARY ファイル ドメインは、環境にどの CM 製品をインストールしたかに応じて異なります。

次のような [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。



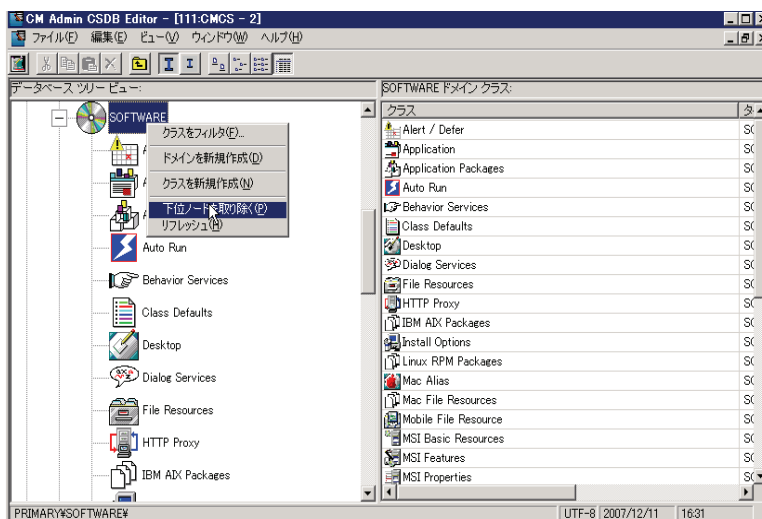
- 2 CM-CSDB コンポーネントを開くには、そのコンポーネントのアイコンをダブルクリックします。

ナビゲーション履歴

CM Admin CSDB Editor のナビゲーション機能は、Windows のエクスプローラのものによく似ています。ただし、特定のコンポーネントの下で以前に開いたブランチの履歴を破棄するには、[下位ノードを取り除く] 機能を使用します。

[下位ノードを取り除く] 機能を使用するには

- 1 ツリー ビューで SOFTWARE ドメインのアイコンを右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。



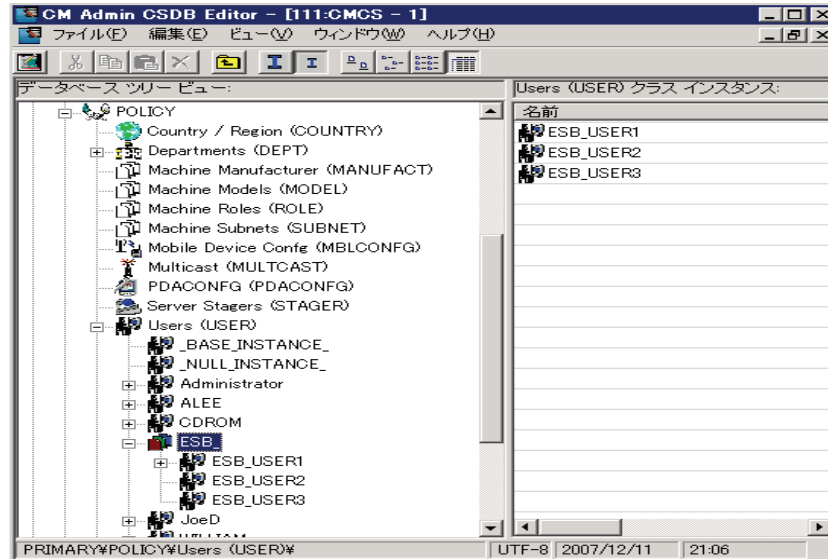
- 2 [下位ノードを取り除く]をクリックします。ツリービューのSOFTWAREドメインの下に展開されているすべてのノードが折りたたまれ、ナビゲーション履歴が破棄されます。

複合名

複合名を使えば、ツリービューのナビゲーションが管理しやすくなります。CMでは、インスタンス名の1、2、または3レベル上の修飾子に基づく、1、2、または3レベルの折りたたみ機能が用意されています。

複合名には、1、2、または3レベルのプレフィックスがあり、それぞれは、アンダースコア文字によって区切られています。たとえば、ユーザーがいるビルを基準にして、ユーザーのグループを作成するとします。これらのユーザーのインスタンス名に、ビルを識別するプレフィックスを付けます。エンパイアステートビルにユーザーがいる場合、そのユーザーを識別するためのインスタンス名のプレフィックスとして“ESB_”を割り当てます。エンパイアステートビルにいる各ユーザーには、ESB_で始まるインスタンス名が割り当てられます。ツリービューによって、自動的にレベルが追加されます。

図 15 複合名



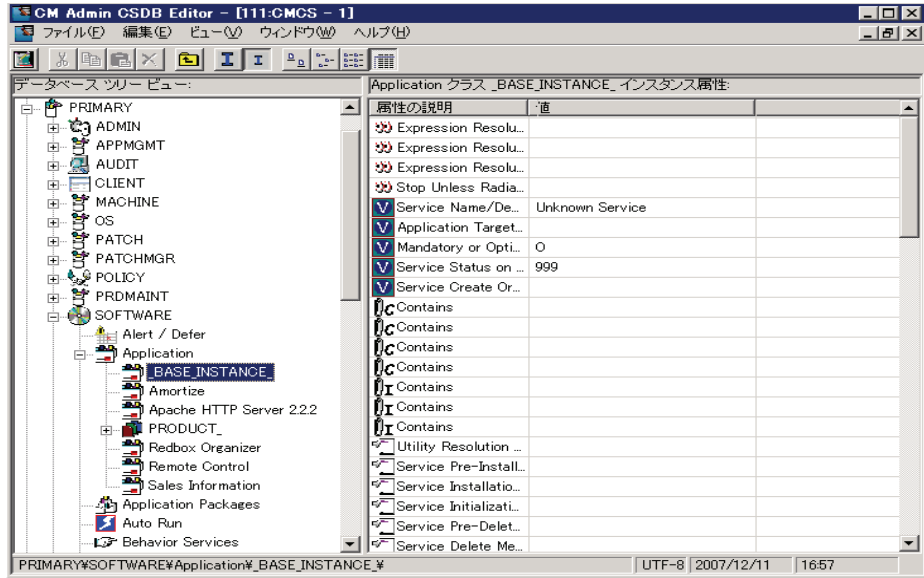
ツリービューに表示されるインスタンス名のプレフィックスのレベル数 (0 ~ 3) は、[ツリーに n 個のインスタンスプレフィックスを表示] オプションで指定します。このオプションは、[ビュー] メニューの [オプション] ダイアログボックスの [全般] タブにあります。[オプション] ダイアログボックスについては、120 ページの「[オプション] ダイアログボックスを使用して設定を行う」を参照してください。

ツリービューのレベルは、インスタンス名の各アンダースコアに対応して区切られます。したがって、インスタンス名 `ESB_FLOOR10_USER1` の場合、プレフィックスのレベル数は 2 となります。[ツリーに n 個のインスタンスプレフィックスを表示] が 2 または 3 に設定されていれば、このインスタンスは 2 つの折りたたみ可能な非要素レベル (ESB およびその下位の FLOOR10) 内に表示されます。

CM-CSDB 内での継承

CM-CSDB の各クラスには、`_BASE_INSTANCE_` というベースインスタンスがあります。これは、クラスの他のインスタンスのデフォルト値となります。インスタンスの属性は、特定の値を割り当てない限り、`_BASE_INSTANCE_` の同じ属性からの値を継承します。

図 16 アプリケーション (ZSERVICE) クラスの _BASE_INSTANCE_



インスタンスに継承された値と、インスタンスに直接入力した値の表示に区別はありません。_BASE_INSTANCE_ を調べることにより、変数の値が _BASE_INSTANCE_ から継承されたかどうかを判別できます。また、変数から値を削除した後（値を削除する方法については、133 ページの「[クラスを操作する](#)」を参照）、値が自動的にインスタンスに再表示された場合、その値は _BASE_INSTANCE_ から継承されています。

ドメイン、クラス、インスタンスを管理する

CM Admin CSDB Editor では、CM-CSDB コンポーネント（ドメイン、クラス、インスタンス）の追加、編集、名前の変更、および削除を行うことができます。また、インスタンス間を接続することもできます。

これらの機能は、[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウで操作対象を右クリックしたときに表示されるショートカットメニューからアクセスできます。表示されるメニューの内容は、右クリックした対象によって異なります。

ドメインを操作する

ここでは、ファイルにドメインを追加する方法について説明します。ドメイン名に入力できる文字数は、半角で 8 文字までです（数字も使用可）。

ファイルにドメインを追加するには

- 1 PRIMARY ファイルまたは任意のドメインを右クリックし、表示されたショートカット メニューの **[ドメインを新規作成]** をクリックします。[ドメインの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 新しいドメインの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。

クラスを操作する

ここでは、クラスの追加、編集、削除を行う方法について説明します。

クラスを追加する

新しいクラスの追加方法は、次のいずれかとなります。

既存のクラスをコピーする

または

クラスを新規作成します。

追加するクラスと実質的に類似する属性を持つクラスが存在するかどうかによって、どちらを選択するかが決まります。該当するクラスがあればそのクラスをコピーし、ない場合はクラスを新規作成します。

クラスをコピーすると、コピーされたクラスと同じ属性を持つ新しいクラスが作成されます。新しいクラスの `_BASE_INSTANCE_` には、コピーされたクラスの `_BASE_INSTANCE_` の属性値が設定されます。

既存のクラスをコピーするには

- 1 コピーするクラスを強調表示して、右クリックします。
- 2 ショートカット メニューの **[クラスのコピー]** をクリックします。[クラスのコピー] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 新しいクラスの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
 - クラスのコピー時にクラス エディタを開くオプションを選択していない場合は (詳細については、120 ページの「[\[オプション\] ダイアログ ボックス](#)を使用して設定を行う」を参照)、コピー元のクラスが新しい名前で作成され、クラス エディタは表示されません。また、警告も表示されません。新しくコピーしたクラスを編集するには、クラス エディタを手動で開く必要があります。
 - クラス エディタを開くように選択した場合には、クラス エディタが表示されます。136 ページの「[クラスを編集する](#)」を参照してください。



- 4 コピーしたクラスの追加を完了するには、[説明] フィールドを変更して新しいクラスを特定することができるようにし、クラスを編集して新しいクラスの要件を反映してから **[OK]** をクリックします。

[クラスの編集の確認] 警告メッセージが表示され、続ける前に、データベースのバックアップを取るように警告されます。

- 5 **[はい]** をクリックします。新しいクラスが追加されます。



[クラスの編集の確認] 警告メッセージに対し **[いいえ]** または **[キャンセル]** を選択した場合には、クラス エディタは閉じますが、クラスのコピーは完了しません。

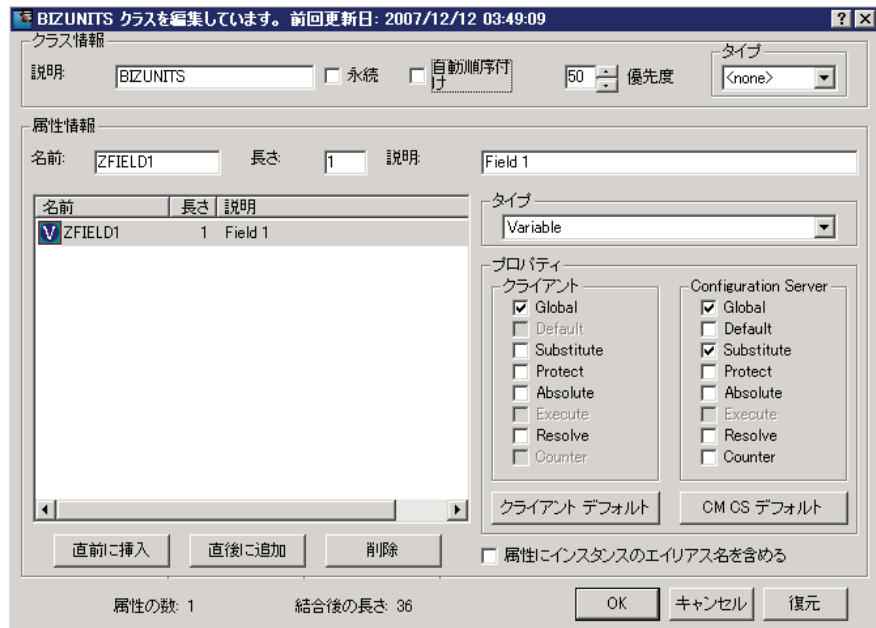
クラスを作成した後で削除する場合には、146 ページの「[クラスを削除する](#)」を参照してください。

クラスを作成したら、MASTER_CONNECTION_RULES 変数をチェックして、そのクラスにドラッグ アンド ドロップ規則を設定する必要があるかどうか決めてください。接続規則およびドラッグ アンド ドロップ接続の詳細については、197 ページの「[CM-CSDB で接続規則を維持する](#)」を参照してください。

新しいクラスを作成するには

- 1 新しいクラスを作成するドメインを強調表示します。

- 2 ドメイン名を右クリックします。
- 3 ショートカットメニューの **[クラスを新規作成]** をクリックします。[クラスの作成] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 新しいクラスの名前 (BIZUNITS など) を入力し、**[OK]** をクリックします。
 - クラスのコピー時にクラス エディタを開くオプションが有効でない場合 (詳細については、120 ページの「**[オプション] ダイアログボックス**」を使用して設定を行う) を参照)、コピー元のクラスが新しい名前で作成されます。クラス エディタは開かれず、警告は出されません。新しくコピーしたクラスを編集するには、クラス エディタを手動で開く必要があります。
 - クラス エディタを開くオプションが有効な場合には、クラス エディタが開きます。136 ページの「**クラスを編集する**」を参照してください。



- 5 コピーしたクラスの追加を完了するには、[説明] フィールドを変更して新しいクラスを特定することができるようにし、クラスを編集して新しいクラスの要件を反映してから **[OK]** をクリックします。
 [クラスの編集の確認] 警告メッセージが表示され、続ける前に、データベースのバックアップを取るように警告されます。
- 6 **[はい]** をクリックします。新しいクラスが追加されます。



[クラスの編集の確認] 警告メッセージに対し [いいえ] または [キャンセル] を選択した場合には、クラス エディタは閉じますが、クラスのコピーは完了しません。

クラスを作成した後で削除する場合には、146 ページの「[クラスを削除する](#)」を参照してください。

クラスを作成したら、MASTER_CONNECTION_RULES 変数をチェックして、そのクラスにドラッグ アンド ドロップ規則を設定する必要があるかどうか決めてください。接続規則およびドラッグ アンド ドロップ接続の詳細については、197 ページの「[CM-CSDB で接続規則を維持する](#)」を参照してください。

クラスを編集する

ショートカット メニューの [クラスを編集] を選択したとき、または新しいクラスを追加したとき (133 ページの「[クラスを追加する](#)」を参照) に、[クラスを編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

クラスを編集するには

- 1 ツリー ビューで **Departments** クラスを右クリックし、表示されたショートカット メニューの [クラスを編集] をクリックします。[クラスを編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

DEPT クラスを編集しています。前回更新日: 2000/12/11 11:49:59

クラス情報
説明: Departments 永続 自動順序付け 50 優先度 <none> タイプ

属性情報
名前: ACCTNO 長さ: 12 説明: Account Number

| 名前 | 長さ | 説明 |
|---------|----|---------------------------|
| ACCTNO | 12 | Account Number |
| ALWAYS_ | 50 | Offers |
| ALWAYS_ | 50 | Offers |
| ALWAYS_ | 50 | Offers |
| ALWAYS_ | 50 | Offers |
| ALWAYS_ | 50 | Offers |
| ALWAYS_ | 51 | Utility Resolution Method |
| NAME | 80 | Friendly name |

タイプ: Variable

プロパティ

クライアント

- Global
- Default
- Substitute
- Protect
- Absolute
- Execute
- Resolve
- Counter

Configuration Server

- Global
- Default
- Substitute
- Protect
- Absolute
- Execute
- Resolve
- Counter

クライアント デフォルト CM CS デフォルト

属性にインスタンスのエイリアス名を含める

直前に挿入 直後に追加 削除

属性の数: 9 結合後の長さ: 758

OK キャンセル 復元

- 2 ダイアログ ボックスの上部にある [クラス情報] の各プロパティを設定します。

【説明】

クラスおよびその用途を説明する簡略名です。ツリー ビューで、クラスのアイコンの横にこの名前が表示されます。

【永続】

このプロパティは、CM の解決プロセスを十分に理解している管理者だけが使用します。

永続クラスとは、解決プロセスの実行中、その属性およびオブジェクトがグローバル メモリに保持されるクラスです。永続クラスから作成されたインスタンスは、CM Agent のデスクトップに保存できます。

永続クラスでないクラスは、一時クラスといいます。一時オブジェクトは、解決の過程で処理されるときにしか存在しません。一時クラスから作成されたインスタンスは、CM Agent のデスクトップに保存できません。

永続オブジェクトと一時オブジェクト、およびこれらのオブジェクトが解決プロセスで扱われる方法の詳細については、『*CM Essentials Guide*』の解決についての説明を参照してください。

【自動順序付け】

属性の解決は通常、属性リストでの表示順に従って実行されます。『*CM Essentials Guide*』の解決についての説明を参照してください。

このチェック ボックスをオンにするとクラスの属性が以下のようにグループ化され、解決時の処理順が決まります。

- 式
- 変数
- クラス (接続)
- メソッド

【優先度】

このフィールドには、00 ~ 99 の半角 2 文字の値が設定できます。オブジェクトの解決時に、CM Configuration Server によって ZOPJPRI 変数にこの値が代入されます。このフィールドの値がゼロに設定されている場合、または値が設定されていない場合は、そのクラスに対して指定されているデフォルト値が代入されます。各クラスのデフォルト値は以下のとおりです。

| | |
|----------|----|
| PATH | 5 |
| REGISTRY | 60 |
| DESKTOP | 70 |
| FILE | 50 |
| METACLAS | 10 |
| ZSERVICE | 50 |

MACALIAS 70
 その他すべて 50

[タイプ]

クラスを用途と目的に従って分類します。この分類は、解決プロセスに影響を与えます。たとえば、エージェント コンピュータに CM サービスリストを格納するための解決では、[コンポーネント] に分類されたクラスは処理されません。

ドロップダウン リストから選択できる値は以下のとおりです。

[<none>] — このクラスは分類されません。



[Configuration] — このクラスは、エージェント コンポーネント上で CM によって管理されるコンテンツを集計レベルで指定します。通常、このクラスのインスタンスには、配布可能なデータは含まれません。これらは、1 つまたは複数のコンポーネント クラスに接続されます。例:ZSERVICE、PACKAGE、VGROUP、VERSION など。




[Component] — このクラスは、設定クラスのインスタンスによって指定されるコンテンツを構成するアイテム(ファイル、レジストリ エントリ、リンク、アイコンなど)を特定します。通常、このクラスのインスタンスには、配布可能なデータが含まれます。例:FILE、REGISTRY、および DESKTOP。

[Policy] — このクラスは、1 台のエージェント コンピュータまたはグループを特定します。通常、ポリシー クラスのインスタンスは、別のポリシー クラスのインスタンス、または設定クラスのインスタンスのいずれかに接続されています。

- 3 属性の定義を変更するには、属性リストでその属性の名前をクリックして強調表示します。[属性情報] の各テキスト ボックスに、強調表示されている属性の名前、長さ、および説明が表示されます。[タイプ] ボックスには、その属性のタイプが表示されます。
- 4 [属性情報] データ入力フィールドに変更内容を入力し、[タイプ] オプションをクリックして属性のタイプを設定します。クラスの属性は、表 41 で説明する 4 つのタイプのいずれかとなります。

表 41 クラスの属性のタイプとその機能


| 属性のタイプ | 使用方法 |
|---|---|
| 式  | 解決時に実行される 1 行の REXX コマンドが格納されます。ZSTOP という属性で、式が「true」と評価されると、現在のインスタンスの解決が終了されます。 |
| 変数  | 変数値を保持する、名前の付けられた格納場所です。変数の値は、エージェントの解決済みのあるべき姿の一部であり、メッセージングやシンボリック置換を介して解決プロセスに影響を与えます。 |
| 接続 (使用可能) | クラス接続によって、エージェント接続プロセスにおいて、エージェントのあるべき姿の |

| 属性のタイプ | 使用方法 |
|--|---|
|  <p>接続 (設定済み)</p>  <p>注意:アイコン内の文字は、以下の接続タイプを意味します。</p> <p>A – 常時 C – クラス I – インクルード R – 必須</p> | <p>解決に使用するパスが特定されます。</p> <p>使用可能な接続とは、別のクラスへの接続が設定できる属性のことです。</p> <p>設定済みの接続とは、別のクラスへの接続が既に指定されている属性のことです。</p> <p>クラス接続は、実際には解決プロセスの一部です。『<i>CM Essentials ガイド</i>』の「解決プロセス」を参照してください。</p> <p>常時接続 は、属性の名前に関係なく常に解決されます。</p> <p>クラス接続は、属性の名前が <code>_ALWAYS_</code> の場合、またはシステム メッセージの現在の値と一致する場合に解決されます。</p> <p>インクルード接続は、属性の名前に関係なく常に解決されます。</p> <p>必須接続では、必須のインスタンスおよびその子のインスタンス名が、それを必要とするインスタンスおよびその子のインスタンス名と一致する場合、前者のインスタンスの解決は行われません。</p> <p>必須接続タイプとインクルード接続タイプは、パッケージ間の関係を表し、PACKAGE クラスのインスタンスを接続する場合に、他の接続タイプよりも便利に使用できます。</p> <p>あるパッケージが別のパッケージを必要とする場合、必須のパッケージのコンポーネントはそれを必要としているパッケージのコンポーネントに上書きされます。</p> <p>あるパッケージが別のパッケージをインクルードする場合は、どちらも単独のエンティティとして配布されます。</p> |
| <p>メソッド</p>  | <p>メソッドは、解決プロセスの一部として実行されるプログラムですメソッド属性によって、実行するプログラムが特定されます。</p> |

変更を行うと、その変更が直ちに属性リストに反映されます。

- 5 **【プロパティ】** の各チェック ボックスは、属性のタイプに応じてオンまたはオフにできます。

エージェントのプロパティ

 CM エージェントのプロパティは、[保護] と [実行] 以外はすべて将来の拡張用に予約済みです。デフォルト値以外に設定しないでください。

CM エージェント保護プロパティを選択すると、エージェント コンピュータのオブジェクトに格納された属性の値が暗号化されます。

CM エージェント実行プロパティを選択すると、実行対象のメソッドはエージェント コンピュータで実行されます。このプロパティはメソッド属性にのみ適用されます。

Configuration Server のプロパティ

次の表は、Configuration Server プロパティの意味を示しています。

グローバル

一時クラスの変数に設定した場合、解決の過程で一時オブジェクトが消滅する前に、子オブジェクトから親オブジェクトへのその変数の移動（フロー）が許可されます。

デフォルト

CM 内部で使用され、CM 管理者は使用できません。一時クラス オブジェクトのデフォルト値が、親の永続クラス オブジェクトに反映されるのを妨げます。

置換

変数の値のシンボル（他の変数への参照で、アンパサンドで始まる）に対しシンボリック置換が行われます。このチェック ボックスをオフにすると、変数の値はリテラル テキストとして扱われ、シンボリック置換は行われません。

置換プロパティは、CM Configuration Server の GET オペレーション（たとえば、REXX プログラムによる EDMGET 関数の呼び出し）の結果として変数が作成された場合に、シンボリック置換を行うかどうかを指定します。EDMGET によって取得されたオブジェクトの変数にシンボルが含まれ、オブジェクトが作成されたときに [置換] チェック ボックスがオンになっていると、その変数が領域内に作成されるときに置換が行われます。

たとえば、シンボリック置換の実行時に ZMASTER オブジェクトの ZUSERID 属性の値が WILLIAM の場合、式 &(ZMASTER.ZUSERID) がシンボリック置換の後に WILLIAM になります。

保護

解決の実行時に属性の値が暗号化されることを示します。解決の実行中、属性値は暗号化形式でメモリに格納されますが、CM-CSDB にはプレーン テキストとして格納されません。

絶対

永続クラスの変数に設定した場合、一時クラスからインスタンス化された子オブジェクトの変数は、親オブジェクトの同じ名前の変数の値を上書きしません。

実行

属性の値によって、CM Configuration Server で実行されるメソッドが特定されることを示します。

解決

変数の値のシンボル（他の変数への参照で、アンパサンドで始まる）に対しシンボリック置換が行われます。このプロパティのチェック ボックスをオフにすると、変数の値はリテラル テキストとして扱われ、シンボリック置換は行われません。

解決プロパティは、オブジェクトに変数が格納される時(たとえば、クラス インスタンスが CM-CSDB データベースから取得され、オブジェクトとして領域内でインスタンス化される時)に、シンボリック置換を行うかどうかを指定します。

カウンタ

変数に CM Configuration Server で累積される整数が格納されることを示します。累積合計は、すべての親永続オブジェクトの変数と同じ名前の変数に格納されます。

たとえば、あるサービス用に配布するすべてのリソースの非圧縮サイズの合計を計算し、その結果を ZSERVICE オブジェクトに格納するタスクにこのプロパティを使用するとします。FILE クラスの ZRSCSIZE 変数に対してこのチェック ボックスをオンにすると、ZSERVICE オブジェクトに ZRSCSIZE 変数が追加されます。この変数は、サービスのすべての FILE インスタンスの ZRSCSIZE 値の合計を保持します。ユーザーに対する全サービスのリソースの合計サイズが、そのユーザーの ZMASTER オブジェクトの ZRSCSIZE 変数に自動的に格納されます。FILE クラス テンプレートの ZRSCSIZE 変数に対して、[カウンタ] チェック ボックスをオンにすると、ZSERVICE オブジェクトと ZMASTER オブジェクトの ZRSCSIZE 変数が、CM Configuration Server によって自動的に作成および管理されます。

クラス テンプレートの変数の定義でこのプロパティを選択することにより、整数を格納する変数は累積の対象となり、親永続オブジェクトに格納されます。たとえば、FILE クラスの ZCMPFSIZE 変数でこのチェック ボックスをオンにすると、サービス用に配布されるリソースの圧縮サイズの合計が計算されます。

[プロパティ] グループ ボックスの下部にあるデフォルト ボタンをクリックすると、選択した(強調表示された)属性のプロパティの設定がデフォルト値にリセットできます。

クラスに属性を追加するには

- 1 新しい属性を追加するには、最初に属性リストで、属性を挿入する位置を決めます。説明しているとおり、[自動順序付け] チェック ボックスがオンになっていないかぎり、属性は解決時に属性リストの表示順に処理されます。
- 2 挿入先の前または後となる属性をクリックし、強調表示します。強調表示されている属性の直前に新しい属性を挿入する場合は **[直前に挿入]** を、直後に挿入する場合は **[直後に追加]** をクリックします。強調表示されている属性の直前に新しい属性を挿入する場合は **[直前に挿入]** を、直後に挿入する場合は **[直後に追加]** をクリックします。
- 3 [属性情報] データ入力フィールドに、名前、長さ、説明を入力し、[タイプ] ボックスの一覧から目的の属性のタイプを選択します。属性名に入力できる文字数は、半角で 8 文字までです。属性名に入力できる文字数は、半角で 8 文字までです。

属性名によっては、解決プロセスに影響を与える場合があります。一時クラスからインスタンス化された子オブジェクトの変数の値は、永続クラス内で表される、親オブジェクトの同じ名前の変数の値に取って代わることができます。メソッド属性またはクラス接続属性の

名前に応じて、メソッドおよびクラス接続が条件付きで実行される場合と無視される場合があります。属性の名前が `_ALWAYS_` であれば、メソッドまたはクラス接続は無条件に実行されます。それ以外の場合でメソッドまたはクラス接続が実行されるのは、属性の名前がシステム メッセージの現在の値と同じ場合のみです。詳細については、『CM Essentials Guide』を参照してください。

属性の長さは文字数で指定します。属性の値の最大文字数と同じかまたはそれ以上の数を入力します。接続属性およびメソッド属性に設定する値は、通常は 50 で十分です。変数属性に必要な長さは、その変数に格納されるデータによって異なります。

入力した説明は、このクラスのインスタンスを編集するときに [インスタンスを編集] ダイアログ ボックスの [属性の説明] カラムに表示されます。明確な説明を入力しておけば、後でクラスのインスタンスを編集する人にとってわかりやすくなります。変数属性には、その変数属性に格納されるデータを明確に特定する説明を入力します。クラス接続には、「Connect to」と入力するか、または目的を表す説明を入力します。メソッドおよび式の場合は、そのメソッドまたは式の目的を表す説明に入します。

- 4 属性の値を CM Admin CSDB Editor での表示名として設定するには、属性を選択してから **[属性にインスタンスのエイリアス名を含める]** チェックボックスをオンにします。これは通常 Name (簡略名) 属性に設定されます。この設定が可能な属性は、各インスタンスにつき 1 つのみです。

オプションの属性編集コントロール

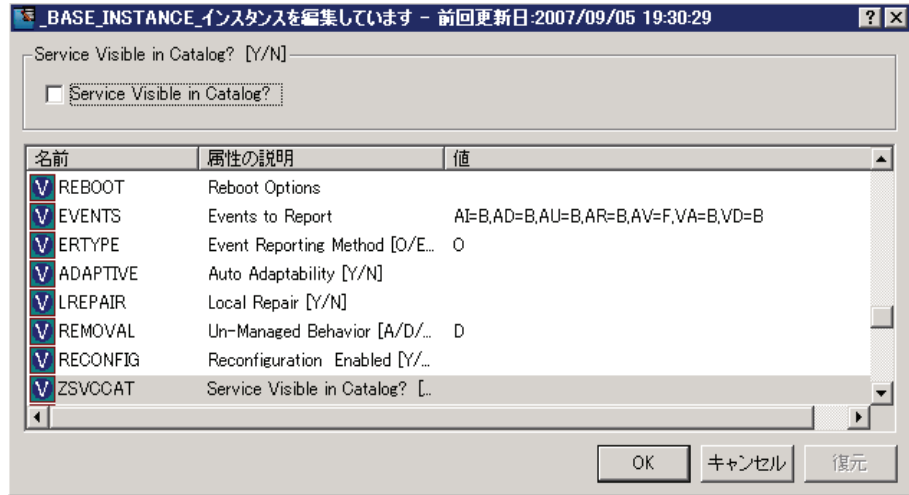
変数属性の [属性の説明] を利用して、[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスでその変数属性を入力または編集する場合に表示されるコントロールが指定できます。通常、変数属性はテキスト ボックスにフリー テキストで入力または編集します。これは、単独のフラグ (yes/no フィールド) を示すチェック ボックス、フラグ セット (複数の単一文字で構成されるフィールド) を示すチェック ボックスのセット、または事前に定義された値のリストから任意の値を選択する、変数のドロップダウン リストに変更できます。

この機能を有効にするには、[オプション] ダイアログ ボックスの [インスタンス オプション] タブで、[インスタンスの編集時に編集マスクを使用] チェック ボックスをオンにします。(詳細については、123 ページの [表 38](#) を参照してください)。

フラグ属性

フラグ属性は 1 文字のフィールドで、値は [Y] または [N] です。インスタンスのフラグ属性を入力または編集する場合にチェック ボックスが表示されるようにするには、143 ページの [図 17](#) のようにクラス テンプレートで属性の説明の最後に [Y/N] を付ける必要があります。

図 17 フラグ属性に [Y/N] を含む ZSVCCAT 変数



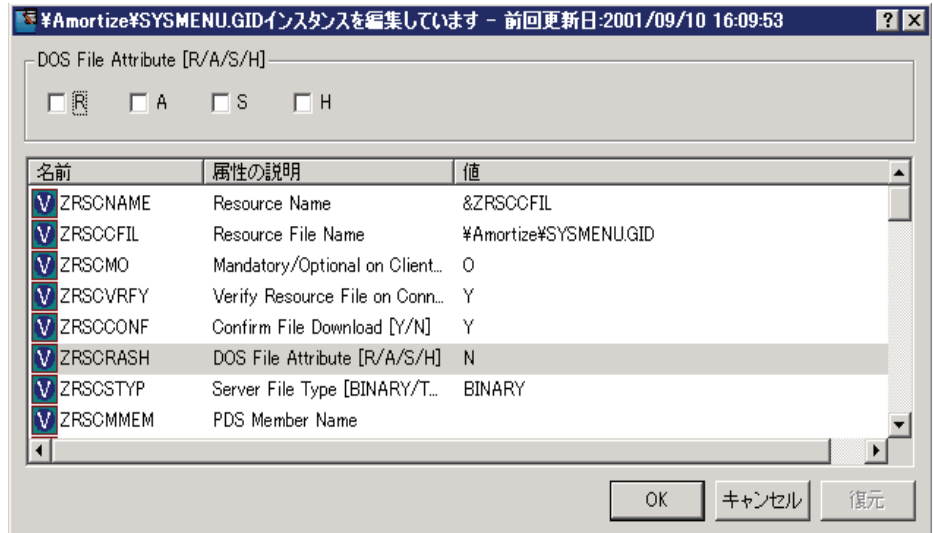
ZSVCCONF 属性の長さは 1 文字で、[属性の説明] には、最後に [Y/N] が付いた「Service Visible in Catalog? [Y/N]」が表示されています。したがって、この変数の入力または編集を行う場合にはチェック ボックスが表示されます。

フラグ セット属性

フラグ セット属性は 2 文字以上のフィールドで、ゼロまたは 1 つ以上の単一文字フラグで構成される値を格納します。フラグがオンの場合、そのフラグに関連付けられた文字値がフラグ セット文字列に表示されます。フラグがオフの場合、そのフラグに関連付けられた文字値はフラグ セット文字列に表示されません。フラグ セット文字列に何も表示されない場合は、そのフラグ セットにオンのフラグがないことを意味します。

たとえば、特定のファイルの DOS ファイル属性のフラグ セットは、FILE クラスの ZRSCRASH 属性に格納されています。この 4 文字長の属性は、ファイルをユーザーのデスクトップに配布するときに、FILE インスタンスに関連付けられたそのファイルの DOS ファイル属性 (R = 読み取り専用、A = アーカイブ、S = システム、H = 非表示) のうちどれをオンにするかを示す文字列を格納します。インスタンスのこの属性を編集するときは、144 ページの 図 18 のように表示されます。

図 18 単一文字オプション セットが入力された属性



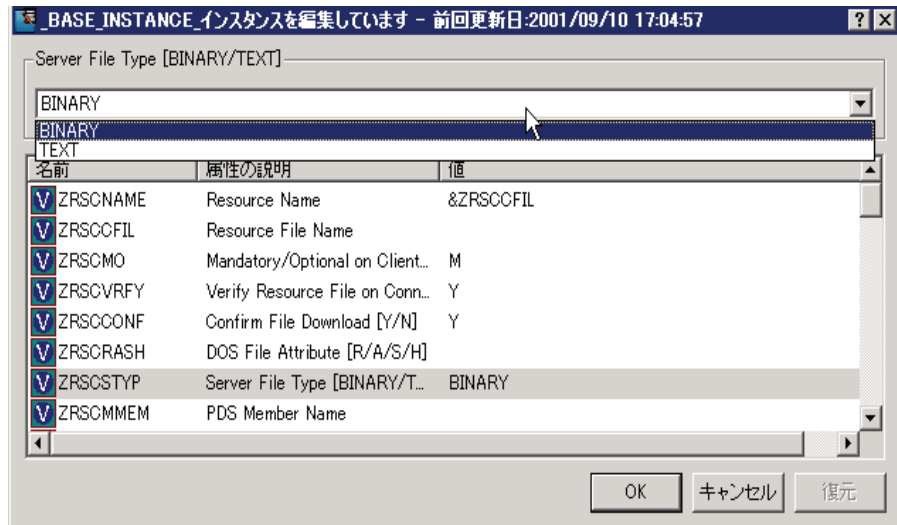
[属性の説明] の最後にスラッシュ区切りの複数の単一文字オプションが入力されていて、オプションの数が属性の長さとも一致している場合（上の ZRSCRASH 属性を参照）、その属性はフラグ セットとして扱われます。[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスには、フラグ セットの使用可能な各値に対応するチェック ボックスが表示されます。任意のチェック ボックスをオンにすると、それに関連付けられた値が属性に挿入されます。

ドロップダウン リスト

クラステンプレートで属性の説明の最後に、角かっこで囲まれたスラッシュ区切りの複数のオプションが入力されている場合、属性の入力または編集にドロップダウン リストが表示されます。

たとえば、145 ページの 図 19 は、FILE クラスの ZRSCSTYP 属性が [属性の説明] に 2 つのオプションを備えていることを表示します。角かっこで囲まれたスラッシュ区切りの複数のオプションが最後に付加された [属性の説明]（属性の編集にドロップダウン リストが表示される）。

図 19 ZRSCSTYP 属性



- 1 クラスに変更を加えるときに、変更をやり直したくなる場合も想定されます。クラスの編集中に変更が行われると、[復元] が選択可能になります。このボタンをクリックすると、[クラスを編集] ダイアログ ボックスが表示されてからそのクラスに対して行った変更を破棄できます。

[復元の確認] メッセージが表示されます。

- [はい]をクリックして、クラスの変更内容を破棄し、編集を再開します。
- 変更内容を破棄せずに確認ダイアログ ボックスを閉じる場合は[いいえ]をクリックします。

- 2 クラスの編集が完了したら、[OK]をクリックして変更を保存し、[クラスを編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

— クラスの属性名または説明が入力されていない場合や、属性の長さがゼロの場合には、警告メッセージが表示されます。

— 属性名および説明が入力されていて、属性の長さがゼロでなければ、[クラスの編集の確認] メッセージが表示されます。先に進む前にデータベースをバックアップするように警告します。

- 3 [はい]をクリックすると、クラスの既存のインスタンスがすべて更新されます。

[いいえ]をクリックすると、クラスに対する変更が破棄され、インスタンスの更新は行われません。

[キャンセル]をクリックすると、[クラスを編集] ダイアログ ボックスに戻ります。

クラスを削除する

クラスとそのすべてのインスタンスを削除するには

- 1 CM Admin CSDB Editor ツリー ビューのクラスを右クリックします。
- 2 表示されたショートカット メニューの[クラスを削除]をクリックします。[削除の確認] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 クラスおよびそのすべてのインスタンスを削除する場合は、[OK]をクリックします。
削除を行わずにメッセージを閉じる場合は [キャンセル]をクリックします。

インスタンスを操作する

管理者が行う操作の大部分は、さまざまなクラスのインスタンスの追加、編集、削除、およびインスタンスの接続の設定や削除です。

命名インスタンス

CM-CSDB 内のインスタンスを命名するときには、次のガイドラインを参照してください。

表示および印刷可能な文字を使用してください。

ピリオド (.) を使用しないでください。ピリオドは、CM-CSDB 内の完全修飾インスタンスのファイル、ドメイン、クラス、およびインスタンス名 (F.D.C.I) を区切るために使用される予約文字です。

次のような、オペレーティング システムのファイル システムまたはコマンド シェルに対して特別な意味を持つ特殊文字を使用しないでください。

`\ | / ; < > * ? ` " ' , () &`

シーケンス アンダースコアを使用しないでください。この予約シーケンスは、CM-CSDB 内のグループ リソースを示します。

空白、CR (キャリッジ リターン)、LR (ライン リターン)、またはタブなどの埋め込みスペースまたは制御文字を使用しないでください。

簡略なインスタンス名

簡略なインスタンス名は、インスタンス名とは異なる制限を持ちます。表示および印刷可能な文字を使用してください。スペースおよびその他の特殊文字は許可されます。混同を避けるため、HP では簡略名にピリオドを使用することを推奨します。

インスタンスを追加する

新しいインスタンスを追加するには既存のインスタンスをコピーするか、またはインスタンスを新規作成してから追加することができます。追加するクラスと実質的に類似する属性を持つクラスが存在するかどうかによって、どちらを選択するかが決まります。該当するクラスがあればそのクラスをコピーし、ない場合はクラスを新規作成してから追加します。

インスタンスをコピーする

インスタンスをコピーすると、コピーされたインスタンスと同じ属性値を持つ新しいインスタンスが作成されます。

既存のインスタンスをコピーするには

- 1 ショートカット メニューの **[インスタンスをコピー]** をクリックします。[インスタンスをコピー] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 新しいインスタンスの表示名 (簡略名) およびインスタンス名を入力し、**[OK]** をクリックします。

インスタンスが作成され、[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのツリー ビューとリスト ビューの両方に表示されます。

作成されたインスタンスをツリー ビューで選択して開いたときに、簡略名はツリー ビューに、インスタンス名 (内部名) はリスト ビューのタイトル バーに表示されます。

インスタンスを追加する

インスタンスを新規作成すると、クラスの `_BASE_INSTANCE_` で設定されている属性値を持つインスタンスが作成されます。

新しいインスタンスを追加するには

- 1 ショートカット メニューの **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。[インスタンスの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 表示名 (簡略名) およびインスタンス名を入力し、**[OK]** をクリックします。

インスタンスが作成され、[CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのツリー ビューとリスト ビューの両方に表示されます。

簡略名はツリー ビューに、インスタンス名 (内部名) は [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューのタイトル バーに表示されます。

新しいインスタンスの属性値を編集できるようになります。

インスタンスを編集する

この節では、単一のインスタンスを編集する方法について説明します。

インスタンスを編集するには

- 1 ショートカット メニューの[インスタンスを編集]をクリックするか、または [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューで属性の名前をダブルクリックします。[インスタンスを編集]ダイアログ ボックスが表示されます。




ダイアログ ボックスには、インスタンス内の属性およびその現在の値の一覧が表示されます。強調表示された属性が、ダイアログ ボックスの上部のデータ入力フィールドで編集可能な状態となっています。

- 2 ダイアログ ボックスの上部にあるテキスト ボックスに値を入力します。

CM Admin CSDB Editor がクラステンプレート内の属性の説明の仕様に基づいて、特定の属性に対してどの編集コントロールを使用するかを決定する方法については、142 ページの「オプションの属性編集コントロール」を参照してください。

- 3 別の属性を選択して強調表示するには、その属性の名前をクリックします。
- 4 変更するそれぞれの属性の編集を続行します。
- 5 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。



[オプション] ダイアログ ボックスの [インスタンス オプション] タブで、[インスタンスを更新する前] チェック ボックスをオンにすると、[インスタンスの編集の確認] メッセージ ボックスが表示されます (122 ページの  11 を参照してください)。

- 6 [インスタンスの編集の確認] メッセージ ボックスが表示されます。

- **[はい]** をクリックすると、インスタンスの更新が完了します。
- **[いいえ]** をクリックすると、インスタンスに対する変更が破棄され、CM Admin CSDB Editor のメイン ウィンドウに戻ります。
- **[キャンセル]** をクリックすると、[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスに戻ります。

接続属性の編集時には、クラス接続の手動編集についての警告がダイアログ ボックスの下部に表示されます。接続の値の入力は複雑になる場合があり、1 つでも入力ミスがあると、解決の実行時に予期せぬ結果が生じる可能性があります。クラスの属性を接続するときは、ドラッグ アンド ドロップ メソッドを行うことをお勧めします。

複数のインスタンスを編集する

CM Admin CSDB Editor では、1 回の操作で複数のインスタンスが編集できます。

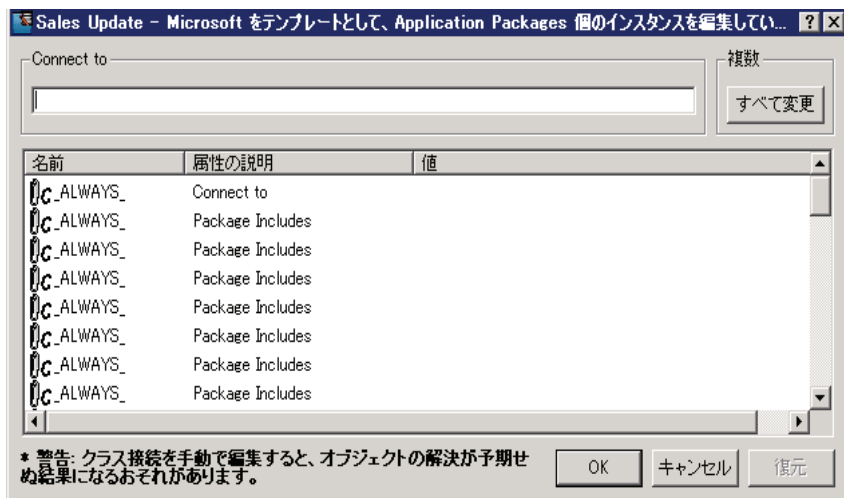
複数インスタンスの編集は、選択したインスタンスのセットに対して行われます。選択したインスタンスのうち 1 つをテンプレートとして使用します。[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスには、テンプレート インスタンスの値が表示されます。テンプレート インスタンスの値を変更すると、選択したインスタンス セット全体にその変更が適用されます。変更は、変更操作を確認してダイアログ ボックスを終了した後で CM-CSDB に保存されます。

複数インスタンスの編集を開始および実行するには

- 1 [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューからインスタンスを選択します。
インスタンスを 1 つクリックして選択します。
 - 選択したセットにインスタンスを 1 つ追加するには、**Ctrl** キーを押しながらかlickします。
 - または
 - 選択したセットに複数のインスタンスを範囲選択して追加するには、**Shift** キーを押しながらかlickするか、または **Ctrl** キーと **Shift** キーを押しながらかlickします。選択したインスタンスは、次のように強調表示されます。

| 名前 | インスタンス名 | タイプ |
|--|----------------------------|-------------------------|
| BASE_INSTANCE_ | _BASE_INSTANCE_ | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| CLASS_BEHAVIORS_FILE_ | _CLASS_BEHAVIORS_FILE_ | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| CLASS_BEHAVIORS_REGISTRY_ | _CLASS_BEHAVIORS_REGISTRY_ | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| CLIENT_BEHAVIORS_ | _CLIENT_BEHAVIORS_ | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| 123 | 123 | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Amortize Windows NT Platforms | AMORTIZE2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Apache | APPACH | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| APPACH_ACP | APPACH_ACP | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Drag & View Windows NT Platforms | DRAGVIEW2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| GS-Calc Windows NT Platforms | GSCALC2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Radia Behaviors 5/18/99 | ADAPT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Radia Behaviors Panels | RADIA_BEHAVIORS_PANELS | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Radia Client Behaviors | CLIENT_BEHAVIORS_237 | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Redbox Organizer Windows NT Platt... | REDBOX2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Sales Demo Windows NT Platforms | SALES2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Sales Update - Microsoft | SALES_MS | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| StratusPad Windows NT Platforms | STRATUSPAD2_NT | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| TightVNC | TIGHTVNC | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |
| Update and Install Behavior August ... | CLIENT_BEHAVIOR_081098 | SOFTWARE PACKAGE インスタンス |

- 2 複数インスタンスの編集操作のテンプレートとして使用するインスタンスを右クリックします。次のショートカットメニューが表示されます。
- 3 ショートカットメニューの **[複数のインスタンスを編集]** をクリックします。次の **[インスタンスを編集]** ダイアログボックスが表示されます。

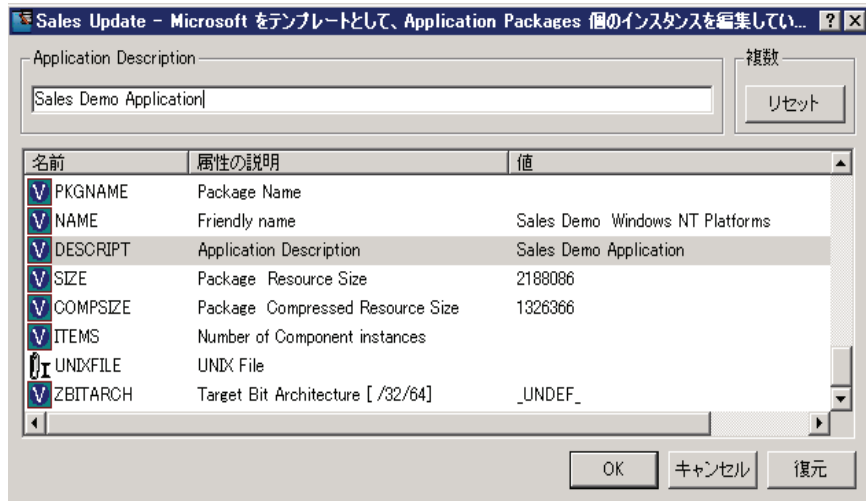


選択されているインスタンスの数、それらのインスタンスのクラスの簡略名、およびテンプレートインスタンスの簡略名がタイトルバーに表示されます。

- 4 選択したインスタンスセットのすべてのインスタンスにコピーする値を持つ変数を、スクロールしてクリックします。

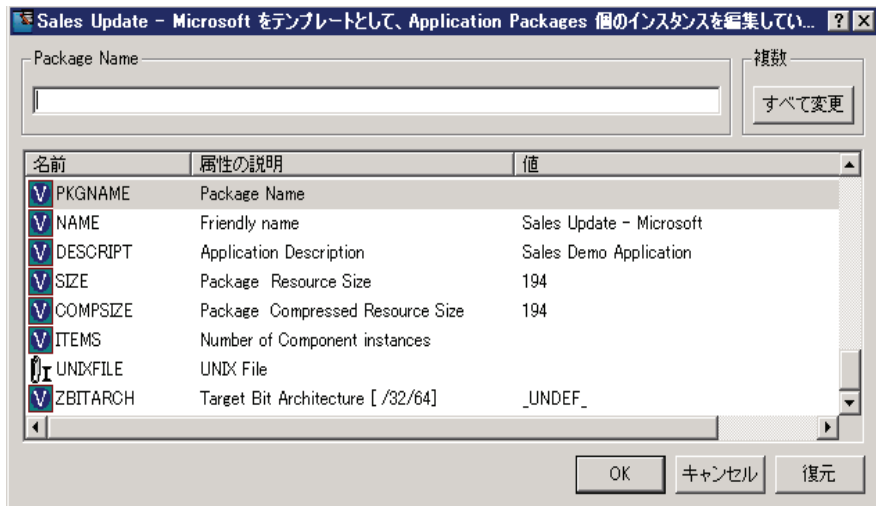
- テンプレート インスタンスの選択した変数に、目的の値が既に設定されている場合、**[すべて変更]** をクリックして、選択したセットの他のインスタンスにその値をコピーします。
- 選択した変数に目的の値が設定されていない場合は、値を編集します。

どちらの場合も、[すべて変更] ボタンの文字が [リセット] に変わります。



現在選択されている変数の値を元の内容に戻すには、次の操作を行います。

- **[リセット]** をクリックします。
インスタンスの変数をスクロールするときに、このボタンの文字を参照することにより、選択した変数に変更が行われたかどうかを判別できます。
 - ボタンの文字が [すべて変更] の場合、現在の [インスタンスを編集] ダイアログボックス セッションではその変数に対する変更は行われていません。
 - ボタンの文字が [リセット] の場合、選択した変数に変更が加えられています。
- 少なくとも 1 つの変数に変更を行ってから別の変数を選択すると、[復元] が使用可能になります。



現在の [インスタンスを編集] ダイアログ ボックス セッションで行われたすべての変更を元に戻すには

- 1 **[復元]** をクリックします。[復元の確認] メッセージが表示されます。
- 2 現在の [インスタンスを編集] ダイアログ ボックス セッションで行われたすべての変更を元に戻すには、**[はい]** をクリックします。

[いいえ] をクリックすると、元の値には戻されず、[インスタンスを編集] ダイアログ ボックス セッションが再開します。

[インスタンスを編集] ダイアログ ボックス セッション中に行われた変更は、**[OK]** をクリックするまで CM-CSDB には保存されません。

- 3 テンプレート インスタンスで行った変更を選択したすべてのインスタンスに適用して変更を保存するには、**[OK]** をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、[インスタンスを編集] ダイアログ ボックス セッションが再開します。

[インスタンスを編集] ダイアログ ボックスで **[キャンセル]** をクリックすると、変更を保存せずにダイアログ ボックスが終了できます。

インスタンスの名前を変更する

インスタンスの名前を変更する場合は、注意が必要です。インスタンスは、各自に設定されている接続属性を介して相互に接続されています。インスタンスの名前を変更すると、そのインスタンスに接続されている他のインスタンスの接続が無効になります。この結果、解決の実行時に予期せぬ影響が生じる可能性があります。インスタンスの名前を変更する前に、そのインスタンスに接続されているインスタンスを確認し、該当するインスタンスを適切に編集してください。

インスタンスの名前を変更するには

- 1 ツリー ビューで、名前を変更するインスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。
- 2 ショートカット メニューの **[インスタンス名の変更]** をクリックします。[インスタンス名の変更] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 インスタンスの新しい表示名 (簡略名) および新しいインスタンス名を入力し、**[OK]** をクリックします。

インスタンスを削除する

インスタンスを削除する場合は、注意が必要です。インスタンスは、各自に設定されている接続属性を介して相互に接続されています。インスタンスを削除すると、そのインスタンスに接続されている他のインスタンスの接続が無効になります。この結果、解決の実行時に予期せぬ影響が生じる可能性があります。インスタンスを削除する前に、そのインスタンスに接続されているインスタンスを確認し、該当するインスタンスを適切に編集してください。

インスタンスを削除するには

- 1 削除するインスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。
- 2 **[インスタンスの削除]** をクリックします。[削除の確認] メッセージが表示されます。
- 3 インスタンスを削除するには、**[はい]** をクリックします。
インスタンスを削除せずにダイアログ ボックスを閉じるには、**[いいえ]** をクリックします。

パスワード認証

この節では、CM エージェントおよび CM Administrator が CM Configuration Server にログ オンするときに **EDMSIGN** および **EDMSIGNR** を使用してパスワード認証を有効にする方法を説明します。

EDMSIGN と EDMSIGNR

SIGNON (EDMSIGN を使用) と RACF_SIGNON (EDMSIGNR を使用) の 2 つの ZMETHOD インスタンスの 1 つを使用してセキュリティ設定を有効にします。


RACF_SIGNON インスタンスが RACF セキュリティのみを実装するよう見えても、このメソッドはその他のプラットフォーム固有セキュリティ アダプタにアクセスするために使用できます。

EDMSIGN

EDMSIGN は、CM エージェントまたは CM Administrator がセッションを開始したときに、CM Configuration Server が ZMASTER オブジェクト (CM エージェント用) または ZADMIN オブジェクト (CM Administrator 用) を CM-CSDB 内でパスワード認証に使用できるようにします。CM エージェントまたは CM Administrator マシンの ZMASTER (CM エージェント用) または ZADMIN (CM Administrator 用) 内の ZPWD 変数に格納されているパスワードは、CM-CSDB 内のそのユーザーのプロファイルに格納されているパスワードと比較されます。

EDMSIGNR

EDMSIGNR は、CM エージェントまたは CM Administrator がセッションを開始したときに、CM Configuration Server がパスワード認証に Windows セキュリティなどの外部セキュリティ システムを使用できるようにします。

 Windows ユーザーの注記:このメソッドに送信されるユーザー資格情報は、CM エージェントまたは CM Administrator マシンではなく、CM Configuration Server を実行しているマシン上で有効になっている必要があります。ユーザーは使用している Windows セキュリティのタイプに基づいて、アプリケーションを実行し、サービスを実行するために必要なすべての権限を付与されていることを確認してください。

次の 2 つのタイプの Windows セキュリティを区別してください。Workgroup Security と Domain Security。

Windows Workgroup Security:特殊ユーザー ID (SID) に対する権限は次のように設定されます

`Workgroup_Name + Computer_Name + Group_User_Belongs_To + User_Name。`

Windows Domain Security:ユーザー権限は、次のように設定されます

`Domain_Name + Domain_Group_User_Belongs_To + Computer_Name + Computer_Group_User_Belongs_To + User_Name。`

ZMASTER (CM エージェント用) または ZADMIN (CM Administrator 用) オブジェクト内の ZPWD 変数に格納されているパスワードは、そのユーザー ID のネイティブ セキュリティ システムに格納されているオブジェクトと比較されます。

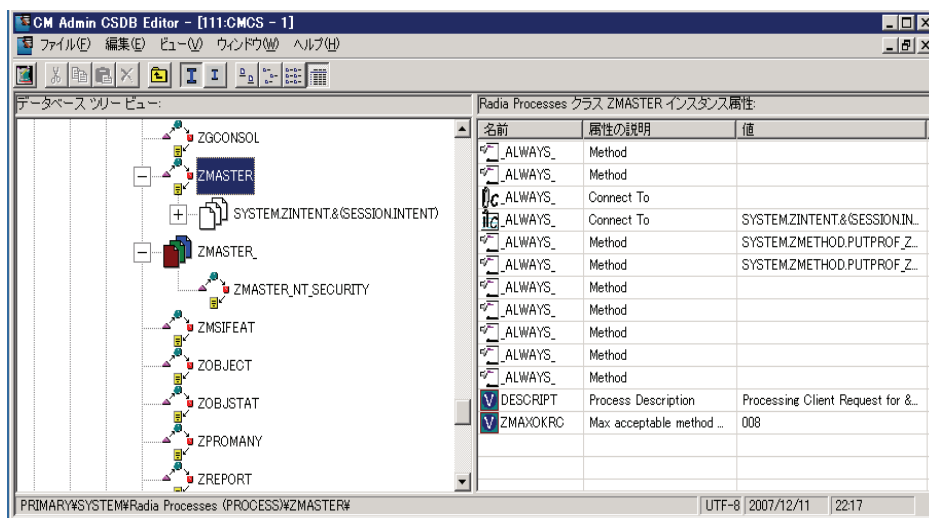
パスワード認証が有効になっていない場合

この節では、CM Configuration Server がログオンにパスワードが必要ないことを決定する方法を説明します。

エージェント

パスワード認証は、`SYSTEM.PROCESS.ZMASTER` 内の最初のメソッド属性が 155 ページの図 20 に示されているように空白の場合は、CM エージェントに対して有効になっていません。

図 20 パスワード認証が有効になっていない場合



このケースでは、CM エージェントが CM Configuration Server に接続している場合に、次のようになります。

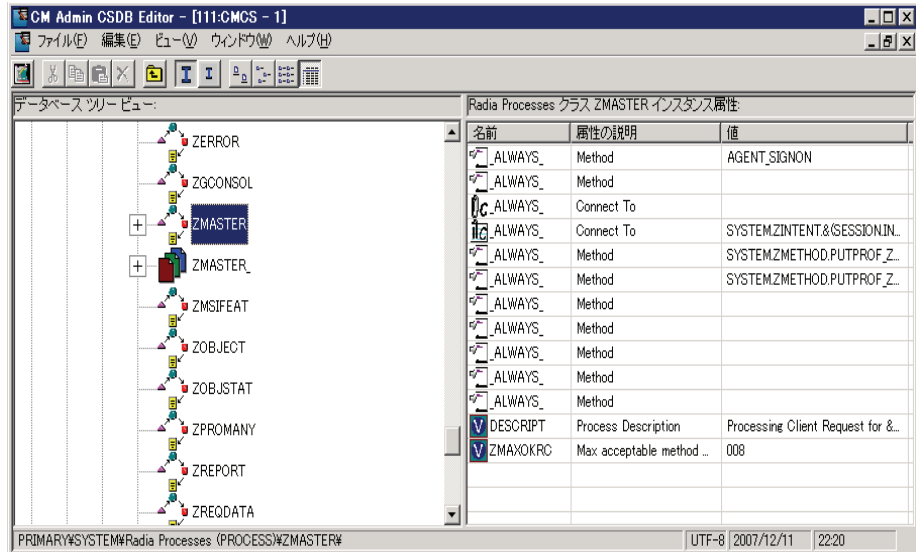
- 1 CM エージェントが CM Configuration Server に ZMASTER オブジェクトを送信します。
- 2 CM Configuration Server は `SYSTEM.PROCESS.ZMASTER` インスタンス内で最初の `_ALWAYS_` メソッド属性を探します。
- 3 属性が空白の場合は、パスワードは必要なく、ログオンが許可されます。

Administrator

CM Administrator が接続するときに、CM Configuration Server に ZADMIN オブジェクトを送信します。このケースでは、CM Configuration Server は `SYSTEM.PROCESS.ZADMIN` インスタンスを探します。この値が空白の場合は、パスワードは必要ありません。

- CM Configuration Server は、このメソッド インスタンスを `SYSTEM.ZMETHOD` 内で見つけ、メソッドの名前を取得して (`ZMTHNAME` 属性から)、157 ページの 図 22 に示されているように認証に使用します (このケースでは、`EDMSIGN` または `EDMSIGNR`)。

図 22 EDMSIGN メソッドの `SYSTEM.ZMETHOD.SIGNON`



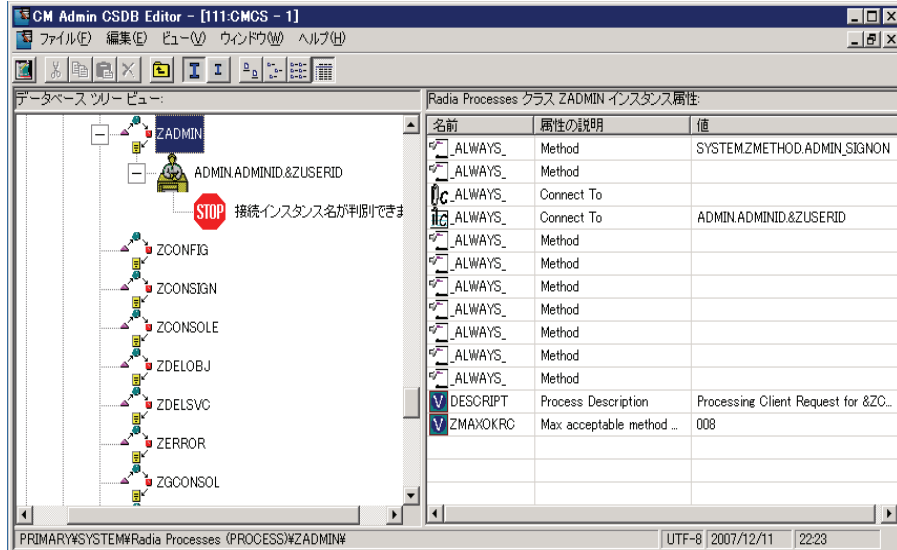
- 認証に使用するメソッドが `EDMSIGN` の場合、CM Configuration Server は、エージェントから取得したばかりの `ZMASTER` オブジェクトからパスワードを取得します。そのパスワードがデータベース内のこのエージェント用の `ZMASTER` オブジェクトの `ZPWD` 変数内のパスワードと一致する場合は、ログオンが許可されます。一致しない場合は、ログオンは拒否されます。

認証に使用するメソッドが `EDMSIGNR` の場合、CM Configuration Server は、パスワード認証に Windows などの外部セキュリティ システムを使用します。

Administrator

CM Administrator が CM Configuration Server に接続しようとするときに、CM Configuration Server は `SYSTEM.PROCESS.ZADMIN` インスタンスを探します。`SYSTEM.PROCESS.ZADMIN` 内の最初のメソッド属性が値、たとえば、158 ページの 図 23 に示されているような `SYSTEM.ZMETHOD.ADMIN_SIGNON` を含んでいる場合、CM Configuration Server はログオンにパスワードが必要かどうか決定するためのメソッドを探します。

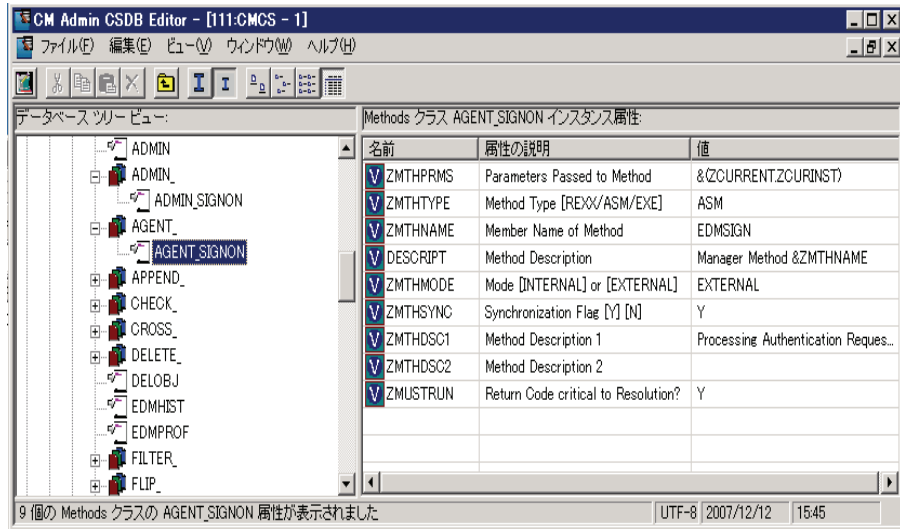
図 23 SYSTEM.PROCESS.ZADMIN



このケースでは、CM Administrator が CM Configuration Server に接続している場合に、次のようになります。

- 1 CM Administrator が CM Configuration Server に ZADMIN オブジェクトを送信します。
- 2 CM Configuration Server は SYSTEM.PROCESS.ZADMIN インスタンス内で最初の `_ALWAYS_` メソッド属性を探します。158 ページの 図 23 に示されているケースでは、値 `SYSTEM.ZMETHOD.ADMIN_SIGNON` を探します。
- 3 CM Configuration Server は、このメソッドインスタンスを SYSTEM.ZMETHOD 内で見つけ、メソッドの名前を取得して (ZMTHNAME 属性から)、認証に使用します (このケースでは、EDMSIGN または EDMSIGNR)。

図 24 EDMSIGN メソッドの SYSTEM.ZMETHOD.SIGNON



- 4 認証に使用するメソッドが EDMSIGN の場合、CM Configuration Server は、ログオンにパスワードが必要であると判断し、CM Administrator から取得したばかりの ZADMIN オブジェクトからパスワードを取得します。そのパスワードがデータベース内のこの管理者用の ZADMIN オブジェクトの ZPWD 変数内のパスワードと一致する場合は、ログオンが許可されます。一致しない場合は、ログオンは拒否されます。

認証に使用するメソッドが EDMSIGNR の場合、CM Configuration Server は、パスワード認証に Windows などの外部セキュリティシステムを使用します。

パスワード認証の有効化

この節は、EDMSIGN および EDMSIGNR を使用したパスワード認証を有効にする手順を説明しています。次の例で、CM エージェントの例では EDMSIGN を使用し、CM Administrator の例では EDMSIGNR を使用します。これらメソッドは両方ともそれぞれの CM コンポーネントと一緒に使用することができます。

EDMSIGN を使用した CM エージェント用のパスワード認証を実装するには

- 1 CM Admin CSDB Editor を開き、次のパスに移動します。
PRIMARY.SYSTEM.ZMETHOD.
- 2 ZMETHOD Class で、SIGNON インスタンスを見つけてコピーし、コピーの名前を変更します (例: AGENT_SIGNON)。

- 3 新しいインスタンス **AGENT_SIGNON** が ZMETHOD クラスのインスタンスとしてリストに入れられます。
- 4 **AGENT_SIGNON** をダブルクリックして、CM Admin CSDB Editor のリストビューに属性を表示します。
- 5 ZMTHPRMS の値を **ZMASTER** に変更します。
- 6 SYSTEM Domain の Radia Processes (PROCESS) クラスに移動します。
- 7 **ZMASTER** インスタンスをダブルクリックして、CM Admin CSDB Editor のリストビューに属性を表示します。
- 8 最初の **_ALWAYS_** (Method) フィールドの値を **SYSTEM.ZMETHOD.AGENT_SIGNON** として指定します。

CM エージェントに対してパスワード認証が実装されました (EDMSIGN を使用)。

EDMSIGNR を使用した CM Administrator 用のパスワード認証を実装するには

- 1 CM Admin CSDB Editor を開き、次のパスに移動します。
`PRIMARY.SYSTEM.ZMETHOD`。
- 2 ZMETHOD Class で、RACF_ インスタンスを見つけてコピーし、コピーの名前を変更します (例: **ADMIN_SIGNON**)。
- 3 新しいインスタンス **ADMIN_SIGNON** が ZMETHOD クラスのインスタンスとしてリストに入れられます。
- 4 **ADMIN_SIGNON** をダブルクリックして、CM Admin CSDB Editor のリストビューに属性を表示します。
- 5 ZMTHPRMS の値を **ZADMIN** に変更します。
- 6 SYSTEM Domain の Radia Processes (PROCESS) クラスに移動します。
- 7 **ZMASTER** インスタンスをダブルクリックして、CM Admin CSDB Editor のリストビューに属性を表示します。
- 8 最初の **_ALWAYS_** (method) フィールドの値を **SYSTEM.ZMETHOD.ADMIN_SIGNON** として指定します。



最初の **_ALWAYS_** (Connect To) フィールドが次のようになることを確認してください。`ADMIN.ADMINID.&ZUSERID`。

CM Administrator に対してパスワード認証が実装されました (EDMSIGNR を使用)。

パスワードの変更

▶ この節の情報は、CM パスワードの変更にのみ適用されます。

CM パスワードは次のいずれかの方法で変更できます。

CM Admin Agent Explorer を開き、ZMASTER オブジェクト (CM エージェント用) または ZADMIN オブジェクト (CM Administrator 用) 内で、ZNEWPWD に新しいパスワードを、ZPWD に古いパスワードを指定します。

CM Admin CSDB Editor ログ オン画面で、**[パスワードの変更]** チェック ボックスを選択してパスワード情報を指定します。

アクセス規則と管理者

CM Administrator のデータベース アクセスは、アクセスの 3 つのレベルのいずれかとして定義できます。詳細については、161 ページの表 42 を参照してください。CM Admin CSDB Editor 管理者アクセス規則は、ZACCESS Domain に格納されています。

表 42 管理者アクセス レベル値

| アクセス値 | 定義 |
|-------|--|
| ALLOW | <p>この値は、CM Configuration Server CM-CSDB 管理者機能を実行するために管理者にアクセス権を付与する前に管理者アクセス規則をチェックしません。</p> <p>この値は、データベース内に定義されていた場合でも、すべての管理者アクセス規則チェックを無効にします。</p> |
| DENY | <p>この値は、CM Configuration Server CM-CSDB 管理者機能を実行するために管理者にアクセス権を付与する前に管理者アクセス規則をチェックします。</p> <p>管理者は、その管理者に対して特に許可されたデータベース内に定義されたアクセス規則がない限り、アクションを実行できなくなります。管理者セキュリティを設定しているときにはこの設定を推奨します。</p> <p>注意:このオプションが指定されている場合は、未定義の管理者は、ADMINID._NULL_INSTANCE_ がそれらの機能へのアクセスを許可するように変更されていない限り、どの CM-CSDB 管理者機能にもアクセス権を持ちません。</p> |

| アクセス値 | 定義 |
|--------|---|
| IGNORE | この値は、CM Configuration Server CM-CSDB 管理者機能を実行するために管理者にアクセス権を付与する前に管理者アクセス規則をチェックします。管理者は、その管理者に対して特に禁止されたデータベース内に定義されたアクセス規則がない限り、アクションを実行できます。 |

すべての CM Configuration Servers は edmpfprof ファイルを持っています。このファイルは、複数のセクションに分割され、Cm-CSDB への管理者アクセスに関する動作を含む、CM Configuration Server のオペレーション パラメータを定義します (詳細については、161 ページの表 42 を参照)。管理者アクセス パラメータは、MGR_ACCESS セクションにあります。

管理者アクセス値を設定/変更するには

- 1 CM Configuration Server をシャットダウンします。
- 2 edmpfprof ファイルを開きます。
- 3 ADMIN 設定を 161 ページの表 42 の値の 1 つを使用して指定します。
- 4 edmpfprof ファイルを保存して閉じます。
- 5 CM Configuration Server を再起動します。

新規アプリケーション ウィザードでサービスを作成する

CM Admin Packager でパッケージを作成したら、CM Admin CSDB Editor の新規アプリケーション ウィザードを使用してサービスを作成します。サービスとは、CM によって管理されるコンテンツの基本的な構成単位です。CM Admin CSDB Editor では、サービスは Application (ZSERVICE) クラスとして表示されます。

タスク 1 CM Admin CSDB Editor を開く

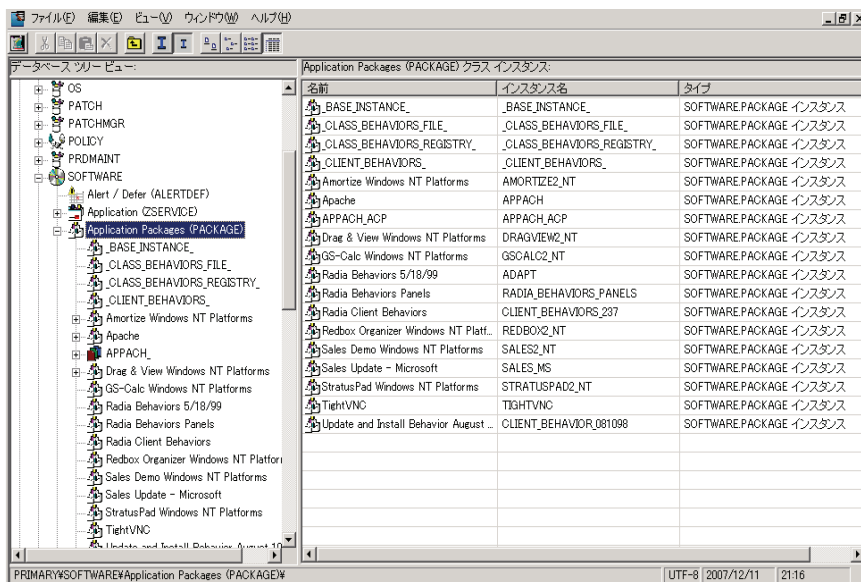
実行方法については、115 ページの「はじめに」を参照してください。

タスク 2 パッケージ クラスに移動する

SOFTWARE ドメインの PACKAGE クラスを指定するには

- 1 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。RIMARY ファイルのドメインが、ツリー ビューおよびリスト ビューのアイコンの下に表示されます。

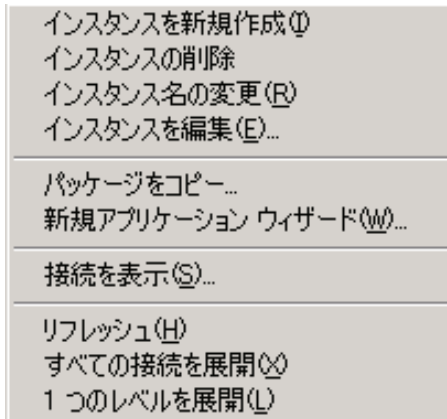
- 2 **[SOFTWARE]** をダブルクリックします。SOFTWARE ドメインのクラスが、ツリー ビューおよびリスト ビューのアイコンの下に表示されます。
- 3 **[Application Packages (PACKAGE)]** をダブルクリックして PACKAGE クラスを開きます。PACKAGE クラスのインスタンスが、次の図に示されているようにツリー ビューおよびリスト ビューのアイコンの下に表示されます。



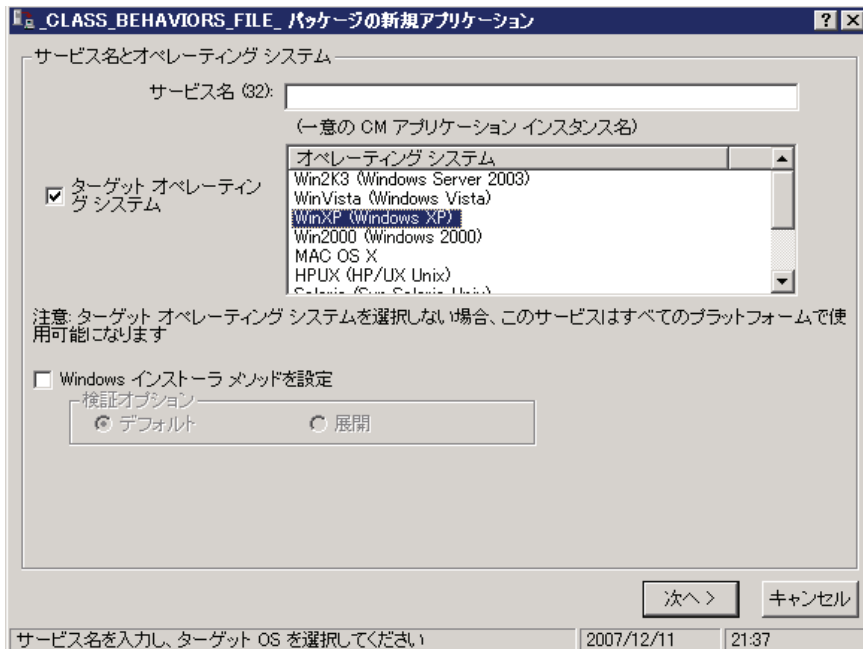
タスク 3 サービスの作成

新規アプリケーション ウィザードを使用してサービスを作成するには

- 1 SOFTWARE ドメインの PACKAGE クラスで、サービスを作成したい **PACKAGE** クラス インスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。



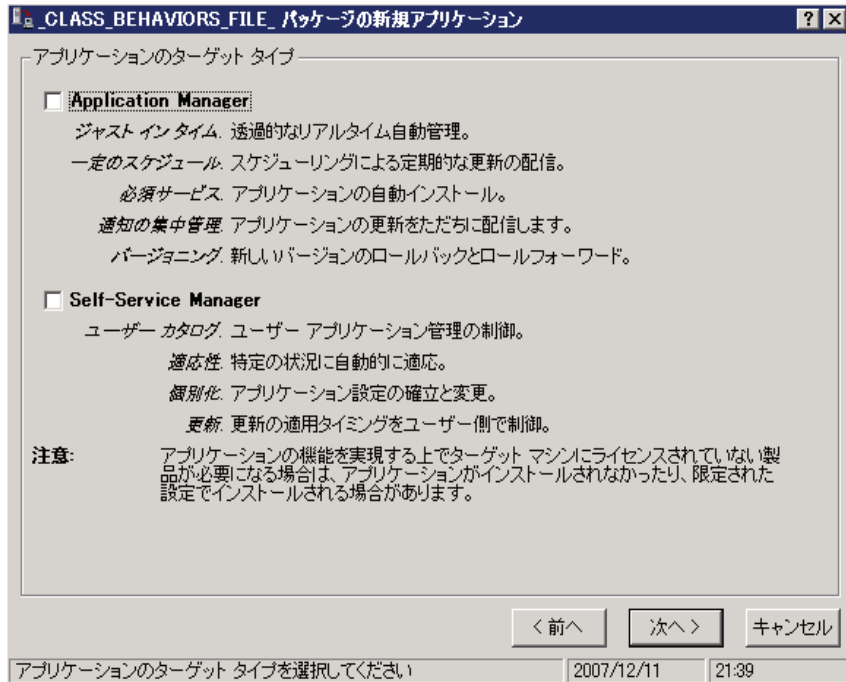
- 2 [新規アプリケーション ウィザード] をクリックします。



- 3 [サービス名 (32)] ボックスに、Application (ZSERVICE) インスタンスとして「WINZIP0009」などの名前を入力します。
- 4 このサービスの対象となるオペレーティング システムを指定する場合は、[ターゲット オペレーティング システム] チェック ボックスをオンにし、目的のオペレーティング システムをクリックします。

[ターゲット オペレーティング システム] チェック ボックスがオフの場合、サービスはすべてのプラットフォームで使用可能です。

- 5 Windows インストーラに対応しているアプリケーションのサービスを作成する場合は、**[Windows インストーラ メソッドを設定]** チェック ボックスをオンにする必要があります。
- 6 **[次へ]** をクリックして、アプリケーションのターゲット タイプを選択します。



- 7 **[Application Manager]** チェック ボックスをオンにします。これにより、サブスクリバに対してサービスが必須アプリケーションとして指定されます。

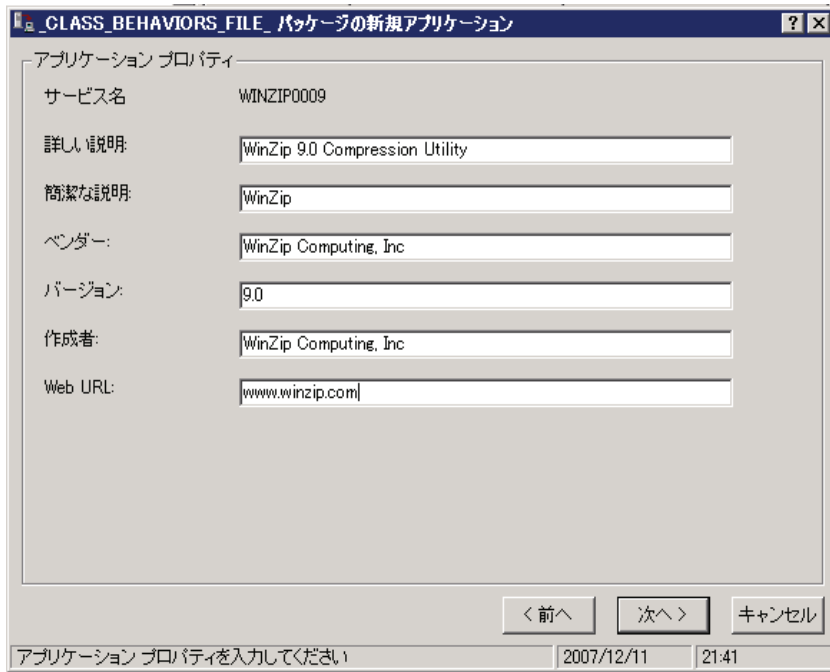


CM Application Manager では、サブスクリバに配布されるアプリケーションは必須でなければなりません。

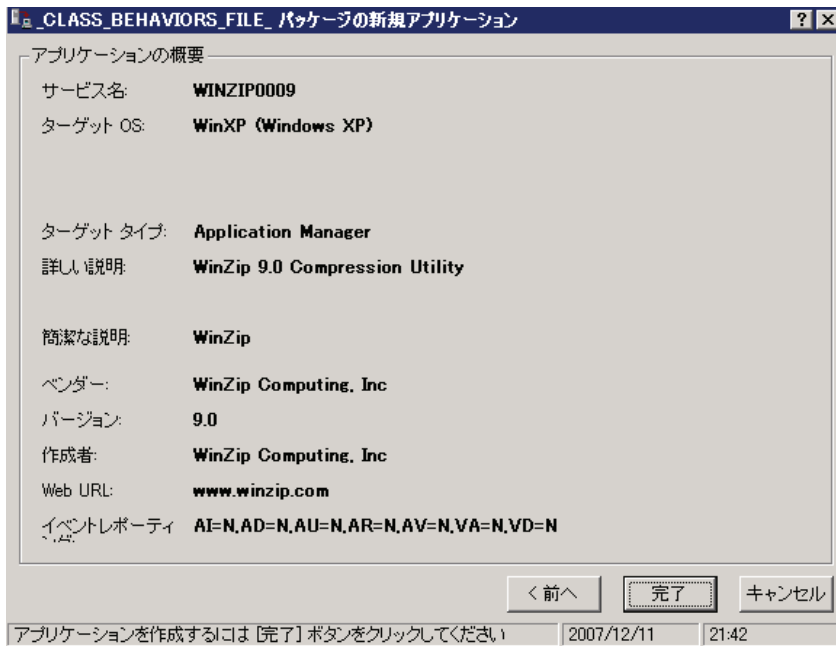
または

[Application Self-service Manager] チェック ボックスをクリックして、ユーザーが選択してインストールするオプション アプリケーションとして指定します。


- 8 **[次へ]** をクリックして、アプリケーションのプロパティを入力します。



- 9 [アプリケーション プロパティ] ダイアログ ボックス内のテキスト ボックスに、適切な情報を入力します。
- 10 **[次へ]** をクリックして、CM Application Manager のレポーティング対象となるイベントを選択します。
- 11 レポートするそれぞれのアプリケーション イベントのチェック ボックスをクリックします。次に、適切なオプション ボタンをクリックして、イベントの成功、失敗、または両方をレポートするかどうかを指定します。
または
Application (ZSERVICE) のベース インスタンスから ERTYPE 属性と EVENTS 属性の値を継承する場合は、**[ベース インスタンスを使用する]** をクリックします。イベントレポーティングは、この 2 つの属性によって制御されます。
- 12 現在の設定をデフォルト設定として保存する場合は、[アプリケーション レベルのイベントレポーティング] の **[デフォルトとして保存]** をクリックします。
- 13 **[次へ]** をクリックして選択内容を参照します。



- 14 **[完了]** をクリックしてアプリケーション インスタンスを作成します。
- 15 アプリケーションが追加されたことを示すメッセージが表示されたら、**[OK]** をクリックします。ZSERVICE クラスにインスタンスが表示されます。

 新規アプリケーション ウィザードで入力した情報を変更するには、CM Admin CSDB Editor を使用します。ZSERVICE インスタンス内で対応する属性を特定して値を変更してください。

エンタイトルメント ポリシーを実装する方法の詳細については、『HP Configuration Management Application Manager and Application Self-service Manager Installation and Configuration Guide (CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide)』を参照してください。

新規アプリケーション ウィザードで MSI の基本的な動作を定義する

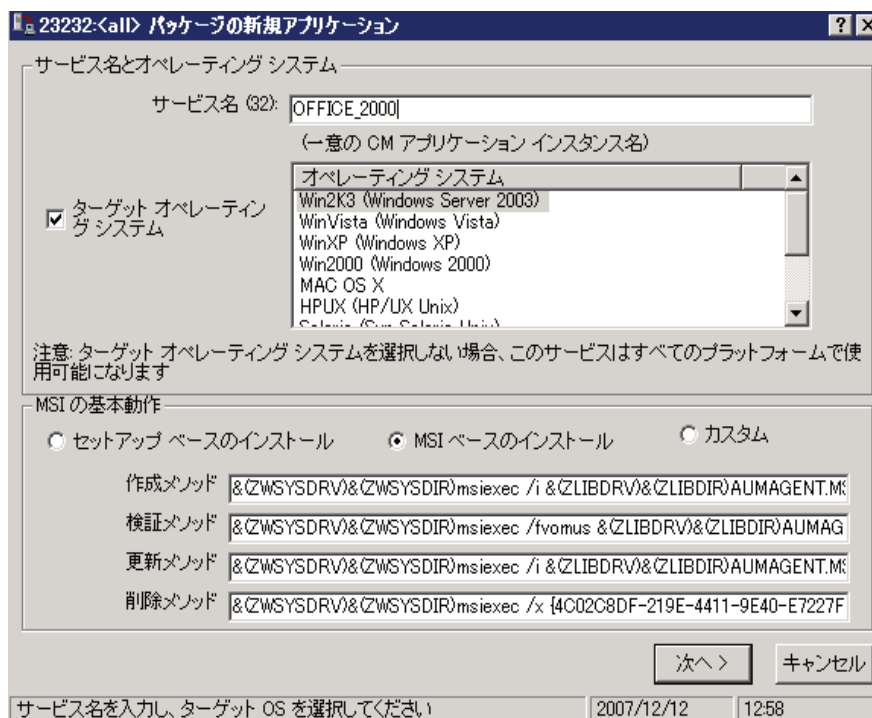
以下のパッケージの場合は、MSI パッケージのコンポーネントを継続的に管理する Advanced Package Management ではなく、Basic Package Management を使用します。

管理インストールをサポートしていないパッケージ。

CM ではインストールまたはアンインストールのみを行い、コンポーネントの管理は行わない (つまり、コンポーネントの検証または修復に CM エージェント を必要としない) パッケージ。

Radia Packager for Windows Installer で作成したパッケージの場合、新規アプリケーション ウィザードで [MSI ベースのインストール] が定義できます。これらのパッケージは、CM-CSDB の MSIBASIC クラスに関連付けられています。

図 25 新規アプリケーション ウィザードの MSI Basic の基本的な動作



管理インストールが実行できないパッケージでは、CM による管理機能が使用できない Basic Package Management がデフォルトになっています。[新規アプリケーション ウィザード] ダイアログ ボックスの [MSI の基本動作] では、パッケージの管理に使用するインストール タイプおよび MSI のネイティブ モードを指定します。

新規アプリケーション ウィザードで [MSI の基本動作] を定義するには

- 1 パッケージのインストール方法に関するインストール タイプを選択します。

[セットアップ ベースのインストール]

パッケージは `SETUP.EXE` ファイルでインストールされます。インストール時に `MSIEXEC` が呼び出されます。このオプションでは、MSI アプリケーションに対してネイティブの `setup.exe` が実行されます。コマンドライン スイッチ (サイレントインストールを行う `/s` や完全インストールを行う `ADDLOCAL=ALL` など) が `setup.exe` でサポートされている場合は、[作成メソッド] にスイッチが追加できます。すべての MSI アプリケーションが

同じコマンドライン スイッチをサポートしているわけではありません。setup.exe の詳細については、お使いのアプリケーションのドキュメントを参照してください。

[MSI ベースのインストール]

パッケージは MSIEXEC でインストールされます。

[カスタム]

パッケージは、カスタム インストール メソッドでインストールされます。

- 2 基本パッケージ管理用に指定されている [作成メソッド]、[検証メソッド]、[更新メソッド]、[削除メソッド] のネイティブ MSI のコマンドおよびスイッチを、必要に応じて参照および変更します。

バージョン グループ エディタ

バージョン グループ エディタは、CM Application Manager がインストールされている場合に CM Admin CSDB Editor で使用できる機能です。バージョン グループ エディタを使用すると、バージョン グループ クラスのインスタンスが作成および編集できます。バージョン グループ エディタの各機能で、バージョン グループの Version インスタンスを作成、編集、削除したり、バージョン グループの配布を制御したりすることができます。『*CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide*』を参照してください。

サービスの最適化

サービスの最適化は、サービス内のパッケージの定期的な更新を最も効率的に配布するためにパッチを使用します。新しいパッケージには、前のパッケージでパブリッシュされたファイルの改訂部分および追加部分が含まれています。

パッチは、既にパブリッシュされ、エージェント コンピュータにインストール済みのアプリケーションをアップグレードまたは修正する際に必要なデータ (バイト) をパッケージ化してパブリッシュしたものです。パッチに格納されているのはパッケージ間の差分だけなので、配布に必要な時間およびネットワーク バンド幅は少なくなります。パッチは、ファイル変更の際に、ファイルが丸ごと置き換える方法よりも効率的に配布できる場合にのみビルドしてください。

サービスの最適化は次のように機能します。

- 1 CM Admin Packager または CM Admin Publisher は、パブリッシュ中のファイルのメッセージ ダイジェスト アルゴリズム (**MD5**) 署名を計算します。MD5 アルゴリズムでは、メッセージを入力として受け取り、それに対して 128 ビットのフィンガープリント (メッセージ ダイジェスト) が作成できます。この情報は、CM Configuration Server に圧縮形式で格納されます。MD5 署名の詳細については、次の Web アドレスを参照してください。

www.faqs.org/rfcs/rfc1321.html

- 2 CM-CSDB 内の PATCH ドメインには、PATCH クラス内の利用可能なパッチのリストが格納されます。パッチのファイル署名は、パッチのデータを格納する関連インスタンスの識別に使用されます。PATCH ドメインの詳細については、『*HP Configuration Management Configuration Server Database Reference Guide (CM-CSDB Guide)*』を参照してください。
 - ▶ パッチをユーザーに配布する前に、POLICY ドメインの USER クラス内で ZOBJPTCH 変数を N から Y に変更します。
- 3 CM Admin CSDB Editor で、[サービスの最適化]は、Application (ZSERVICE) インスタンスのショートカット メニューのオプションです。このオプションを使用すると、選択したアプリケーション コンポーネントのパッチが作成、表示、削除できます。

[サービスの最適化] オプションを使用する

[サービスの最適化] オプションを使用してパッチを作成するには、まず CM Admin Packager または CM Admin Publisher でパッケージをパブリッシュさせる必要があります。パッケージをパブリッシュする方法については、『*CM Application Manager and Application Self-service Installation and Configuration Guide*』を参照してください。

- ▶ パッチは、署名があるコンポーネントに対してのみ作成可能です。初期設定では、MD5 のみがサポートされています。

バイトレベルの差異計算によるパッチ生成を有効にするために、パッチの対象となるコンポーネントは、同じロケーション (コンピュータ) からパブリッシュする必要があります。この機能では、インスタンス名のサフィックスにある 8 バイトの CRC が格納されます。
- ▶ CM Admin Packager および CM Admin Publisher は現在、MD5 署名を計算して使用しています。この署名はパッチ機能に不可欠な要素なので、以前に転送されたコンポーネントに対する下位互換性はありません。

ここでは、以下の手順について詳しく説明します。

パッチの対象となるパッケージの Application (ZSERVICE) インスタンスを SOFTWARE ドメインに作成します。

サービス最適化ウィザードを使用してパッチを作成します。

この例では、BLD という一連のテキスト ファイルを最適化します。これらのテキスト ファイルは、パッケージ化され、CM-CSDB に転送されています。各ファイルは、SOFTWARE ドメイン内の対応する各 PACKAGE です。

パッケージを CM-CSDB にパブリッシュした後で、ZSERVICE インスタンスを作成する必要があります。



新旧パッケージ間のサイズの違いがあまりにわずかなために、パッチを作成すると、かえってファイルのサイズが増えてしまうケースもあります。その場合は、パッチが作成できません。



この例で必要なファイルは、以下の命名規則でパブリッシュされています。

bld1.txt ファイルは、最初は bld.txt という名前でパブリッシュされました。

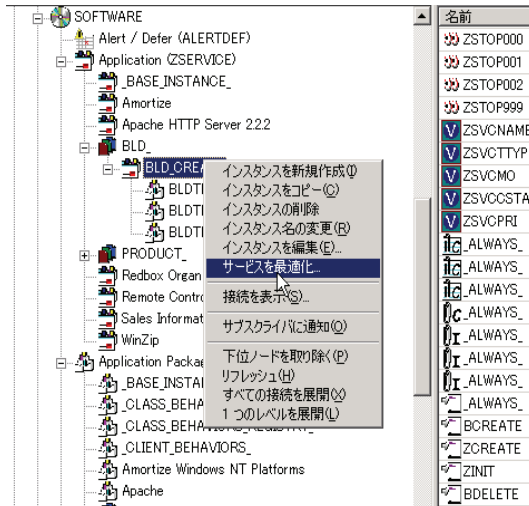
2 番目のファイルが、パブリッシュされる際に bld.txt という名前に変更されたので、元の bld.txt ファイルは bld1.txt という名前になりました。

3 番目のファイルが、パブリッシュされる際に bld.txt という名前になったので、2 番目のファイルは bld2.txt という名前になりました。

パブリッシュ時に同じファイル名および同じマシンを使用することで、パッチを正しく作成するのに必要な CRC が同じものになります。

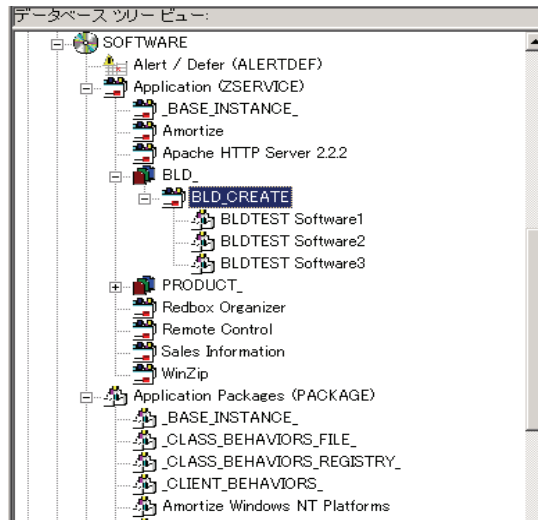
サービスの最適化を設定するには

- 1 ツリービューを展開して、PRIMARY.SOFTWARE.PACKAGE クラスを表示し、BLDTEST パッケージを指定します。



- 2 **[Application (ZSERVICE)]** クラスを右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
- 3 ショートカットメニューの **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。
- 4 **BLD_CREATE** という新しいインスタンスを作成し、**[OK]** をクリックします。**[BLD_CREATE]** サービスが CM-CSDB に追加されます。

- 5 [Application (ZSERVICE)] クラスの [BLD_CREATE] インスタンスに BLDTEST1、BLDTEST2、および BLDTEST3 パッケージをドラッグ アンド ドロップします。

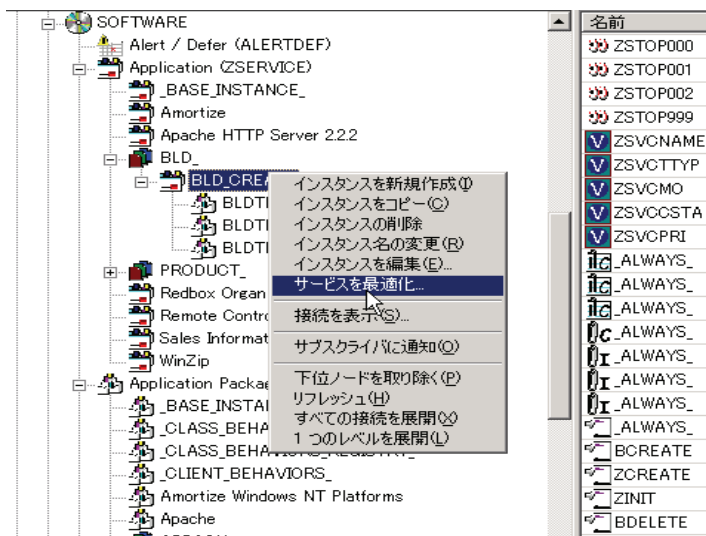


Application Packages (PACKAGE) を格納する Application (ZSERVICE) を作成した後に、パッチの作成が開始できます。

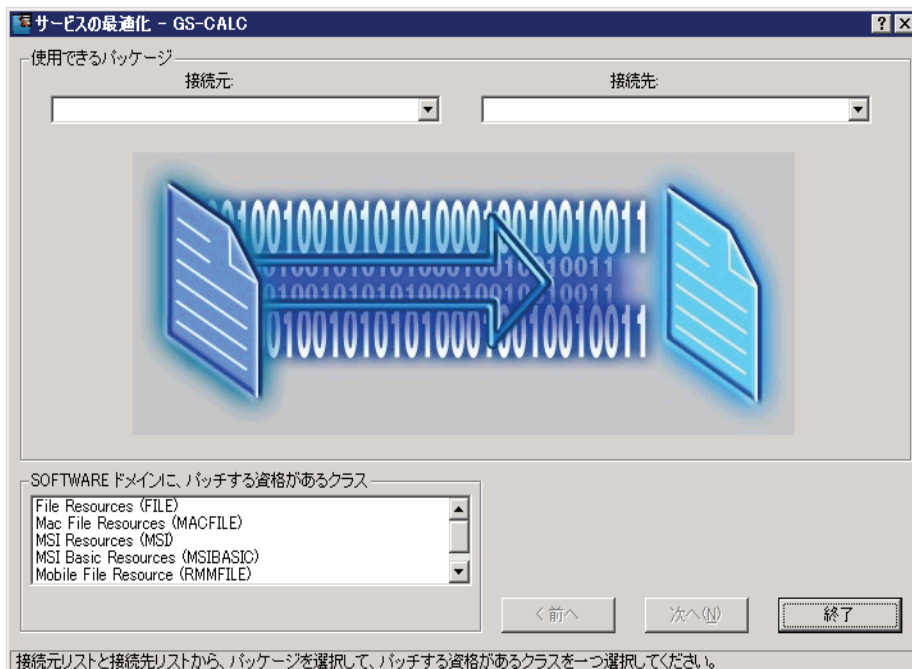
ユーザー向けのプランまたはポリシーを作成する場合と同じ方法で、パッチの作成、編集、および削除用のプランを策定することもできます。次に、パッチ作成時に留意する事項をいくつか示します。

- 次に、パッチ作成時に留意する事項をいくつか示します。小さなデータベース内で異なるパッチをビルドする場合であれば、パッチを作成する接続パスのスキーマは比較的わかりやすいものですが、データベースの規模が大きくなると、パッチクラスおよびそのパッチの対象となるパッケージも扱いにくいものになる可能性があります。
- パッチの対象に指定できるのは、MD5 署名があるパッケージだけです。
- パッチは、バージョンングとは異なります。パッチの配布に失敗した場合でも、旧バージョンに戻すことはできません。

- 6 [Application (ZSERVICE)] クラスの [BLD_CREATE] を右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。



7 [サービスを最適化] をクリックします。サービス最適化ウィザードが表示されます。



サービス最適化ウィザードの最初の画面には、以下の 3 つの領域があります。

— [使用できるパッケージ] の [接続元]

最適化するサービスを適用可能なパッケージが表示されます。[接続元] ボックスの矢印をクリックすると、Application (ZSERVICE) のすべてのパッケージが表示され

ます。この例では、**[接続元]** をクリックすると、Application (ZSERVICE) の BLD_CREATE のすべてのパッケージが表示されます。

— **[使用できるパッケージ] の [接続先]**

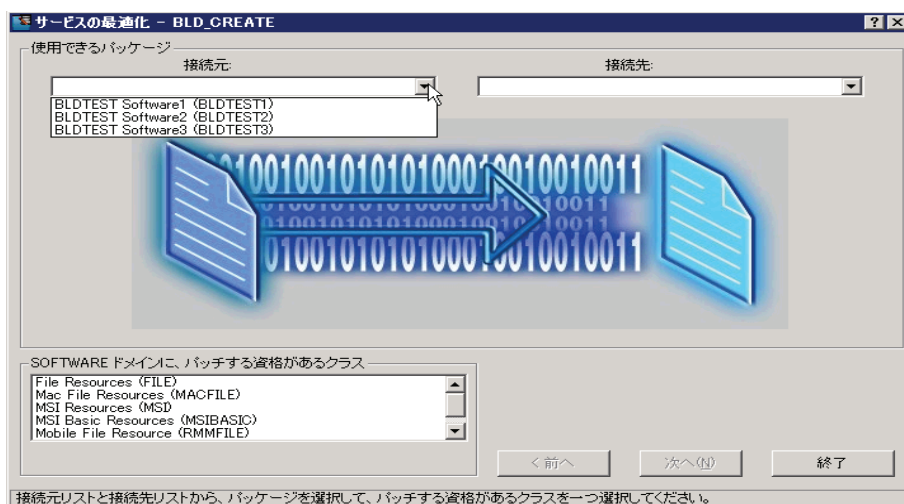
[接続元] でパッケージを選択すると、最適化するサービスでパッチ可能なパッケージが [接続先] に表示されます。

— **[SOFTWARE ドメインに、パッチする資格があるクラス]**

SOFTWARE ドメイン内でパッチする資格があるクラスを選択します。指定可能なクラスは、[File Resources (FILE)]、[MAC File Resources (MACFILE)]、[MSI Resources (MSI)]、[MSI Basic Resources (MSIBASIC)]、[Mobile File Resources (RMMFILE)]、[Unix File Resources (UNIXFILE)] です。

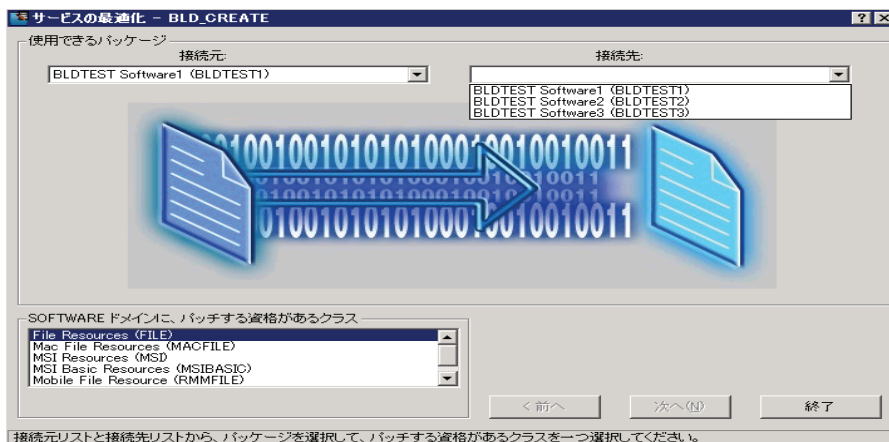
8 **[使用できるパッケージ] の [接続元]** ボックスの矢印をクリックします。

手順 6 BLD_CREATE で選択したサービスを適用するパッケージが表示されています。



9 ドロップダウン リストで、**[BLDTEST Software 1 (BLDTEST1)]** をクリックします。[使用できるパッケージ] の [接続先] ボックスには、BLD_CREATE サービスでパッチ可能なパッケージが表示されます。

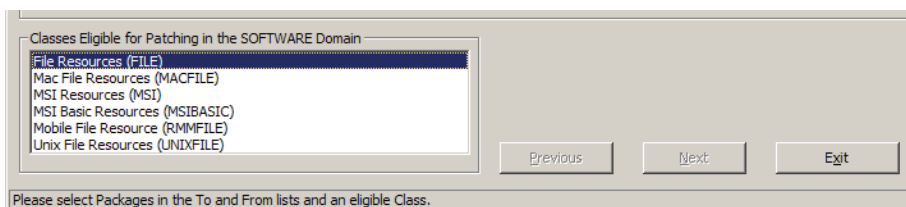
10 [使用できるパッケージ] の [接続先] ボックスで、**[BLDTEST Software 2 (BLDTEST2)]** をクリックします。



- 11 [SOFTWARE ドメインに、パッチする資格があるクラス] で、SOFTWARE ドメイン内のパッチ対象クラスをクリックします。パッケージのファイル リソースが格納されているクラスを選択します。

▶ 現在、パッチがビルドできるクラスは、[File Resources (FILE)]、[Mac File Resources (MACFILE)]、[MSI Resources (MSI)]、[MSI Basic Resources (MSIBASIC)]、[Mobile File Resources (RMMFILE)]、[Unix File Resources (UNIXFILE)] です。

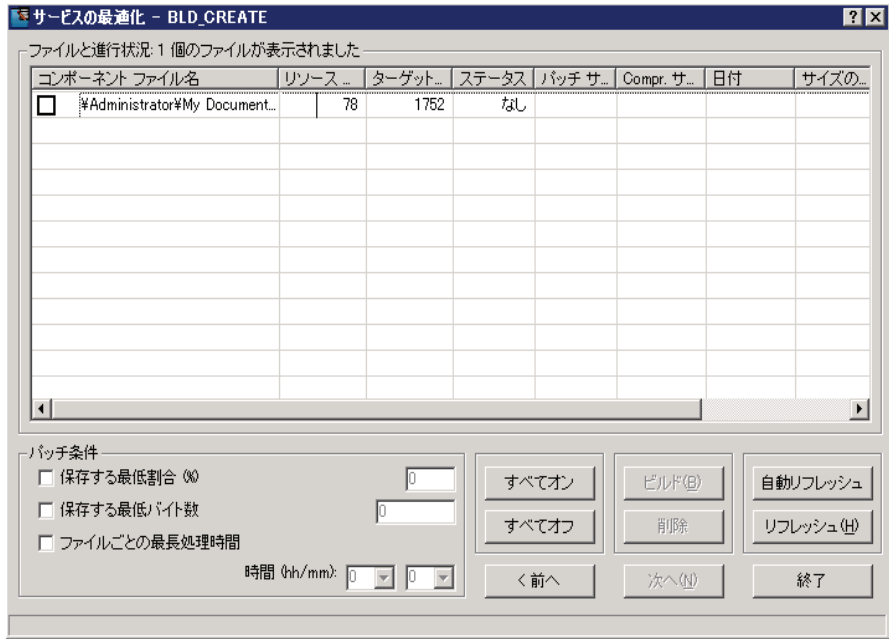
この例では、パッチ可能なクラスは [File Resource (FILE)] だけです。



▶ パッケージ内でどのクラスがパッチ可能かを判別するには、[Application (ZSERVICE)] インスタンスを展開して、属性を表示します。インスタンスを確認すると、パッチ可能なリソースが特定できます。

- 12 [File Resource (FILE)] を選択して、[次へ] をクリックして続行します。

[ファイルと進行状況] ダイアログ ボックスが表示されます。



このダイアログ ボックスには、ファイルと進行状況の情報が表示されます。[使用できるパッケージ] ダイアログ ボックスで指定した内容に基づいて、インスタンスの情報が収集されます。

176 ページの表 43 は、このダイアログ ボックスの [ファイルと進行状況] セクションにオプションが表示されます。177 ページの表 44 は、[パッチ条件] 領域にオプションが表示されます。

表 43 ファイルと進行状況の情報

| カラム | 説明 |
|-------------------|--|
| [コンポーネント ファイル名] | 作成中のパッチの名前。 |
| [リソース パッケージ サイズ] | オリジナル リソースのパッケージ サイズ。 |
| [ターゲット パッケージ サイズ] | オリジナルのターゲット リソースのサイズ。 |
| [ステータス] | パッケージのステータス。有効な値は、[なし]、[queued]、[rejected]、[active]、[built] のいずれかです。 |
| [パッチ サイズ] | オリジナルのパッケージ データ (BLD1) と変更されたパッケージ データ (BLD2) のサイズの差です。 |

| カラム | 説明 |
|-------------|---|
| [Compr.サイズ] | [リソース パッケージ サイズ] に表示されているパッケージの圧縮サイズ。 |
| [日付] | パッケージがパブリッシュされた日付。 |
| [サイズの制限値] | この情報は、[パッチ条件] の [保存する最低割合 (%)] フィールドに入力した値です。この値は、パッチのビルドが完了したときか、パッチビルド プロセスが終了するときに表示されます。 |
| [% 制限] | この情報は、[パッチ条件] の [保存する最低バイト数] フィールドに入力した値です。この値は、パッチのビルドが完了したときか、パッチビルド プロセスが終了するときに表示されます。 |
| [時間の制限値] | この情報は、[パッチ条件] の [ファイルごとの最長処理時間] フィールドに入力した値です。この値は、パッチのビルドが完了したときか、パッチビルド プロセスが終了するときに表示されます。 |

[パッチ条件] のオプションで、パーセント サイズ、バイト数、時間要素などの値を入力すると、パッチのビルドの制約が指定できます。条件を設定すると、ファイル リスト内でチェック ボックスがオンになっている全ファイルに、その条件が適用されます。これにより、パッチの作成が制御できます。

一覧内のファイル数が多い場合は、各ファイルを評価してパッチをビルドするかどうかを指定する手間を省くために、**[すべてオン]** をクリックして一覧内の全ファイルのチェック ボックスをオンにします。次に、[パッチ条件] を設定し、パッチをビルドした方がメリットがありそうなファイルに、パッチのビルドを限定します。

177 ページの [表 44](#) は、[パッチ条件] 領域のオプションの詳細について説明しています。これら 3 つのオプションのデフォルトは空 (オンになっていない) のチェック ボックスです。

表 44 [パッチ条件] の情報

| ファイル オプション | 説明 |
|-----------------|--|
| [保存する最低割合 (%)] | 保存するコンポーネントの最小限の割合 (%) を指定します。この値に達しない場合、パッチはビルドされません。 |
| [保存する最低バイト数] | パッチとして保存する最小限のバイト数を指定します。この値に達しない場合、パッチはビルドされません。 |
| [ファイルごとの最長処理時間] | パッチに対して最長でどのくらいの処理時間をかけられるかを指定します。ドロップダウン リストで、パッチのビルドにかけられる時間の上限を指定します。時間は、分または時間と分の組み合わせで設定できます。 |

コンポーネント ファイルを選択すると、パッチのビルド用ボタンが有効になります。

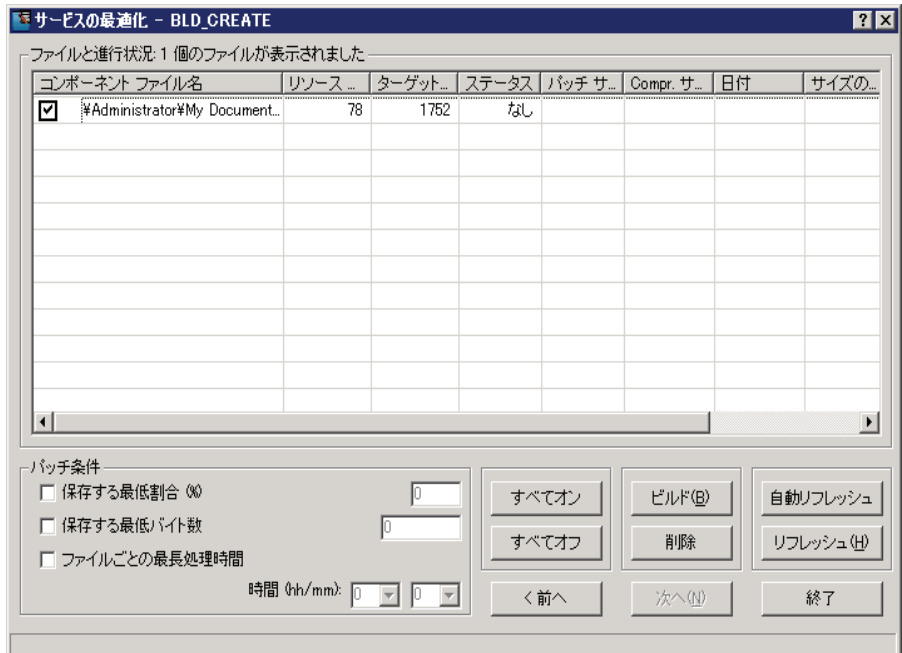
条件を適用するには、対応するチェック ボックスをオンにします。チェック ボックスの隣のデータ入力フィールドが有効になるので、そのデータ フィールドに条件を入力します。各条件が組み合わされてパッチに適用されます。選択したファイルに対してパッチがビルドされるようになるには、適用したすべての条件が満たされなければなりません。

178 ページの表 45 は、[パッチ条件] ボタンの機能について説明しています。

表 45 [パッチ条件] ボタンの機能

| ボタン | アクション |
|------------|---|
| [全てオン] | [コンポーネント ファイル名] カラムに表示されている全ファイルが選択されます。 |
| [ビルド] | このボタンをクリックすると、パッチのビルドが開始されます。 |
| [自動リフレッシュ] | [自動リフレッシュ] をクリックすると、[自動リフレッシュ タイマ] ダイアログ ボックスが表示されます。[自動リフレッシュ] を使用する場合は、1 ~ 99 分のリフレッシュ間隔を入力します。0 を入力すると、自動リフレッシュがキャンセルできます。 |
| [全てオフ] | [コンポーネント ファイル名] カラムで選択されている全ファイルの選択が解除されます。 |
| [削除] | 選択したコンポーネント ファイルが削除されます。 |
| [リフレッシュ] | ビルド ステータスがリフレッシュされます。 |
| [前へ] | 前の画面に戻ります。 |
| [次へ] | [次へ] が有効な場合、クリックすると次の画面に進みます。 |
| [終了] | [終了] をクリックすると、サービス最適化ウィザードが終了します。 |

13 パッチを適用するファイルの横のチェック ボックスをオンにします。



14 **[ビルド]** をクリックします。新しいパッチのビルドを確認するメッセージが表示されます。

15 **[はい]** をクリックして続行します。

または

[いいえ] をクリックして終了します。

[はい] をクリックすると、オリジナルとターゲットのペアの現在のパッチが削除され、選択した各ファイル ペアに対するパッチ作成リクエストが CM Configuration Server に送信されます。

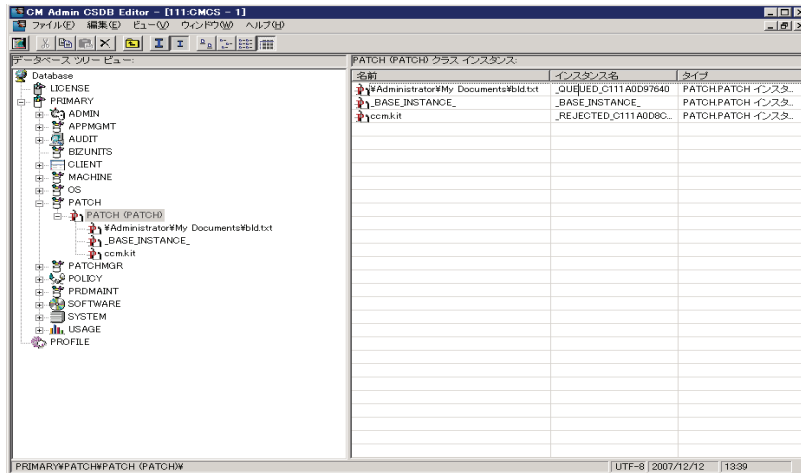
16 **[ステータス]** を更新するには、**[リフレッシュ]** をクリックします。

17 **[終了]** をクリックすると、サービス最適化ウィザードが終了します。

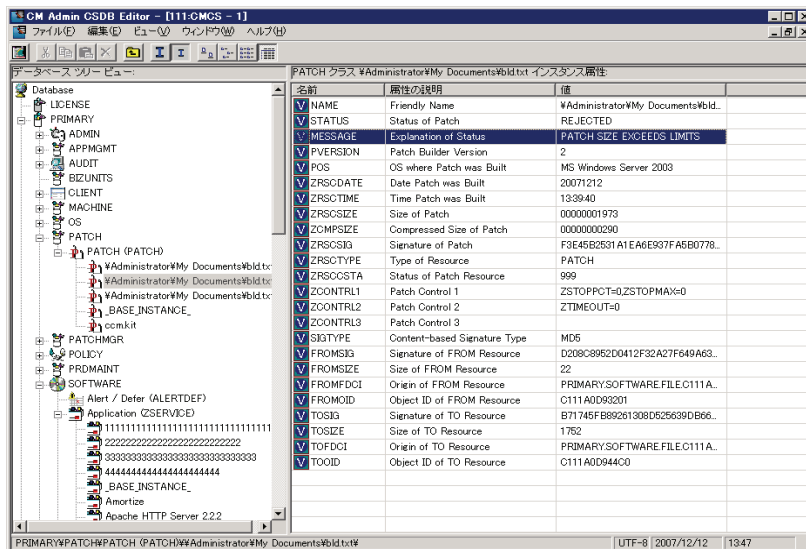
または

[前へ] をクリックすると、[使用できるパッケージ] ダイアログ ボックスに戻り、追加のパッチがビルドできます。

パッチは、PATCH クラスの下にある PATCH ドメインに格納されます。



PATCH.PATCH を調べて、パッチ インスタンスがビルドされたことを確認します。ビルドが拒否されたパッチを調べて、その理由を確認します。要求されたパッチの現在のステータスを確認するには、MESSAGE 変数を参照します。



サービス グループ

CM は、複数のサービス パッケージを必要とする製品を管理することにより、製品のフル インストールやフル オペレーションを実現します。製品が他のサービス パッケージを必要としている場合、または他のサービスに依存している場合は、サービス グループを使用することができます。こ


れには、パッケージ化された MSI 製品も含まれます。この場合は、以下のようなケースが考えられます。

複数の MSI サービス パッケージを利用している製品。たとえば、MS Office では、他の言語パック サービスが必要となります。

MS Office のように、サイズが大きい製品。製品スイートの一部の機能だけをインストールする場合に備えて、いくつかの小さな下位サービスに分割しなければならない場合があります。

サービス グループ機能を使用すると、上位のサービス、つまりマスター サービス単位で複数のサービスがグループ化できます。この操作により、同じタイプのコンポーネントや関連するコンポーネントを論理的にわかりやすくまとめることができます。

CM Admin CSDB Editor を使用して定義し、グループ サービスおよびパッケージをマスター サービスに関連付けます。

 通知またはタイマーによる更新などのアクションは、必ずマスター サービスを対象にしてください。マスター サービスに適用したアクションは、すべての下位サービスに適用されます。

コンポーネントの機能拡張

Application Manager

RADSKMAN コマンドには、複数のサービス リクエストを処理するロジックが含まれます。RADSKMAN では、個々の下位グループに対するリクエストを実行し、最終結果のレポートをマスター サービスに返します。

Application Self-service Manager

CM Service List サービスリストには、マスター サービスのみが表示されます。

前提条件

サービス グループに対してマスター サービスを設定する前に、以下の設定を変更または確認してください。

CM Configuration Server (バージョン 4.5 以上)、`edmprof` ファイル内で、`MGR_OBJECT_RESOLUTION` セクション内の `ALLOW_DUPLICATE_INSTANCES` が [No] に設定されていることを確認してください。

CM Configuration Server (バージョン 4.5 以前)、`edmprof` ファイル内で、`MGR_OBJECT_RESOLUTION` セクション内で次のように設定されていることを確認してください。

- ALLOW_CIRCULAR_REFERENCE が [Yes] に設定されており、
また
- ALLOW_DUPLICATE_INSTANCES が [No] に設定されていること。

CM-CSDB

複数のサービスをまとめて設定する（インストールに際して依存関係にある各サービスをグループ化する）には、Application (ZSERVICE) クラスの `_BASE_INSTANCE_` に `ZSVCGRP` という変数を追加します。これは `ZSVCGRP` と呼ばれる変数です。ZSERVICE クラスに追加する場合は、次の表を参考に変数を設定します。

クラスの編集については、136 ページの「[クラスを編集する](#)」を参照してください。

表 46 ZSVCGRP 変数値

| 値 | 動作 |
|---|---|
| Y | CM Configuration Server に Y (Yes) と指定すると、サービスグループは、インストールの際に無関係なアプリケーションの集まり、または依存関係にないアプリケーションの集まりとして処理されます。 変数を指定しなかった場合、これがデフォルトです。 |
| D | CM Configuration Server に D (Dependent) と指定すると、サービスグループの下にあるサービスを、インストールの際に依存関係にないものとして処理されます。1 つのサブサービスが失敗した場合、残りのサービスはインストールされません。 |
| N | サービスグループがない場合は、N (No) と指定します。 |

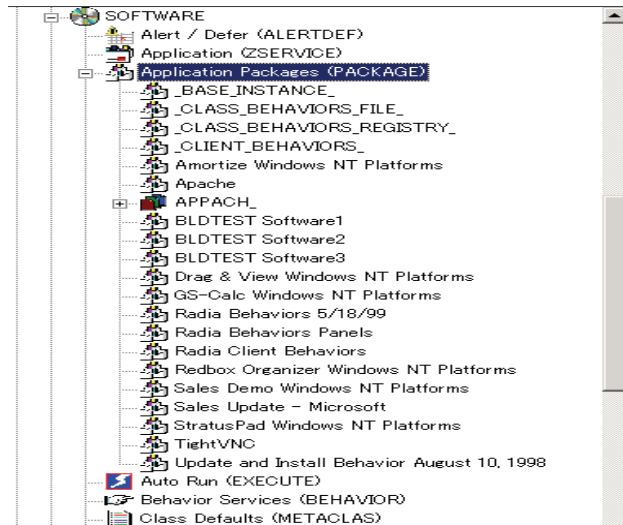
サービスグループ用のマスター サービスの作成

`edmprof` ファイルに変更を加えた後に、サービスグループ用のマスター サービスインスタンスを作成できます。

CM Admin CSDB Editor を使用して、マスター サービスに新しい Application (ZSERVICE) インスタンスを作成します。次に、グループのメンバーになる各サービスに、メンバー サービスとマスター サービス間の接続を作成します。サービスメンバーはいつでもマスター サービスに追加することができます。

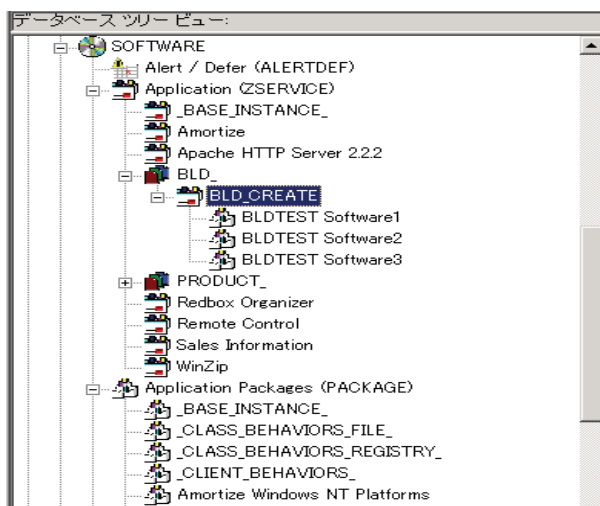
この例では、「Sales Services」というマスター サービス インスタンスを作成します。このマスター サービスは、Amortize サービスと GS-Calc サービスを含みます。

図 26 ZSERVICE クラスのサンプル サービス



サービス グループ用のマスター サービスを作成するには

- 1 CM Admin CSDB Editor を開き、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE クラスに移動します。
- 2 クラスを展開し、[Application (ZSERVICE)] 内のインスタンスを表示します。
- 3 **[Application (ZSERVICE)]** を右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。
- 4 ショートカット メニューの **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。[インスタンスの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 新しい ZSERVICE インスタンス (SALES SERVICES) の名前を入力します。
- 6 **[OK]** をクリックしてインスタンスを作成します。新しいインスタンスが Application (ZSERVICE) クラスに表示されます。

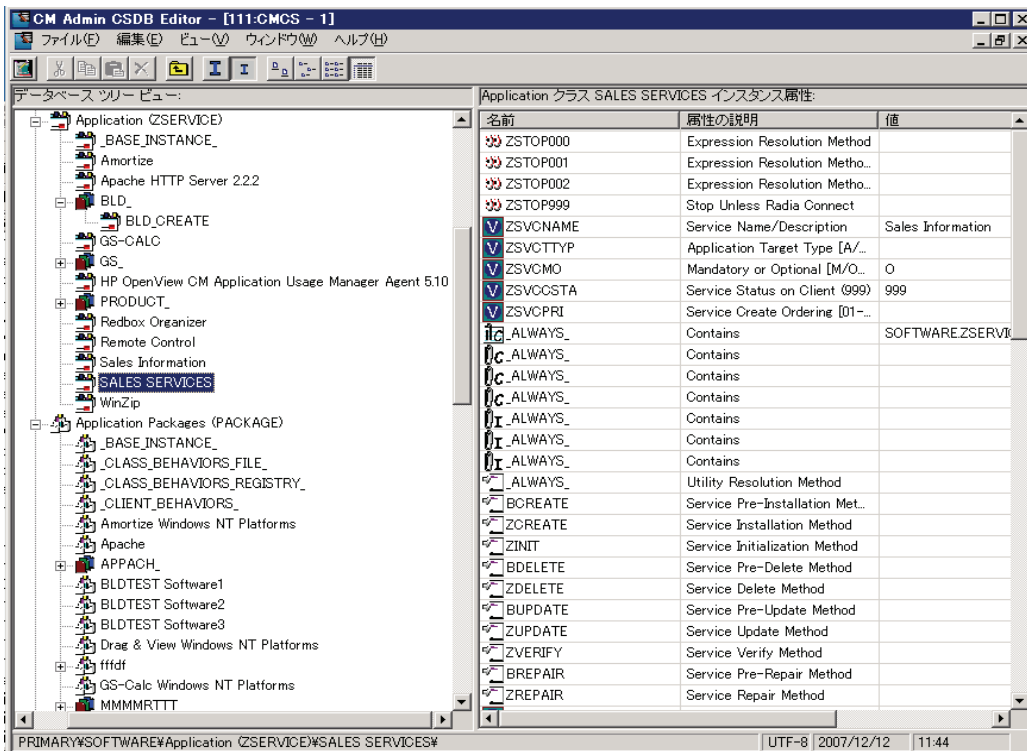


サービスをマスター サービスに追加できるようになりました。

- 7 [SALES SERVICES] を右クリックし、ショートカットメニューの [接続を表示] をクリックします。[SOFTWARE.ZSERVICE 接続] ダイアログ ボックスが表示されます。



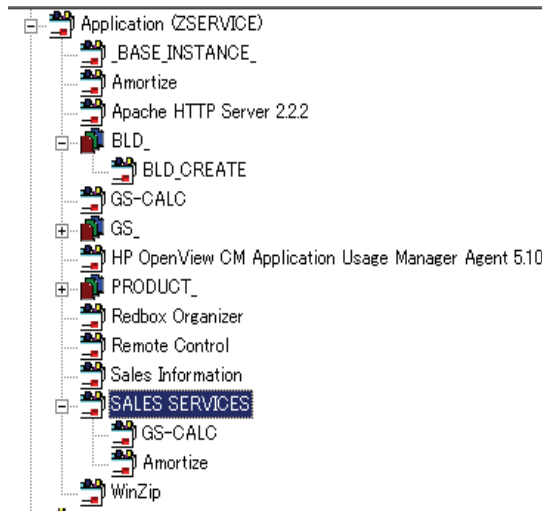
- 8 [SOFTWARE.ZSERVICE 接続] ダイアログ ボックスの [Application (ZSERVICE)] をクリックして、[OK] をクリックします。画面のリスト ビューに、ZSERVICE クラスのインスタンスが表示されます。



- 9 右からサービスを選択して ZSERVICE.SALES SERVICES インスタンスにドラッグします。
- 10 カーソルがペーパー クリップに変わったらサービスの上にドロップします。
- 11 接続を確認します。
- 12 必要に応じて、概略を示した手順に従ってサービスを追加します。このサービス グループのマスター サービス インスタンスが完了しました。



マスター サービスにグループ化されたサービスは、データベース内でマスター サービスに接続した順番に従って上から順番にインストールされます。マスター サービス グループ内のメンバー サービスは ZSVCPRI 内の設定を使用しません。



これで、このマスター サービスをユーザーに配布する準備が整いました。

CM Notify

CM Notify を使用すると、CM 管理者が 1 つまたは複数のエージェント コンピュータを CM Configuration Server に接続し、指定したアプリケーションが更新または削除できます。CM が管理するアプリケーションに基づいて電子メール通知をエージェント コンピュータに送信することもできます。

▶ CM Notify 要件の詳細については、『*CM Application Manager and Application Self-service Manager Guide*』の「Deploying Applications」の章を参照してください。

通知機能では、オーディエンス リスト内のエージェント コンピュータと通信します。CM がエージェント コンピュータにアプリケーションをインストールすると、そのエージェント コンピュータがオーディエンス リストに追加されます。

通知の使用に際しては、以下のような前提条件があります。

通知の前に、サブスクリバが CM Configuration Server に接続していること。通知機能では、CM-CSDB の PROFILE ファイルに情報が格納されているエージェントにのみ通知を行います。

サブスクリバが CM を使用してアプリケーションを既にインストールしており、指定したアプリケーションのオーディエンス リストに追加されていること。

(サブスクライバへの通知に電子メールを使用する場合) サブスクライバの電子メール アドレスが、POLICY ドメイン内の USER クラスにある USER インスタンスの EMAIL 変数に格納されていること。

CM Configuration Server が Notify 用に敵的に設定されている必要があります。Configuration Server Settings ファイル `edmprof` に適切な値を設定する詳細については、HP Software サポート Web サイトの Engineering Note, *OV- ENKB01129: Configuring the Radia Configuration Server for E-mail Notification* を参照してください。

[ビュー オプション] ダイアログ ボックスの [通知] タブで、CM Admin CSDB Editor によるエージェント用通知コマンドの生成方法を選択していること。アプリケーションをインストールするようサブスクライバに通知する際の UID 値および STARTDIR 値がカスタマイズできます。詳細については、126 ページの「[通知] タブ」を参照してください。

CM Admin CSDB Editor で通知アクションを開始する方法には、以下の 2 種類があります。

ポリシー クラス インスタンス (USER、DEPT、または WORKGRP) を Application (ZSERVICE) インスタンスにドラッグする方法。オーディエンス リストに含まれるエージェントはいずれもポリシー クラス インスタンスのメンバーであり、アプリケーション インスタンスによって示されているアプリケーションを CM でインストールし、CM で管理しているコンピュータです。

アプリケーション インスタンスのショートカット メニューで **[Notify 認証]** を選択する方法。オーディエンス リストに含まれるエージェントは、アプリケーション インスタンスによって示されているアプリケーションを CM でインストールし、CM で管理しているコンピュータです。



いずれの方法を使用する場合でも、通知を有効にするには、既にアプリケーションがエージェント コンピュータにインストールされている必要があります。

通知が開始されると、CM Admin CSDB Editor で通知処理を完了するためのダイアログ ボックスが表示されます。どちらの方法で通知を開始しても、表示されるダイアログ ボックスは同じです。

フィルタで CM-CSDB の表示内容を指定する

あるべき姿が大きくなった場合は、CM Admin CSDB Editor で CM-CSDB の内容を制限して表示するように設定すると便利です。これにより、ドメイン、クラス、またはインスタンスの検査や編集の際に、ウィンドウ内を上から下までスクロールして探す手間を省くことができます。CM Admin CSDB Editor には、ユーザーが定義した条件を基に CM-CSDB の表示内容を制限するフィルタ設定機能があります。この機能は、USER クラスや FILE クラスなど、多数のインスタンスがあるクラスに対して特に有効です。

フィルタ仕様は、CM Admin CSDB Editor に対してどのドメイン、クラス、インスタンスを表示するかを指示するものです。フィルタは、ドメイン、クラス、またはインスタンスの名前と、指定した条件が一致するかどうかを基に処理されます。

フィルタ仕様には、1 つまたは複数のワイルドカード文字（「*」や「?」）が指定できます。「*」は、フィルタ対象のコンポーネント名にある任意の数の文字を表します。「?」は、フィルタ対象のコンポーネント名にある任意の 1 文字を表します。

次の表では、有効なフィルタ式の例、およびその式によって選択される名前を示します。

表 47 有効なフィルタ式の例

| フィルタ仕様 | 選択される名前 |
|---------------|---|
| * | ワイルドカードによってすべての文字が一致したと見なされます。現在有効なフィルタがすべて解除されます。 |
| _* | アンダースコアで始まる名前を示します。 |
| *_A* | プレフィックスがあり、任意のレベルのプレフィックスの後に「A」が続いている名前を示します。 |
| *.?LL | ピリオドでいったん区切られ、その後に任意の 1 文字と「LL」が続いている名前を示します。 |
| *-??WORD*.HP? | 任意の文字列にダッシュが続き、その後に任意の 2 文字と WORD という文字があり、さらに任意の文字列がピリオドまで続き、次に HP 、さらに任意の 1 文字が続く名前を示します。 |

適用できるフィルタには、CM Admin CSDB Editor セッション全体にわたって機能するもの（パーマネントフィルタ）と、現在の CM Admin CSDB Editor ウィンドウでのみ有効なもの（テンポラリフィルタ）があります。

パーマネント フィルタ

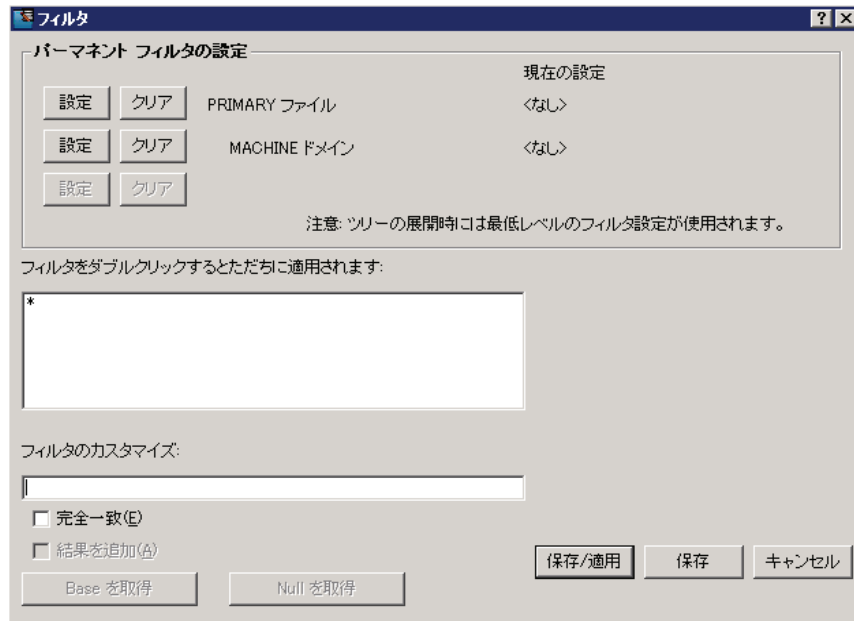
パーマネントフィルタは、現在の CM Admin CSDB Editor セッション中であれば、どのウィンドウを開いても適用されます。各クラスには、CM Admin CSDB Editor セッションを終了するまで保持される固有のパーマネントフィルタ仕様が指定できます。

パーマネントフィルタの設定または解除は、[フィルタ] ダイアログ ボックスの上部にある [パーマネントフィルタの設定] で行います。

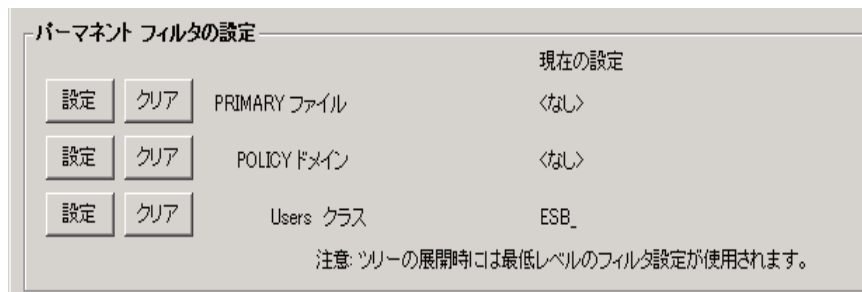
ESB_ というプレフィックスで USER クラスのインスタンスをフィルタするパーマネントフィルタを設定するには

- 1 ツリービューで、POLICY ドメインを展開します。

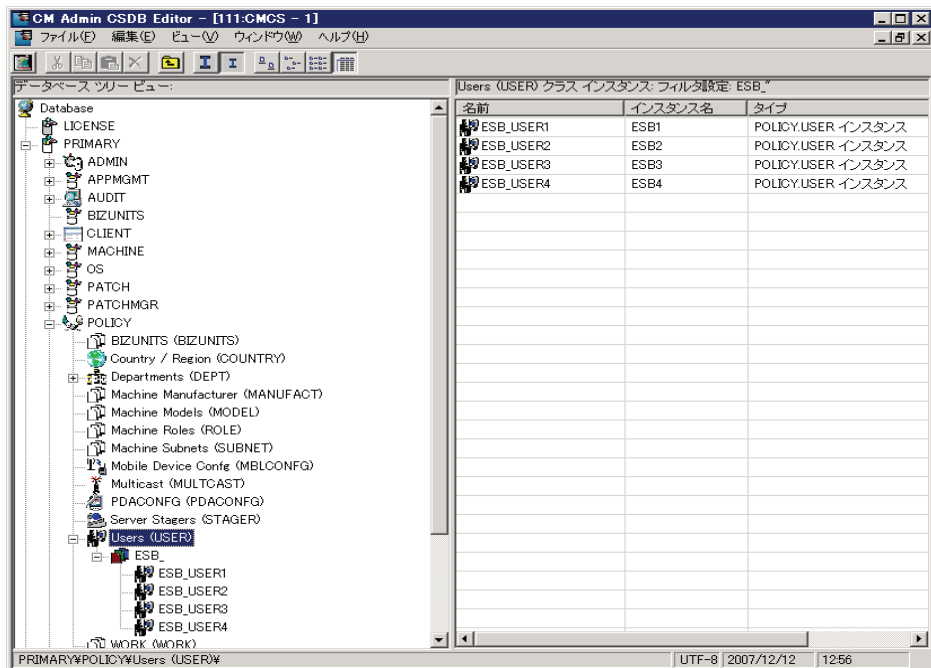
- ツリー ビューを下にスクロールして、USER クラスを探します。
- USER クラス**を右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。
- [インスタンスをフィルタ]** をクリックして [インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスを表示します。



- [フィルタのカスタマイズ] ボックスに「**ESB_***」と入力します。
- [パーマネント フィルタの設定] で、ユーザー クラスの横にある **[設定]** をクリックします。フィルタ仕様が表示されます。



- フィルタを適用するには、ダイアログ ボックスの下部の **[保存/適用]** をクリックします。ダイアログ ボックスが閉じ、ツリー ビューはフィルタが適用された状態に更新されます。



現在の CM Admin CSDB Editor セッション内であれば、どのウィンドウを開いても、このフィルタが USER クラスに適用されます。

パーマネント フィルタを削除するには

- 1 [インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスで、対応する [クリア] ボタンをクリックします。
- 2 [保存/適用] をクリックしてフィルタを削除します。

テンポラリ フィルタ

[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスでは、テンポラリ フィルタを適用することもできます。テンポラリ フィルタは、現在の [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウが開いている間だけ有効になります。テンポラリ フィルタを適用するには、[フィルタのカスタマイズ] フィールドでフィルタ仕様を指定し、[保存/適用] をクリックします。

ESB_ というプレフィックスで USER クラスのインスタンスをフィルタするテンポラリ フィルタを設定するには

- 1 ツリー ビューで、POLICY ドメインを展開します。
- 2 ツリー ビューを下にスクロールして、USER クラスを探します。
- 3 **USER クラス**を右クリックします。次のショートカット メニューが表示されます。

- 4 **[インスタンスをフィルタ]** をクリックして [インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスを表示します。
- 5 [フィルタのカスタマイズ] ボックスに「**ESB_***」と入力します。
- 6 **[保存/適用]** をクリックします。

テンポラリ フィルタを削除するには

- 1 フィルタ仕様として「*****」を指定します。
これはあらゆるドメイン、クラス、インスタンスの名前に一致するので、フィルタを削除することができます。「*****」というフィルタ仕様は、*高速フィルタリスト*でよく見かけます。
- 2 **[保存/適用]** をクリックしてフィルタを削除します。

ベース インスタンスまたは null インスタンスを表示する

[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスでは、クラスのベース インスタンスまたは null インスタンスだけが表示されるように設定することもできます。

ベース インスタンスまたは null インスタンスを表示するには

- 1 ツリー ビューで、POLICY ドメインを展開します。
- 2 ツリー ビューを下にスクロールして、USER クラスを探します。
- 3 **USER クラス**を右クリックします。
- 4 ショートカット メニューの **[インスタンスをフィルタ]** をクリックします。[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 USER クラスの **_BASE_INSTANCE_** を表示する場合は **[Base を取得]**、USER クラスの **_NULL_INSTANCE_** を表示する場合は **[Null を取得]** をクリックします。
- 6 **[保存/適用]** をクリックします。

フィルタ結果を追加する


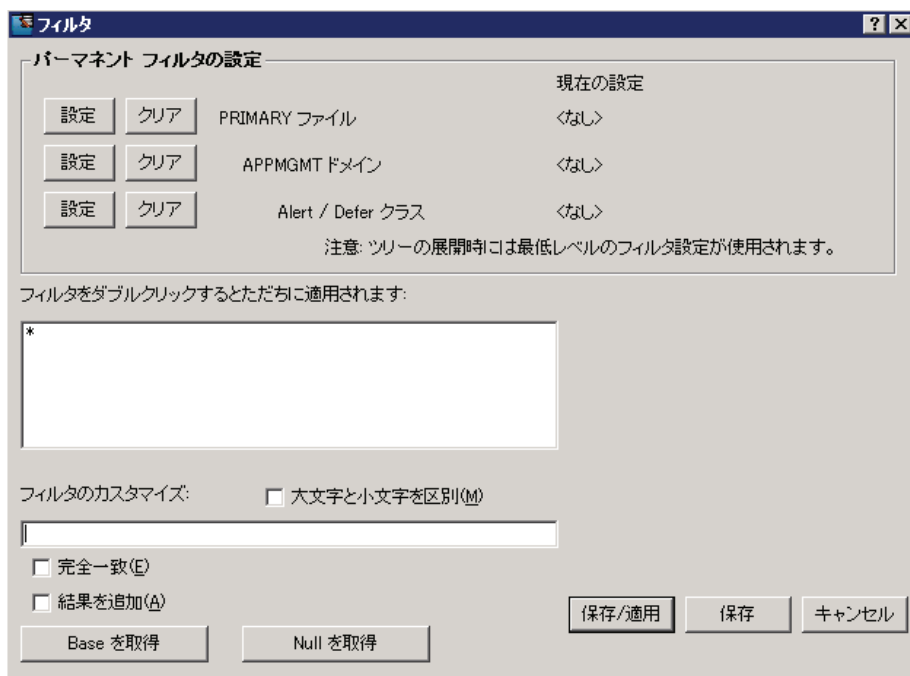
現在のフィルタ結果の表示内容を保持したまま、追加フィルタを適用したい場合があります。2つのフィルタ結果を同時に表示するには、次のフィルタを実行する際に **[結果を追加]** チェックボックスをオンにします (192 ページの  27 を参照)。

図 27 [インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックス

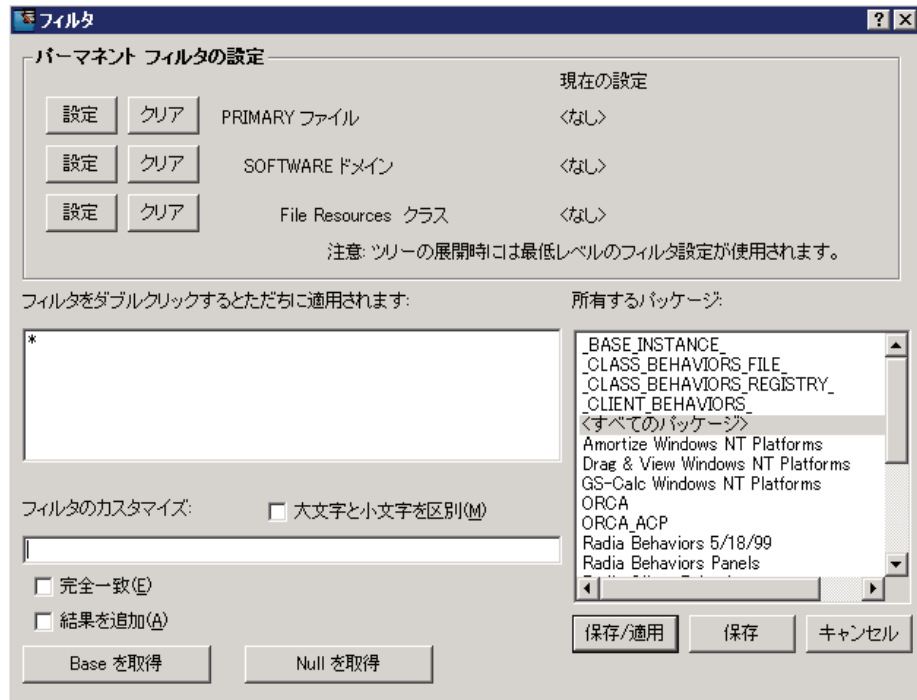


コンポーネント クラスのインスタンスをフィルタする

コンポーネント クラスのインスタンス (FILE および DESKTOP などのクラスのインスタンス) は、接続先の設定 クラスのインスタンスを基にフィルタすることができます。

コンポーネント クラス (この例では、SOFTWARE ドメインの FILE クラス) をフィルタする場合、[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスに、[所有するパッケージ]というスクロール リストが含まれます。193 ページの 図 28 を参照)。このスクロール リストにパッケージ インスタンスが表示されます。このスクロール リストにパッケージ インスタンスが表示されます。

図 28 コンポーネント クラスのフィルタ



FILE インスタンスをフィルタして、特定の PACKAGE インスタンスに接続されているものだけを選択するには










[所有するパッケージ] ボックスの一覧で、パッケージをダブルクリックします。

または

[所有するパッケージ] ボックスの一覧で、パッケージをクリックし、[保存/適用] をクリックします。

たとえば、[所有するパッケージ] ボックスの一覧で [Amortize Windows NT Platforms] をクリックし、[保存/適用] をクリックします。[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスが閉じ、選択したインスタンスが [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウのリスト ビューに表示されません。

図 29 所有するパッケージの FILE クラス インスタンス

| File Resources (FILE) クラス インスタンス: | | |
|--|-----------------------|----------------------|
| 名前 | インスタンス名 | タイプ |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize | DABC759794AD_AD8BF78B | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\AMORTIZE.EXE | DABC759794AD_31607370 | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\AMORTIZE.GID | DABC759794AD_163AB498 | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\AMORTIZE.HLP | DABC759794AD_7ACBD39D | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\AMORTIZE.TXT | DABC759794AD_46349AC5 | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\DATE.HLP | DABC759794AD_A65546ED | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\DEAMORT.BAT | DABC759794AD_7D86B40A | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\SYSTEMU.GID | DABC759794AD_7B4E824A | SOFTWARE.FILE インスタンス |
|  Amortize Windows NT Platforms\%Amortize\SYSTEMU.HLP | DABC759794AD_17BFE54F | SOFTWARE.FILE インスタンス |

高速フィルタ

[フィルタをダブルクリックするとただちに適用されます] というラベルの下にあるボックスでは、使用頻度が高いと思われるフィルタ仕様が表示されます。このフィルタ仕様は、適切な権限を持つ CM システムの管理者によってカスタマイズ可能です。

このボックス内にあるフィルタを高速フィルタ仕様といいます。ラベルが示すように、目的のフィルタ仕様をダブルクリックすると、そのフィルタ式がすぐに適用されます。高速フィルタは、現在表示されている [CM Admin CSDB Editor] ウィンドウでのみ有効なテンポラリフィルタです。

高速フィルタをカスタマイズする

高速フィルタを CM-CSDB に保存し、必要な接続を確立すると、[インスタンスをフィルタ] ダイアログボックスに表示されて選択できる高速フィルタのリストが指定できます。[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスを表示したときに、そのダイアログ ボックス固有の高速フィルタのリストが CM-CSDB から取得されます。

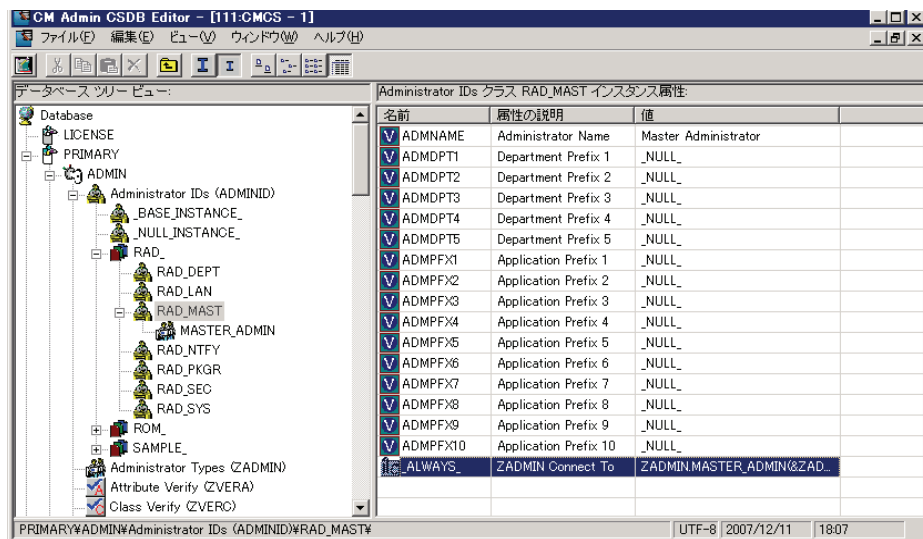
CM Admin CSDB Editor セッションを開始するときに入力したユーザー ID、およびフィルタ対象の CM コンポーネント (ドメイン、クラス、インスタンス) に基づく解決プロセスで、CM-CSDB 内の適切なリストが特定されます。詳細については、*『CM Essentials Guide』*の「Resolution Process」を参照してください。

特定のドメインに対する高速フィルタのリストが、PRIMARY ファイル内の ADMIN ドメインにある ZLIST32 クラスのインスタンスから収集されます。ここで、その仕組みを説明します。

RAD_MAST というユーザー ID でログオンしているとします。管理者のユーザー ID に関連付けられている権限およびデフォルト値は、PRIMARY ファイルの ADMIN ドメインに格納されています。ADMINID クラスには、管理者のユーザー ID ごとのインスタンス (ここでは RAD_MAST というインスタンス) があります。

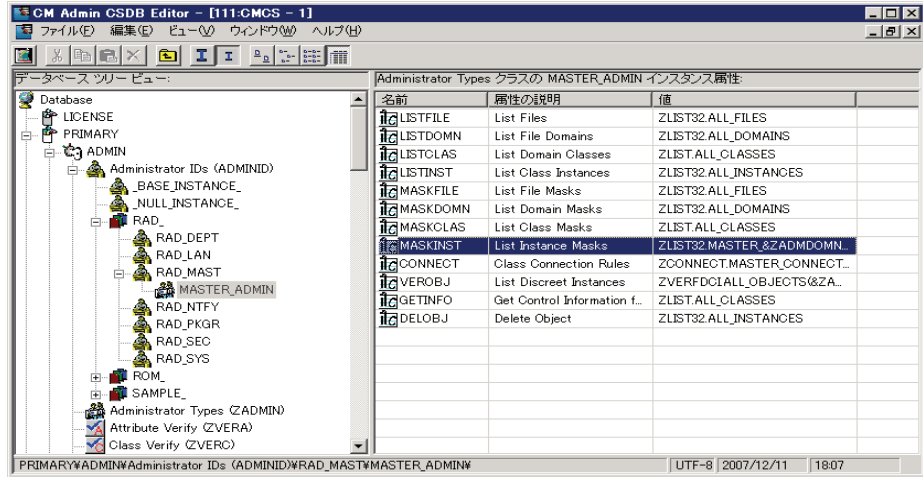
RAD_MAST インスタンスには、ZADMIN クラスのインスタンス (ここでは ZADMIN.MASTER_ADMIN) への接続が設定されています。

図 30 RAD_MAST インスタンスの接続



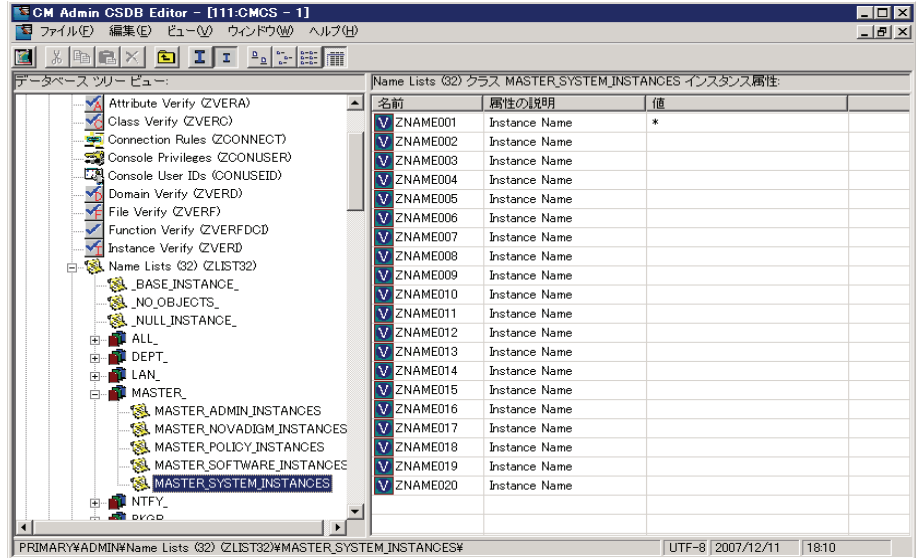
ZADMIN.MASTER_ADMIN への接続属性は、システム メッセージ (&ZADMFUNC) でパラメータを渡します。このシステム メッセージは、ZADMIN.MASTER_ADMIN インスタンスで設定されている接続のうち、どれを実行するかを示します。特定の解決の実行時に、システム メッセージの値と一致する名前を持つ (または ALWAYS_ が指定されている) 接続だけが実際に確立されます。解決を開始する前に、CM Admin CSDB Editor によってパラメータの値が設定されます。ここでは、[インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスでインスタンス マスクのリストを取得する必要があるため、ZADMFUNC 変数の値 (すなわち、シンボリック置換後はシステム メッセージの値) が MASKINST に設定されます。

図 31 ZMASKINST への ADMFUNC 変数の設定



これによって、フィルタされるドメイン (SYSTEM) を基に ZLIST32 クラスのインスタンスである ZLIST32 .MASTER_ & ZADMDOMN_INSTANCES への接続が実行されます。ドメインは ZADMDOMN 変数で示され、CM Admin CSDB Editor によって動的に設定されます。この変数の値は、管理者がどのクラスを右クリックして [インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックスにアクセスしたかによって決まります。この例では、目的のデフォルト高速フィルタ仕様のリストを含む ZLIST32.MASTER_SYSTEM _INSTANCES (解決プロセスによってシンボリック置換が実行された後で) に接続されます。

図 32 LIST32.MASTER_SYSTEM_INSTANCES への接続



ドメインに対する高速フィルタのリストを変更する場合は、ZLIST32 クラスの対応するインスタンスを編集します。編集内容は、変更した ZLIST32 インスタンスに接続するためのユーザー ID を持つすべての管理者に対して適用されます。

特定の管理者を対象にしたカスタム高速フィルタを設定するには、上記の情報を参考にして、ADMIN.ADMINID クラスにあるその管理者のユーザー ID インスタンスを、目的の高速フィルタリストを格納する ZLIST32 インスタンスに接続します。

CM Admin CSDB Editor を使用してこれらの変更を行う方法の詳細については、147 ページの「インスタンスを追加する」および 148 ページの「インスタンスを編集する」を参照してください。

CM-CSDB で接続規則を維持する

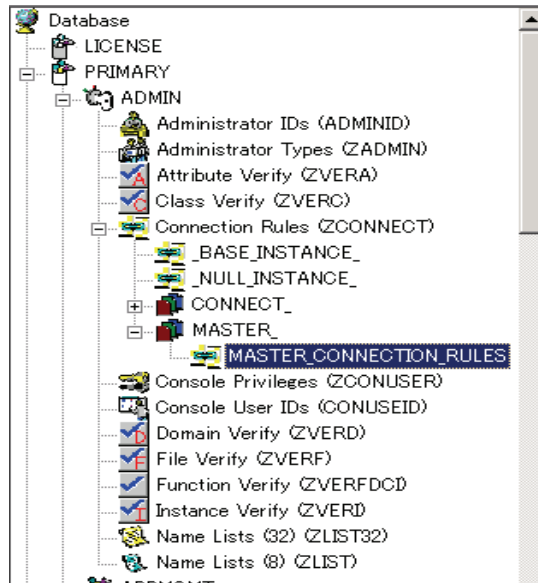
CM Admin CSDB Editor では、クラスのインスタンス同士がドラッグ アンド ドロップで接続できます。接続規則を保持するこれらの接続は、CM-CSDB に格納されます。

接続規則の概要

新しいクラスをドラッグ アンド ドロップで操作できるようにするには、新しいクラスの規則を確率する必要があります。これらの接続規則は、PRIMARY ファイル、ADMIN ドメインの

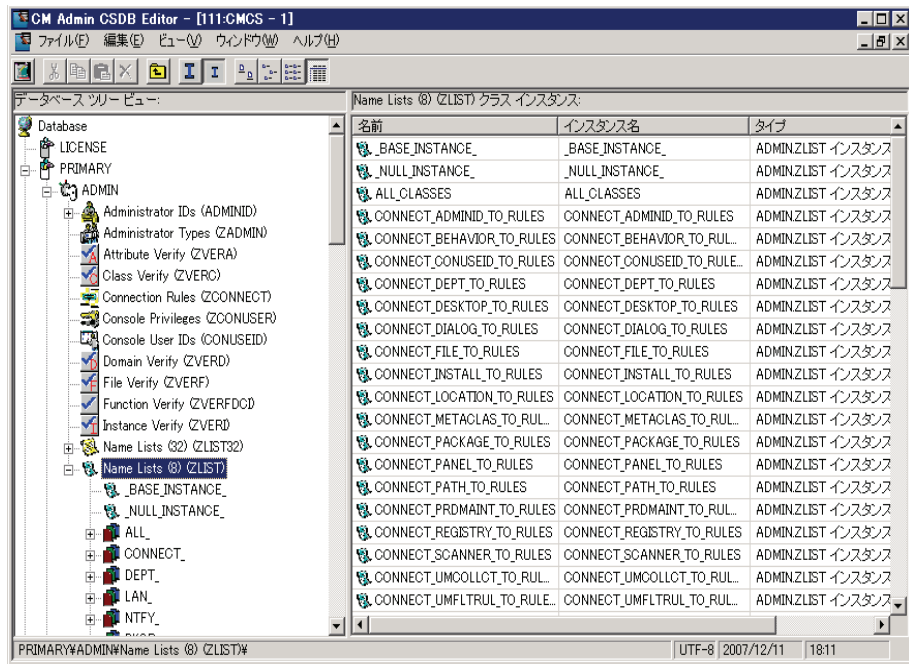
ZCONNECT クラスの MASTER_CONNECTION_RULES インスタンスに格納されます。

図 33 MASTER_CONNECTION_RULES インスタンス



ZCONNECT クラスには接続規則が含まれ、Name List (ZLIST) クラスにはすべてのクラスのすべての規則が格納されます。接続規則を作成するには、まず ZLIST クラスに規則を作成する必要があります。次に、その規則を ZCONNECT クラスに追加します。

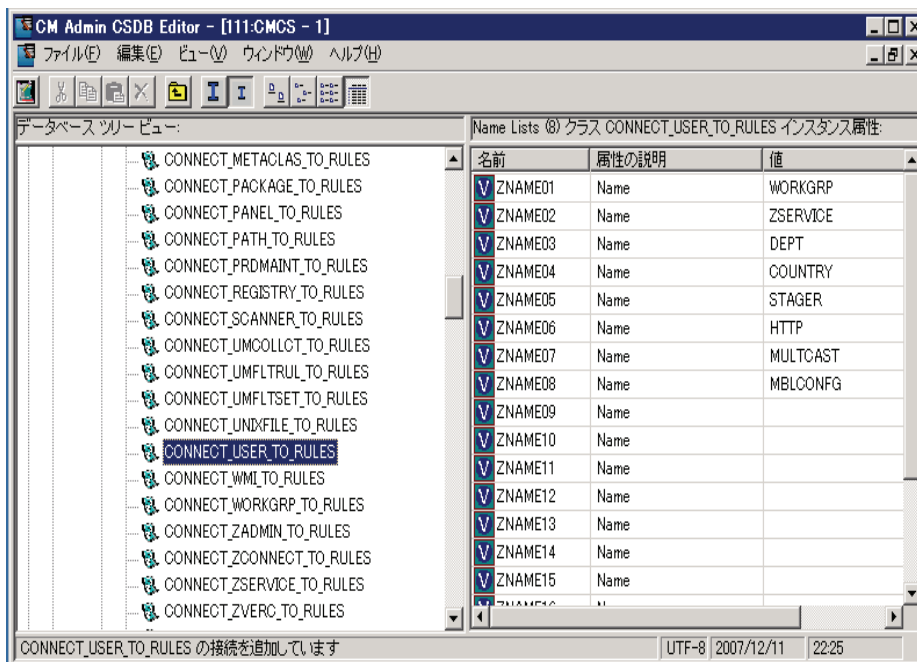
図 34 ADMIN ドメインの Name Lists (ZLIST) クラス



CM Admin CSDB Editor では、これらの規則に基づいて [接続を表示] ダイアログ ボックスのクラス リストが設定され、ドラッグ アンド ドロップ接続が制御されます。

ここでは、USER クラスに対して確立された接続規則を例に説明します。まず、200 ページの [図 35](#) にある ZLIST.CONNECT_USER_TO_RULES インスタンスを確認してください。

図 35 ZLIST.CONNECT_USER_TO_RULES インスタンス



この図に示した USER クラスのインスタンスには、以下のクラスへの接続が格納できます。

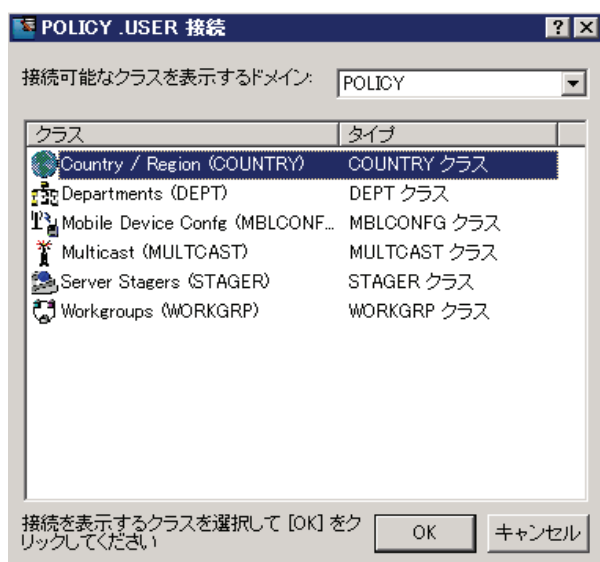
WORKGRP
 ZSERVICE
 DEPT
 COUNTRY
 STAGER
 HTTP
 MULTICAST
 MBLCONFIG

ZLIST インスタンスには、ZLIST インスタンスによって表されるクラス（この場合は USER）から接続するクラスのリスト（最大で 20 クラス）が格納できます。このリストを編集して、他のクラスを追加したり、接続規則からクラスを削除したりすることができます。CM-CSDB 内のクラスから接続できるようにするクラスが 20 を超える場合は、ZLIST クラス テンプレートを編集して、ZNAME nn 変数を追加できます。

接続の規則が Name List (ZLIST) クラスで確立されると、その接続タイプが作成されます。ここではドラッグ アンド ドロップの接続規則を作成しているため、Connection Rules (ZCONNECT) クラスにクラス変数を追加します。次に、規則変数を編集して、USER クラスに対して確立できる接続のタイプを定義します。

これで、新しいクラスに対してドラッグ アンド ドロップで接続が確立できるようになります。201 ページの [図 36](#) は、USER クラスが格納されている POLICY ドメインの接続可能クラスを示しています。

図 36 POLICY ドメインの接続可能クラス



新しいクラスで接続を有効にする

他のクラスへの接続が格納できる新しいクラスを CM-CSDB に追加した場合は、次の手順を実行する必要があります。

新しいクラスを表すインスタンスを ZLIST クラス内に作成します。

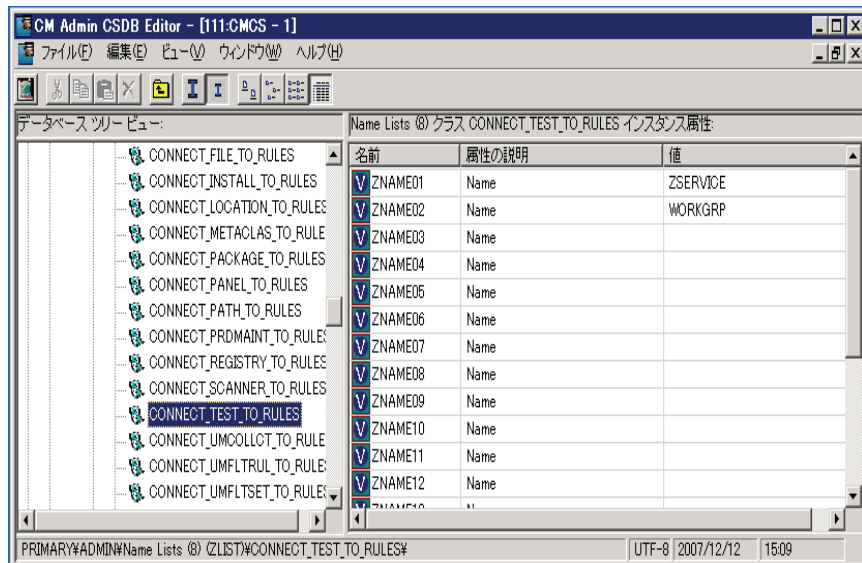
新しい ZLIST クラス インスタンスを設定して、接続規則を使用することができるようにします。

ZCONNECT クラス テンプレートに新しいクラスを追加します。

MASTER_CONNECTION_RULES で、新しいクラスの変数を設定します。

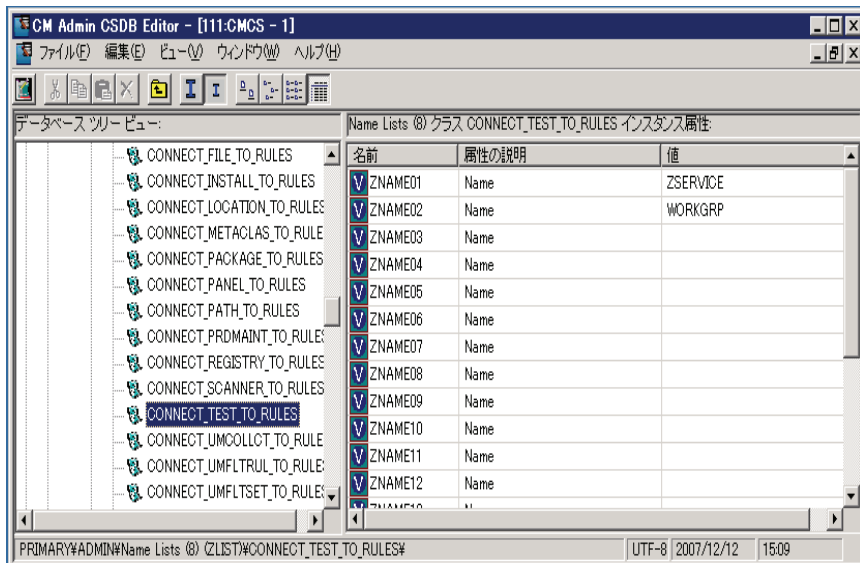
次の手順では、例として TEST という新しいクラスの接続を追加する方法を説明します。

- 1 CONNECT_newclass_TO
_RULES という ZLIST クラスのインスタンスを作成します。newclass には、たとえば TEST などの新たに追加するクラスの名前を指定します。
- 2 CM Admin CSDB Editor を開き、PRIMARY.ADMIN.Name Lists (8) (ZLIST) クラスに移動します。
- 2 ZLIST を右クリックし、[インスタンスを新規作成] をクリックします。
- 3 新しいインスタンスに上記で推奨している CONNECT_TEST_TO RULES という名前を付けます。この図は、ZLIST クラスに CONNECT_TEST_TO_RULES を追加した状態を示します。



- 4 CONNECT_TEST_TO_RULES インスタンスを編集して、新しいクラスの接続先となるクラスの名前を、それぞれの ZNAME nn 変数に設定します。

ここでは、次の図に示すように、例として ZSERVICE クラスおよび WORKGRP クラスに接続できるように ZNAME01 および ZNAME02 に値を設定します。



次に、Connection Rules (ZCONNECT) クラスに**接続規則変数**を追加する必要があります。

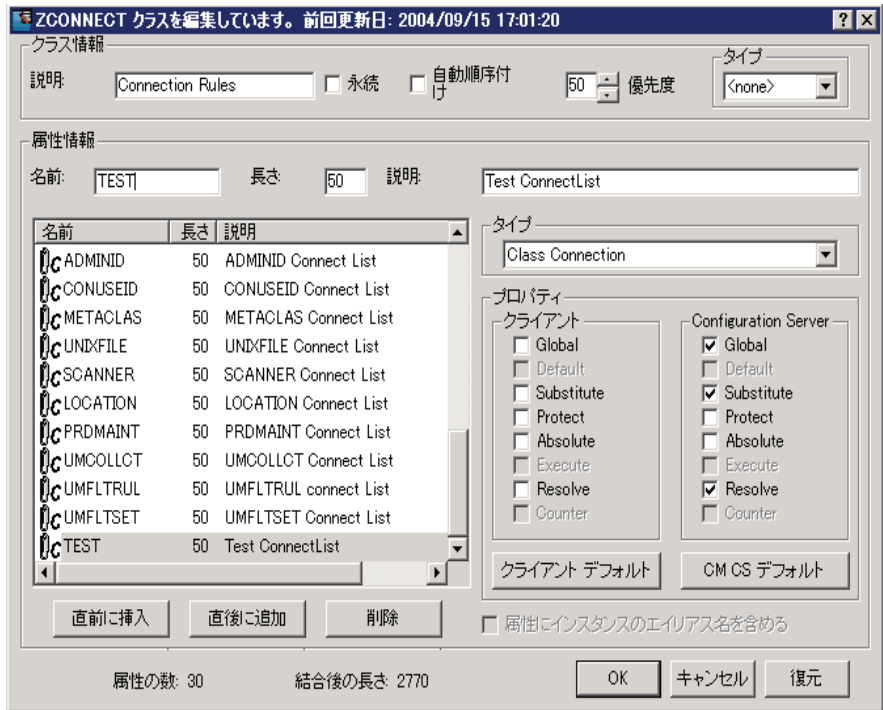
- 5 PRIMARY.ADMIN.ZCONNECT クラスに移動します。
- 6 **ZCONNECT** クラスを右クリックし、ショートカットメニューで **[クラスを編集]** をクリックします。
- 7 新しいクラス変数 (TEST) を、ZCONNECT クラスのクラス テンプレートに追加します。属性の長さは 50 で、説明は「Test Connect List」です。



ZCONNECT クラスに属性を追加する際は、属性タイプを必ず [クラス接続] に変更してください。次の図を参照してください。



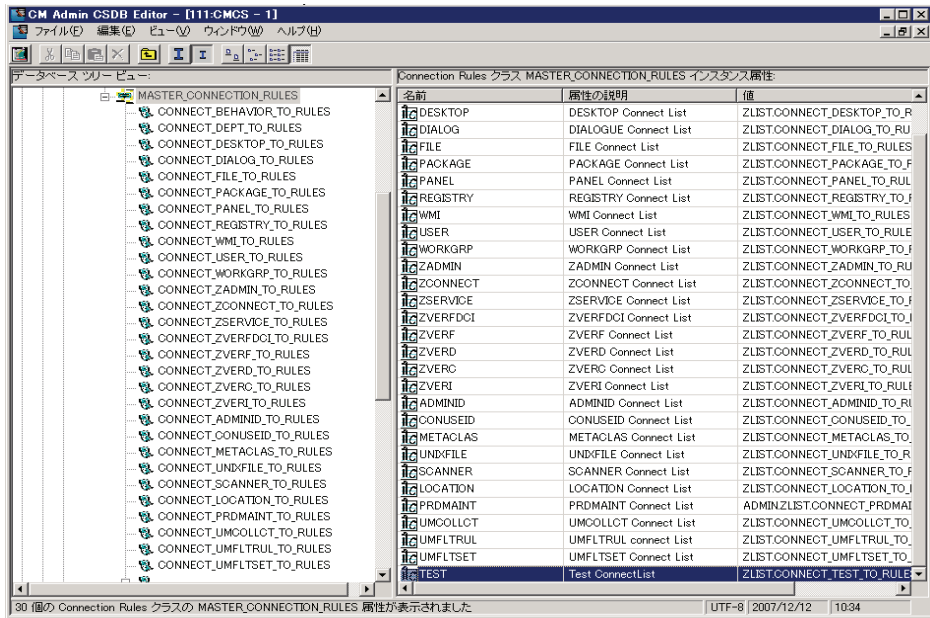
クラスの編集については、136 ページの「[クラスを編集する](#)」を参照してください。



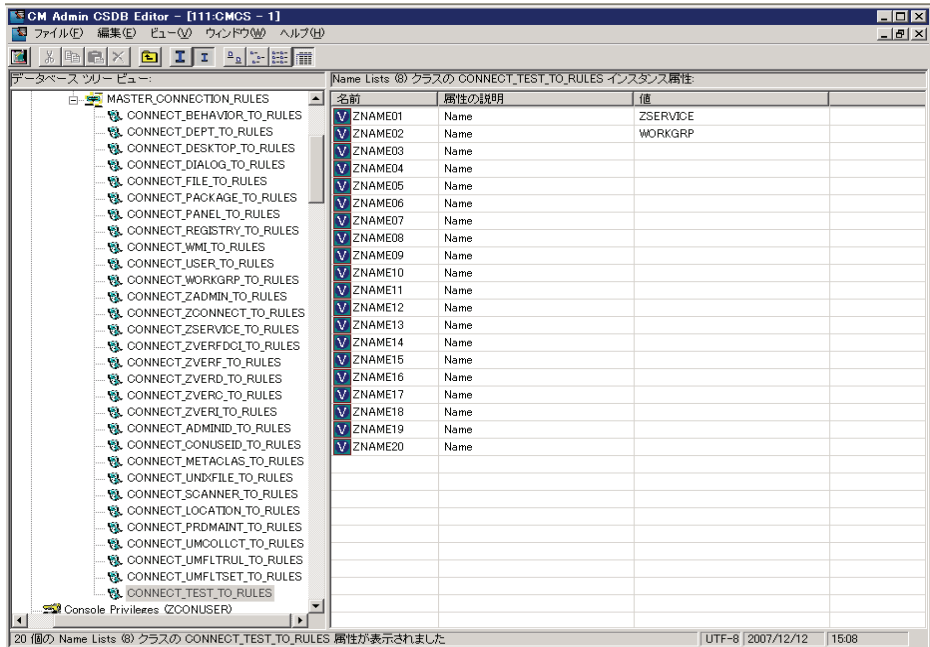
クラス テンプレートに新しい属性を追加したら、
ZCONNECT.MASTER_CONNECTION
_RULES インスタンスで新しい属性の値を設定する必要があります。

- 8 リスト ビュー (画面の右側) で、新しいインスタンスを見つけ、新しい変数の値を
ZLIST.CONNECT_TEST_TO_RULES に設定します。newclass は、新しいクラ
スの名前です。

たとえば、次の図で、TEST 属性に設定された値を確認してください。



次の図は、MASTER_CONNECTION_RULES に新しい接続規則が追加されたことを示します。これで、新しいクラスの接続がドラッグ アンド ドロップで操作できます。



WI が有効なアプリケーションの管理

この節では、機能セット エディタについて説明します。

機能セット エディタの概要

CM Admin CSDB Editor は、機能セット エディタを持ち、そのウィザード形式のインターフェイスにより、CM で管理する Windows インストーラ対応ソフトウェア パッケージの機能が容易に選択および設定できます。CM 機能セット エディタを使用することで、Radia が提供するパッケージ化および配布のテクノロジーと Windows インストーラのさまざまな機能が同時に使用できます。

Office 2000 のリリース以降の Microsoft 製品には、Windows プラットフォーム上でソフトウェア製品のインストールおよび管理に使用する新しいテクノロジー (Microsoft Windows インストーラ) が導入されています。CM 製品では、Windows インストーラ対応のアプリケーションが以下の方法でインストールおよび管理できます。

CM Admin Publisher では、Windows インストーラ対応アプリケーションが、*基本メソッド*と*詳細なメソッド*でパブリッシュおよび設定できます。

▶ Windows Installer 有効アプリケーションに関する詳細については、*HP Configuration Management Extensions for Windows Installer Getting Started Guide (CM Extensions for WI GSG)*を参照してください。

Windows Installer 有効アプリケーションに関する詳細については、80 ページの「[Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする](#)」を参照してください。

CM-CSDB を使用すると、HP 製品に Windows インストーラの機能セットが格納できます。

CM を使用すると、ポリシーを管理したり状態データを収集したりすることができます。

CM では、Windows インストーラ変換 (MST) ファイルを作成しなくても、MSI パッケージのカスタマイズが制御できます。

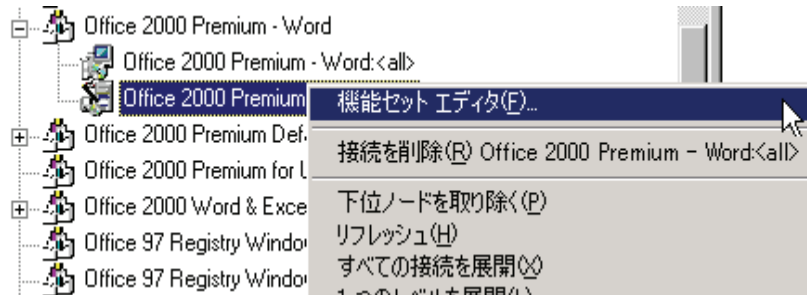
CM では、以前にインストールされた Windows インストーラを探索し、そのパッケージが管理できます。CM を使用して配布していない Windows インストーラにも対応しています。

機能セット エディタにアクセスする

機能セット エディタにアクセスするには

- 1 機能を編集したいソフトウェア パッケージを表す Application Packages インスタンスを探します。

- 2 このインスタンスをダブルクリックして、その MSI と MSIFEATS の接続を表示します。
- 3 MSIFEATS 接続を右クリックすると、下の図のようなショートカットメニューが表示されます。

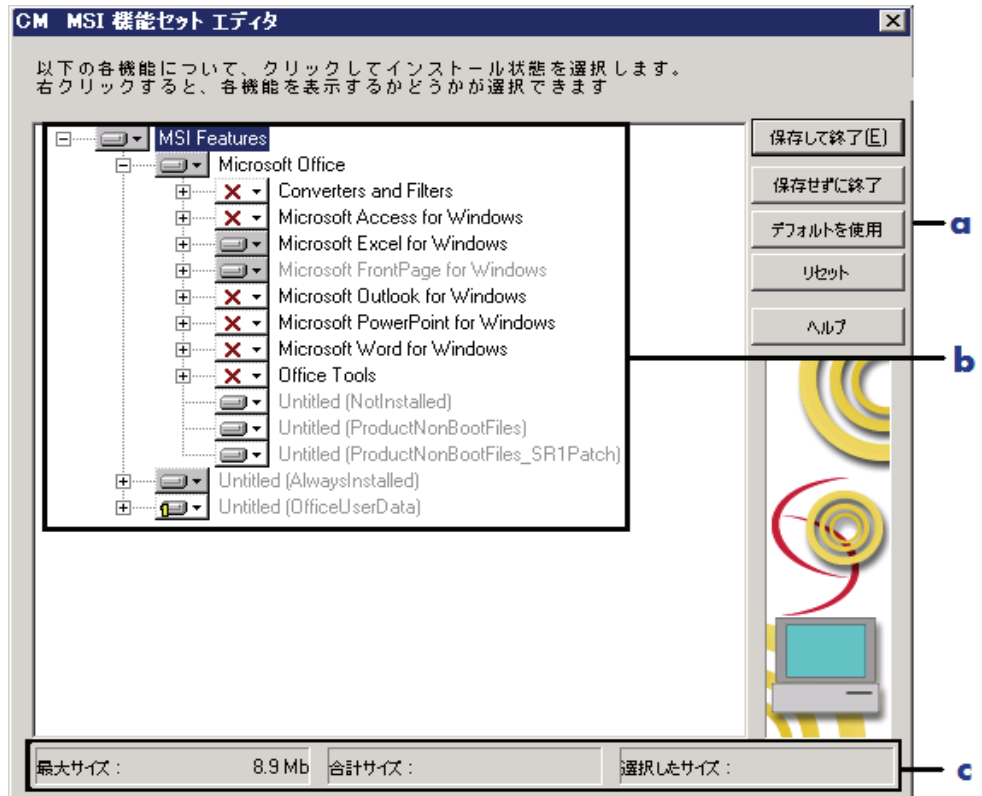


- 4 ショートカットメニューで **[機能セット エディタ]** をクリックします。
[機能セット エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。

CM MSI 機能セット エディタについて

208 ページの 図 37 に示すように、機能セット エディタのインターフェイスは、左側のツリー ビュー、右側のボタン リスト、最下部の **パッケージ サイズ情報** の 3 つで構成されています。

図 37 [機能セット エディタ] ダイアログ ボックス



凡例

- a ボタン
- b ツリー ビュー
- c パッケージ サイズ情報

ツリー ビュー

各機能は、ツリー コントロールを使用して移動できるよう階層構造にグループ化されています。上位レベルの機能は、その下位レベルの 2 つ以上の機能 (子機能) で構成されます。ツリー内の移動は、一般的な Windows エクスプローラ ツリーと同じです。

機能メニュー

各機能の横にあるドロップダウン ボタンをクリックすると、機能メニューが表示されます。

図 38 機能メニュー







各機能には、その機能のインストール方法やメンテナンス方法を判別するための属性が割り当てられています。

このツリー内で機能名が太字で表示されているのは、CM MSI 機能セット エディタ の現在のセッションで属性が変更された機能です。


通常、上位レベルの機能に属性を設定すると、その機能を構成するすべての子機能にも自動的に適用されます。この規則の例外については、209 ページの表 48 の機能の説明を参照してください。

表 48 機能メニューのオプション

| 機能のアイコンと名前 | 機能の説明 |
|---|--|
|  [マイ コンピュータから実行] | <p>この属性の機能は、エージェント コンピュータのハード ドライブに物理的にインストールされ、最適なパフォーマンスを得ることができます。</p> <p>この属性は、すべての子機能に適用されます。子機能の属性が既に [初めて実行するときにインストール] に設定されている場合には適用されません。</p> <p>子機能は、ツリー上で特定の機能の下に分岐接続された状態で表示されます。</p> |

| 機能のアイコンと名前 | 機能の説明 |
|--|--|
|  [マイ コンピュータからすべて実行] | <p>この属性の機能は、エージェント コンピュータのハード ドライブに物理的にインストールされます。子機能のすべての属性は [マイ コンピュータから実行] になり、エージェント コンピュータのハード ドライブに物理的にインストールされます。</p> <p>この属性を設定すると、その機能がユーザーのマシンから実行されるため、最適なパフォーマンスを得ることができます。モバイル コンピュータのユーザーは、モバイル環境で使用の際に必要なすべての機能を [マイ コンピュータから実行] または [マイ コンピュータからすべて実行] に設定しておく必要があります。そうしないと、コンピュータのハード ドライブにインストールされていない機能を外出先で使用する場合に、オリジナルのインストール メディアを要求するプロンプトが表示されます。メディアを持ち歩いていない場合は、その機能を使用することができません。</p> |
|  [ソースから実行] | <p>この属性の機能は、エージェント コンピュータのハード ドライブに物理的にインストールされず、管理インストール ポイント (AIP) から実行されます。これは、通常はエージェント コンピュータにアクセス可能なネットワーク共有です。</p> <p>この属性を選択した場合、その機能のすべての子機能に属性が自動的に適用されます。ただし、既に属性が [使用不可] に設定されている子機能には適用されません。</p> <p>[Run from Source] および [Run all from Source] 属性は、パフォーマンスを低下させて AIP へのアクティブ接続のニーズに対してローカル ハード ドライブの容量を節約します。</p> |
|  [ソースからすべて実行] | <p>この属性の機能は、エージェント コンピュータのハード ドライブに物理的にインストールされず、AIP から実行されます。これは、通常はエージェント コンピュータにアクセス可能なネットワーク共有です。</p> <p>この属性を選択すると、子機能に現在割り当てられている属性に関わりなく、[Run from Source] 属性がすべての子機能に自動的に適用されます。</p> <p>[Run from Source] および [Run all from Source] 属性は、パフォーマンスを低下させて AIP へのアクティブ接続のニーズに対してローカル ハード ドライブの容量を節約します。</p> |

| 機能のアイコンと名前 | 機能の説明 |
|---|--|
|  [初めて実行するときインストール] | <p>[初めて実行するときインストール] 属性が設定された機能は、エンド ユーザーがショートカットやメニューからその機能を使用しようとするまでは、エージェント コンピュータにインストールされません。ショートカットからアクセスできる機能のショートカットは、そのパッケージが初めてインストールされたときに配布されます。エンド ユーザーが初めてその機能呼び出すと、機能をサポートするのに必要なファイルがエンド ユーザーのハード ディスクにインストールされ、その後もインストールされたままとなります。次回その機能を使用するときは、エージェント コンピュータから実行されます。</p> <p>このような機能をインストールするためには、エージェント コンピュータで CM リダイレクタが動作しており、そのコンピュータから CM Configuration Server に接続できる必要があります。</p> <p>この属性を使用すると、実際に使用する機能のみがハード ディスクにインストールされるため、エージェント コンピュータのディスクの使用容量を最小限に抑えることができます。一方、エンド ユーザーから見ると、その機能を初めて呼び出したときにインストールが必要になります。</p> <p>この属性を選択した場合、その機能のすべての子機能に [初めて実行するときインストール] 属性が自動的に適用されます。ただし、既に属性が [使用不可] に設定されている子機能には適用されません。</p> |
|  [使用不可] | <p>[使用不可] 属性が設定された機能はインストールされません。ユーザーからは使用できず、他のサービスに影響を及ぼす可能性があります。すべての子機能の属性も、[使用不可] に設定されます。</p> <p>たとえば、あるサービスを MS Word を配布するように定義し、Office のその他の機能をすべて [使用不可] に設定します。そして、別のサービスを MS Excel を配布するように定義し、Office のその他の機能をすべて [使用不可] に設定します。</p> <p>ここで、あるエンド ユーザーが MS Word サービスをインストールしたとします。インストールは正常に完了し、Office の他の機能はインストールされていません。その後しばらくして、同じエンド ユーザーが Microsoft Excel サービスをインストールしたとします。この場合、MS Excel サービスでは、Office の他の機能がすべて [使用不可] に設定されています。そのため、MS Excel はインストールされますが、一方で MS Word はアンインストールされてしまいます。</p> <p>アンインストールされた機能を必要とするオプションをエンド ユーザーが選択すると、もう一度セットアップを実行して機能のインストール状態を変更するよう指示するメッセージが表示されますしかし、CM 製品で管理されているソフトウェアのエンド ユーザーは、通常はセットアップにアクセスできないようになっています。</p> <p>[使用不可] 属性は、エンド ユーザーに使用を許可しない機能にのみ割り当ててください。また、エンド ユーザーがメッセージを受け取った場合にどのように対処したらよいかを周知しておく必要があります。</p> |

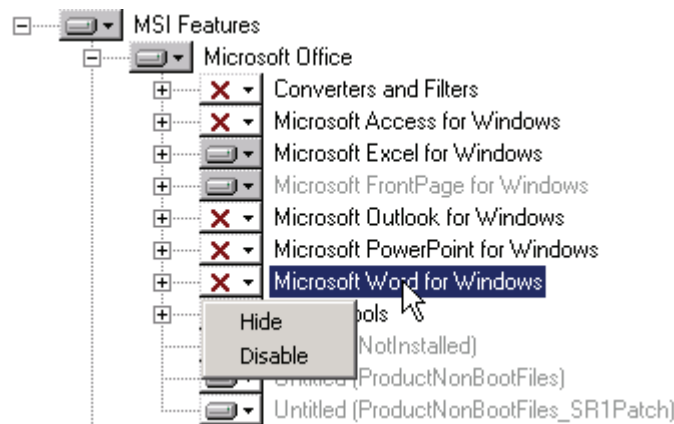
| 機能のアイコンと名前 | 機能の説明 |
|--|---|
|  [無視] | <p>注意: [無視] 機能は下位互換用に用意されています。サービスによって無視される必要がある機能を判別する必要はありません。</p> <p>[無視] 属性が設定された機能はインストールされません。エンド ユーザーはこの機能が使用できませんが、そのことが他のサービスに影響を及ぼすことはありません。CM の管理製品では、その機能が管理対象ソフトウェアのコンポーネントではないかのように扱われます。すべての子機能の属性も [無視] に設定されます。</p> <p>たとえば、あるサービスを MS Word を配布するように定義し、Office のその他の機能をすべて [無視] に設定します。そして、別のサービスを MS Excel および PowerPoint を配布するように定義し、Office のその他の機能をすべて [無視] に設定します。ユーザーが両方のサービスをインストールすると、2 番目にインストールしたサービスのインストールが、1 番目にインストールしたサービスによってインストールされた機能に影響を及ぼします。</p> <p>これら 2 つのサービスを、1 つのパッケージから作成して CM-CSDB にパブリッシュすることも可能です。その場合は、パッケージをコピーして別の名前に変更します。次に、これらのパッケージを機能セット エディタを使用して編集します。</p> |

このツリー内で機能名が太字で表示されているのは、CM MSI 機能セット エディタ の現在のセッションで属性が変更された機能です。

Hide と Disable 機能

機能名 (下図では、Microsoft Word を例として) を右クリックすると、**[表示しない]** と **[無効]** のショートカット メニューが表示されます。

図 39 [表示しない] と [無効] のショートカット メニュー



[表示しない] をクリックすると、機能とそのすべての子機能が、ネイティブの Microsoft Windows インストーラの [機能の追加/削除] ダイアログ ボックスには表示されなくなります。[機能の追加/削除] は、エンド ユーザーがコントロール パネルの "プログラムの追加と削除" アプレットを使用してアクセスするダイアログ ボックスです。

非表示に設定したすべての機能は、CM MSI 機能セット エディタ のツリーでは、機能名の前にプレフィックス (H) が追加された状態で表示されます。


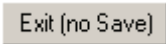

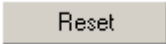

[無効] をクリックすると、機能とそのすべての子機能が CM エージェントによって無視されます。Disable にした機能の値は、CM インスタンスの値ではなく、MSI ファイルと MST ファイルの組み合わせから Windows インストーラによって決定されます。

非表示に設定したすべての機能は、CM MSI 機能セット エディタ のツリーでは、機能名の前にプレフィックス [D] が追加された状態で表示されます。

機能セット エディタのボタン

機能セット エディタのボタンは、[機能セット エディタ] ウィンドウの右側にあります。213 ページの表 49 で、これらのボタンを説明します。

表 49 機能セット エディタのボタン

| ボタン | 機能の説明 |
|---|--|
|  | [保存して終了] をクリックすると、ファイルの属性に加えた変更が保存され、機能セット エディタが終了します。機能セット エディタは、右上隅の X をクリックして終了させることもできます。 |
|  | [保存せずに終了] をクリックすると、属性に加えた変更が破棄され、機能セット エディタが終了します。機能セット エディタは、右上隅の X をクリックして終了させることもできます。 |
|  | [デフォルト] をクリックすると、すべての機能の属性が、そのソフトウェアの出荷時の MSI ファイル内の設定にリセットされます。このデフォルト設定は、 [保存して終了] をクリックして機能セットを保存しないと適用されません。 |
|  | [リセット] をクリックすると、CM MSI 機能セット エディタ の現在のセッションの開始以降に変更した機能設定が元の設定に戻ります。すべての機能の設定が、CM-CSDB から読み込んだ設定にリセットされます。 |
|  | [ヘルプ] をクリックすると、CM Admin CSDB Editor のヘルプ トピックが表示できます。 |

パッケージ情報

パッケージ情報のセクションには、現在設定している Windows インストーラ対応機能のサイズが表示されます。

[最大サイズ]

機能ツリー内のすべての機能をインストールする場合に、エージェント コンピュータで必要になる可能性のあるディスク容量をバイト単位で示します。ツリー内のすべての機能を [マイ コンピュータから実行] 属性または [マイ コンピュータからすべて実行] 属性に設定した場合は、このディスク容量が必要になります。

[合計サイズ]

機能ツリー内のすべての機能をインストールする場合に、エージェント コンピュータで必要になる可能性のあるディスク容量をバイト単位で示します。ツリー内のすべての機能を [マイ コンピュータから実行] 属性または [マイ コンピュータからすべて実行] 属性に設定した場合は、このディスク容量が必要になります。

[選択したサイズ]

選択されている機能およびその子機能をインストールする場合に、エージェント コンピュータで必要になるディスク容量をバイト単位で示します。このサイズの計算には、[マイ コンピュータから実行] 属性または [マイ コンピュータからすべて実行] 属性に設定されている機能のみが含まれます。

Windows の [プログラムの追加と削除] 設定

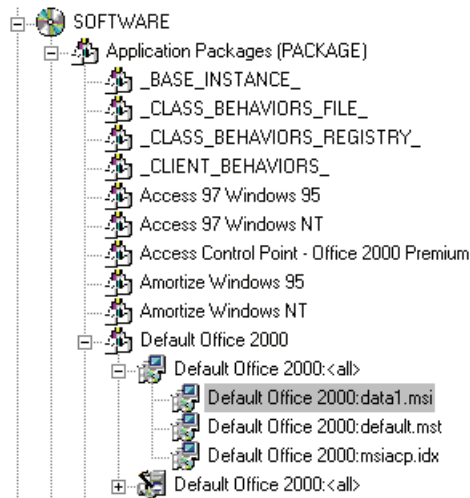
Windows インストーラ対応ソフトウェア パッケージ (MS Office など) をエージェント コンピュータにインストールすると、通常であれば Windows コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] アプリケーション が使用して操作できるアプリケーションのリストに追加されます。

CM では、Windows コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] アプリケーションにアプリケーションをリストしないようにすることができます。これにより、エンド ユーザーがアプリケーションの CM 製品の集中管理に干渉するのを防ぎます。または、CM では、[プログラムの追加と削除] アプリケーションによるアクセスに対して個別の機能を選択して非表示にすることができます。

[プログラムの追加と削除] のアプリケーションのリストの排除

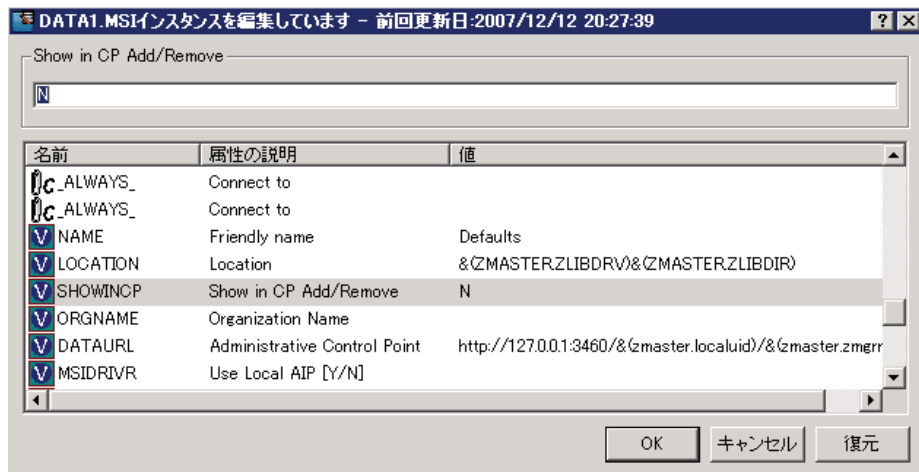
アプリケーション全体が [プログラムの追加と削除] アプリケーションのリストに表示されないようにするには、CM Admin CSDB Editor を使用して、その Application Packages クラス インスタンスに接続されている DATA1.MSI ファイルで、MSI クラス インスタンスの SHOWINCP 変数の設定を変更します。

図 40 DATA1.MSI インスタンス



下の図のように、SHOWINCP 変数の値を N に変更します。

図 41 Editing DATA1.MSI インスタンス



Microsoft Windows インストーラ アップデート機能によって表示される機能の非表示

エンド ユーザーが [プログラムの追加と削除] アプリケーションで Windows インストーラ対応ソフトウェア パッケージを選択して [変更] をクリックすると、Microsoft Windows インストーラが呼び出されますが、エージェント コンピュータへのインストールで機能进行操作するためのネイティブなユーザー インターフェイスは表示されません。その代わりに、メンテナンス モードのウィンドウ

が表示されます。エンドユーザーが **[機能の追加/削除]** をクリックすると、Microsoft Windows インストーラによって **[機能の追加/削除]** ウィンドウが表示されます。

CM MSI 機能セットエディタの **[表示しない]** 機能を使用すると、Microsoft Windows インストーラの **[機能の追加/削除]** ダイアログボックスに個々の機能は表示されないようにすることができます。CM 管理製品のこうした機能を使用することで、アプリケーションソフトウェアの各機能についてエンドユーザーによるインストールが制御でき、エンドユーザーによって不正なインストールが行われるのを防ぐことができます。

Windows インストーラ対応パッケージのコピー

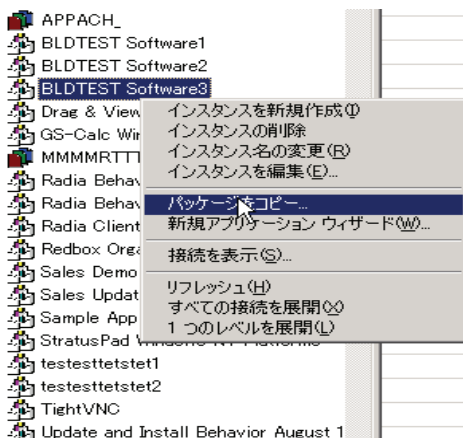
CM 管理製品を使用して Windows インストーラ対応アプリケーションを管理する重要な利点の 1 つは、種類が多岐にわたるソフトウェアパッケージが特定でき、それらが対象のユーザーに確実に配布できる点です。

CM の詳細な機能を使用すると、包括的な AIP を 1 つだけ作成し、これを CM-CSDB に転送させるだけです。多岐にわたる機能セットはすべて、個別のパッケージとして CM-CSDB 内にカプセル化されます。

新しい機能セットを作成するには

既存のパッケージをコピーし、個別にニーズに合わせて編集します。

- 1 **[Application Packages]** インスタンスを右クリックし、表示されたショートカットメニューで **[パッケージをコピー]** をクリックします。



パッケージ インスタンスをコピーすると、すべてのパッケージのコンポーネント インスタンスがコピーされ、それには時間がかかることを通知するメッセージが表示されます。

- 2 **[パッケージのコピー]** を継続するには **[はい]** をクリックします。
[パッケージのコピー] をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。

[パッケージをコピー]を実行すると、パッケージ インスタンスと、そのパッケージ インスタンスに属すすべてのコンポーネント クラス インスタンスがコピーされます。複製されたパッケージは、元のパッケージの完全なコピーになります。この操作では、各パッケージがそのコンポーネントに対する制御を引き継ぐことで、CM-CSDB 内の整合性が維持されます。

- 3 [パッケージとコンポーネントのコピー] ダイアログ ボックスで、新しくコピーされたパッケージの名前を入力します。
- 4 **[OK]** をクリックして続行します。CM-CSDB 内のパッケージのコピーにしばらく時間がかかります。
- 5 新たにコピーされたパッケージが CM Admin CSDB Editor のツリー ビューに表示されたら、パッケージの下に表示される MSIFEATS インスタンスを右クリックし、ショートカットメニューで **[機能セット エディタ]** をクリックします。
CM MSI 機能セット エディタ が表示されます。
- 6 配布しないアプリケーションのプロパティは **[無視]** に設定します。
- 7 **[保存して終了]** をクリックすると、パッケージの機能セットが更新されます。このパッケージを適切なポリシー (USER、DEPT、WORKGRP) インスタンスに接続すれば、シングル機能がスタンドアロン アプリケーションとして配布および管理できます。

機能セットをネイティブ モードで管理する

企業によっては、アプリケーションのパッケージ化と CM の管理を別々の人が担当する場合もあります。CM MSI 機能セット エディタ で変換 (MST) ファイルを編集したくない場合もあるかもしれません。機能セットをネイティブ MSI モードで管理するには、パッケージと MST ファイルを次の手順でパブリッシュします。

- 1 CM Admin Publisher を詳細モードで使用し、ACP を作成して Windows インストーラ パッケージをパブリッシュします。
パッケージをパブリッシュしたら、CM Admin CSDB Editor を使用して、Application Packages (PACKAGE) インスタンスから `SOFTWARE.MSIFEATS.packageprefix_*` への接続を削除します。
- 2 複数の MST ファイルがある場合は、CM Admin Publisher をコンポーネントの選択モードで使用し、各 MST ファイルを個別のパッケージとして転送させます。これにより、各 MST ファイルの新しい PACKAGE インスタンスが作成されます。
- 3 MSI PACKAGE インスタンスを、各変換ファイルの PACKAGE インスタンスに接続します。
- 4 変換パッケージごとに 1 つずつ Application (ZSERVICE) インスタンスを作成します。
- 5 サブスクリイバを、適切な変換パッケージのサービスに割り当てます。



*.MST ファイルを変更したり置き換えたりすると、そのアプリケーションをアンインストールまたは再インストールするための MSIEEXEC が呼び出されます。

サービスをインストールまたは修正すると、MSIFEATS オブジェクトが存在しないことが検知され、ネイティブ MSI モード (MSIEEXEC) が使用されます。その結果、データの送信元の適切なロケーションで MSIEEXEC がネイティブに呼び出されます。MSIEEXEC が呼び出され、MST ファイルが 1 つしか存在しないことが検知されると、MSIEEXEC を呼び出すコマンドラインに .MST ファイルが追加されます。MSIEEXEC が呼び出され、MST ファイルが複数存在することが検知されると、MSIEEXEC は MSI ファイルに対してのみ実行されます。MSI のネイティブな動作は、更新および修復に使用します。



CM Feature Set Editor (MSIFEATS) ではまだ使用できない機能を、MST ファイルを使用して新しい機能として含めた場合、その MST ファイルからの新しい機能は MSI サービスにも含まれます。一方、MST ファイルに含まれている機能が既に MSIFEATS オブジェクト内に存在する場合は、MSIFEATS に指定されている機能状態が使用され、追加の MST ファイルに含まれている機能は無視されます。MST ファイルのみを使用して MSI パッケージを管理する場合は、この節で説明した手順を使用してください。

レジストリ ファイル エディタ

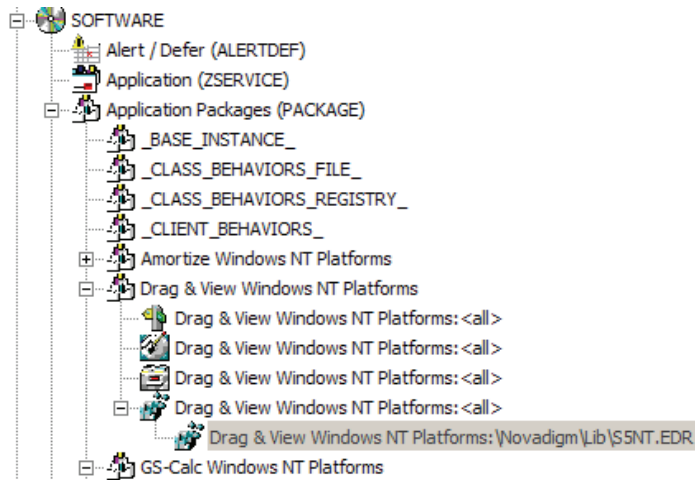
レジストリ ファイル エディタを使用すると、CM パッケージに関連付けられたレジストリ キーのプロパティや値が編集できます。

CM Admin Packager を使用してパッケージを作成する場合、そのパッケージのレジストリに対するすべての変更は、LIB ディレクトリ内のファイル (拡張子 .EDR) に格納されます。このファイルを修正する場合は、レジストリ ファイル エディタを使用します。修正したファイルは CM-CSDB に再転送され、インスタンスが更新されます。

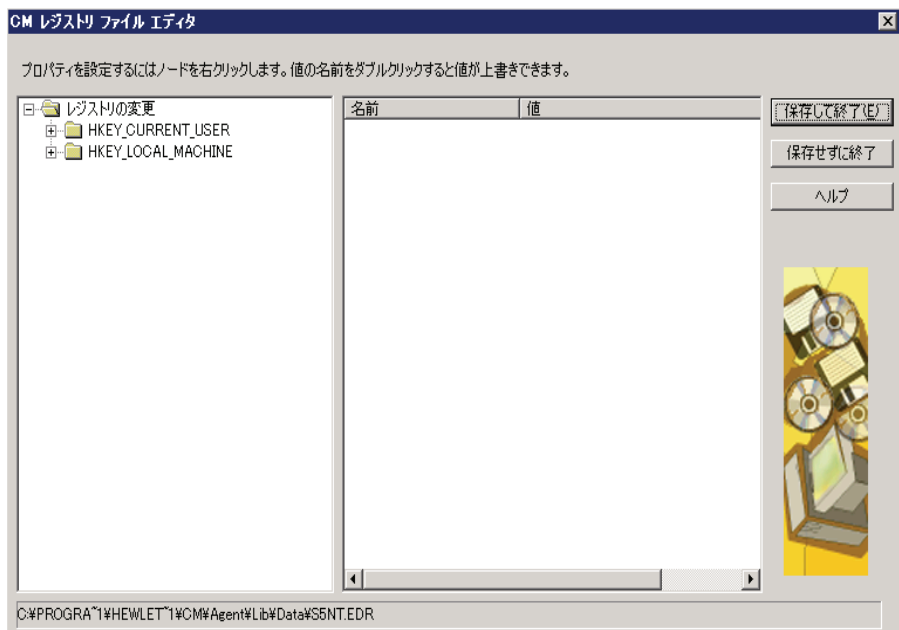
レジストリ ファイル エディタにアクセスする

レジストリ ファイル エディタにアクセスするには

- 1 レジストリ設定を編集したいソフトウェア パッケージを表す Registry Resources インスタンスを探します。
- 2 ツリー ビューで、インスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。たとえば、Drag & View Windows NT プラットフォーム パッケージのレジストリ インスタンスを見つけて右クリックします。



- 3 [レジストリリソースを編集] をクリックします。[レジストリ ファイル エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- ツリー ビュー (左側) には、レジストリ ファイル内のキーを表すノードが表示されます。
- リスト ビュー (中央の [名前] と [値]) には、選択したレジストリ キーのコンテンツが表示されます。
- 右側のボタンを使用すると、保存して (または保存せずに) 終了したり、レジストリ ファイル エディタのヘルプ機能にアクセスしたりすることができます。

プロパティ設定ショートカット メニュー


レジストリ ファイル エディタのプロパティを設定するには、レジストリ ファイル エディタ内のツリー ビューの任意のノードを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。

この ショートカット メニューの各オプションは、以下の節で説明しています。

[アクティブ]

[アクティブ] を選択すると、レジストリ キーがパッケージに含まれます。

[非アクティブ]

[非アクティブ] を選択すると、レジストリ キーはパッケージには含まれません。アクティブでないノードは、そのフォルダ上に  が表示されます。

[配布/検証]

[配布/検証] をクリックすると、次のサブメニューが表示されます。

[無条件/強制]

レジストリ キーは、既にデスクトップに存在する場合でも、サブスクリバが CM Configuration Server に接続するたびに配布されます。この設定では、修正または削除されたレジストリ キーが修復されます。この設定は、アプリケーション ソフトウェアの動作を保証するために変更してはならないレジストリ キーに使用します。

[無条件/存在]

レジストリ キーは、初回の配布の時点か、削除されたときに配布されます。ただし、ユーザーが修正したレジストリ キーの値はリセットされません。これはデフォルトの設定です。

[存在/存在]

レジストリ キーは、サブスクリバのデスクトップに存在しない場合にのみ配布されます。レジストリ キーが存在するかどうかは、初回の配布の時点、および以降の接続時ごとにチェックされます。この設定では、ユーザーがレジストリ キーの値が完全に制御でき、何らかの理由でレジストリ キーが削除された場合でも再配布されます。

[新しいキー]

[新しいキー] は、レジストリに新しい値を追加する場合に選択します。新しいキーの名前を入力するためのダイアログ ボックスが表示されます。**[OK]** をクリックすると新しいキーが作成され、**[キャンセル]** をクリックするとレジストリ ファイル エディタに戻ります。

[新しい値]

[新しい値] は、新たに作成したキーや既存のレジストリ キーに値を追加する場合に選択します。以下の情報を入力するためのダイアログ ボックスが表示されます。

[値の名前]

レジストリ キーに追加する値の名前を入力します。この名前は、[レジストリ ファイル エディタ] ウィンドウの中央部分に値名として表示されます。

[データ タイプ]

このドロップダウン メニューを使用すると、使用可能なデータ タイプのリストからデータ タイプが選択できます。選択できるデータ タイプは以下のとおりです。

[REG_SZ]

説明的な情報に最も一般的に用いられるテキスト シーケンス。これはデフォルトの設定です。

[REG_DWORD]

4 バイト長の正数で表されるデータ。二進数、十六進数、または十進数で表示されます。

[REG_EXPAND_SZ]

拡張可能なデータ文字列。このテキストには、アプリケーションからの呼び出しによって置換される変数を含めることができます。

[REG_MULTI_SZ]

ユーザーが判読可能な複数のテキスト エントリを含む文字列。

[常に削除]

[常に削除] は、レジストリ キーの下にあるすべての値を Radreg32 Delete 操作中に削除する場合にクリックします。このオプションをオンにすると、キーの下にあるすべての値が、バックアップ EDR ファイル内にある元のレジストリ値を復元することなく削除されます。

[削除しない]

[削除しない] は、キーの下にあるすべての値を Radreg32 Delete 操作中に保持する場合にクリックします。

[削除] (デフォルト)

[Delete (デフォルト)] は、値の削除または復元に関する Radreg32 Delete 操作で通常の Delete 動作を実行するときにクリックします。

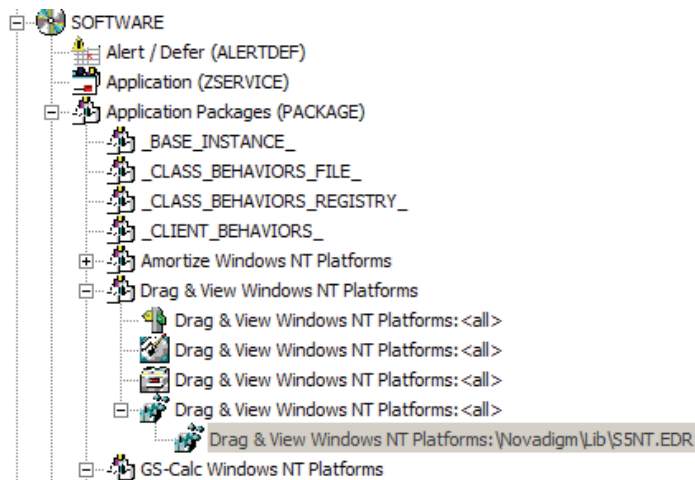
レジストリ キーを編集する

レジストリ キーの値を編集するには、レジストリ ファイル エディタを使用します。レジストリ キーの情報を編集するには、この節の手順例に従ってください。

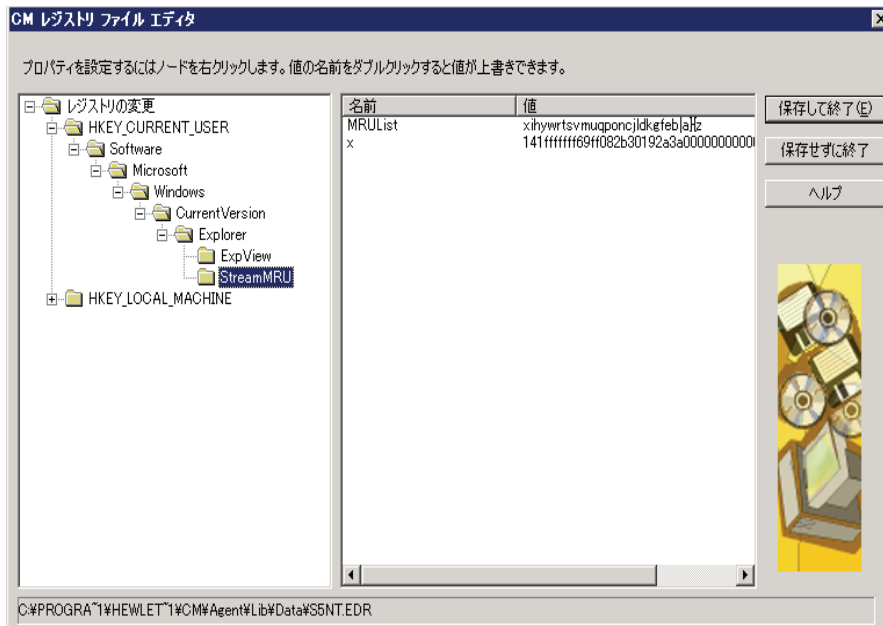
- ▶ レジストリ ファイル エディタを使用する際は、細心の注意を払って作業を進める必要があります。各レジストリ キーの機能を十分理解せずに編集すると、パッケージやサービスが使用できなくなるおそれがあります。

レジストリ キー内のデータを編集するには

- 1 Windows タスクバーの **[スタート]** **[すべてのプログラム]** **[HP OVCM Administrator]** **[CM Admin CSDB Editor]** の順にクリックします。[CM Admin CSDB Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - ▶ 出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。CM セキュリティ管理者がこの設定をインストールの過程で変更している場合があります。必要に応じて、CM セキュリティ管理者に確認して、ユーザー ID とパスワードを取得してください。
- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。CM Admin CSDB Editor の起動画面が表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[SOFTWARE]** ドメインを展開し、[Application Packages (PACKAGE)] クラスを展開します。
- 5 [Drag & View Windows NT Platforms] パッケージを展開します。
- 6 レジストリ インスタンスを展開します。



- 7 レジストリ ファイルを右クリックして、ショートカット メニューから **[レジストリ リソースを編集]** をクリックします。CM Registry File Editor が表示されます。
- 8 リスト ビューでノードをクリックして展開し、レジストリ キーのコンテンツを表示します。
- 9 リスト ビューでレジストリ キーの名前をダブルクリックします。



[値を上書き] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 10 **[新しい値]** ボックスでデータを編集します。

11 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

または

[キャンセル] をクリックして、変更内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。

レジストリ キーのデータを編集するには

1 リスト ビューでレジストリ キーの名前をダブルクリックします。

2 **[リセット]** をクリックします。

3 **[OK]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

または

[キャンセル] をクリックして、変更内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。

レジストリ ファイル エディタを閉じる

レジストリ ファイルのインスタンスへの変更が完了したら、レジストリ ファイル エディタを閉じます。

レジストリ ファイル エディタを閉じるには

1 **[保存して終了]** をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

または

[保存せずに終了] をクリックして、変更を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。

2 変更を保存して閉じる場合は **[はい]** をクリックします。

または

レジストリ ファイル エディタに戻る場合は **[いいえ]** をクリックします。

CM AMP Editor

CM AMP Editor は、アプリケーション プロファイルを作成および修正するためのツールです。Application Management Profiles について、および CM AMP Editor を使用して編集する方法については、『*HP Configuration Management Solutions for Servers Application Management Profiles Guide (CM Application Management Profiles Guide)*』を参照してください。

まとめ

CM Administrator は、6 つの機能セットを含む 1 つのパッケージで構成されています。CM Admin Publisher、CM Admin Packager、CM Admin CSDB Editor、CM Admin Agent Explorer、CM Admin Screen Painter、および CM AMP Editor。

CM Administrator は、コマンド ラインまたはインストール ウィザードを使用してインストールすることができます。

パッケージ化は、ソフトウェアまたはコンテンツのコンポーネントを特定し、それらのコンポーネントをパッケージにまとめるプロセスです。

CM Admin は CM Configuration Server と同じサーバーにインストールできます。

アプリケーションを構成するコンポーネントの一部が不明な場合は、インストール モニタ モードを使用してアプリケーションをパッケージ化することができます。CM はアプリケーションのインストール前後にコンピュータをスキャンし、その差分を計算してパッケージを構成します。

単純なアプリケーションをパッケージ化する場合は、コンポーネントの選択モードを使用して、ソフトウェアを構成する各コンポーネントを選択します。

CM Batch Publisher は、コンポーネントの選択モードの代わりとして機能します。

アプリケーションをパッケージ化した後に、CM Admin CSDB Editor の新規アプリケーション ウィザードを使用してサービスを作成します。

CM Admin Publisher を使用すると、CM-CSDB にオペレーティング システム イメージまたは Windows インストーラ ファイルがパブリッシュできます。

オペレーティング システムのサービスおよびパッケージは、CM-CSDB の OS ドメインに格納されます。

CM Admin Publisher は、複数の .msi ファイルをまとめてパブリッシュすることができます。

複数の .msi ファイルをパブリッシュする場合に設定ファイルのシンボリック置換を使用すると、複数の設定ファイルを使わずに済みます。

.msi ファイルをバッチ化してパブリッシュするときに含める変換ファイルは、変換ファイルを適用する .msi ファイルと同じディレクトリ内に格納する必要があります。

4 UNIX および Macintosh 用の CM Administrator

この章は以下を目的としています。

UNIX または Mac OS X 用の CM Administrator をインストールするためのシステム要件について理解する。

グラフィカルまたは非グラフィカル モードを使用して CM Administrator をインストールできるようにする。

UNIX 用の CM Admin Agent Explorer を使用方法を習得する。

UNIX および Macintosh 用の CM Admin Publisher を使用方法を習得する。

はじめに

UNIX 用 CM Administrator には次の 2 つのコンポーネントがあります。CM Admin Publisher および CM Admin Agent Explorer。

Macintosh 用 CM Administrator には次の 1 つのコンポーネントがあります。CM Admin Publisher

インストール

ここでは、UNIX および Macintosh 用 CM Administrator をインストールする方法について説明します。

システム要件

CM Configuration Server が動作しているコンピュータへの TCP/IP 接続。

プラットフォームのサポート

サポートされているプラットフォームの詳細については、本リリースに付属のリリース ノートを参照してください。

前提条件


CM エージェントをルート (または **sudo** コマンドを発行可能な Mac OS X 管理者ユーザー ID として) インストールすることを強くお勧めします。

CM エージェントをローカル ファイル システムにインストールします。

CM Administrator ソフトウェアのグラフィカル コンポーネントを実行する予定の場合は、UNIX 環境変数 DISPLAY が環境内に設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、インストールはデフォルトで非グラフィカル インストールになります。ただし、グラフィカル表示をリダイレクトしたいホスト名または IP アドレスを指定するためにこの変数を設定することができます。

表 50 **DISPLAY 変数の設定**


| 場所 | 入力 |
|--------------------------|--|
| C シェル | setenv DISPLAY IP address or hostname:0.0 |
| Bourne、Bash、または Korn シェル | DISPLAY=IP address or hostname:0.0 export DISPLAY |

 DISPLAY 環境変数が環境内に設定されていない場合は、インストールはデフォルトで非グラフィカル インストールになります。

トラブルシューティング

CM UNIX エージェントのインストール中に問題が発生した場合は、テクニカル サポートに問い合わせる前に次の手順を実行してください。


インストール コマンドラインにテキスト `-loglevel 9` を追加して診断追跡を有効にします。

 インストール オプション `-loglevel 9` は、インストールの問題を診断するためにのみ使用してください。

インストールを実行した UNIX ユーザー ID のホーム ディレクトリ内にある `tmp/setup/setup.log` にアクセスします。

推奨事項

CM Administrator をルートとしてインストールして実行することを強く推奨します。

 管理対象リソースに所有者およびグループ指定を適用するにはルート権限が必要です。

インストール メソッド

CM Administrator をインストールするには、次のいずれかを実行してください。

インストール手順をインストール メディアから直接実行します。

インストール メディアからファイルを一時ディレクトリにコピーしてインストール手順を実行します。

CM Administrator をインストールするときには、コマンドラインに複数のパラメータを使用することができます。

```
-mode plain
```

例: `./install -mode plain`

CM Administrator をプレーン モードでインストールします。インストール グラフィックは、プレーン モードで表示されます (動画はなし)。これは、ネットワーク帯域幅が問題になる可能性があるリモート インストールに役立ちます。

```
-mode text
```

例: `./install -mode text`

CM Administrator を非グラフィック インストールを使用してテキスト モードでインストールします。インストールは、完全にコマンドライン上で行われます。インストールは DISPLAY 環境変数が設定されていない場合には、デフォルトでテキスト モードになります。


UNIX および Macintosh 用の CM Administrator のインストール

ここでは、UNIX または Macintosh 用 CM Administrator をインストールする方法について説明します。

グラフィカル インストール

ここでは、グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) を使用して UNIX または Macintosh 用 CM Administrator をインストールする方法について説明します。

GUI を使用して UNIX および Macintosh 用の CM Administrator をインストールするには

 CM Administrator インストールを実行しているユーザーの UNIX ユーザー ID が以前に CM エージェントをインストールしている場合は、CM Administrator の場所はデフォルトで CM エージェント実行可能ファイルの場所になります。

- 1 ご使用の UNIX のバージョンによって、現在の作業ディレクトリをインストール メディア上の正しい UNIX サブディレクトリに変更してください。

例: HP-UX の場合:

```
/Configuration Server/management_infrastructure/  
administrator_workstation/hpux/
```

- 2 `./install` (Mac OS X の場合は、`sudo ./install`) と入力して、**Enter** キーを押します。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[HP Software ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 4 ソフトウェア ライセンス条件を読み、**[同意する]** をクリックします。



以前に CM エージェントをインストールした UNIX ユーザー ID で CM Administrator をコンピュータにインストールしている場合は、インストールプログラムは、CM Configuration Server の IP アドレスを次に表示します。次の 3 つのウィンドウ、[CM Administrator ロケーション]、[Lib ディレクトリ]、および [Log ディレクトリ] は、CM エージェントがインストールされていないコンピュータに CM Administrator をインストールするときのみ必要です。

[CM Administrator ロケーション] ウィンドウが表示されます。

- 5 CM Administrator をインストールしているディレクトリの名前を入力するか、**[ブラウズ]** をクリックしてそこに移動します。
 - 6 **[次へ]** をクリックします。指定したディレクトリが既に存在する場合は、場所を確認するプロンプトが表示されます。
 - 既存のディレクトリを更新する場合は、**[OK]** をクリックします。
 - ディレクトリの場所を変更する場合は、**[キャンセル]** をクリックします。
- [Lib ディレクトリ] ウィンドウが表示されます。
- 7 CM で作成された固有情報を格納するディレクトリの名前を入力するか (lib ディレクトリ)、**[ブラウズ]** をクリックしてそこに移動します。
 - 8 **[次へ]** をクリックします。[Log ディレクトリ] ウィンドウが表示されます。
 - 9 CM で作成されたログ ファイルを格納するディレクトリの名前を入力するか、**[ブラウズ]** をクリックしてそこに移動します。
 - 10 **[次へ]** をクリックします。[CM Configuration Server IP アドレス] ウィンドウが表示されます。
 - 11 発行先の CM Configuration Server の IP アドレス (形式: xxx.xxx.xxx.xxx) またはホスト名を入力します。
 - 12 **[次へ]** をクリックします。[CM Configuration Server ポート番号] ウィンドウが表示されます。
 - 13 CM Configuration Server のポート番号を入力します (デフォルトは 3464 です)。
 - 14 **[次へ]** をクリックします。[パッケージの設定] ウィンドウが表示されます。

- 15 [パッケージの設定] ウィンドウに表示される設定を確認します。設定を変更したい場合は、該当するウィンドウに到達するまで **[戻る]** をクリックします。
- 16 [パッケージの設定] が完了したら、**[インストール]** をクリックします。CM Administrator がインストールされます。

コマンドラインによるインストール

ここでは、UNIX または Macintosh 用 CM Administrator の非グラフィカル インストール (コマンドラインを使用) について説明します。

コマンドラインを使用して UNIX および Macintosh 用の CM Administrator をインストールするには

- 1 コマンドプロンプトで、現在の作業ディレクトリをインストール メディア上の正しいオペレーティング システム サブディレクトリに変更してください。

例: HP-UX の場合:

```
/Configuration Server/management_infrastructure  
/administrator_workstation/hpux/
```

- 2 `./install -mode text` (Mac OS X の場合は、`sudo ./install -mode text`) と入力して、**Enter** キーを押します。

CM Administrator のインストールが開始されます。

- 3 `c` と入力し、**Enter** キーを押します。



以前に CM エージェントをインストールしたユーザー ID で CM Administrator をコンピュータにインストールしている場合は、インストールプログラムは、CM Configuration Server の IP アドレスを次に表示します。次の 3 つのセクション、[CM Administrator ロケーション]、[Lib ディレクトリ]、および [Log ディレクトリ] は、CM エージェントがインストールされていないコンピュータに CM Administrator をインストールするときのみ必要です。

- 4 CM Administrator のインストールの場所を指定して、**Enter** キーを押します。
- 5 CM 固有オブジェクトの場所を指定して (IDMLIB)、**Enter** キーを押します。
- 6 CM によって作成されたログ ファイルの場所を指定して (IDMLOG)、**Enter** キーを押します。
- 7 CM Configuration Server の IP アドレスを指定して、**Enter** キーを押します。
- 8 CM Configuration Server のポート番号を指定して、**Enter** キーを押します。

- 9 選択したインストール設定事項を確認します。CM Administrator をその設定でインストールする場合は、**Enter** キーを押して デフォルトを受け入れ (Y) インストールを開始するか、または **N** と入力してインストール情報を再入力します。
- 10 設定したインストール プロセスを完了するには、**Enter** キーを押します。CM Administrator がインストールされます。

CM Admin Agent Explorer

CM Agent Explorer が UNIX で使用できますが、Macintosh では使用できません。

CM Admin Agent Explorer を開く

次の手順は、CM Admin Agent Explorer を開く、および閉じる方法を説明しています。

CM Admin Agent Explorer を開くには、

HP OVCM Administrator フォルダの **CM Admin Agent Explorer** をクリックします。

または

コマンドラインで `./radobjed` と入力します。

CM Admin Agent Explorer が開き、右側にオブジェクト リストが表示されます。234 ページの [図 42](#) を参照してください。オブジェクト リストには、表示および編集可能な CM オブジェクトの名前が含まれます。


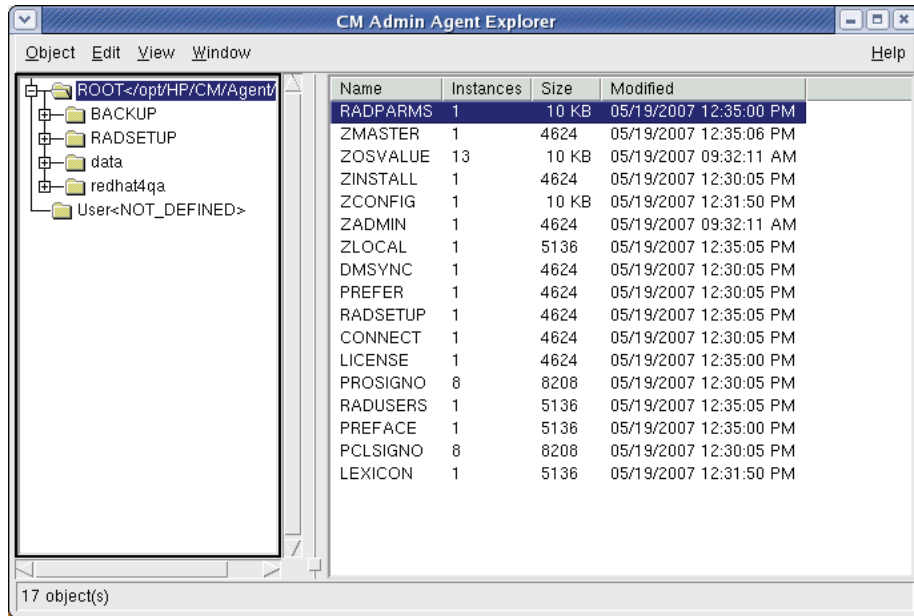
 「Z」で始まるオブジェクトは、CM で使用されます。作成するオブジェクトに名前を付けるときには、「Z」から始まる名前をクリックしないよう推奨します。

図 42 CM Admin Agent Explorer ウィンドウ



[オブジェクト リスト] ウィンドウのメニュー

[CM Admin Agent Explorer] ウィンドウのメニューを使用して、新しいオブジェクトを開く、コピー、削除、名前変更、および作成し、CM Admin Agent Explorer を移動します。

オブジェクト メニュー

オブジェクト メニューを使用して、新しいオブジェクトを開く、コピー、削除、名前変更、および作成します。

図 43 [オブジェクトリスト] ウィンドウのオブジェクト メニュー

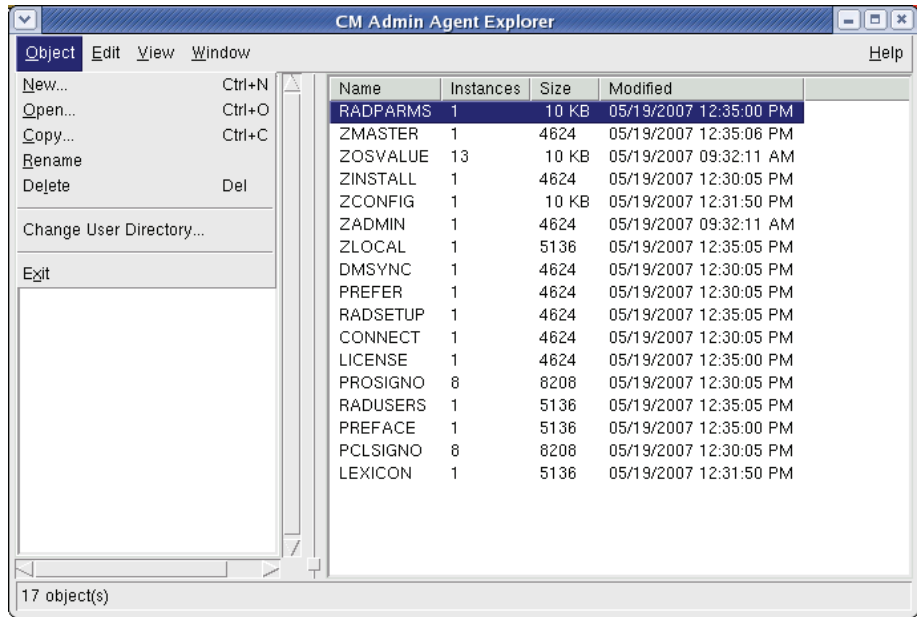


表 51 [オブジェクト] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|---|
| [新規作成] | [新規作成] をクリックして、[Create New Object] ダイアログ ボックスに新しいオブジェクトの名前を入力します。 |
| [開く] | オブジェクト リストのオブジェクトを選択して [開く] をクリックします。オブジェクト ビュー ウィンドウが開き、変数およびオブジェクトのヒープを編集および管理できます。 |
| [コピー] | オブジェクト リストのオブジェクトを選択します。[コピー] をクリックして、新しいオブジェクトの名前を入力します。同じ変数と値を持った新しいオブジェクトが作成されます。 |
| [名前の変更] | オブジェクト リストのオブジェクトを選択します。[名前の変更] をクリックします。オブジェクトの新しい名前を入力します。 |
| [削除] | オブジェクト リストからオブジェクトを選択します。[削除] をクリックすると、オブジェクト リストから削除されます。削除された後は、オブジェクト、そのヒープ、および変数は復元できません。 |

| メニュー オプション | 機能 |
|------------------|---|
| [ユーザー ディレクトリを変更] | |
| [終了] | [終了] をクリックして CM Admin Agent Explorer を終了します。 |

編集メニュー

[すべて選択]

[すべて選択] をクリックして、オブジェクト リスト内のすべてのオブジェクトを選択します。すべてのオブジェクトに対して同時に [オブジェクト] メニューのアクションを実行することができます。

表示メニュー

[リフレッシュ]

画面をリフレッシュします。

テーブル ウィンドウ メニュー

[すべて閉じる]

[すべて閉じる] をクリックして、開いているオブジェクトをすべて閉じます。

オブジェクト ビュー ウィンドウのメニュー

オブジェクト表示ウィンドウには、表示または編集できる CM オブジェクトの内容が表示され、次の 4 つのドロップダウン メニューがあります。[オブジェクト]、[編集]、[ビュー]、[ウィンドウ]

オブジェクト メニュー

オブジェクト メニューを使用して、オブジェクトの情報を参照し、行った変更を保存し、オブジェクトを閉じます。

図 44 [オブジェクト] メニュー

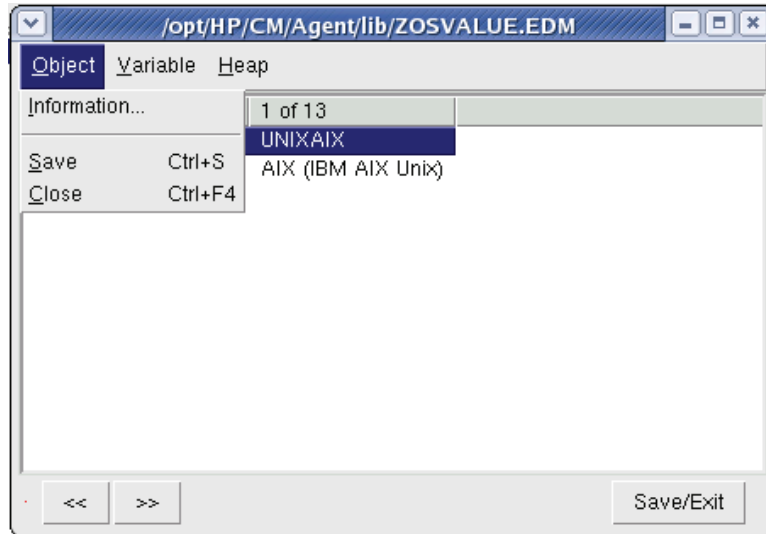


表 52 [オブジェクト] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|------------------------|
| [情報] | [オブジェクトの情報] 画面を表示します。 |
| [保存] | 行った変更を保存します。 |
| [閉じる] | オブジェクト ビュー ウィンドウを閉じます。 |

変数メニュー

変数メニューを使用して、変数を追加、削除、および名前変更し、変数の値に基づいてオブジェクト内のヒープ間を管理および移動します。

図 45 [変数] メニュー

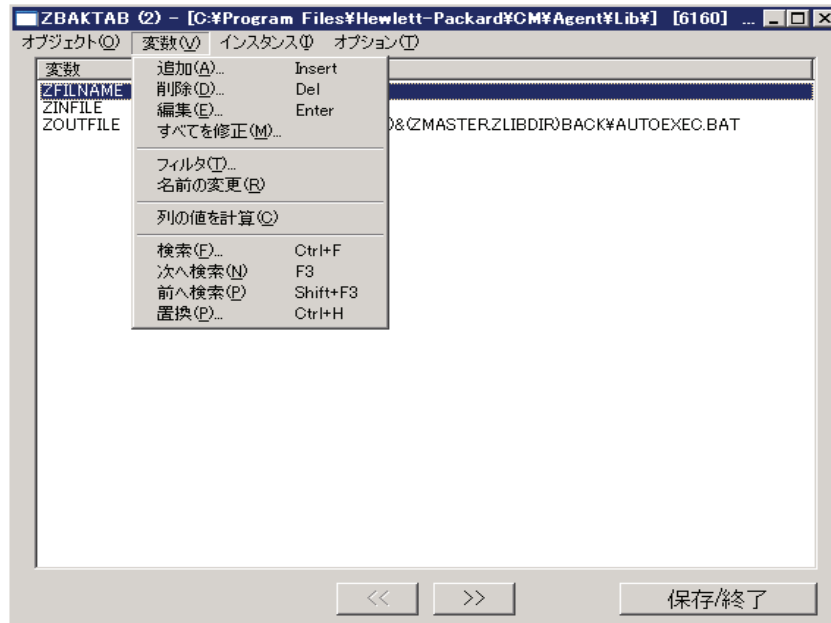


表 53 [変数] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| 追加 | ユーザー指定名を持つ変数をオブジェクトに追加します。 |
| [削除] | オブジェクトから変数を削除します。 |
| [編集] | 変数の値を変更します。 |
| [すべてを修正] | オブジェクト内のすべてのヒープのこの変数の値を変更します。 |
| [フィルタ] | ユーザー指定文字列を含むすべての変数を表示します。 |
| [名前の変更] | オブジェクト内の変数の名前を変更します。 |
| [行の値を計算] | 選択した変数に対して、オブジェクト内のすべてのヒープに対するすべての十進数エントリのみを合計します。 |
| [検索] | ユーザー選択変数に対して、値にユーザー指定文字列を含むヒープを検索します。マルチヒープ オブジェクトでのみ利用可能です。 |

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [次へ検索] | 検索する文字鉄を入力するために [検索] コマンドを使用した後に、このコマンドはその文字列の次のオカレンスを検索します。 |
| [前へ検索] | 検索する文字鉄を入力するために [検索] コマンドを使用した後に、このコマンドはその文字列の前のオカレンスを検索します。 |

ヒープ メニュー

[ヒープ] メニューを使用して、オブジェクト内のインスタンスを追加、削除、およびコピーし、オブジェクト内のインスタンス間を移動します。

インスタンスはヒープとも呼ばれます。オブジェクト内の各インスタンスを表示するには、[オブジェクトの表示] ウィンドウの一番下にある [>>] または [<<] をクリックします。

図 46 [ヒープ] メニュー

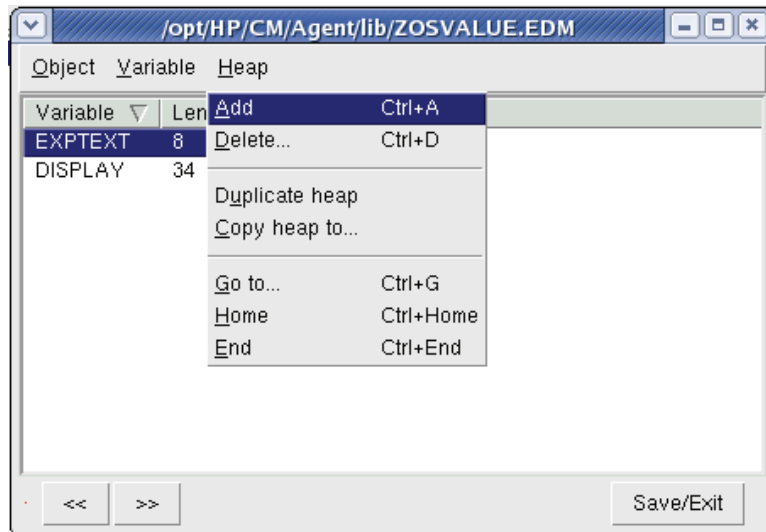


表 54 [ヒープ] メニューのオプション

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [追加] | 空白の値を持つインスタンスを追加します。[変数] -> [編集] と選択して値を入力します。 |

| メニュー オプション | 機能 |
|------------|--|
| [削除] | 選択したインスタンスを削除します。[>>] または [<<] をクリックして、削除するインスタンスに移動します。 |
| [ヒープを複製] | 選択したインスタンスのコピーを、値を含めて作成します。[>>] または [<<] をクリックして、複製するインスタンスに移動します。 |
| [ヒープのコピー先] | 選択したインスタンスを [インスタンスのコピー先] ダイアログ ボックスに入力したオブジェクトにコピーします。 |
| [移動先] | [新しいインスタンス #] ダイアログ ボックスに入力した番号のインスタンスに移動します。 |
| [先頭] | オブジェクトの最初のインスタンスに移動します。 |
| [末尾] | オブジェクトの最後のインスタンスに移動します。 |

CM Admin Packager

CM Admin Packager は、UNIX または Macintosh では使用できません。これらオペレーティング システムの両方に対して、パッケージ機能は CM Admin Publisher の一部です。

CM Admin Publisher

CM Admin Publisher は、UNIX および Macintosh オペレーティング システムで利用可能です。この節では、両方の使用方法について説明します。

UNIX 用 および Macintosh 用 CM Admin Publisher は、コンポーネントの選択という 1 つのパブリッシュ モードのみを備えています。

コンポーネントの選択モードでは、パッケージを作成するためのファイル、ディクショナリ、およびリンクなど、アプリケーションを構成する個別のコンポーネントを選択します。

コンポーネントの選択モードでは、以下の 4 つの段階でパブリッシュを行います。

- 1 パブリッシュするファイルを個別に**選択**します。
- 2 ファイルのプロパティおよびメソッドを**編集**します。
- 3 パッケージおよびサービスのオプションを**設定**します。

- 4 CM-CSDB にファイルをパブリッシュします。

前提条件

コンポーネントの選択モードでアプリケーションをパブリッシュする前に、パッケージ化マシンにターゲットアプリケーションをインストールします。これにより、選択時に必要なファイルがコンピュータに保存されます。

パブリッシュ

この節では、コンポーネントの選択モードの一般的なパブリッシュ手順を説明し、Windows 用 CM Admin Publisher を参照することによって、表示されるそれぞれの画面についての詳細を示します。UNIX および Macintosh 用 CM Admin Publisher でのパブリッシュは、配布オプション以外は、Windows 用のパブリッシュと同一です。UNIX および Macintosh では、[ユーザー コンポーネント] および [マシン コンポーネント] オプションは利用できません。次のタスク 2 を参照してください。

コンポーネントの選択モードでパブリッシュするには

- 1 ルートとしてログオンします。
- 2 CM Administrator をインストールした場所から `./publishr` を実行することによって CM Admin Publisher を起動します。
- 3 ユーザー ID とパスワードを該当するフィールドに入力します。



出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。必要に応じて、CM セキュリティ管理者に確認し、ユーザー ID とパスワードを取得してください。ユーザー ID とパスワードは大文字と小文字が区別されます。

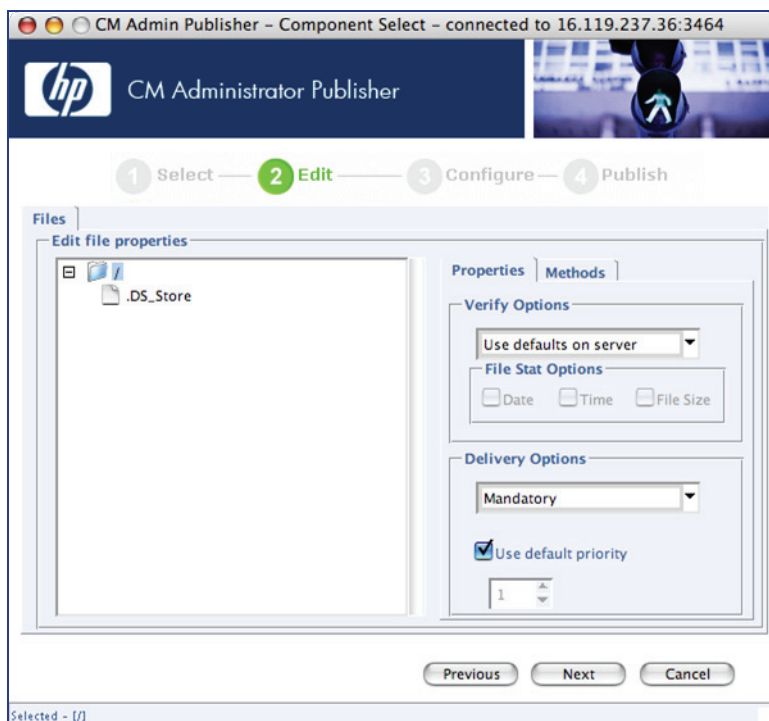
- 4 パブリッシュするデータのタイプ ボックスで、**[コンポーネントの選択]** のデフォルト選択をそのままにします。(これは、現在 UNIX および Macintosh で使用できる唯一のパブリッシュモードです。)
- 5 **[OK]** をクリックします。**[選択]** ウィンドウが表示されます。

タスク 1 パブリッシュするファイルを選択する

[パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウを使用して、パッケージに含めるすべてのファイルを選択します。このプロセスは、Windows 用 CM Admin Publisher のものと同じです。70 ページの「パブリッシュするファイルを選択する」を参照してください。

タスク 2 ファイルのプロパティおよびメソッドを編集する

[編集] ウィンドウを使用して、ファイルおよびフォルダのプロパティおよびメソッドを編集します。このプロセスは、[配信オプション] 以外は、Windows 用 CM Admin Publisher のものと同じです。UNIX および Macintosh バージョンの Publisher では、[ユーザー コンポーネント] および [マシン コンポーネント] オプションは利用できません。



類似性については、71 ページの「ファイルのプロパティおよびメソッドを編集する」を参照してください。

タスク 3 パッケージおよびサービス情報を入力する

[コンフィギュレーション] ウィンドウを使用して、パッケージに名前を付け、追加の説明情報を含め、ハードウェアおよびオペレーティング システムの設定に基づいてパッケージ配布制限を設定します。[サービス情報] ウィンドウを使用して、サービスに関する説明情報、および配布後の管理方法についての情報を入力します。これらのプロセスは、[クラス] ドロップダウン リストのオプション以外は、Windows 用 CM Admin Publisher のものと同じです。UNIX の場合は、利用可能な唯一のクラスは UNIXFILE であり、Macintosh の場合は、利用可能な唯一のクラスは MACFILE です。

類似性については、77 ページの「パッケージおよびサービス情報を入力する」を参照してください。

タスク 4 パッケージをパブリッシュする

[パブリッシュ] ウィンドウでは、パッケージおよびサービス情報を表示して、それをパブリッシュします。このプロセスは、Windows 用 CM Admin Publisher のものと同じです。78 ページの「パッケージをパブリッシュする」を参照してください。

UNIX File Resources (UNIXFILE)

パブリッシュ プロセス中に、UNIXFILE 属性 が定義されます。これらの属性は、所有者およびグループ関連付けとそれぞれのパブリッシュされたリソースのパーミッションを定義します。パブリッシュされた各パッケージは、対応する UNIXFILE インスタンス が PRIMARY ファイル内にあります。CM Admin CSDB Editor を使用して、これらの属性を表示および変更します。

▶ 次の手順では、CM Admin CSDB Editor を使用します。CM Admin CSDB Editor は、現在 32 ビット Windows プラットフォームで利用可能です。詳細については、69 ページの「[CM Admin CSDB Editor](#)」を参照してください。

CM Admin CSDB Editor を使用して UNIXFILE クラス インスタンスを表示するには

- 1 [スタート] [すべてのプログラム] [HP OVCM Admin] [CM Admin CSDB Editor] の順にクリックします。

[CM Admin CSDB Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

▶ 出荷時のユーザー ID は RAD_MAST です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。この設定は、[パスワードの変更] チェック ボックスをオンにして、[新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 3 [PRIMARY] をダブルクリックします。
- 4 [SOFTWARE] をダブルクリックします。
- 5 **Unix File Resources (UNIXFILE)** をダブルクリックします。
- 6 適切なアプリケーションをダブルクリックします。リスト ビューにそのアプリケーションの UNIXFILE インスタンスの属性が表示されます。

インスタンス属性を変更するには、リスト ビューで属性の名前をダブルクリックします。開いているボックスで変更を加えて、[OK] をクリックします。

パブリッシュされた所有者、グループ、およびパーミッションの考慮事項

UNIXFILE クラスは属性 ZPERUID および ZPERGID を含んでいます。これらの属性は、転送されたリソースのユーザー ID およびグループ パーミッションを定義します。これらの属性は、パブリッシュ セッション中に入力され、転送されているリソースのユーザー ID およびグループ関連付けを反映しています。また、パーミッション文字は、パブリッシュ中に取得されて UNIXFILE.ZRSCRASH 属性に格納されます。これらの属性は、CM Admin CSDB Editor を使用して変更できます。

表 55 UNIXFILE クラス固有の属性

| 属性 | 説明 |
|----------|--|
| ZPERUID | 転送されているリソースに関連付けられている UNIX ユーザー ID。リソースは配布されると、CM Application Manager がルートで実行されていて、エージェント ワークステーションにユーザー ID が存在している場合、このユーザー ID によって所有されます。 |
| ZPERGID | 転送されているリソースに関連付けられている UNIX グループ ID。リソースは配布されると、CM Application Manager がルートで実行されていて、エージェント ワークステーションにグループが存在している場合、このグループに関連付けられます。 |
| ZRSCRASH | これは管理対象リソース パーミッションの 4 桁の八進法でなければなりません (例: 7555)。これはパブリッシュされたリソースの特性に基づいてパブリッシュ セッション中に入力されます。 |
| DIRPERMS | ディレクトリ構造が存在しないときに、管理対象外フォルダに割り当てられたパーミッション。CM は、この属性が定義されていない場合は、umask 設定に基づいてパーミッションを割り当てます。 たとえば、管理対象ファイル <code>file.txt</code> が <code>/opt/newlocation</code> に配置された場合に、ディレクトリ <code>/newlocation</code> が存在しないと、作成されず。これは、管理対象外ディレクトリです。 1 つ以上のファイルが新しい場所にインストールされると、最初にインストールされたファイルが割り当てられるパーミッションを決定します。 |

CM Agent がルート以外のユーザー ID で実行されている場合:

配布されたすべてのリソースは、ユーザー ID と CM Application Manager を実行しているユーザー ID のグループと関連付けられます。

パブリッシュ中に、リソースの所有者およびグループは UNIXFILE インスタンス データ内に格納されます。インスタンス内の所有者およびグループ属性は、唯一のルートが所有者

およびグループ特性に変更を実行できる能力を持つ場合に、CM エージェントがルートとして実行されている場合にのみ適用されます。

CM エージェントの機能は、接続を実行している UNIX ユーザー ID に対する現在のユーザー ID およびグループ メンバーシップのパーミッション制約に制限されています。

CM は、ディレクトリ パーミッションがルート以外のユーザーまたはグループ メンバーシップが書き込みするのを禁止しているディレクトリには展開できません。

CM は、異なる UID および/または GID で所有されている場合でも、既にエージェントワークステーション上にある CM Management の下に配置されたリソースにパーミッションを設定できない場合があります。

CM は、ルート権限を必要とするエージェント メソッドを起動できなくなります。

CM Application Manager がルートとして実行されていて、

リソースの所有者名が ZPERUID に定義されていて、ユーザー ID がエージェントワークステーション上にある場合は、リソースは指定された UNIX ユーザー ID によって所有されます。

リソースのグループ名が ZPERGID に定義されていて、グループがエージェントワークステーション上に存在する場合は、リソースは指定された UNIX グループに関連付けられます。



セキュリティ違反を防ぐには、次の点に注意してください。

リソースの所有者が ZPERUID に定義されていて、がエージェントワークステーション上に存在しない場合は、管理対象リソースの所有者指定は "nobody" (uid 60001) に設定されます。

リソースのグループが ZPERGID に定義されていて、がエージェントワークステーション上に存在しない場合は、管理対象リソースのグループ指定は "nobody" (gid 60001) に設定されます。

A コンポーネント インスタンスを修正する (非プロダクション環境限定)

この付録は以下を目的としています。

ファイル タイプ コンポーネントを追加、編集、置換する際に詳細なオプションを使用する場合の制約について理解する。

ファイルの配布済みコンテンツは、CM Admin CSDB Editor 内からダイナミックに編集できるようになる。

パブリッシュしたパッケージ内のファイルに配信されたデータのコンテンツ全体は、CM Admin CSDB Editor を使用して置換することができるようになる。

ソフトウェア パッケージを再パブリッシュすることなく、パッケージのファイルや動作のコンポーネント インスタンスが追加できるようになる。

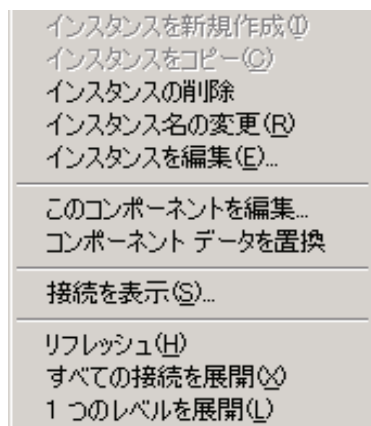


この機能は、プロダクション環境ではサポートされません。ユーザーが、プロダクション環境のエージェントにアクティブに配布されているパッケージでこの機能を使用した場合、当社はその結果に対していかなる責任も負うことはできません。上記のような環境でこの機能を使用すると、不必要なパッケージ更新が大量に配信されるおそれがあります。これは、パッケージの変更が検知されて、認可されているすべてのエージェントにその変更が配信されるためです。

この付録では、ファイルの配布済みコンテンツを CM Admin CSDB Editor 内からダイナミックに編集する方法について説明しています。

248 ページの 図 47 は、コンポーネント変更用のショートカット メニュー コマンドを示しています。

図 47 インスタンスのショートカット メニュー



コマンドの使用例

次の表に、どのような場面でこれらのオプションを使用してコンポーネント インスタンスを修正するか例を示します。

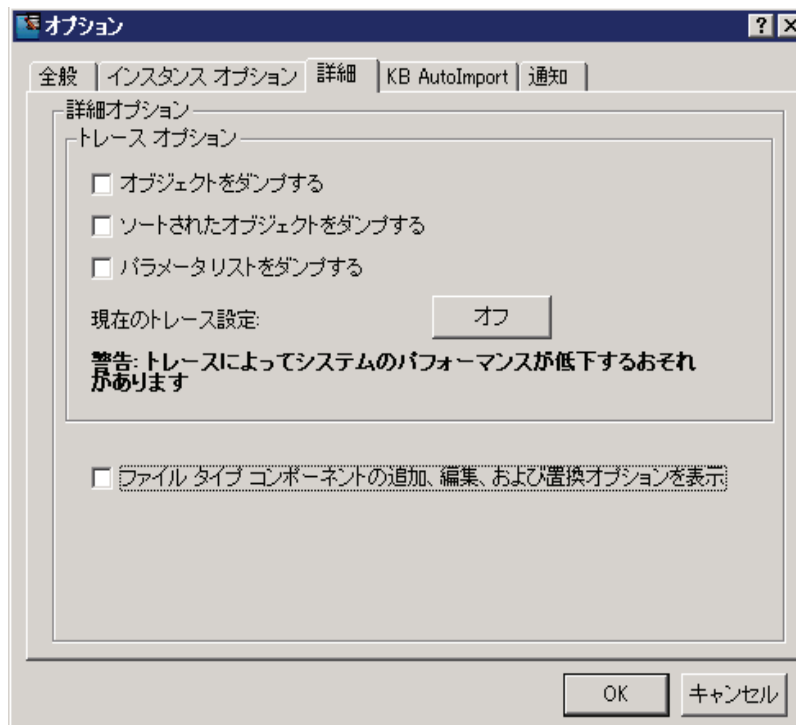
表 56 詳細なコンポーネント編集コマンドの使用例

| コマンド | 一般的な使用例 |
|------------------|--|
| [このコンポーネントを編集] | ファイルに配布されたシリアル番号を変更する。 readme ファイル、ドキュメント、スプレッド シート、ロゴ画像、PDF のコンテンツを編集する。 |
| [コンポーネント データを置換] | パッケージ内の既存ファイルのコンテンツ全体を、CM-CSDB 外部の別ファイルのコンテンツで置換する。 |
| [コンポーネントの追加] | 別のパッケージ ファイルをテンプレートとして使用して、新しいファイル インスタンスをパッケージに追加する。 |

コンポーネントの追加、編集、置換コマンドにアクセスする

次の設定は、[オプション] ダイアログ ボックスの [詳細] タブで利用可能です。[ファイル タイプコンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示]

図 48 [オプション] ウィンドウの [詳細] タブ



適用可能なインスタンスのショートカット メニューでこれらのコマンドを有効にするには、**[ファイル タイプ コンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示]** チェック ボックスをオンにします (この設定は、必ず非プロダクション環境で実施してください)。

▶ この機能は、プロダクション環境ではサポートされません。ユーザーが、プロダクション環境のエージェントにアクティブに配布されているパッケージでこの機能を使用した場合、当社はその結果に対していかなる責任も負うことはできません。上記のような環境でこの機能を使用すると、不必要なパッケージ更新が大量に配信されるおそれがあります。これは、パッケージの変更が検知されて、認可されているすべてのエージェントにその変更が配信されるためです。

このオプションを選択すると、[インスタンス] ショートカット メニューが開きます (248 ページの [図 47](#) を参照)。

コンポーネントを編集する

[このコンポーネントを編集] オプションを使用すると、任意のエディタを選択して、ファイル インスタンスの配布済みコンテンツがダイナミックに修正できます。ファイルへの変更を保存すると、修正されたファイルが CM Configuration Server に送信 (再転送) され、CM-CSDB 内のインスタンスが更新されます。

▶ この機能は、プロダクション環境ではサポートされません。ユーザーが、プロダクション環境のエージェントにアクティブに配布されているパッケージでこの機能を使用した場合、当社はその結果に対していかなる責任も負うことはできません。上記のような環境でこの機能を使用すると、不必要なパッケージ更新が大量に配信されるおそれがあります。これは、パッケージの変更が検知されて、認可されているすべてのエージェントにその変更が配信されるためです。

たとえば、CM Admin CSDB Editor でパッケージ化および表現したコンポーネント インスタンスの配布可能コンテンツが編集できます。編集後のファイルは、必ず元のファイルと同じ名前で保存する必要があります。パッケージ内の既存のファイルは、編集したファイルによって直ちに置換されます。パッケージは CM Admin CSDB Editor によって自動的にパブリッシュされるため、手動で再パブリッシュする必要はありません。

元のコンポーネントのコンテンツは、CM Admin CSDB Editor には保持されません。

パッケージを作成して CM-CSDB に転送する詳細については、69 ページの「[CM Admin Publisher](#)」を参照してください。

コンポーネントを編集するには

▶ コンポーネント エディタはコンポーネントのターゲット オペレーティング システムを知りません。インスタンスを編集する前に、HP では、値が編集によって変更されてはならない次の属性の値、およびその他の属性の値をメモ (またはエクスポート) することを推奨します。

ZRSCMEMM (PDS Member Name)

ZRSCCRC (Resource CRC)

ZRSCPADM (PDS AdminID)

ZPUBVER (Packager/Publisher Version)

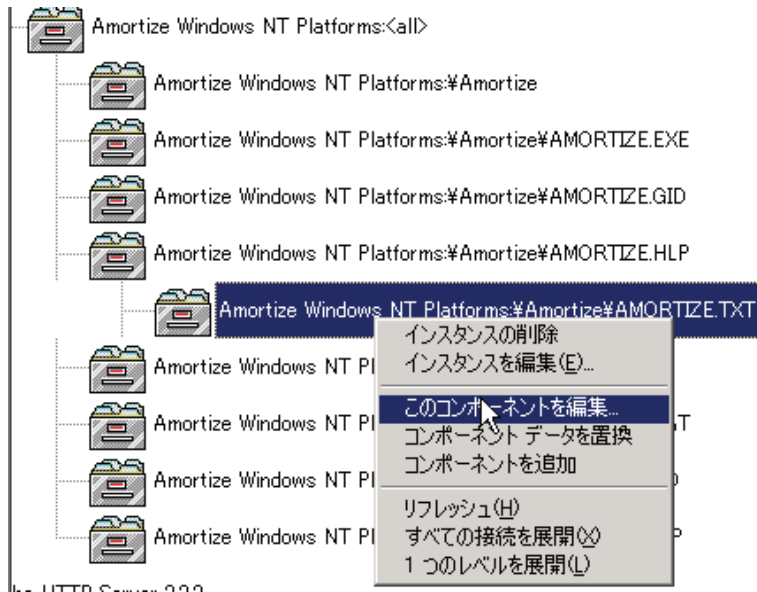
これらの属性の値が編集プロセスの結果として変更された場合は、元の値を復元することを推奨します。

たとえば、コンポーネントが Windows オペレーティング システムを対象としている場合は、ZRSCMEMM、ZRSCCRC、および ZRSCPADM 属性は適用せず null でなければなりません。コンポーネントの編集後に、これらの属性が null 以外の値を表示する場合は、挿入された値をクリアしてください。同様に、その他の属性 ZPUBVER などの値は、編集によって変更されないまま残ります。変更された

場合は、ZPUBVER を元の値に復元してください。

- 1 CM Admin CSDB Editor で [オプション] ウィンドウの **[詳細]** タブに移動し、**[ファイル タイプ コンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示]** チェック ボックスをオンにします。
- 2 CM-CSDB で、変更したいコンテンツを含むソフトウェア パッケージに属するファイル インスタンスを探します。
- 3 ツリー ビューで、インスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。

下の図は、Amortize NT Platforms パッケージ内の Amortize.TXT readme ファイル インスタンスのショートカット メニューです。コマンドとして、**[このコンポーネントを編集]**、**[コンポーネント データを置換]**、および **[コンポーネントを追加]** が表示されています。



- 4 ショートカット メニューの **[このコンポーネントを編集]** をクリックします。[AMORTIZE.TXT] ダイアログ ボックスのエディタ セレクタ が開きます。

このダイアログ ボックスを使用して、このファイルの修正に常に使用するエディタを選択します。たとえば、AMORTIZE.TXT ファイルを Notepad.exe で開くには、**[メモ帳]** をダブルクリックします。[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスの使用方法については、252 ページの「**[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスを使用する**」を参照してください。

- 5 [エディタ] ボックスでエディタをダブルクリックします。選択したエディタが起動し、選択していたファイル コンポーネント インスタンスが開きます。

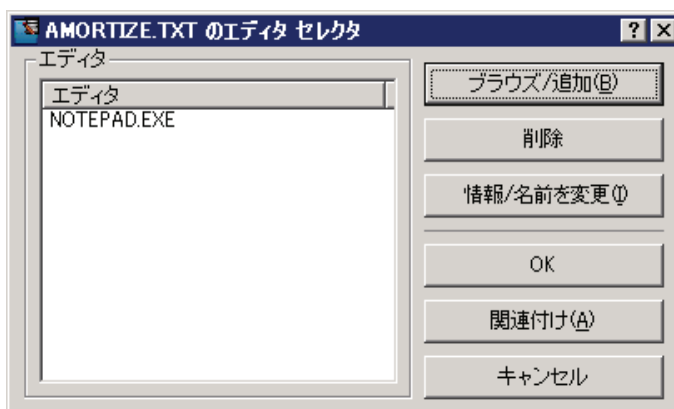
- 6 ファイルのコンテンツに必要な変更を加え、元のファイルと同じ名前^①で保存します。



ファイルを別の名前^②で保存すると、CM Admin CSDB Editor で選択したファイルに加えた変更は元のファイルには反映されません。

- 7 エディタを閉じます。
- 8 必要に応じて、**[OK]** をクリックしてインスタンスへの変更を保存し [エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 9 [ファイルの再転送] ダイアログ ボックスが表示され、データベースで選択したインスタンスへの変更を確定するかどうかを尋ねるダイアログ ボックスが表示されます。
 - 変更を保存し、変更したファイルのパブリッシュとデータベースへの転送を実行する場合は **[はい]** をクリックします。
 - 編集および編集セッションをキャンセルする場合は、**[いいえ]** をクリックします。データベース インスタンスは変更されていません。

変更を確定すると、ZRSCDATE、ZRSCETIME、および ZRSCSIZE のインスタンス属性に、編集後のファイルのサイズと日付が反映されます。



HP では、すべての属性の値を元の値と比較し、不必要に変更された値を復元することを推奨します。たとえば、元は null だった OS 関連属性の値をクリアすることが必要な場合があります。詳細については、250 ページのこの手順の最初にある注意テキストを参照してください。

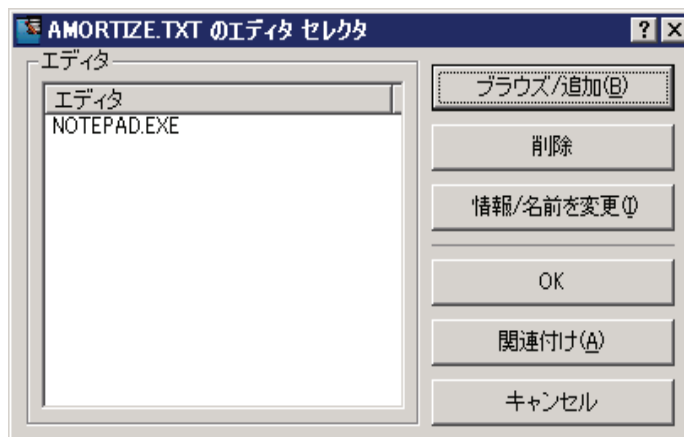
[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスを使用する

[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスを使用すると、ダイアログ ボックス名に名前が表示されているファイルの編集に常に使用するエディタが選択できます。

エディタを選択するには、[エディタ] リストのいずれかのエントリを選択します。また、[関連付け] をクリックして、Windows でそのファイル拡張子に関連付けられているデフォルトのエディタを使用することもできます。

[エディタ] リストに表示されるエディタを追加、削除、またはその名前を変更するには、右上にある 3 つのボタンを使用します。

図 49 コンポーネントの編集で使用する [エディタ セレクタ] ダイアログ ボックス



次の表は、[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスの各ボタンのアクションをまとめます。

表 57 [エディタ セレクタ] ダイアログ ボックスのボタン

| ボタン | アクション |
|------------|--|
| [ブラウズ/追加] | [ファイルをブラウズ] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使用すると、エディタのリストに追加するプログラムが選択できます。 [ブラウズ] ダイアログ ボックスで選択したエントリは、[エディタ] リストで強調表示していたエントリのすぐ下に追加されます。 |
| [削除] | 選択した (強調表示されている) プログラムが [エディタ] リストから削除されます。 |
| [情報/名前を変更] | 選択しているエディタ プログラムのプログラム名やパスを記載したダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使用すると、[エディタ] リストに表示される簡略名をそのプログラムに割り当てることができます。 |
| [OK] | 選択した (タイトル バーに名前が表示されている) ファイルを、強調表示されているエディタで開きます。 [エディタ] リストのエントリをダブルクリックしてファイルを開くこともできます。 |

| ボタン | アクション |
|---------|---|
| [関連付け] | 選択した (タイトル バーに名前が表示されている) ファイルを、Windows でそのファイル タイプに関連付けられているデフォルトのエディタで開きます。関連付けがない場合は、再び [エディタ セレクト] ダイアログ ボックスが表示され、そこでエディタを指定するか、編集をキャンセルすることができます。 |
| [キャンセル] | 選択したコンポーネントまたはパッケージに変更を加えずに [このコンポーネントを編集] コマンドをキャンセルします。 |

コンポーネント データを置換する

[コンポーネント データを置換] コマンドは、パッケージ化済みファイルのコンテンツ全体を、データベース外部の既存のファイルのコンテンツで完全に置換する必要がある場合に使用します。たとえば、新しい `Readme.TXT` があり、そのコンテンツ全体を置換したいとします。その場合はまず、改訂後の `Readme.TXT` ファイルを CM Admin CSDB Editor の外部に準備します。次に、CM Admin CSDB Editor 内から [コンポーネント データを置換] コマンドを使用して、既存の `Readme.TXT` のコンテンツを新しい `Readme.TXT` のコンテンツで置換します。[コンポーネント データを置換] コマンドを使用した場合は、パッケージ化済みファイルの配信済みコンテンツのみが置換され、そのプロパティは置換されません。



この機能は、プロダクション環境ではサポートされません。プロダクション環境のエージェントにアクティブに配布されているパッケージでこの機能を使用した場合、当社はその結果に対していかなる責任も負うことはできません。上記のような環境でこの機能を使用すると、不必要なパッケージ更新が大量に配信されるおそれがあります。これは、パッケージの変更が検知されて、認可されているすべてのエージェントにその変更が配信されるためです。

"すべての" コンポーネント データを置換するには

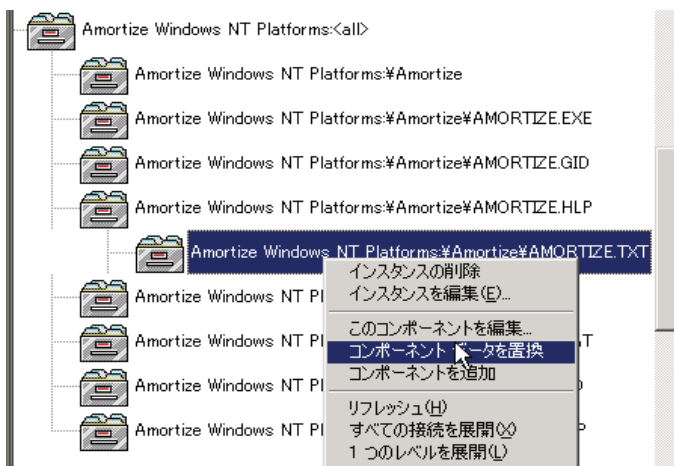
- 1 CM-CSDB 内のパッケージ化済みコンポーネントを置換するため、その置換データを表すコンテンツを格納したファイルを CM Admin CSDB Editor の外部で準備します。準備するファイルの名前は、どのような名前でも構いません。



[コンポーネント データを置換] コマンドを使用すると、CM Admin CSDB Editor から選択したファイルのデータ コンテンツ全体が、準備したファイルのコンテンツによって置換されます。この手順を進める前に、準備したファイルのコンテンツを十分に検証してください。

- 2 CM Admin CSDB Editor で [オプション] ウィンドウの [詳細] タブに移動し、[ファイルタイプ コンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示] チェック ボックスをオンにします。
- 3 CM-CSDB で、置換したいデータを格納するソフトウェア パッケージのファイル インスタンスを探します。
- 4 ツリー ビューで、インスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。

下の図は、Amortize NT Platforms パッケージ内の Amortize.TXT readme ファイル インスタンスのショートカット メニューです。コマンドとして、[このコンポーネントを編集]、[コンポーネント データを置換]、および [コンポーネントを追加] が表示されています。



- 5 ショートカット メニューの [コンポーネント データを置換] をクリックします。
Windows の標準の [ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 6 準備したファイル (CM Admin CSDB Editor から選択したファイルのデータを置換するためのコンテンツを格納するファイル) の格納場所に移動します。
- 7 置換データを格納するファイルを選択して [開く] をクリックします。確認メッセージが表示されます。
- 8 データを置換する場合は [はい] を、データの置換を中止する場合は [いいえ] をクリックします。

[はい] をクリックすると、データのコンテンツ全体が選択したファイルのデータで置換され、そのパッケージが自動的に再パブリッシュされます。

ZRSCDATE、ZRSCETIME、ZRSCSIZE のインスタンス属性には、前に示したように、新しいファイルのサイズと日付が反映されます。

[いいえ] をクリックすると、置換コマンドがキャンセルされます。

コンポーネントを追加する

[コンポーネントを追加] コマンドは、ファイル コンポーネントおよび動作コンポーネントに対してのみ使用できます。ファイルは常に所有するパッケージに属しているため、多くの場合、追加コマンドはパッケージの接続から実行することになります。新しいファイルを追加するには、既存のパブリッシュ済みファイルのプロパティをコピーします。ファイルをまったくゼロの状態から（つまり、CM Admin Packager から転送されていないファイルから）作成することはできません。



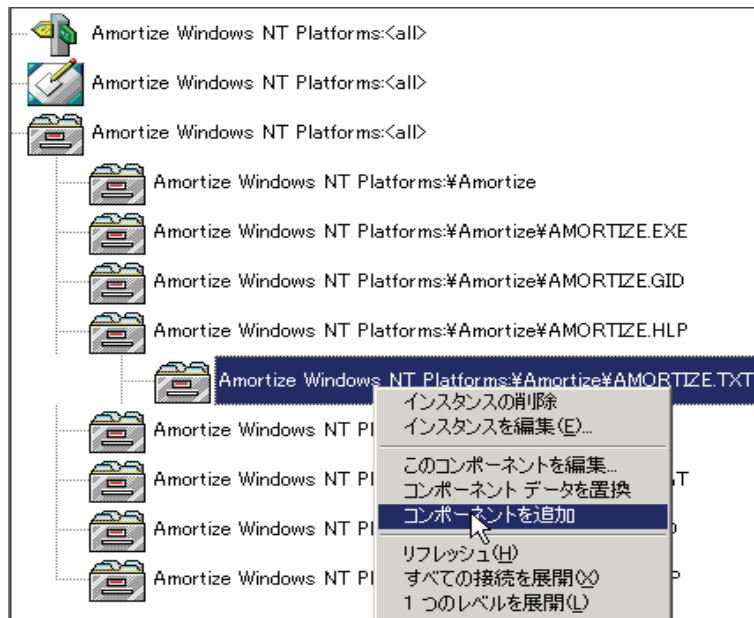
この機能は、プロダクション環境ではサポートされません。プロダクション環境のエージェントにアクティブに配布されているパッケージでこの機能を使用した場合、当社はその結果に対していかなる責任も負うことはできません。上記のような環境でこの機能を使用すると、不必要なパッケージ更新が大量に配信されるおそれがあります。これは、パッケージの変更が検知されて、認可されているすべてのエージェントにその変更が配信されるためです。

新しいファイルはテンプレートとして使用するインスタンスを選択することによって追加されます。CM Admin CSDB Editor は、テンプレートの LOCATION 変数からの新しいインスタンスへのパスを派生します。テンプレートを選択したら、そのテンプレートを右クリックしてショートカットメニューの **[コンポーネントを追加]** をクリックします。**[ファイルを開く]** ダイアログ ボックスが表示され、パッケージに追加するファイルが選択できます。最後の確認ダイアログでは、必要に応じてプロセスを中止することもできます。**[はい]** をクリックした場合は、**[ファイルを開く]** ダイアログ ボックスで選択したファイルが転送されます。これで、パッケージに新しいファイルが格納されたこととなります。

コンポーネントをパッケージに追加するには

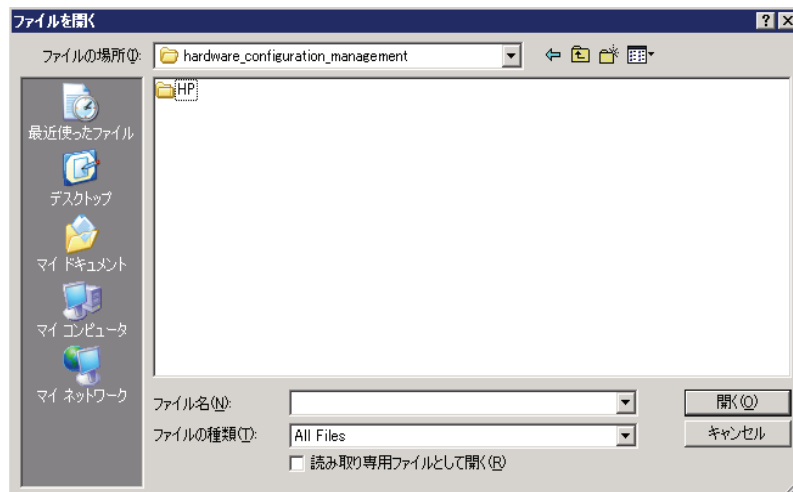
- 1 CM Admin CSDB Editor で **[オプション]** ウィンドウの **[詳細]** タブに移動し、**[ファイル タイプ コンポーネントの追加、編集、および置換オプションを表示]** チェック ボックスをオンにします。
- 2 追加するコンポーネントのテンプレートとして使用するため、適切な LOCATION 変数が格納されているソフトウェア パッケージのファイル インスタンスを探します。
- 3 ツリー ビューで、テンプレート ファイルのインスタンスを右クリックします。ショートカット メニューが表示されます。

下の図は、Amortize Windows NT Platforms パッケージ内の Amortize.TXT readme ファイル インスタンスのショートカット メニューです。コマンドとして、**[このコンポーネントを編集]**、**[コンポーネント データを置換]**、および **[コンポーネントを追加]** が表示されています。



- 4 ショートカット メニューの [コンポーネントを追加] をクリックします。Windows の標準の [ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 パッケージに追加するために準備したファイルの格納場所に移動します。

たとえば、AMORTIZE2.TXT という名前のファイルを準備した場合であれば、下の図のようにその格納場所に移動します。この例では、このコンポーネントをパッケージに追加します。



- 6 テンプレート ファイルと同じ LOCATION 変数を格納するファイルを追加するには、準備したファイルを選択して [開く] をクリックします。確認メッセージが表示されます。

7 **[OK]** または **[キャンセル]** をクリックします。

[OK] をクリックすると、追加したファイルが転送され、パッケージが再パブリッシュされます。追加したファイルの LOCATION のインスタンス属性には、テンプレート ファイルのロケーションが反映されます。

[いいえ] をクリックすると、[コンポーネントを追加] コマンドがキャンセルされます。

まとめ

詳細なオプションを使用すると、非プロダクション環境でのみ、ファイル タイプ コンポーネントを追加、編集、置換することができます。

[このコンポーネントを編集] コマンドを使用すると、パッケージ全体を再パブリッシュすることなく、CM Admin CSDB Editor 内からコンポーネントの配布済みコンテンツをダイナミックに修正することができます。

[コンポーネント データを置換] コマンドを使用すると、コンポーネント インスタンスのすべての配布済みコンテンツを、CM-CSDB 外部に準備したファイルのコンテンツで置換することができます。このコマンドを使用した場合も、パッケージを再パブリッシュする必要はありません。

[コンポーネントを追加] コマンドを使用すると、ファイルの転送とパッケージのパブリッシュを行うことなく、パッケージにインスタンスを追加することができます。追加するコンポーネントのパス LOCATION の設定には、既存のインスタンスをテンプレートとして使用することができます。

B 命名規則

ここでは、CM Configuration Server DB に格納されたソフトウェアを整理するのに役立つ命名規則について説明します。

アプリケーションをパブリッシュする際、以下のような要件がサブスクライバごとに異なっている場合があります。

オペレーティング システム

ハード ディスクの空き容量

プロセッサ、メモリなど


職務権限などの要因に応じて変更すべきデータやアプリケーション

こうした要件の違いにより、1 つのオブジェクトのパッケージを複数作成しなければならない場合があります。CM Configuration Server DB 内のデータを整理しておくには、命名規則を作成して組織内で使用することをお勧めします。

ここでは、独自の基準を作成するためのベースとして使用できるいくつかの例を紹介します。

情報を分類する

一般には、アンダースコア(_)を含む一意の上位識別子を使用して、CM Configuration Server DB の情報を分類することを検討してください。CM Admin CSDB Editor では、アンダースコアより前の識別子を元にインスタンスがグループ化されます。

 上位識別子をアンダースコア(_)なしで使用する場合でも、CM Admin CSDB Editor のフィルタリング機能を使用して、その識別子のインスタンスのみを表示することは可能です。

たとえば、ローンの償却を計算するアプリケーションに Windows 2000/XP 用と Windows Server 2003 用の 2 つのバージョンがある場合、それぞれ AMORTIZE_2000/XP および AMORTIZE_2003 と命名することができます。

POLICY ドメインの命名規則

以下のような基準をベースとし、それを応用することをお勧めします。ワークグループのインスタンスを命名する場合は、サブスクリバを適切にグループ化できる情報を使用します。たとえば、部門と所在地によって組織化されている企業の場合、次のような基準を適用することができます。

表 58 USER クラスの命名規則

| フォーマット | 説明 | 例 |
|--------------|--------------------|-------------------------------------|
| USERID | サブスクリバを識別します。 | SJones |
| DIV_LOC_DESC | 所有者または割り当て先を定義します。 | CTS_CLE_EVERYONE |
| DIV | 部門を識別します。 | CTS (Corporate Technology Services) |
| LOC | 所在地を識別します。 | CLE (クリーブランド) |
| DESC | グループの説明を追加します。 | EVERYONE (すべてのユーザー) |

SOFTWARE ドメインの命名規則

部門と所在地によって組織化されている企業では、次のような基準でデータを分類することができます。

表 59 PACKAGE クラスの命名規則

| フォーマット | 説明 | 例 |
|------------------------|-----------------|-------------------------------------|
| DIV_LOC_APPNAME_VER_OS | アプリケーションを定義します。 | CTS_CLE_WINZIP_80_XP |
| DIV | 部門を識別します。 | CTS (Corporate Technology Services) |
| LOC | 所在地を識別します。 | CLE (クリーブランド) |
| APPNAME | アプリケーションを識別します。 | WINZIP |

| フォーマット | 説明 | 例 |
|--------|----------------------------|----|
| VER | アプリケーションのバージョンを識別します。 | 80 |
| OS | アプリケーションが動作している OS を識別します。 | XP |

表 60 Delivery クラスおよび Auditing クラス[®] の命名規則

* SOFTWARE ドメインの他のすべてのクラス

| フォーマット | 説明 | 例 |
|----------------------------|-----------------|-------------------------------------|
| REG_DIV_LOC_APPNAME_VER_OS | アプリケーションを定義します。 | NAM_CTS_CLE_WINZIP |
| REG | 地域を識別します。 | NAM(北米) |
| DIV | 部門を識別します。 | CTS (Corporate Technology Services) |
| LOC | 所在地を識別します。 | CLE (クリーブランド) |
| APPNAME | アプリケーションを識別します。 | WINZIP |

組織に適合した規則を策定するには、ある程度の時間がかかります。しかし、事前に規則を作成し、それをしっかりと CM 管理者全員に伝えておけば、後々の混乱を防ぐことができます。

C 製品名の変更

以前に Radia を使用していて、まだ新しくブランド変更した HP の用語や製品名に慣れていない場合は、265 ページの表 61 で Radia ブランドからの名前の変更を確認してください。

表 61 製品名と用語の変更

| 新しい名前／用語 | 古い名前／用語 |
|--|----------------------------------|
| CM Agent Installation Wizard | Radia Client Installation Wizard |
| CM Agent CM-MGMTAPPS51.MSI | Radia clients Radadmin40.msi |
| HP Configuration Management Administrator | Radia Administrator Workstation |
| HP Configuration Management | Radia |
| HP Configuration Management Admin Agent Explorer | Radia Client Explorer |
| HP Configuration Management Admin CSDB Editor | Radia System Explorer |
| HP Configuration Management Admin Packager | Radia Packager |
| HP Configuration Management Admin Screen Painter | Radia Screen Painter |
| HP Configuration Management Application Manager | Radia Application Manager |
| HP Configuration Management Application Self-service Manager | Radia Software Manager |
| HP Configuration Management Solutions for Servers | Server Management |

索引

数字

32 ビット アーキテクチャ, 21

64 ビット アーキテクチャ, 21

A

ADDLOCAL 引数, 32

ADDSOURCE 引数, 32

addtosvc パラメータ, 90

ADVERTISE 引数, 32

[エージェント管理] タブ

インストール モニタ モード, 46

検証オプション, 47

配信オプション, 48

AIP, 29

[AIP を使用してパブリッシュ], 84

aiparguments 設定, 91

aiplocation 設定, 91

Application Packages インスタンス、説明, 19

ARBITRAT 属性, 52, 75

ASYCFILT.DLL, 54

attr CLASS {body} パラメータ, 91

B

-batchmsi パラメータ, 93

C

-cfg パラメータ, 90, 93

CM Admin CSDB Editor

オプション, 120

KB AutoImport タブ, 125

通知タブ, 126

データベース ツリー ビュー 変更, 128

データベースのフィルタ, 187

機能のコントロール 機能, 120

開く, 115

CM Admin CSDB Editor のツールバー ボタン, 119

CM Admin CSDB エディタ

ショートカット メニュー, 132

ツリー 構造 の 表示, 128

CM Admin Packager

ログオン, 54

CM Admin Publisher

ログ オン, 241

ログオン

デフォルトのプロパティの設定, 45

CM Administrator

インストール

インストール ウィザード, 30

コマンドライン, 33

インストール プログラム, 28

システム要件, 28

削除

インストール ウィザード, 35

コマンドライン, 35

CM Administrator for Windows の削除

インストール ウィザード, 35

コマンドライン, 35

CM Administrator のインストール方法

Windows, 28, 34

CM Administrator のシステム要件

UNIX, 228

Windows, 28

CM Administrator 用のインストール メソッド

UNIX, 229

CM Batch Publisher, 24

CM Configuration Server Database

ツリー ビューの変更, 128

- ツリー構造の表示, 128
- ナビゲーション履歴
 - [下位ノードを取り除く], 129
 - 破棄, 129
- フィルタ, 187
- 新しいクラス、作成, 135
- 編集, 132
 - クラス, 136
- 追加
 - クラス, 133
 - コピー, 133
 - コンポーネント, 256
 - ドメイン, 133

- CM Configuration Server データベース
 - Configuration Server のプロパティ表, 140
 - インスタンスの削除, 153
 - インスタンスの名前変更, 153
 - オプションの属性編集, 142
 - クラスの削除スト, 146
 - ドロップダウンリスト, 144
 - フラグ属性, 142
 - 編集
 - インスタンス, 148
 - 追加
 - インスタンス, 147
 - コピー, 147
 - 新規作成, 147
 - クラス属性, 141

- CM Native Packaging, 25
- CM サービスグループ, 180
- CM-ADMIN51.MSI, 29, 34
- COMCAT.DLL, 54
- COMCTL32.OCX, 54
- COMDLG32.OCX, 54

- Configuration Server のプロパティ、表, 140

D

- DATA1.MSI, 214
- [Deflate] (圧縮設定), 49
- [常に削除], 221

- [削除しない], 221
- [削除] (デフォルト), 221
- deleteaip 設定, 91
- Desktop インスタンス、説明, 19
- DHCP. ダイナミック ホスト設定プロトコルを参照
- DIRPERMS, 244
- Disable 機能, 212
- DISPLAY 属性, 228
 - 設定, 229

E

- enableperuser 設定, 91
- execui 設定, 91

F

- FILE インスタンス、説明, 19
- file パラメータ, 92

H

- Hide 機能, 212
- [表示しない]と[無効]のショートカットメニュー, 212

I

- IDMLIB ディレクトリ, 232
- IDMLOG, 232

K

- [KB AutoImport] タブ, 125

L

- LOCATION 変数, 256
- loglevel 9, 229
- log ディレクトリ, 94

M

- MD5 署名, 169, 170
- msi {body} パラメータ, 91

MSI 置換値送信元, 97
[MSI ファイル用にローカル キャッシュを使用], 87
MSIEXEC, 218
MSIFEATS, 207, 217, 218
mst ファイル, 93, 217
MSVBVM60.DLL, 54

N

Name Lists クラス, 199
Native Packaging. 「CM Native Packaging」を参照
notify
 説明, 186
null インスタンス, 191

O

[OK] ボタン, 253
OLEAUT32.DLL, 54
OLEPRO32.DLL, 54

P

PACKAGE クラス インスタンス, 55
package パラメータ, 90
PATCH クラス, 170, 179
PATCH ドメイン, 170, 179
Path インスタンス、説明, 20
path パラメータ, 90
pkgdesc パラメータ, 90
pkgname パラメータ, 90, 96
publisher.log ファイル, 94
publishmode 設定, 91
publishr 実行可能ファイル, 241

R

Radreg32 Delete 操作, 221
radskman, 181

REG_DWORD, 221
REG_EXPAND_SZ, 221
REG_MULTI_SZ, 221
REG_SZ, 221
Registry Resources インスタンス, 218
REMOVE 引数, 33

S

service パラメータ, 90
setup.exe, 28
SFP. 「[システムファイルを保護する]」を参照
SHOWINCP 変数, 214, 215
STDOLE2.TLB, 54
svcdesc パラメータ, 90
svcname パラメータ, 90

U

UNIX File Resources, 243
UNIX 用 CM Administrator
 インストール
 GUI の使用, 230
 コマンドラインの使用, 232
 システム要件, 228
UNIX 用 CM Administrator をインストールするためテキスト
 モード, 230
UNIX 用 CM Administrator をインストールするためのプレ
 ーンモード, 230
UNIXFILE インスタンス, 243
UNIXFILE クラス, 244
UNIXFILE 属性, 243
UNIXFILE.ZRSCRASH 属性, 244
[Use long filenames]チェック ボックス, 83

W

Windows インストーラ AIP、作成, 34
Windows インストーラ ファイル, 80

Windows インストーラ ログ, 34

[Windows インストーラ メソッドを設定], 165

Z

ZCONTEXT 属性, 48

ZCREATE 属性, 52, 74

ZDELETE 属性, 52, 74

ZERROR インスタンス, 51

ZFILEUPD 属性, 52, 75

ZINIT 属性, 52, 74

ZLIST クラス, 198

ZOBJPTCH 変数, 170

ZPERGID 属性, 244, 245

ZPERUID 属性, 244, 245

ZPUBVER, 250

ZRSCCRC, 250

ZRSCMEM, 250

ZRSCMO 属性, 48

ZRSCPADM, 250

ZRSCPRI 属性, 48

ZRSCRASH 属性, 244

ZRSCVRFY 属性, 47, 50, 51, 72

ZSVCGRP 変数, 182

ZSVCPRI, 185

ZUPDATE 属性, 52, 75

あ

アーキテクチャ, 21

[アクティブ] オプション

ファイル, 62

フォルダ, 62

レジストリ キー, 66

制御ファイル, 63

[アップグレード] パブリッシュ オプション, 86

[アップグレード] 基本パブリッシュ オプション, 89

[新しいキー], 220

[新しいクラスが追加されたとき] チェック ボックス, 121

[新しい値], 221

[圧縮設定]

[Deflate], 49

[なし], 50

インストール モニタ モード, 49

い

一時クラス, 137

[インスタンス オプション] タブ

オプションの説明, 123

[インスタンスをフィルタ]ダイアログ ボックス, 189

[インスタンスをフィルタ]ダイアログボックス, 192

[インスタンスのプロパティ]

[データ オプション]

[データのないインスタンスを転送させる], 50

[リソースの転送設定], 50

[システム ファイルを保護する], 50

[メンテナンス], 50

[圧縮設定]

[Deflate], 49

[なし], 50

[検証オプション]

[内部バージョンをチェックする], 47

[最新でない場合にのみ更新する], 47, 73

[検証しない], 48, 73

[配信オプション]

[オプション], 48, 73

[マシン], 49, 74

[上書きの優先度], 48, 74

[インスタンスのプロパティ] ダイアログ ボックス, 63

インストール モニタ モード

[エージェント管理] タブ, 46

[エージェントの動作] タブ, 51

[データ オプション] タブ, 49

[インスタンス名の変更] ダイアログ ボックス, 153

[インスタンス更新メソッド]

インストール モニタ モード, 52

コンポーネントの選択モード, 75

[インスタンスを編集] ダイアログ ボックス, 123, 148

[インターネット キャッシュを使用], 87

インクルード接続, 138

インスタンス

コピー, 147

プレフィックス名, 130

削除, 153

名前の変更, 153

新規作成して追加, 147

編集, 148

追加, 147

インスタンス オプション タブ, 122

インスタンス プロパティ

検証オプション

コンテンツ (CRC チェック), 47, 73

統計値が等しいか検証, 47, 72

インスタンスのプロパティ

[エージェントの動作]

[インスタンス更新メソッド], 52

[ファイル アービトレーション メソッド], 52

[ファイル更新/追加メソッド], 52

[リソース アンインストール メソッド], 52

[リソース インストール メソッド], 52

[リソース初期化メソッド], 52

[デフォルト プロパティを使用する], 48, 74

[ユーザー], 48, 74

[ユーザー指定], 49

[必須], 48, 73

データ オプション

[リソースの転送設定]

[ロック メソッドを強制する], 50

検証オプション

マネージャで指定されているデフォルトを使用する, 47, 72

存在しない場合にのみ配布する, 47, 73

インスタンス名、プレフィックス, 130

インストール

CM Administrator

インストール ウィザード, 30

コマンドライン, 33

UNIX 用 CM Administrator

GUI の使用, 230

コマンドラインを使用, 232

インストール モニタ モードによるソフトウェアのインストール, 59

インストール ウィザード

CM Administrator for Windows のインストール, 30

CM Administrator for Windows の削除, 35

インストール モニタ モード

[インスタンスのプロパティ] ダイアログ ボックス

[エージェント管理] タブ, 46

[エージェントの動作] タブ, 51

[データ オプション] タブ, 49

[システムの設定] ウィンドウ, 56

[スキャンするドライブを設定してください] ウィンドウ, 59

[プロパティとロケーションを設定してください] ウィンドウ, 62

[デスクトップ] タブ, 64

[レジストリ] タブ, 65

ソフトウェアのインストール, 59

前提条件, 53

更新されたファイル, 63

概要, 45

説明, 19

う

[上書きの優先度]

インストール モニタ モード, 48

え

エイリアス名, 142

エージェントのプロパティ

保護, 139

実行, 139

[エージェント メソッドのコマンドライン], 52

[エージェントの動作]

[インスタンス更新メソッド], 52

[ファイル アービトレーション メソッド], 52

[ファイル更新/追加メソッド], 52

[リソース アンインストール メソッド], 52

[リソース インストール メソッド], 52

[リソース初期化メソッド], 52

[エージェントの動作] タブ

インストール モニタ モード, 51
[エディタ セレクタ] ダイアログ ボックス
使用, 252
[エディタ セレクタ]ダイアログ ボックス, 251
ボタン, 253
[エディタ] ボックス, 251

お

[オプション]
インストール モニタ モード, 48
[オプション] 割り当てタイプ, 78
[オプション] 配信オプション
コンポーネントの選択モード, 73
[オペレーティング システム] ボックス, 56

か

[復旧], 87
下位ノードを取り除く, 129
[完全な検証] (デスクトップ アイテムのオプション)
インストール モニタ モード, 65
管理インストール ポイント, 210, 216
管理のタイプ, 78
[管理オプション] 基本パブリッシュオプション, 88
[管理対象アプリケーション], 87
[関連付け] ボタン, 254
関連ドキュメント, 15

き

機能セット エディタ
ツリー 内の 移動, 208
機能セット エディタ
[無効] 機能, 212
[表示しない] 機能, 212
[プログラムの追加と削除], 214, 215
ショートカット メニュー, 207
機能セット エディタのボタン, 213

[機能の選択] 詳細パブリッシュ オプション, 84
基本パブリッシュ モード, 88
[アップグレード], 89
[変換], 88
[管理オプション], 88
[追加のファイル], 89
[キャッシュのロケーション], 87
[キャンセル] ボタン, 254

<

クラス
コピー, 133
削除, 146
属性のタイプ
メソッド, 139
変数, 138
式, 138
接続, 138
接続タイプ, 138
新規作成, 135
編集, 136
追加
インスタンス, 147
コンポーネント, 256
属性, 141

クラス エディタ, 133, 135
[クラスがコピーされたとき], 121

クラス タイプ
コンポーネント, 138
ポリシー, 138

クラスのタイプ
<none>, 138
configuration, 138
値, 138

クラス情報、プロパティ, 136
クラス接続, 138
[クラスを編集] ダイアログ ボックス, 121, 136
クリーンなコンピュータ, 定義, 28
[グローバル デフォルト プロパティ] ダイアログ ボックス, 46

グローバル デフォルト、変更, 46

け

[検証オプション]

- [内部バージョンをチェックする], 47
- [存在する], 65
- [完全な検証], 65
- [最新でない場合のみ更新する], 47, 73
- [検証しない], 48, 65, 73

[検証しない]

- インストール モニタ モード, 48
- コンポーネントの選択モード, 73

[検証しない] (デスクトップ アイテムのオプション)

- インストール モニタ モード, 65

[検証する統計値]

- インストール モニタ モード, 47
- コンポーネントの選択モード, 72

検証オプション

- コンテンツ (CRC チェック), 47, 73
- コンポーネントの選択モード, 72
- マネージャで指定されているデフォルトを使用する, 47, 72
- 存在しない場合にのみ配布する, 47, 73
- 統計値が等しいか検証, 47, 72

こ

更新されたファイル、インストール モニタ モード, 63

高速フィルタ, 194

- カスタマイズ, 194
- カスタム, 197
- 説明, 194

[このコンポーネントを編集]

- 説明, 250

[このコンポーネントを編集] コマンド, 248

コマンドライン

- CM Administrator for Windows の削除, 35
- Windows でパブリッシュするファイルを定義する, 92
- インストール
 - CM Administrator for Windows, 33
 - UNIX 用 CM Administrator, 232

コマンドライン

Windows でのパブリッシュ, 90

[コンテンツ (CRC チェック)]

- インストール モニタ モード, 47
- コンポーネントの選択モード, 73

[コンポーネント データを置換]

説明, 254

[コンポーネント データを置換] コマンド, 248

[コンポーネントの追加] コマンド, 248

コンポーネント

- パッケージへの追加, 256
- 編集, 250

コンポーネント エディタ, 250

コンポーネント クラス, 192

フィルタ, 192

コンポーネント クラスのインスタンス, 192

コンポーネント データ、置換, 254

コンポーネント、追加, 256

コンポーネントの編集, 250

コンポーネントの選択

説明, 19

コンポーネントの選択モード

検証オプション, 72

概要, 240

配信オプション, 73

コンポーネントを追加する

説明, 256

さ

サービス グループ

- マスター サービス, 181
- 前提条件, 181

サービスの最適化, 169, 170

使用, 170

サービスの最適化を設定するには, 171

サービス、作成, 162

[最新でない場合にのみ更新する]
インストール モニタ モード, 47
コンポーネントの選択モード, 73

サイレント インストール, 34

[削除] オプション, 35

[削除] ボタン, 253

し

式属性タイプ, 138

システム ファイル保護

インストール モニタ モード, 50

転送時の強制保護, 50

[システム ファイルを保護する]

インストール モニタ モード, 50

ファイルのパブリック時, 50

[システムの設定] ウィンドウ

インストール モニタ モード, 56

[必要な最低プロセッサ速度], 57

[必要な最小メモリ サイズ], 57

[システム設定] ウィンドウ

コンポーネントの選択, 77

[自動] 管理タイプ, 78

[ジャスト イン タイム], 64

[手動] 管理タイプ, 78

[詳細], 124

[詳細] タブ

オプションの説明, 124

[詳細] パブリッシュ モード, 82

[マシン/ユーザー], 85

動作, 87

既存のものアップグレード, 86

詳細パブリッシュ モード

[変換], 85

[機能の選択], 84

[情報/名前を変更] ボタン, 253

[使用不可] 機能, 211

[所有するパッケージ], 192

ショットカット メニュー, 132

常時接続, 138

シンボリック置換, 96

進捗状況バー、表示, 34

す

[スキャンするディレクトリ] ボックス, 59

[スキャンするドライブを設定してください] ウィンドウ, 59

[スキャンするファイル コンテンツ] ボックスの一覧, 58

スキャン

ファイル システム, 59

対象の指定, 58

せ

制御ファイル、編集, 63

セキュリティ ダイアログ ボックス, 115

[セッション タイプ] 領域

インストール モニタ モード, 55

接続、有効化, 201

接続属性タイプ, 138

接続規則, 197

接続規則変数, 203

設定ファイル

使用, 89

複数, 94

[選択したファイル]、表示, 61

[選択したリンク], 64

[選択したレジストリ キー], 65

前提条件, 13

[全般], 121

そ

[ソース からすべて実行] 機能, 210

[ソース から実行] 機能, 210

属性、エイリアス, 142

属性タイプ

メソッド, 139

変数, 138

式, 138

接続, 138

属性にインスタンスのエイリアス名を含める, 142

[存在しない場合にのみ配布する]

インストール モニタ モード, 47

コンポーネントの選択モード, 73

[存在する] (デスクトップ アイテムのオプション)

インストール モニタ モード, 65

[存在/存在] オプション, 66, 220

た

ターゲット ディレクトリ, 29, 34

[ターゲット オペレーティング システム]

新規アプリケーション ウィザード, 164

[タイプ] メニュー コマンド

インストールモニタ モード, 65

対象とするオペレーティング システム

コンポーネントの選択, 77

ダイナミック ホスト設定プロトコル, 53

ち

[値を上書き]、制御ファイル, 63

つ

[追加のファイル] 基本パブリッシュ オプション, 89

通知

STARTDIR を指定, 126

UID を指定, 126

マシン名で, 126

開始, 187

[通知] タブ, 126, 127

ツリー ビュー、操作, 128

て

データ オプション

[リソースの転送設定]

[ロック メソッドを強制する], 50

[データ オプション]

[データのないインスタンスを転送させる], 50

[リソースの転送設定], 50

[システム ファイルを保護する], 50

[メンテナンス], 50

[標準], 50

[圧縮設定], 49

[データ オプション] タブ

インストール モニタ モード, 49

[データのないインスタンスを転送させる]

インストール モニタ モード, 50

[デスクトップ] タブ

インストール モニタ モード, 64

デフォルトのプロパティ、設定, 45

[デフォルト プロパティを使用する]

インストール モニタ モード, 48

コンポーネントの選択モード, 74

電子メール通知, 187

転送

その間に作成されるインスタンス, 19

パッケージ, 67, 79

説明, 19

テンポラリー フィルタ

削除, 191

設定, 190

説明, 190

と

[動作] 詳細パブリッシュ オプション, 87

ドメイン、ファイルへの追加, 133

な

[内部バージョンをチェックする]、インストール モニタ モード, 47

[なし] (圧縮設定), 50

ね

ネイティブ モード, 217

は

バージョングループ エディタ、説明、169

ハードウェア構成要素、98

パブリッシュ、98

パーマネント フィルタ、188

削除、190

設定、188

説明、188

[配信オプション]

[デフォルト プロパティを使用する]、48、74

[マシン]、49、65、74

[ユーザー]、48、65、74

[ユーザー指定]、49

[必須]、48、73

バイトレベルの差異計算によるパッチ生成、170

配信オプション

[オプション]、48、73

コンポーネントの選択モード、73

配信の優先度の上書き、48、74

[配布可能日時] ウィンドウ

インストール モニタ モード

[終了日時]チェック ボックス、57

[開始日時]チェック ボックス、57

配信の優先度の上書き

コンポーネントの選択モード、74

初めて 実行するときに インストール 機能、211

パスポート登録、5

パッケージ

定義、18

複製、217

転送、67、79

パッケージのコピー、217

パッケージの名前、93、94、96

パッケージ化、定義、18

パッケージ情報

ドメイン

インストール モニタ モード、56

コンポーネントの選択、76

パッケージの説明

インストール モニタ モード、56

コンポーネントの選択、76

パッケージ名

インストール モニタ モード、55

コンポーネントの選択、76

リリース番号

インストール モニタ モード、56

コンポーネントの選択、76

パッチ モード、93

[パッケージ セッションを開きます] ウィンドウ、55

[パッチ条件]

ボタンの機能、178

[パッチ条件] の情報、177

パッチのビルド、177

パッチのビルドの制約、177

パブリッシュ

UNIX 用の概要、240

Windows のコマンドラインで、90

インストール モニタ モード

概要、45

説明、19

コンポーネントの選択

概要、70

説明、19

複数の .msi ファイル、93

ひ

[非アクティブ] オプション

ファイル、62

フォルダ、62

レジストリキー、66

制御ファイル、63

必須接続、138

[必須] 割り当てタイプ、78

[必須] 配信オプション

コンポーネントの選択モード、73

日付と時刻の制約、57

必要ディスク容量, 32

必要なオペレーティング システム

コンポーネントの選択, 77

必要なプロセッサ速度

インストール モニタ モード, 57

必要なメモリ

インストール モニタ モード, 57

コンポーネントの選択, 77

[非管理対象アプリケーション], 87

ふ

ファイル

デフォルトのプロパティの設定, 45

ドメインの追加, 133

プロパティの編集, 62

ファイル リソース インスタンス、説明, 19

ファイルと進行状況の情報, 176

ファイルのフィルタ, 61

ファイルのプロパティの設定

インストール モニタ モード

[デスクトップ] タブ, 64

[ファイル] タブ, 62

[レジストリ] タブ, 65

コンポーネントの選択, 71

[ファイル アービトレーション メソッド]

インストール モニタ モード, 52

コンポーネントの選択モード, 75

[ファイル] タブ

インストール モニタ モード, 61, 62

[ファイルのコンテンツを比較する] チェック ボックス, 58

[ファイル更新/追加メソッド]

インストール モニタ モード, 52

[ファイル更新/追加メソッド]

コンポーネントの選択モード, 75

フィルタ, 187

テンポラリ

削除, 191

設定, 190

説明, 190

パーマネント

削除, 190

設定, 188

説明, 188

高速, 194

フィルタ、削除, 61

フィルタ仕様

例, 188

有効な式, 188

説明, 188

フィルタ結果、追加, 191

複数インスタンス

編集, 149

選択, 149

複数のインスタンス

[インスタンスを編集] ダイアログ ボックス, 150

[標準データ オプション]

インストール モニタ モード, 50

[ブラウズ/追加] ボタン, 253

フラグ セット属性, 143

プレフィックス、複合名での使用, 130

[プログラムの追加と削除] アプリケーション, 214

[プログラムの追加と削除] アプレット, 215

[プロパティ] オプション

レジストリキー, 66

[プロパティ] 詳細パブリッシュ オプション, 84

[プロパティを設定] オプション

ファイル, 62

フォルダ, 63

[分割バーを画面右側に固定], 122

へ

ベース インスタンス, 191

[ベース インスタンスを使用する], 78

[変換] 基本パブリッシュ オプション, 88

[変換] 詳細パブリッシュ オプション, 85

変数属性タイプ, 138

変換ファイル, 93, 217

ま

[マイ コンピュータ から すべて 実行] 機能, 210

[マイ コンピュータ から 実行] 機能, 209

[マシン コンポーネント] (配信オプション)

インストール モニタ モード

デスクトップ アイテム, 65

[マシン/ユーザー] パブリッシュ オプション, 85

マシン配信オプション

インストール モニタ モード

ファイル, 49

コンポーネントの選択モード, 74

マスター サービス, 181

作成, 182

[マネージャで指定されているデフォルト検証を使用する]

インストール モニタ モード, 47

コンポーネントの選択モード, 72

む

[無視] 機能, 212

[無条件/存在] オプション, 66, 220

[無条件/強制] オプション, 66, 220

め

命名規則, 15, 261

POLICY ドメイン, 262

SOFTWARE ドメイン, 262

メソッド属性タイプ, 139

メッセージ ダイジェスト アルゴリズム, 169

[メンテナンス データ オプション]

インストール モニタ モード, 50

ゆ

ユーザー配信オプション

コンポーネントの選択モード, 74

[ユーザー コンポーネント]

インストール モニタ モード, 48

[ユーザーが MSI 機能を管理], 88

[ユーザーごとのインストールを有効にする], 86

[ユーザーごとの使用可能なリソース], 86

[ユーザー指定ディレクトリ オプション]

インストール モニタ モード, 49

[ユーザー配信オプション]

インストール モニタ モード

デスクトップ アイテム, 65

り

[リソース アンインストール メソッド]

インストール モニタ モード, 52

コンポーネントの選択モード, 74

[リソース インストール メソッド]

インストール モニタ モード, 52

コンポーネントの選択, 74

コンポーネントの選択モード, 74

[リソース初期化メソッド]

インストール モニタ モード, 52

[リソースの転送設定]

[システム ファイルを保護する], 50

[メンテナンス], 50

[ロック メソッドを強制する], 50

[標準], 50

インストール モニタ モード, 50

れ

レジストリ

プロパティの設定, 66

値の復元, 66

値の編集, 65

表示, 65

レジストリ キー、編集, 222

[レジストリ] タブ

インストール モニタ モード, 65

[レジストリ] チェック ボックス, 58

レジストリ ファイル エディタ, 218

 アクセス, 218

 ショートカット メニュー オプション, 220

 プロパティの 設定, 220

 閉じる, 224

レジストリ リソース インスタンス、説明, 20

ろ

[ローカルでの修復を使用], 87

ログオン ダイアログ ボックス, 115

[ロック メソッドを強制する]

 インストール モニタ モード, 50

ロック ファイル メソッド, 50

わ

割り当てのタイプ, 78

